

平成十年三月
津山郷土博物館紀要第十一号

津山松平藩町奉行日記 六

津山郷土博物館

津山松平藩町奉行日記 六

目次

町奉行日記	明和八年	1
	81
	明和九年(安永元年)	82
	161
研究ノート	津山松平藩士の「勤書」に関する一考察	(1) 163
	()
	(10) 172

凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫の中から、「町奉行日記」明和八年および同九年（安永元年）を収録した。

一、本文表記法は、つとめて原文の形にしようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として当用漢字および現行活字体に改めた。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

躰てい 扣ひかえ 噉あぶら 歟か 喧嘩けんか 音物いんぶつ 稠敷ちゆうしき 又候またまち 与風よふう 早おわ

5 変体がなは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而（て）、江（え）、者（は）、茂（も）、与（と）は、小活字で示した。

ハ（より） ノ（して） は、例外として残した。

6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号（々）を付し、右側に訂正の文字を記した。

また、消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。

7 虫損・破壊は、「」でその状態を示した。

8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□□で囲み、（表紙）のように注記した。

9 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま掲げた。もとより我々は、不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻・編集は乾貴子と小島徹が担当した。

明和八辛卯年 正月ヨリ
十二月ニ至
御用日記
廿四 栗原新五兵衛

(表紙)

正月二日 晴 御用日

一御小性頭之嫡子以下大役人迄御流頂戴小役人恠之間御縁側並居名披露早而桧之間惣御徒御礼有之

一御用始ニ付如例勘定奉行拙者両役仮役御藏奉行御金奉行一所ニ御用所江罷出御祝義申上早而於七間廊下日參御役人迄吸物御酒頂戴之相濟大目付所江罷出御礼申述

一今日例年之通於宅大年寄兩人札元五人逢申盃事いたし候

一明三日四つ時御供揃ニ而地藏院江御社参夫の泰安寺江御仏詣被仰出候旨中奥目付土岐三太左衛門より通用有之御道筋例之通之由則御先払申付大年寄江先格之通申付候

一町医中嶋仙庵義外並之通御目見え被仰付候之由今日於御用所大目付中立合御用番権右衛門殿が被仰渡候付則仙庵義新五兵衛於宅小頭大年寄立合ニ而右之段申渡尤門松建候共勝手次第之旨申渡候右申渡相濟御用番中大目付中江手紙ニ而御届申候事

一米相場書差出シ候御藏米六拾式匁五分町米五拾九匁五分

一三浦志摩守殿より御徒使尾淵勘藏と申者今日八つ時過御書持参之由大年寄申出候付早速上下式人宿鳥屋与惣兵衛方江申付此段大目付中江手紙ニ而相届遣候事

正月三日 晴

一今日例歳之通大年寄共三人江為年礼宅へ罷越候

一今日四つ時御供揃ニ而地藏院江御社参夫の泰安寺江御仏詣被遊候一明四日四つ時御供揃ニ而泰安寺妙法寺本源寺江御仏詣被仰出候旨中奥目付堀江左膳より申来御道筋先格之通之由則御先払申付大年

正月 御用番 下村権右衛門殿

大目附当番持

大年寄

斎藤孫右衛門

元日 晴

一年頭御祝儀中奥組以上辰上刻登城御流頂戴早而勘定奉行町奉行郡代仮役新五兵衛例之通御用席江罷出御祝義申上ル

寄江も申遣候

正月四日 晴

- 一 今日四つ時御供揃ニ而泰安寺妙法寺本源寺江御仏詣被遊候
- 一米相場書差出シ候御蔵米六拾壹匁五拾八匁
- 一 官川橋之下ニ五拾余之親仁野伏相果居申旨橋本町より註進申出候旨大年寄孫右衛門ハ申出大目附構場所之義故為知申遣則御徒目付下目付見分被仰付候由夜ニ入右見分之上病死ニ相違無之ニ付取捨之義取計候様大目付太田舎人より申来早速大年寄江申遣□□□□□□非人江申付為取捨候様申渡候

正月五日 晴 御用日御出席

- 一 今日寺社方御礼被為請候
- 一 昨夜申付候宮川橋下ニ致病死候野伏夜前申渡候通取捨之義川向例之場所江取理致候旨非人共申出候由ニ付大年寄孫右衛門より届出候付右之趣大目付中江申遣候

一来ル九日三浦志摩守殿御発駕之由昨夜先触申来候旨大年寄申出候付先格之通取計候様申付此段大目付中江申遣候

一右ニ付寄セ馬之儀去歳も差支候由ニ付五疋被仰付度旨大年寄申出候付大目付中江及相談寄セ馬三疋郷中江申付候様可取計旨申談郡代所ニ而右之通取計申付候事志摩守殿九日勝間田泊り之由御城下ハ御通行迄ニ候得共万一忠兵衛方御小休ニも可相成哉ニ付一通り掃除等ハ申付置大目付中及対談御使者宿ハ斎藤次郎左衛門方ニ取計可然旨是又申談候而則右之趣大年寄孫右衛門江申渡候事
右人馬之儀町方ハ坪井久世辺聞合候処人馬多ク入り不申趣承合申

出候付寄馬俄ニ相止候様取計候

正月六日 晴

- 一 野井野役人香山与左衛門川端代八兩人ハ年頭書状并錢相場書可差遣旨昨夜申越則錢相場書祝書之返書共に今日町宿迄差遣候事
- 一 三浦志摩守殿役人筑摩源右衛門渡部唐兵衛兩人ハ勘定奉行宛ニ而年頭書状到来則拙者ハ及返書候事
- 一 今日於宅御用違共并御蔵元諸吟味此外三倉や善四郎ニ至迄年頭書候而孟遣候事
- 一 右相濟町内年寄共不殘例之通於宅一ト通り逢候事

一来ル九日三浦志摩守殿御城下御通行ニ付万端先格之通取計候様大年寄へ申付先例之通町内へ触流之儀先格之文段ニ而不殘相触候様大年寄江申遣候

正月七日 晴 御用日御出席

- 一 明八日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被仰出候旨中奥目付西尾多内ハ通用有之則御先払申付大年寄江も申遣候
- 一 大久保七郎右衛門殿役人小形進吾酒井良藏永松太惣左衛門三人連名年頭書状到来則及返書候

一 明後九日志摩守殿御通行ニ付余中江御使者被差出大御番組村瀬八兵衛江被仰付御徒目付下目付も被差出候付右之面々立宿可取計旨大目付中より被申聞候付右立宿之義八十岡町江申付候様ニ大年寄江申渡候

一 札元共五人義大年寄並と去ル。歳。被仰付候付来ル十六日御目見え之節も大年寄並經節差上御目見え申上候様可取計旨今日於御用

丑ノ六日三。

所御用番権右衛門殿より被仰渡候付右之趣札元共江申聞置及演達候様ニと大年寄孫右衛門江申渡候

一 大年寄共江先格之通雉子三羽つゝ可被下置哉之旨御用所江相伺候
処先格之通被下候ニ付先格之通取計候様被仰渡則小勤者江申談置候

一 明後九日志摩守殿御通行ニ付先格之通町分御先扨同心兩人差出シ
并馬指場江も同心兩人先例之通罷出候様ニと小頭左五兵衛江申遣候

正月八日 晴

一 今日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊候

一 明九日九つ時御供揃ニ而司馬五郎様使者屋敷江被為入候而志摩守殿供立御透見被成候之由御道筋田町御門より小嶋此母前北郷權八前より妙願寺前通魚町小性町夫より御使者屋敷江被為入候旨先格之通取計可申付旨馬場喜内より申来則大年寄孫右衛門江此段申遣候

正月九日 晴

一 明十日四つ時御供揃ニ而地藏院江御仏詣被仰出候旨中奥目付堀江左膳より申来候付例之通人留之義大年寄江申遣候

一 今日九つ半時過三浦志摩守殿当町御通行ニ付西筋江大御番組御使者被差出村瀬八兵衛相被勤御徒目付下目付罷出町分同心先扨差出シ中山伝内藤森佐助兩人相勤候御通行無滞相濟候段御先扨届出大年寄も申出候付御用番権右衛門殿大目付当番江手紙ニ而御届申候事

一 御使者宿齋藤孫右衛門宅江申付例之通御取次御使番罷出候由先方使者御通行前黒川友次と申者相勤候由

一 玉置忠兵衛宅ニ而少之内御小休ニ相成候由右之外先格之通大年寄取計申付候

一 御勘定奉行清水多橋昨夜大坂表へ帰着之由

正月十日 晴 御用日御出席

一 今日四つ時御供揃ニ而地藏院江御仏詣被遊御用日故例之通七間廊江御勘定奉行当役罷出候

一 来ル十六日大年寄札元町医御用達諸吟味御蔵元御目見え登城仕候付御門出入之義中奥目付中江被仰達被下度旨今日大目付中江申遣中奥目付中江名面書付相廻シ候

一 藤田三八義町奉行於役所栗田唯次山岡与左衛門栗原新五兵衛申合
一 兩日中ニ今一応遂吟味候様今日大目付井上弥三兵衛より山岡与左衛門栗原新五兵衛へ被申渡候付勘定奉行中申合又々先達而之通新五兵衛於宅与左衛門新五兵衛兩人明日可致吟味旨申合置候

正月十一日 曇屋後より雨

一 今朝上総殿江左之通同心組を以申遣上封シニ兩人名認先達而之通被致承知候旨返書来ル

藤田三八義今日猶又遂吟味候様被仰付候間四つ半時頃御家来中被差添新五兵衛宅江罷出候様被仰付可被下候以上

正月十一日

上封シニ如斯内ニ名不記

上総様

山岡与左衛門

栗原新五兵衛

一四つ半時過上総殿より藤田三八義中小性山本来助と申者差添罷越
九つ時過より小頭佐五兵衛例之通立合セ与左衛門新五兵衛兩人致
吟味口書致させ候

一明十二日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被仰出候旨中奥目付土
岐三太左衛門申来則御先弘申付大年寄江も申遣候

正月十二日 曇 御用日御出席

一材木町関貫扉ひぢ手柱より拔出候旨昨日大年寄町内年寄註進書
付差出シ候付大目付中江此段申達御作事役人中江被仰達被下度旨
申達置候事

一今日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊御用日故例之通七間廊
下江勘定奉行中当役罷出候事勘定奉行中今日間ニ合
不申新五兵衛計罷出候

一昨日藤田三八吟味致候口書帳面山岡与左衛門申合今日大目付井上
弥三兵衛江差出シ候

一今日例之通大盤若御祈禱無滞相濟候

正月十三日 曇

一今日万人講場所見分例之通小頭差出シ郡代所下代も差出シ候事

一明十四日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被仰出候旨中奥目付西

尾多内由来則御先弘例之通申付大年寄江も申渡候

一大年寄孫右衛門罷出申聞候ハ昨夜より座頭共罷出座頭組頭を以申
出候ハ江戸表御屋敷御裏方今般御普請成就去十月御やねあけ等相
濟候ニ付右御祝義前後三ツも頂戴仕度旨申出候旨尤右三ツと申趣

ハ内々配当場之座頭大年寄迄内意申聞候由然ル処段々配当場座頭

も利合申聞セ右御祝義式ツ分被下置候ハ、相濟可申旨申出候旨
大年寄より右之趣委細申出候付大目付中江及相談候上御用番権右
衛門殿江罷越右之趣及御沙汰候処左候ハ、無拋筋故式ツ分被下候
間此段申渡候様ニと被仰渡則大年寄孫右衛門呼出シ夜ニ入式ツ分
被下候段申渡候事

正月十四日 晴

一昨夜大年寄江申渡候座頭共江御祝義被下候付右銀札例之通於銀札
場取替大年寄共手形を以当分取替有之由ニ付右取替有之様ニ通用
被具候様御勘定奉行山岡与左衛門江手紙遣候

一右御祝義今昼後座頭共江相渡候様申渡候付例之通配頭場江同心小
頭部屋目付先格之通罷出候様ニ小頭江申遣候

一今日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊候

一昼後配当場江小頭左五兵衛部屋目付藤森権六罷出二つ分御祝義左
之通無滞相渡シ相濟候段夜ニ入届出候

合銀札志貫六拾目式宛

二つ分御祝義則

配当場書付小頭申差出候

正月十五日 晴 御用日御出席

一月並之御礼被為請候

一来ル十八日万人講ニ付前夜より町方例之通太鼓打申度旨大年寄昨

日申出候付御用番中江及御沙汰大目付中江も申達承届ル

一右同日万人講ニ付例之通町方触流シ先格之通取計候様大年寄江昨
日申渡置候事

一右万人講ニ付同心加人之義五人大目付中江申達候

一昨日座頭共江被下置候御祝義式つ分銀札員數之義今日御用番中江及御沙汰大目付中江も申達候

一來ル四月市宮市町ニ付其節。万人講被仰付候旨尤來ル十八日万人講當日披露いたし可然ニ付最早日合無之日取之義四月廿七日ニ相

極メ雨天ニ候ハ、廿八日致興行候様可申渡旨今日大御目付井上弥三兵衛より被申渡則大年寄江此段申渡候

一右四月万人講日取之義御用番中江及御沙汰兩橋江建札之義も相窺置相濟候

一此度御小道具老人御箱之者老人御抱被仰付候付例之通町在寄セ人之義可取計旨大目付中江被申渡候付中奥目付中江申談候処いつ頃迄ニ可罷出と申日取之義明日相極メ可被申聞旨申談置候大年寄江も右之趣申渡置日取之義自是可申聞旨申置候

一去ル午ノ歳より相残り居候残り錐之分当月万人講より壹枚ツ、番數之外ニ初年分ハ順ニ壹枚ツ、相添突渡候ハ、万人講ノりも宜世上氣向もよく左候ハ、自然と少々ハ寄り之違ひも可有之哉ニ候間右之通被仰付度旨兼而講元なども右之趣を相願度存寄ニ相聞候間右之通被仰付度旨先達而より大目付中江も及相談候処右之趣可然被存候旨被申聞候付今日御用番権右衛門殿江御窺申候処右之趣ニ取計候様被仰渡此段大目付中江も申達右ニ付此度ハ殘錐之分壹枚ツ、突渡シ候様講元可取計旨大年寄江申渡候

一上総殿江御預ケ被置候藤田三八義揚り屋江被遣候間右之趣今晩方取計候様ニと御用番権右衛門殿より於御次大目付井上弥三兵衛被立合被仰渡候

一於御用所御用番権右衛門殿ハ大目付立合ニ而左之通被仰渡候由新五兵衛義御用向有之帰宅いたし候付代り栗田唯次江被仰渡候旨只次ハ申來候則夜ニ入甫庵呼出シ於宅小頭大年寄立合セ申渡之右取計相濟御用番并大目付中江手紙ニ而御届申候事

以後勘定奉行支配

御礼席岩佐孝碩上ニ被仰付候

渡部甫菴

一夜六ツ半時頃藤田三八義上総殿ハ中小性中嶋太助と申者家來老人連差添被差越尤町奉行所江御引渡候様ニと申義御家老中ハ申參候由上総殿ハ時刻等之義手紙ニ而聞合申來將又一通り之者ニても無之ニ付同心組兩人遣し吳候様ニ申來則揚り屋江遣候手配り之同心組藤森権六神田権兵衛兩人直ニ向方江差遣シ三八ハよほど跡ニ付候而罷越候由尤大ノ字挑灯式張人足ニ而差遣シ右之刻限罷越候付新五兵衛中小性江タイシ之上三八請取并三八脇差壹腰持參故則請取役所ニ取置右引渡シ相濟中嶋太助請取候口上申聞直ニ差返シ夫より即刻右同心組兩人外ニ人足老人差添挑灯式張ニ而揚り屋江差遣シ例之通牢番江手形差遣シ無滞右取計相濟御用番中并大目付中江手紙ニ而御届申候事

正月十六日 晴 御出席

一御具足御祝義ニ付諸士登城有之候

一昨日中奥目付中江申談置候寄セ人日限之義來ル廿八日見分有之由

付廿五日迄ニ町在共申出候様ニ取計則大年寄江申渡置候事

一今日被召召格式等被仰付「御役人迄大勢有之候得共当役所懸り合無之面々ハ委不記置候

格式物頭殺生方惣吞込被仰付候

馬場喜内

格式番外司馬五郎様付喜内

跡役ニ被仰付候

稲垣茂士

大番組頭役被仰付候

江口庄左衛門

一 寺社取次中奥目付兼役之所今日御免被成大番組頭江 寺社取次兼役被仰付候

一 御具足御祝義前ニ左之順ニ御目見え例之通被仰付候事

宍 札元茂渡市右衛門差上物經節三拾節式大年寄藏合孫左衛門差上物同断三 大年寄齋藤孫右衛門差上物同断 四 町惣代藏合孫左衛門差上物經節五十人一大御番組披露之五 札元山本三右衛門差上物大年寄並右同断六。川口藤十郎七茂渡藤右衛門札元也差上物右同断八 札元武田七郎兵衛差上物右同断

右相濟地方目付拾人手伝見習共ニ而尤差上物大年寄之通經節三十ツ、名順左之通

宍 中嶋定八式中嶋多右衛門三安黒権十郎四土井太郎右衛門五立石五左衛門六植月六郎右衛門七多胡左市八土居喜兵衛九土井与三兵衛十大谷一兵衛

右相濟町医差上物ハ無之但シ中嶋仙庵義ハ今年御目見初而之義故三本人扇子差上候而御目見え申上其外ハ差上物無之候

宍 渡部甫菴二岩佐孝碩三川嶋桃庵四箕作丈庵五河合友益之所当病五北山周齋六中嶋仙庵

右軍而中ノ口御通り懸御目見え申上候御用達之者共左之通中ノ口か、ミ板ニやり取敷有之南北江並居銘々前ニ扇子差置尤

御奏者名披露有之其節当役ハ不詰合

御目見前ニ見繕並居させ候事取計將又松の間御目見え之面々

ハ其節右之場所江罷越名札取御使番中江差出シ順等之儀見計

中ノ口御通り懸御目見え申上候面々左之通順も左之通也

御用達三堂宇左衛門高松平兵衛渡野善十郎垣八郎右衛門

福永藤左衛門 諸吟味伊勢長右衛門 御藏元姫路伝藏

右七人御通り懸御目見え申上候事佐和や孫四郎義塩や八郎右衛門次福永や上江名順出居候処当病也

一 中嶋仙庵義初而御目見えニ付扇子。差上大御番組披露也御用達共差上候扇子も三本人之由是ハ先格急度不相知差懸り候故今年ハ先ツ小勤者所々取揃差出候追而相しらべ相極メ可置旨小勤者江申談置候

一 大年寄玉置忠兵衛義病気京都ニ致養生罷有当春も不相帰候趣相願相濟居候付当病も不相届名代之御目見えも無之事

一 右御目見え相濟候而御具足御祝儀相始り御祝義後ニ御用席江町奉行勘定奉行郡代罷出祝義申上候事

一 明十七日四つ時御供揃ニ而地藏院江御社参被仰出候旨中奥目付西尾多内々通用有之候付則大年寄江人留之義申遣候

一 去ル七日御用所江御窺申上置候大年寄江被下候雉子之義今朝小勤者所々三羽つゝ三人江九羽相廻り則今日於宅大年寄兩人呼出シ先格之通雉子被下候段申渡候玉置忠兵衛江も他出致居候へとも歳暮差上候故兩人同様被下置候事

一 今日於宅小頭同心三軒屋番人兩人牢番兩人書役老人牢屋中間兩人

も酒請させ書役以上盃いたし事候上具足開ニ而一諸ニ酒振廻候事

正月十七日 曇 御用日御出席

一新五兵衛義今日齒を痛当病断之義御勘定「栗田唯次江相頼遣候事

一 大坂北久太郎町境筋松屋甚兵衛倅甚右衛門と申者上下式人例年之通小間物おろし売ニ参候由二階町境屋伊右衛門宿切手差出候

一 今日四つ時御供揃ニ而地藏院江御社参被遊候

正月十八日 曇

一 今日万人講ニ付当日町奉行代り清水多橋郡代栗原新五兵衛四つ前時より兩人「出役例之通御徒目付下目付致出役小頭同心書役使」土井左六大年寄蔵合孫左衛門致出役候無滞相濟御月番権右衛門殿江罷越相届ケ大目付中江手紙ニ而相届候事

寄札高式千八百五拾枚

三步銀高四貫式百七拾五匁

正月十九日 晴

一 今日講元役所江残り札渡シニ小頭同心兩人例之通差出シ郡代所下代も差出シ候事

一 備前岡山片上町大和屋清右衛門手代儀助と申者壹人例年之通醬油懸取ニ参候由境町西川屋善助宿切手差出ス

一 右同州岡山橋本町塩屋伝六手代茂兵衛と申者壹人例年之通酒懸取ニ参候由右同人宿切手差出候

一 播州今市綿屋嘉市郎手代忠七武兵衛と申者式人例年之通呉服売ニ

参候由二階町塩屋伊右衛門宿切手差出候

一 明廿日地藏院へ御仏詣被仰出候旨中奥目付堀江左膳の申来候付人留之儀大年寄へ申渡候

正月廿日 雪 御用日御出席

一 今日四つ時御供揃ニ而地藏院へ御仏詣被遊御用日候付例之通勘定奉行御当役七間廊下へ罷出候事

一 去ル十八日万人講寄高之儀今日御用番中へ及御沙汰大目付中へも申達候

一 去「月万人講之節備前和氣之者かち屋藤五郎と申者駒入置罷帰り同十二月万人講之節十一月ニ入置候相かん「駒けつり直シ又々入ニ罷越見候処」月ニ入置候駒文句上り札ニ相成居候由右銀札請取度旨去十二月講元迄「申出候由候得共相かん無之ニ付難相渡筋之所此方ニ而右文句認させ打寄遂吟味候処同筆ニ相違も無之ニ付相渡シ可遣哉之旨小頭より窺出候付旧冬大目付中江右之駒差出シ及相談候処急ニ相渡候様ニも相成間敷旨右ニ付当正月万人講之節披露等いたし追而品ニより可相渡旨申聞差返シ候然ル処此度又々罷越右銀札請取度旨申出候付又々今日大目付中江及相談当町宿并請人等之手形取り宜申付候而相渡「可取計哉之旨及対談候上御用番権右衛門殿江此段及御沙汰り宜取計候而右之通可取計由被仰渡候付小頭江右之趣申渡前後り手形差出シ候ハ、相渡可遣旨申付置候事

五拾九番 間五百八拾八匁四厘十一月十八日万人講之節

一 生野御代官平岡彦兵衛殿手代大井田与五郎中「忠助兩人連名書状到来去寅年中銭相場書先例之通相廻シ呉候様申来則当役致奥書今

日直ニ飛脚之者江相渡シ遣候事尤相応之及返書候

一 明廿一日四つ時御供揃ニ而司馬五郎様泰安寺江御仏詣被成候之由
宇津木弥右衛門ハ申来則大年寄江申遣候

正月廿一日 晴

一 今日□つ時御供揃ニ而司馬五郎様泰安寺江御仏詣被成候事

一 明廿二日四つ時御供揃ニ而二ノ宮院庄江御遠乗被仰出候旨御道筋

二 階御門より馬方町本魚町通り二丁目三丁目坪井町宮脇町今町
寺町茅町安岡町ハ二ノ宮江被為入候旨中奥目付土岐三太左衛門ハ

申来候付例之通御先ハ申付大年寄江も申渡候

一 八十岡町福嶋屋伊助と申者此間万人講銀札渡シ之場所ニ而請取ニ

罷越候節不審成義有之候由右ニ付大年寄於宅小頭立合明日遂吟味
候様申付尤伊助義町内預ケ伊助兄幸助と申者禁足申付置候様大年

寄江申渡右不審成趣小頭左兵衛郡代下代ハ申出候趣今日御用番權

右衛門殿江罷越及御沙汰置大目付中江も申達置候

一 昨日御用番中江及御沙汰候備前和氣かちや藤五郎上り札銀札五百

八拾八匁四厘今日講元於役所相渡シ勿論ハり手形取候旨小頭左五

兵衛届出右手形出シ則右手形納置候事

一 明廿二日御出ニ付御用所御出席無之段大御目付井上弥三兵衛より
被申聞候

正月廿二日 晴

一 今日四つ時御供揃ニ而二ノ宮院庄江御遠乗ニ御出被遊候

一 今日ハ錢相場壹匁ニ七拾壹文ニ立替り候旨大年寄申出候事

一 明廿三日例刻より御用所御出席有之候旨大御目付永井甚大夫より

為知手紙来候

一 備州津宇郡妹尾村太兵衛と申者老人例年之通量表元結木綿売ニ参
候由中ノ町福茂屋武助宿切手差出候

一 明廿三日九つ時御供揃ニ而杉山江御鹿狩御出被仰出候旨中奥目付
柴山木工左衛門ハ申来御道筋京橋御門より川井田左衛門前真直ニ
土手江御出被遊候由則御先ハ申付例之通大年寄江も申遣候

正月廿三日 小雨 御用席有之

一 今日九つ時御供揃ニ而杉山江御鹿狩ニ御出被遊候

一 昨日大年寄孫右衛門於宅福嶋伊助并茅町政次兩人呼出シ吟味口書
いたし今日差出シ候

一 安岡町幸助ト申者。茅町大工文六倅政次兩人共今日町内預ケニ申付置候
此段御用番中江及御沙汰ニ置大目付中江も申達置候

一 明廿四日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊候旨被仰出候由中
奥目付堀江左膳ハ通用有之則御先ハ申付例之通大年寄江申遣候

正月廿四日 雨

一 今日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊候

一 明廿五日五つ時御供揃ニ而御対面所江御出被遊候付明日御出席明
後廿六日御出席有之候旨大御目付永井甚大夫より為□手紙来候

正月廿五日 晴

一 □日五つ時過より御対面所江被為入候

一 去ル廿三日左之通廻状出今日相廻り候

前々ハ御家中不行跡之ものハ無抛御咎被仰出候得共何茂不便成
義思召候依之兼而被仰出候義候得共養子等猶以可遂吟味候尤急

養子たり共少々遅引者御容赦可被成候間得与入念始終御用立候
ものとして相願候勿論可成たけ御家中ニ而取組二男三男他家江不
出様被成度思召候

右之趣被仰出候間一統難有可奉得他所養子取組之義以来者品ニ
向方江御留守居る筋目等聞合も可被仰付候左様相心得可罷在
候

此段同役并支配方江も可被相違候以上

正月廿三日

正月廿六日 晴 御出席有之

一 船頭町前横渡シ舟損シ候付例年之通御繕被仰付度旨舟頭丁渡シ守

弥五郎断書差出シ今日御用所江差出シ御繕之義申上置候

一 御手廻り御抱寄セ人之義昨日迄ニ左之三人相望候旨申出候付中奥
目付中江今日名面書付相廻シ候

藏合孫左衛門家来 安岡町 二階丁組屋敷十郎内
左兵衛 久米屋兵八借屋源吾 増右衛門
堀町作人甚六控三吉

一 小性町小嶋屋源六と申者当寅六拾七歳右源六義去夏相願千ヶ寺ニ
参罷出候処道中病氣付。一家妻子も無之者人者之義老病相煩当
日も送り兼候極難波ニ付組合近所之者は迄ハ色々致世話遣候得
とも行届不申ニ付御救被下候様ニ組合之者共願差出シ今日御用
所江及御沙汰候処孤独之者並之通御救可被下置旨被仰渡則願書大
目付中差出シ申達候上御勘定奉行中江も申達御救並之通被下候段
大年寄江申渡候

一 備前邑久郡山田牛窓大工喜右衛門市兵衛半兵衛半右衛門善助五郎
左衛門と申者六人例年之通御当地江細工ニ参候由二階町境屋伊
右衛門宿切手差出候

正月廿七日 晴 御用日御出席

〔御用達佐和屋孫四郎浜野屋善十郎塩屋八郎右衛門三室屋宇左衛門
福永屋藤助高松屋平兵衛右六人之者共義家役御用達相勤候当人一
代御免被成候間此段可申渡旨大目付中立合於御用所御用番権右衛
門殿被仰渡候付此段大年寄孫右衛門呼出シ申渡シ〔右申渡取計
相済御用番権右衛門殿某大目付中江手紙ニ而御届申候

一 播州加古川よりねちわく細工手伝ニ九郎兵衛長次郎と申者式人例
年之通呼越昨日参候付当三月中頃迄差置申度旨二階丁嶋屋藤吉〔
組頭兩人より届書差出シ承届ル

正月廿八日 晴

一 藤森左助義名字石名と相改吉并甚蔵義名字福田と相改申度旨小頭
左五兵衛を以相願候付勝手次第之旨承届ル

正月廿九日 雨

一 銭相場今日少々ニ七拾式文通用立替り候旨大年寄孫右衛門申
出候

一 西新町年寄升屋長十郎義甚兵衛と改号仕度旨願出シ承届ル

二月 御用番 山田衛守殿

大目付 当番持

大年寄 藏合孫左衛門

朔日 曇

一月並之御礼被為請候

二月二日 雪屋後晴 御用日御出席

一京三条通高倉西江入町二文字屋宇兵衛と申者呉服売ニ前々御当地江参り来り林田中ノ町小山や与三右衛門方宿得度候処宇兵衛義段々不勝手ニ罷成商ニも得参不申依之右宇兵衛宿野田屋平藏と申者播州網干ニ而小間物商売仕居候付此已後平藏義宇兵衛代リニ御当地江指越申度旨宇兵衛申越候由右平藏小間物持参おろし売仕らせ度願中ノ町小山屋与三右衛門より差出シ承届ル

(大年寄吟味之上おろし売之義故凡歸リニハ不相成趣ニ付承届ル小頭も同様ニ申出候)

一中ノ町佐野屋吉兵衛伴伝八義年四拾七才親吉兵衛心懸ニ不相叶組合一家共色々異見差加候得共一向承引不仕去月廿三日何方江とも相知不申罷出平生不行跡者故義絶勘当仕度旨親吉兵衛願差出シ御用番衛守殿江及御沙汰大目付中江も申達承届候段大年寄江申渡候尤願書大目付中江差出ス

一去ル午ノ歳取初残り雖五拾九番百八拾七匁八分五厘の分去月十八日万人講之節突渡シ右之銀札相渡呉候様ニ講元より書付を以申出候付今日右之趣権右衛門殿江及御沙汰御勘定奉行江被仰渡被下度旨申上則勘定奉行中江も及対談置候事

二月三日 晴

一明四日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被仰出候旨中奥目付西尾多内申来則御先払申付大年寄江も申渡候

一米相場書差出シ候御蔵米六拾式匁町米五拾九匁

一河原町南側ニ而吉原屋長八家屋敷表口四間裏行拾三間本役ニ而東

隣ハ右吉原屋長八西隣ハ作人喜兵衛ニ而右之家屋敷代銀札式百目ニ相極メ舟頭町作人伊助江売渡申度旨願出承届候同十日本証文出ス

一去月廿六日御用所江及御沙汰候小性町小嶋屋源六孤独之者一兩日病氣差重ク今日相果候旨。大年寄届出承置候

二月四日 晴夜中雨

一今日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊候

一一ノ宮ニおゐて万人講有之節地方目付三人引請申付候付町方講元引請取計ニハ不及候段講元共へ可申渡置旨大年寄江申渡置候

二月五日 晴 御用日御出席

一今日左之通廻状出則町内江相触候様可申付旨大年寄孫左衛門江申遣候

於江戸表丹後守様御裡方様御病氣之処御養生不被為叶去月廿三日御卒去之段申来候依之今日一日鳴物高声御停止之事情尤普請ハ不苦候

右之趣同役并支配方江も可被相達候以上

二月五日

一明六日六つ半時御供揃ニ而杉山江御鹿狩ニ御出被仰出候旨中奥目付柴山左衛門より通用有之御道筋田丁御門より真直ニ二番所今町通り妙法寺前真直く鉄砲丁夫より広瀬江御懸り被遊候由則御先払申付例之通大年寄江申付候

一境町三津屋彦三郎借屋ニ居候作人甚六伴三吉義此度御手廻り奉公

罷出候付町内人別除ケ願彦三郎願出シ承届ル

一境町三津屋平右衛門所持之他国請酒株先達而相願西新町紙屋佐七

江貸置候処双方勝手ニ付此度^右平右衛門方江取返シ申候旨届書平

右衛門^右差出シ承置候

一三町目。平野屋助左衛門義改印致度旨則印鑑差出シ承届ル

二月六日 晴

一今日六つ半時御供揃ニ而杉山江御鹿狩ニ御出被遊候

一備前岡山野田屋郡出石屋清右衛門倅清十郎と申者老人例年之通元

結売ニ参候由境町西川屋善助宿切手差出候

一明七日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被仰出候旨中奥目付堀江

左膳^{夜中雨}申来則御先払申付大年寄江も申遣候

二月七日 晴 御用日御出席

一今日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊御用日故七間廊下江御

勘定奉行当役罷出候

一明八日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被仰出候旨中奥目付西尾

多内^{夜中雨}通用有之則御先払申付大年寄江も申遣候

一坪井町北側ニ而桔梗屋庄右衛門所持之家屋敷表口三間裏行拾七間

老軒役也西隣ハ国屋多助東隣ハ小塩屋茂右衛門ニ而去ル子四年以

前八月安岡町篠屋佐助取次ニ而家質物書人銀札六百目借用仕候処

此度右家屋敷請返シ相濟候段庄右衛門^{差遣度}届書差出シ承置候

一伏見町倉敷屋多兵衛倅和助義例年之通京都近江屋市右衛門方^{差遣度}呉

服商内ニ因州伯州之内ニ参呉候様相頼尤内縁も有之候付。明八日

罷立来ル十二月下旬迄逗留仕ラセ度旨多兵衛願差出シ承届ル

一境町三津屋平右衛門所持之他国請酒株当卯ノ年より未ノ年迄五ヶ
年之間東新町樽屋清八借り請商売仕度旨清八より届書差出シ承届
ル

一今夕同心夜廻り中山伝内石名左助罷出四つ時分届出候ハ西大番所

御制札前ニ病人行倒者男老人臥居候付相尋候処江戸者之由申外ニ

吾ハ不申聞雨降候故先宮脇町今町年寄呼出シむしろ差かけほど

付置候旨尤大目付構之由兩人届出候付大目付中江届手紙認かけ候

処当番大御目付中より右行倒者之義下目付申出候由右行倒者隣町

江引取養生致遣候様可申付旨申来早速当番同心福田甚蔵右之場所

江遣し隣町年寄共呼出シ急ニ宿屋江引請候様ニ申付則今町宿屋江

引取候旨甚蔵見届罷帰候

二月八日 晴

一今日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊候

二月九日 晴

一三町目浜野屋善十郎養子ニ播州龍野下町山崎屋八郎兵衛倅庄蔵と

申者当卯式拾五歳此度引請度旨善十郎願差出シ承届ル

一林田町作人長七倅伊三郎義苅野伊助と相改今度下村権右衛門殿

奉公仕ラセ度旨町内人別差除度旨長吉願承届ル

一坪井町北側ニ而桔梗屋庄右衛門所持居候家屋敷表口三間裏行拾七

間但シ老軒役西隣ハ国屋多助東隣ハ小塩屋茂右衛門ニ而右家屋敷

代銀札七百五拾匁ニ相極メ町内小塩屋喜太郎江売渡度旨庄右衛門

願承届ル同十一日本証文出ス

一中ノ町福茂屋武助より宿切手左之通三通差出候

播州網干新在家村加賀屋善七手代清八と申者

壹通

老人例年之通小間物おろし壹参候由

右同州姫路龍野町和泉屋孫兵衛手代久兵衛

壹通

甚八と申者兩人例年之通小間物売ニ参候由

右同州賀茂郡三木町形屋与兵衛と申者老人

壹通

例年之通紺屋形売ニ参候由

二月十日 晴 御用日御出席

一本郷西村永案寺本堂再建立出来ニ付地藏入仏供養并護摩供来ル三

月廿四日夕四月朔日迄執行致候付両橋江建札之義相願出候由寺社

取次松嶋十学より被申聞則御用番中江及御沙汰候処右取計候様被

仰渡例之通取計候様ニ大年寄江申渡候

一午ノ歳残り雖五拾九番の分銀札百八拾七匁八分五厘御勘定所相

廻り候付今日大年寄孫左衛門江相渡則講元請取手形取置候事

二月十一日 晴

一明十二日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被仰出候旨中奥目付西

尾多内申来例之通御先払申付大年寄江も申遣候

二月十二日 晴 御用日御出席

一今日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊御用日故七間廊下江御

勘定奉行当役罷出候

一此度御駕籠之者御抱被仰付候間支配所江触流シ寄せ人之義取計候

様ニ大目付中申被申聞中奥目付中江及対談候処来ル廿日ニ見分有

之由ニ付来ル十八日晚迄ニ申出候様可相触旨大年寄孫左衛門江申

渡候

一宮脇町松野屋吉兵衛義此度宿願有之西国偏路仕度旨往来八拾日計

逗留ニ而罷歸り度旨吉兵衛願承届ル

一勢州安藝郡白子村形屋忠右衛門と申者老人例年之通紺屋形売ニ参

候由二階町境屋伊右衛門宿切手差出ス

二月十三日 晴

一明十四日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被仰出候旨中奥目附柴

山左衛門申来則御先払申付大年寄江も申渡候

二月十四日 晴

一今日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊候

一備前岡山下市町中嶋屋久六と申者例年之通元結売ニ参候由境町西

川屋善助宿切手出ス

一西今町沢田屋六兵衛義西国三拾三所江参詣仕度旨来ル廿日ニ罷立

往来日数百日計之逗留ニ而罷歸り申度旨六兵衛願出シ承届ル

一林中ノ町佐渡屋伊右衛門家屋敷南側表口三間裏行拾七間御役半

役ニ而東隣ハ斧屋清助後家西隣江申屋和助ニ而右之家屋敷銀札四

百目ニ相極メ町内平岡屋右衛門江売渡シ申度旨伊右衛門願承届ル

同十八日本証文出ス

一左之趣郷中江相触させ候付町内江も相触候様大年寄江申遣候

御林者不及申野山ニ而も火を付候義ハ堅停止之旨兼而申付置候

処法外之義も有之候様粗相聞候以来右躰之者も有之候ハ、急度

可申付候間右之趣町中江念入可被相触候以上

二月十四日

一明十五日九つ半時御供揃ニ而司馬五郎様二ノ宮江御遠乗 被為人

候夫より御帰り御対面所江御出被成候旨御道筋京橋御門より本町
通御出被成御帰り田町筋直ニ御対面所江被為入候由稻垣茂士より
申来候付則大年寄江申遣候

二月十五日 夜中雨 晴 御用日御出席

一月並之御礼被為請候

一下村権右衛門殿友右衛門殿と今日被致改号候

一錢相場老朽ニ七拾三文通用立替り候旨相届出候

一播州網干野田屋平蔵と申者老人初而小間物おろし売ニ参候由去ル

二日承届候趣ニよつて中之町中山屋与三右衛門の宿切手差出ス

一撰州大坂玉造上木綿町松坂屋忠右衛門と申者老人例年之通唐弓弦

おろし売ニ参候由東新町因幡屋新七宿切手差出ス

一旧冬十二月五日万人講残り錐五拾八番久米北条郡北庄村吉兵衛と

申者取ニ罷越候由昨日講元役所江郡代所下代申合小頭罷出相渡候

由則書付今日指出候事

二月十六日 晴

一去寅九月町奉行栗田唯次取計申渡候小性町藤屋源助義家屋敷京町

吉田屋喜八方江引渡之義段々及延引色々と申立いたし一向不及貪

着候付大目付中江も及相談候上去ル七日御用所江御窺申上候処同

十二日書付を以御伺申候通可取計旨御用番衛守殿より被仰渡候付

今朝源助義呼出シ小頭部屋目付大年寄立合左之通書役より申渡之

則同心中山伝内石名左助兩人差添町分境江追扨取計候右申渡相濟

御用番衛守殿江手紙ニ而御届申大目付江も手紙ニ而相届候事

藤屋源助江申渡

其方義京町吉田屋喜八より致借物返済方段々及不埒其方家屋敷
右喜八方江引渡候様ニ去九月申渡置候処右取計及延引彼は申立
いたし候付用捨を加去暮迄引渡之義日延申付置候然ル処去暮ニ
至病氣借家等無之ニ付猶又暮迄延引之義断出基不筋之申立候得
共憐愍を以此節迄有免申付置候処今以借家等無之ニ付右等之取

計一向不及貪着度々大年寄町内役人より利非を分申聞セ候得共
不得心之趣ニ相聞候役所申渡を背候同前之義其上役人之差圖
を不請不筋之及断我成致致方上を不憚甚不屈至極候依之町分追

払申付候

二月十六日

一明十七日四つ時御供揃ニ而地藏院江御社参被仰出候旨中奥目付土

岐三太左衛門申来則元魚町二階町人留之義申遣候

一中ノ町佐渡屋伊右衛門家屋敷南側表口三間裏行拾七間但半役也東

隣ハ斧屋清助後家西隣ハ申屋和助右之家屋敷去々丑三月町内申屋

和助江質物ニ書入銀札四百目借用仕候右家屋敷此度請返シ申候旨

伊右衛門断書出シ承届候右家屋敷うり券願一昨十四日差出シ大年

寄孫左衛門方ニ而取違ひ願書前後致候段孫左衛門申出則請返シ断

書今日差出シ候

二月十七日 曇 御用日御出席

一今日四つ時御供揃ニ而地藏院 御社参被遊御用日故七間廊下江御

勘定奉行当役罷出候

一中買共の米相場書差出シ候御蔵米六拾老朽町米五拾八匁

一紀州海士郡日方浦池谷町善四郎手代宗十郎又吉安右衛門と申者三

人例年之通腕折敷売ニ昨日参候由小性町田戸屋宗十郎宿切手差出ス

一筑前遠賀郡柏原浦小平次手代勘兵衛と申者老人例年之通茶碗類売(茶)

ニ参候由小性町田戸屋宗十郎宿切手差出ス

一今日左之通廻状出町内江相触候様大年寄孫左衛門へ申遣小頭江も申遣候

來ル廿一日

天宗院様百回御忌ニ付於泰安寺御法事被仰付候此段為相知候様

御用所御申ニ付申達候右之趣同役并支配方江も可被相達候以上

二月十七日

二月十八日 晴

一備前岡山中ノ町真嶋屋多平次と申者老人例年之通万紙類おろし売

ニ参候由境町西川屋善助宿切手出ス

一吹屋町鍋屋吉左衛門立願ニ付伊勢参宮往来三十日計逗留仕度旨吉左衛門願承届ル

一元魚町古川屋惣助方江雲州松江八軒町和泉や喜代松義百日之逗留

ニ而差置候処未細工之仕懸ケ相濟不申ニ付來ル四月頃迄逗留日延願惣助々差出シ承届ル

一西今町山沢屋久助妻子立願ニ付西国三拾三所参詣仕度往来百日計之逗留ニ而罷歸り度旨久助願承届ル

一田辺村土居喜兵衛伯父文兵衛義喜兵衛方役介ニいたし罷在候処境町小鳥屋治郎右衛門由緒有之候付引請住居為仕度旨治郎右衛門願出シ而役所願引合セ承届ル

一東新町鍛冶屋甚四郎借屋ニ居候平七と申者去七月相願四国西国順

礼罷立候処以今罷歸り不申日数延引罷成候付断書甚四郎より差出シ承届ル

一中ノ町佐野屋吉兵衛伴伝八義義絶勘当願去ル二日承届右勘当証文差出シ承置候

一播州網干余陸屋宗七同手代彦右衛門と申者兩人例年之通八百屋物おろし売ニ参候由中ノ町正木屋伊右衛門宿切手出ス

一上紺屋町北側ニ而鍵屋吉兵衛家屋敷表口三間裏行拾式間但シ御役

半役也東隣ハ小山屋岩右衛門西隣ハ山伏円乘院家屋敷ニ而右家屋敷代銀札百貳拾目ニ相極メ小山屋岩右衛門江売渡旨旨坪井町鍵屋

吉兵衛願承届ル同廿二日本証文出ス

一明十九日五つ時御供揃ニ而杉山江御鹿狩御出被仰出候旨中奥目付堀江左膳より申來則御先払申付大年寄「申遣候御道筋大番所迄

例之通夫々蘭田町成道寺前真直ニ鉄砲町中道町通り広瀬橋川向杉山江御出被遊候由申來候

一御駕籠之者御抱ニ付寄セ人町分左之通申出今日中奥目付中「付相廻シ候

境町作人甚六俵 二階町作人市平借屋

三五郎廿三 伊助年廿六

安岡町 源吾年不申出 河原町作人伝助借屋之者

二月十九日 晴 藤七年廿六

一明廿日四つ時御供揃ニ而地藏院江御仏詣被仰出候旨中奥目付西尾

多内申來則人留之義大年寄江申遣候

一今日五つ過時より杉山江御鹿狩ニ御出被遊候

二月廿日 晴 御用日御出席

一今日四つ時御供揃ニ而地藏院江御仏詣被遊御用日故七間廊下江御勘定奉行当役罷出候

一明廿一日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被仰出候旨中奥目付土

岐三太左衛門ノ通用有之則御先私申付大年寄江も申遣候

一今日左之通廻状出候付小頭江申渡三軒家番人牢番とも江も申渡置候様申付候事

近々惣社宮於社地見世物有之候右之場所江自分并妻子ハ不及申下々迄参候義御停止之事候若まさらハしき躰ニ而罷越□もの有之候ハ、急度可被仰付候目付之者より無用捨申出候様申付置候此旨可被得其意候

右之趣同役并支配方江も可被相達候以上

二月

一京町綿屋源七方江大坂久宝寺町尾張屋七兵衛手代権兵衛御用ニ付

一昨日参追々下役之者七八人も参候由右之宿仕候旨源七より断書

差出シ承届ル

一勝間田町紙屋茂兵衛家屋敷南側ニ而表口式間半裡行拾七間御役半

役ニ而東隣ハ辻本屋源七西隣ハ豊野屋宗孝ニ而右家屋敷町内山形

屋喜兵衛江質物ニ書入銀札式百目来辰之二月切借用仕度旨茂兵衛

願出承届ル同廿六日本証文出ス

一倉敷村大和屋猶右衛門より八出村徳兵衛林田中ノ町大塚屋十次郎

江懸り合借銀之義ニ付去十一月猶右衛門より訴状差出シ候処此度

倉敷村恵兵衛と申者并当町平野屋助左衛門右兩人□を以内済ニ取

計候付先達而差出シ候訴状願下ケ今日右猶右衛門より差出シ候右

ニ付御用番中江及御沙汰井上弥三兵衛江及対談候上明日乃井野役所江内済願下ケ致候趣飛脚ニ而差遣候積り之事右書通郡代所文通留ニ有之候

二月廿一日 晴

一今日乃井野江飛脚使組寺坂甚六差遣候

一今日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊候

一橋本町朝元屋源蔵借屋ニ罷在候中間権八と申者去ル十六日夜四つ半時町内土手江出候小路辻井戸之前ニ而中脇差巻腰ひろひ申候由右脇差源蔵方ニ預り置申候旨今日届書指出シ承置候

二月廿二日 晴 御用日御出席

一昨日申出候橋本町土手江出候小路ニ而ひろひ候脇差町在江触流シ

之義御用所江及御沙汰大目付中江も申達触流シ町内江相触候様大

年寄江申遣候

去ル十六日^夜。橋本町辺ニ脇差巻腰有之候旨申出候心懸り之者

有之候ハ、来ル廿九日迄ニ可申出候以上

一昨廿一日於泰安寺御法事有之候付座頭共御布施頂戴仕度旨申出候

由今朝大年寄申出御用所江及御沙汰候処先格之通被下置候旨被仰

渡此段大目付中江も申達則大年寄孫左衛門江申渡候

一橋本町南側ニ而黒茶屋長□郎家屋敷表口式間半裏行拾七間御役三

歩五厘ニ而東隣ハ私家屋敷西隣ハ徳嶋屋忠助ニ□右家屋敷代銀札

百五拾目ニ相極メ同町徳嶋屋忠助江売渡シ申度旨長三郎願承届ル

翌廿三日本証文出ス

一惣社宮市町ニ付土手之者共七八人参り万歳致候義願之通被仰付右
ニ付河原町山形屋新太世話やき神主より被相願候付罷越世話いた
し市中万端引請世話仕度旨山形屋新太願出承届ル勿論アリ一札差
出シ候事

二月廿三日 晴

一昨廿一日乃井野江差遣候飛脚使組寺坂甚六今日罷帰候付右届書
大御目付井上弥三兵衛江持参夫の御用番衛守殿江持参差出シ置候
向方存寄も無之候趣申来候文段郡代所文通留ニ有之候

一大坂北浜大川町錢屋七郎右衛門手代佐兵衛と申者老人例年之通小
間物屋中江懸銀札取ニ参候由小性町ひぢや兵藏より宿切手差出ス
一戸川町重屋玄忠所持致候造酒株当卯ノ歳より巳ノ歳迄三ヶ年之間
西今町玉屋治右衛門造酒商売仕度旨尤右年数之内玄忠手前ニ而ハ
相止メ申候旨右願書玉屋治右衛門より差出シ承届ル尤株主重屋玄
忠義も連印ニ而願候事

一戸川町南側ニ而平田屋平八家屋敷表口三間裏行拾七間但半役也東
隣ハ作人長兵衛西隣ハ玉津屋勘左衛門ニ而右家屋敷去ル西ノ十月
町内佐和屋虎吉名代として右平八手前ハ作人藤八買請則売券状藤
八所持いたし右家屋敷五人組相談之上を以此度藤八名面ニ付替申
度旨尤何方も何之躰も無之旨作人藤八佐和屋虎吉連印願差出シ
承届ル

一倉敷村大和屋猶右衛門の先達而差戻シ候訴状并証文之写等
願下ケ申出候通今日差戻遺候

二月廿四日 晴

一江州神崎郡新堂村嶋屋新平手代弥次兵衛と申者老人例年之通きセ
る并墨筆おろし売ニ参候由堺町西川屋善助宿切手差出候
一惣社ニおゐて万歳興行昨日の相初候ニ付先格之通今日同心組両
人宛差出候事

一安岡町福嶋屋伊助一件此間中大目付中へ及相談御用所へ御窺申上
候処左之通以書付大目付中江及相談候通勝手次第差免候様取計可
申旨一昨廿二日友右衛門殿の被仰渡則今日四つ時福嶋屋伊助呼出
し小頭大年寄部屋目付迄例之通為立合申渡取計右ニ付先達而伊助
兄幸助茅町大工政次右兩人義茂町内預ケ申付置候処右兩人義ハ大
年寄孫左衛門於宅町内預ケ差免候様孫左衛門へ申渡候事右取計相
濟御用番衛守殿大目付中へ手紙ニ而御届ケ申候事

福島屋 伊助へ申渡

其方儀去月十九日万人講銀札渡場へ罷出中須賀卯三郎と申者
上り札駒差出し不審成義役人共の相糺候処不調法之段申訳無
之由申聞候其砌可念入苦之処前後紛敷趣ニ付可遂吟味候得共
今般ハ以憐愍其分ニ差置町内預ケ差免候

二月廿四日

二月廿五日 晴 御用日御出席

一今日配當場江小頭左五兵衛部屋目付藤森権六罷出座頭共江御布施
被下左之通無滞相渡シ相濟候段小頭部屋目付届出配當場城正城並
兩人より例之通書付差出シ候

合銀札六百八拾五匁 相渡候分

二月廿六日 晴夜中雨

一去ル七日。西大番所前ニ行倒居候者今町玉屋と申宿屋江預ケ置候
処病氣快罷成右宿屋立退キ申候段今日相届出候付。大目付中江手
紙ニ而相届候事

二月廿七日 雨 御用日御出席

一去ル廿五日於配當場座頭共江被下置候御布施銀札高之義今日御用
所江及御沙汰大目付中江も申達候

一去ル廿三日元魚町米屋喜助門ニ而切手彦倭喜助家来拾ひ候旨大年
寄孫左衛門迄此間届出右切手ハ町内年寄方ニ預り居候由申出候付
今日御用所江及御沙汰大目付中江も申達置候

一今日左之通三通廻状出左之両通ハ町方江も一通相触置候様ニ大年
寄江申渡置候

井伊兵部少輔殿御事向後様と相唱可申旨被仰出候

右之趣同役 井支配方江も可被相達候以上

御參勤之御時節先達而御伺被成候処四月中と被仰出候依之来

月十八日御免駕被成候筈ニ相極り候此段可為相知旨被仰出候

右之趣同役 井支配方江も可被相達候以上

来月朔日御前格之通月次御礼不被為請候相極り候義故以後相

触不申候此旨可被相心得候

右之趣同役 井支配方江も可被相達候以上

二月廿七日

二月廿八日 曇

一今日町馬為見分小頭左五兵衛部屋目付川端又六大年寄孫左衛門宅

江差遣無相違見届候由毛付帳面取罷歸り候

二月廿九日 晴

一去月迄ニ町方万人講三度無滞相濟右ニ付講元并下請之者共江御酒
代可遣事兼而小頭迄も甚大夫町奉行役中意有之由仍而甚大夫江
此間及相談候上左之通今日大年寄孫左衛門江銀札相渡則講元并下
請之者請取手形取置候事

銀札三百目

講元共三人江町方万人講相濟無滞
致世話候付御酒代被下置候旨大年
寄江申渡候

銀札百五十拾目

下請之者共三人江右同断大年寄へ
申渡し候

銀札四百五十拾目

但シ町方万人講三步銀之内ニ而遣
候事

一東新町糶屋甚右衛門借屋ニ居候忠助と申者当月十日ニ木山江參詣
仕候旨申候而罷出候処今以罷歸り不申候旨甚右衛門組合より断
書差出シ候付定法之尋申付候事

一鍛冶町伊賀屋和兵衛伴伝八義近年不勝手ニ罷成候付右伝八義此度

大庭郡久世塚谷屋民右衛門方江五ヶ年切ニ手代奉公ニ差遣度旨和

兵衛願承届ル

一小性町南側ニ而作人九十郎家屋敷表口三間壹尺七寸裏行拾七間但

シ御役九步役也東隣ハ糶屋小三郎西隣ハ作人政吉ニ而右之家屋敷

代銀札四百目ニ相極メ居懸り作人甚吉江売渡申度旨九十郎願承届

ル三月四日本証文出ヌ

二月晦日 晴 御用日御出席

一去ル廿三日元魚町米屋喜助家来拾ひ候米切手壹俵林田ニ罷在候中間幸七と申者落シ候由御中間頭より御勘定奉行江書付を以幸七手前江請取度由申出候旨今日御勘定奉行清水多橋より右之趣被申聞右切手名宛日付等も落シ主覚不申由然レとも右幸七落シ主相違無之趣其上書付差出シ若健なる義外より申出候ハ、壹俵相弁出シ可申旨右ニ付多橋江及対談候上今日御用番十大夫殿江及御沙汰大目付中江も申達則落シ主幸七江戻シ遣候様ニと大年寄江申渡候尤定法之通四歩(ツメ)老ハ拾ひ主之方江取候様ニ申付候事

三月 御用番大橋十大夫殿

大目付当番持

大年寄 斎藤孫右衛門

朔日 晴

三月中頃前々御用番右衛門殿
御免願御當日今日大目付給本此右衛門月番ニ相成ル

一月並之御礼無御座候事

一今日渡部惣右衛門殿江戸表ハ被致帰着候事

一今日大橋十大夫殿江戸詰被仰付候由

一新魚町年寄平田屋安右衛門義近来眼病氣罷在年寄役難相動リニ付

役免願則安右衛門指出シ承届ケ例之通大年寄宅ニ而申渡候様ニ申渡候

一新魚町西ノ門番所破損ニ趣候付只今迄之番所を取則南側野田屋兵吉家江入番所ニ仕度旨町内組頭共より願出候付先格も有之右躰之場所も有之候哉之旨小頭左五兵衛大年寄共江致吟味候処右等之場

所外ニも有之先格承届候例も有之由申聞候付去ル廿八日同心中山伝内三船孫八右之場所見分ニ差遣候処何之故障も無之道狭ク此度関貫広ク直シ候故下地之番所出はり旁右之通致候趣之由同心兩人よりも申出候付右願書今日承届ル東之関貫もことの外痛候由見届申出候故東西共関貫直シ候様ニ是又大年寄江申渡候

一播州網干新在家伊部屋清六と申者壹人例年之通塩物并鯉節おろし売ニ参候由勝間田町吉田屋与三兵衛宿切手出候

一在分此間中火事繁ク触書出シ置候右ニ付而も町方火之用心等專一之事故町内申合夜廻り致候様ニ大年寄江今日申渡置候事

一右ニ付御家中江も夜分非人相廻り候義今日大年寄江申付候 御立
前旁右加廻り申渡候

三月二日 曇夜中雨

一今日四つ時より御出御座候付今日御用所御出席無御座候旨大目付中々為知手紙来候

一銭相場□日より壹匁七拾式文通用立替り候旨大□寄より申出候

一山本三「義用事有之候付備前小嶋油屋善蔵方江罷□申度来ル六日罷立往来十日計逗留ニ而罷帰度旨三右衛門願承届ル同五日御用日
御沙汰大目付中
五も申渡置候

一安岡町坪屋和助持来り候自国請酒株当卯ノ三月より巳ノ十二月迄三ヶ年之間町内新屋清助手前江右之自国請酒株預ケ申度旨貸主和助借り主清助連印ニ而願出承届ル

一右同町小倉屋治右衛門所持之自国請酒株当卯ノ二月より巳ノ十二月迄三ヶ年之間同町米子屋伊助手前江右自国請酒商売為仕度旨貸

月迄三ヶ年之間同町米子屋伊助手前江右自国請酒商売為仕度旨貸

主治右衛門借り主伊助連印ニ而願出承届ル

一西今町直屋孫四郎所持之他国請酒株当卯ノ年々来ル巳ノ年迄三ヶ年之間西新町仲屋庄助手前江右他国請酒株商売為仕度旨貸主孫四郎借り主庄助連印ニ而願出承届ル

一新魚町肥後屋治兵衛後家養子ニ大庭郡久世村原方大庭屋佐兵衛俸佐七当卯式拾四才右後家親類之者故此度養子ニ貫申度旨右後家願出承届ル

一去年七月之夜西大番所前ニ行倒居候幸七と申者西今町宿屋江預ケ置養生致させ置候様其節大目付中より申来其節玉屋吉右衛門と申者方ニ差置候処其後病氣快右宿屋立退候付□日数七日夕より同廿五日迄之分賄代左之通大目付中江及相談候上当役所ニ而取計可然旨ニ付則賄代左之通当春町方万人講三步銀残り之内を以今日□年寄孫右衛門江相渡候事則玉屋吉右衛門請取手形取置候

銀札式拾七匁(二月七日夕同廿五日迄之賄代)

同五分五厘 茶代之由

ノ式拾七匁五分五厘

三月三日 曇

一上巳之御祝義諸士登城御札被為請候

一新五兵衛此間風氣罷在今日ハ当病御断之義勘定奉行中江頼遣候

一明四日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被仰出候旨中奥目付堀江左膳より申来則御先払申付例之通大年寄江も申遣候

一鍛冶源兵衛と申者鍛冶町伝助と申者之親類ニ而四年已前相願家内五人小田中村伊助と申者方江引越罷有候処不勝手ニ罷成候付源兵

衛家内五人此度鍛冶町伝助方江引請世話致度旨伝助願出シ而役所願引合せ候上承届ル

三月四日 雨

一二階町安示院義金毘羅江参詣仕度旨来ル七日ニ出立十六日頃罷歸り申候旨安示院届書出シ承届ル

一上組屋町円乘院義金毘羅江参詣仕度旨来ル七日ニ出立四五日之逗留ニ而罷歸申候旨円乘院届書出シ承届ル

一今日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊候

三月五日 晴 御用日御出席

一去ル朔日夕より町方町内申合夜廻り之義申付候ニ付御家中江も夜

分非人加廻り致候様申付右加廻り申付候段今日御用所江及御沙汰

大目付中江も此段申達置候事

一二階町西木屋庄八所持之自国請酒株三年切ニノ安岡町米屋利助へ

去ル寅ノ才借置候処此度双方勝手ニ付庄八方へ取戻度旨右庄八借

り主米屋利助連印断書差出シ承届ル

一新職人町南側ニ而桶屋茂兵衛家屋敷表口四間裏行九間御役八歩役

ニ而東隣ハ作人伝蔵西隣ハ佐和屋孫四郎借屋ニ而右家屋敷去々年

丑ノ極月材木町大工市右衛門取次ニ而質物書入銀札式百匁借用仕

候処此度元利返済請戻候旨右茂兵衛断書差出シ承届ル

一材木町大工市右衛門家屋敷南側ニ而表口壹間半裏行十七間御役式

分半ニ而東隣ハ作人十兵衛西隣ハ福中屋太助ニ而右家屋敷伏見町

小田屋伊平取次ニ而質物ニ書入銀札五十匁借用仕来ル六月切月

式歩半之利足ヲ加へ返弁致へき旨右市右衛門届書差出シ承届ル同

十日本証文出ス

一備中玉嶋中〔町岸屋庄助と申者堺屋伊助内縁有之此度用事ニ付罷越当月廿日頃迄逗留〕度旨伊助断書差出し承届ル

一西新町西屋〔右衛門借家〕嘉作長屋ニ候御手廻り豊平家内三人引越申度旨相〔借申度旨又右衛門届書承届ル

一吹屋町勢田若狭讚州金毘羅へ参詣致度旨往來七日計逗留ニ而罷帰度旨断書差出し承届ル

一堺町小林山城義金毘羅へ往來七日計之逗留ニ而参詣仕度旨断書出し承届ル

一坪井町浜屋源右衛門金毘羅へ往來十日計之逗留ニ而参詣仕度旨断書差出し承届ル

一今日八つ時御用向有之候付御用番十大夫殿御宅へ罷越候様大御目付井上弥三兵衛於役所被申渡右之刻罷越候処大目付井上弥三兵衛立合ニ而被仰渡候者明六日朝林田中ノ町大塚屋十次郎へ申渡候儀外ニ先達而揚り家へ被遣置候藤田三八儀申渡候趣被仰渡右取計之儀今晚方手合致置候尤郡代構八出村徳兵衛義も申渡之儀被仰渡候御勘定奉行山岡〔衛門義も十大夫殿御宅へ御呼出し下山官太へも明朝被仰渡有之由先達而倉敷大和屋猶右衛門一件ニ付右懸り合之者共御裁許有之候事

三月六日 晴

一今朝六つ半時藤田三八揚り屋より呼出シ井林田中ノ町大塚屋十治郎義も呼出シ小頭左五兵衛部屋目付川端又六大年寄孫右衛門諸吟味町内年寄組合立合セ十次郎江申渡三八江申渡之節ハ小頭。并同

心平組兩人立会兩人〔ニ〕役土井左六より。以書付読渡サセ右申渡相済十次郎義同心組中山伝内石名左助兩人付添宿元江罷越見届罷歸り三八義追払申付候付則川辺御境目迄差送り同心三船孫八福田甚蔵兩人付添罷越則川辺庄屋〔見届一札取之歸り相届候右申渡取計相済御用番十大夫殿大目付中当番江手紙ニ而御届申候井上弥三兵衛江も通用手紙遣候

元佐久間上総家来

藤田三八江申渡

英田郡倉敷村大和屋猶右衛門江懸り合先主佐久間上総借物筋ニ付主人江何無之先売米之手形相渡シ他所懸り合義ニ候処主名を出シ其上等閑之取計難及出訴候付遂吟味候処不束成致方始末不届至候急度可申付候得共御憐愍を以御領分追払申付候以後立歸於下々徘徊者召捕曲事可申付者也

卯三月六日

大塚屋

十治郎江申渡

倉敷大和屋猶右衛門八出村徳兵衛藤田三八先売米借物取次いたし初発々徳兵衛瓜上不相考殊〔代之由思慮可有之処不束之取持其上加判人として筋立可申之処ニ却而度々及出訴事起シ相心之不致取扱他領及出入候様ニ致候義不埒至候依之咎之手錠申付候以上

同月同日

一八出村徳兵衛義も手錠村預ケ申付郡代役所取計いたし候右一件ニ

付今朝佐久間上総殿勘解由殿於御宅御阿遠慮被仰付下山官太義も勘定奉行於宅御阿御□格遠慮被仰付候由

一今日左之通廻状出候

先達而より度々被仰出候武芸學問之義弥出情可有之候然ル処

無益之淫楽ニ心を用ひ本道を忘れ候ものも有之趣上御好ミ不

「マ」義追而□思食之趣被仰出候御含ニも相聞候依之不被仰

出候以前被相慎候様御用所御申ニ付申達候此段同役并支配方

江も可被相達候以上

三月六日

大目付

一中買とも分米相場書差出候御蔵米六拾目町米五拾七匁

一播州姫路龍野町和泉屋孫兵衛と申者老人例年之通小間物売ニ参候

由中ノ町福茂屋武助宿切手出シ候

一撰州大坂山本村植木屋勘十郎手代茂兵衛□次郎と申者兩人例年之

通植木売ニ参候由右同人より宿切手出シ候

一境町久仁屋卯兵衛倅宇平次義十日計之逗留ニ而金毘羅江参詣願承

届ル

一安岡町六人連ニ而町内之者七日計之逗留ニ而金毘羅江参詣願承通

承届ル罷帰迄願書有之名面ハ記不置

一下紺屋町満悲院義金毘羅江参詣十五日頃罷帰度旨願出承届ル

一茅町年寄藤助并善助と申者兩人近八日計之逗留ニ而金毘羅参詣願

承届ル

一中ノ町平岡屋忠右衛門義。婦人召連。十五日之逗留ニ而金毘羅参詣願承届ル

一河原町勢田市正義倅市治召連往来七日計之逗留ニ而金毘羅江参詣

仕度旨断書差出シ承届ル

一御家中夜分非人加廻り之義。老物品人申付候歸去不申付。。今四人増都合六人ニ而無残所繁々夜

分計相廻り候様ニ今夕大年寄孫右衛門江申付候事翌七日大目付中江此段申達置候

三月七日

晴 御用日御出席

一御発駕前故町分御道見分今日小頭左五兵衛大年寄老人先格之通下

見分ニ罷出候

一明後九日。四つ時。。御首途ニ付麻上下着用罷出候様ニ大目付中より被申聞

候

一明八日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被仰出候旨中奥目付中

通用有之則御先払申付大年寄江も申達候

一牢舍人源右衛門と申者此間相勝レ不申候旨申出候付町医片岡東馬

遣シ服薬為致候旨此間大年寄申出候付此段御用所江及御沙汰大目

付中江も申達置候

三月八日 雨

一今日四つ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊候

一下紺屋町作人嘉吉借屋江増兎史軒役介山田段之進後家親子共此度

借シ屋ニ仕度旨嘉吉願承届ル

一右同町河内屋平三郎借屋江長沢清左衛門引越度由借家ニ仕度旨平

三郎願承届ル

一御発駕之節馬之義三拾九疋入用之よし昨日栗田唯次と及対談用意

馬三疋ともニ四拾式疋之内廿五疋を引残而拾七疋在中寄セ馬之

積り唯次と及対談候上昨日大御目付鈴木此右衛門江申達候而今日

郡代役所より寄セ馬之義申付候後ニ壹疋増寄セ馬十八疋也

一江戸表今日伊達与兵衛殿被致帰着候

三月九日 晴 御出席

一今日四つ時御供揃ニ而 御首途御対面処へ被為入御勘定奉行町奉行郡代兼役新五兵衛麻上下着用七間廊下へ罷出御目見申上候

一御首途為御祝義御用所以下日参御役人例之通赤飯被下之町奉行御勘定奉行郡代御金奉行七間廊下ニ而頂戴之畢而大目付所へ罷出御礼申達候

一御座敷奉行今年小勘者兼役故歟七間廊下ニ而頂戴無之

一御発駕前ニ付二階町分京町材木町迄之裏御堀端石垣之草被取度旨此間申出候付御用所へ及御沙汰大目付中へも申達置則大年寄へ申付候

一御発駕前ニ付町分御道筋見分明後十一日罷出候段御用所へ及御沙汰大目付中へも申達則御貨人馬之儀申達候尤町在所ニ見分致候段申達置候右之趣大年寄へ申達置候

三月十日 晴 御用日御出席

一御発駕前火之用心等例之御触書今日相廻り候付惣町江例之通触書大年寄江申達候近来付ケ火等致郷中之「ハ不落着及難義候取沙汰相聞え候付目明シ江申付鳥散なる者共召捕候様ニ可申付御用所へ被仰渡候旨今日大御目付鈴木此右衛門へ被仰渡有之候故此段大年寄江申達候

三月十一日 晴七つ時より雨

一明十二日四つ時御供揃ニ而 泰安寺江御仏詣被仰出候旨中奥目付西尾多内へ申来則御先私申付大年寄江も申達候

一京六条上ノ四通り高瀬川西江入ル町升屋勘六と申者老人例年之通小間物きせるおろし売ニ参候由二階町境屋伊右衛門宿切手出ス

一大坂金田町金屋半兵衛手代六兵衛と申者老人例年之通大工道具売ニ参候由右同人より宿切手出ス

一今日五つ半時より町在御道見分ニ罷出町分小頭左五兵衛大年寄孫左衛門。付添罷越同心組中山伝内石名左助兩人召連川辺迄直「召連罷越候七つ時前罷歸り兩役御道見分罷出候故郡代所例ハ無之候得共御用番惣右衛門殿江帰かけ罷越御届申大目付中当番江手紙ニ而相届候

三月十二日 晴 御用日御出席

一今日四つ時御供揃ニ而 泰安寺江御仏詣被遊御用日故七間廊下江御勘定奉行当役罷出候

一明十三日日々御用所御出席御座候旨大目付所より以坊主為知有之候

一舟頭町手嶋屋弥平次と申者此度徘徊願妙願寺より差出シ候由御聞届相濟靱屋源次郎と申者徘徊願本伝寺へ差出シ候由御聞届相濟右兩人今日御免之御聞届相濟候付此段当役所江為相知置候様ニと御用所へ被仰渡候旨大御目付永井甚大夫より被申達候此段大年寄江も申置候

一播州網干鍛冶屋宗十郎手代善十郎と申者老人例年之通鯉節鯨売ニ参候由中ノ町正木屋伊右衛門宿切手出候

一右同州網干塩屋伊兵衛同弟助三郎と申者老人例年之通荒物塩物おろし売ニ参候由右同人宿切手出候

三月十三日 晴 御出席

一 明十四日四つ時御供揃ニ而地藏院江御社参夫より泰安寺江御仏詣被仰出候由御道筋ハ地藏院ハ古谷嘉左衛門屋敷前夫より村上清大夫横太田官平前より久原三益前通例之御道筋御出被遊候旨中奥目付土岐三太左衛門ハ通用有之則泰安寺江之御先払申付大年寄江も申遣例之通ニ階町元魚町人留之義も申遣候事

一 小性町東側ニ而藤屋源助家屋敷表口四間裏行□五間但御役七步役ニ而北者横町南隣ハ作人喜八ニ而右家屋敷去ル戌ノ歳京町吉田屋喜八取次ニ而質物ニ書入銀札五百目右源助借用仕候処源助義不屈之義有之候付去月十六日町分追払申付右家屋敷。売券。ニ申付候高田屋喜八。取替候。処右家屋敷吉田屋喜八名前ニ相改則家屋敷五百三拾六□之売買ニ相立申度旨町内五人組并請取主吉田屋喜八連印ニ而家屋敷請取証文差出シ承届ル

三月十四日 晴 御出席

一 坪井町羽織屋文右衛門義此度山田喜七郎江戸表江供ニ召連度旨申候ニ付来春迄喜七郎帰□罷越其節罷帰リ可申旨文右衛門願承届ル

一 今日四つ時御供揃ニ而地藏院江御社参夫ハ泰安寺江御仏詣被遊例之通勘定奉行中当役七間廊下江罷出候

一 郷中村々非人番之義大沢三平役中宝曆十一年巳十二月□□□非人頭手下ニ申付候由然ル処此度郷中火之用心ニ付非人番遠方故手廻シ不宜穢多ハ在分之者ニ而取計能此節物焼候ニ付惣百姓昼夜不安堵ニ而農業之邪魔ニ相成候趣相聞え候付□前之通久々郷中村々穢多番ニ申付候間此段非人頭江申渡置候様ニ大年寄孫右衛門江申渡

置候

一 林田中ノ町小山屋与三右衛門より宿切手四通左之通差出候

播州網干丸尾屋六三郎と申者老人例年之通荒物類并塩物おろし売ニ参候由老通

右同州網干余陸屋武兵衛と申者老人例年之通八百屋物并鯉干おろし売ニ参候由老通

右同州網干平松屋惣九郎と申者老人例年之通小間物并さらし鯉売ニ参候由老通

右同州網干河元屋□七と申者老人例年之通荒物類并鯉節おろし売ニ参候由老通

三月十五日 晴 御出席

一 月並之御礼被為請例之通七間廊下□罷出御通り懸御目見申上候尤郡代役ニ而七間廊下江罷出候事

一 近來郷中付火等致候様ニ相聞町分之義町内申合夜廻リ致候様去ル朔日申付置候処夜前五つ半時分勝間田町寺田伝助北罷在候家隣桶屋平左衛門と申者之裏江なけ火致候由同心組神田権兵衛義通リ懸り右之趣承候旨今朝申出候付町内非人加廻り之義可申付旨今日御用所江及御沙汰大目付中江も申達則加廻り之義大年寄江申付候尤非人加廻り夜分老組申付候

一 惣社宮前市今日切ニ而見世物引払無滞相済候段同心組中山市左衛門福田甚蔵兩人届出候付郡代所ハ届手紙遣シ同心組も引取らせ候段一緒ニ御用番中大目付中江届手紙遣候

一 二階町山手屋紋右衛門家守市平借屋ニ居候伊助と申者此度御駕籠

之者ニ罷出申度町内人別除市平願出シ承届ル

三月十六日 晴 御出席

- 一 二階町山手屋紋右衛門家守市平裏御堀端堀覆痛候付取繕仕度よし
- ニ 付御堀江足代おろし申度旨市平断書出シ御用所江及御沙汰大目付ニ而も申達承届ル

一 今日左之通廻状出候ニ付刻限之義大年寄江申聞置候事

明後十八日明ヶ六つ時御発駕被遊候旨各初部屋住ニ至迄登城

可有之候尤前格之場所江可被相詰候此ニ同役并支配方江も可被相違候以上

三月十六日

大目付

一 御留守御用日先格之通三八九日十四日御用日之由今日大目付所ニ以坊主為知有之候事

一 大坂境筋北久宝寺町岸部屋茂十郎手代五兵衛と申者老入例年之通小間物おろし売ニ参候よし新魚町鳥屋与三兵衛宿切手差出ス

三月十七日 曇 御出席

一 林田中ノ町大塚屋十次郎義手錠咎差免候様被仰渡候旨大目付井上弥三兵衛より被仰渡有之則大年寄江申渡同心組差遣大年寄於宅手錠差免候様ニ申渡右取計相濟候旨孫右衛門より届出候付御用番惣右衛門殿大目付当番江手紙ニ而御届申候事

一 町在江左之通相触候様大目付中ニ被申渡則町分江相触候様大年寄

江申渡候

近來所々投火有之由相聞候右等之悪党召捕候もの江者急度御褒美可被下置候間随分心懸召捕可差出候以上

三月十七日

一 御家中江左之通廻状出候

近來所々投火有之由相聞候付随分心懸右等之悪党召捕候者江ハ急度御褒美可被下置候段町在江申渡候御家中之面々右之趣被得其意召仕下々迄其段可被申渡候

右之趣同役并支配方江も可被相違候以上

三月十七日

大目付

一 昨十六日夜鍛冶町横町布屋才兵衛居宅屋根江投火致有之由同心組夜廻り川端又六三船孫八則右之趣孫八より届出候付今日大目付中江此段申達非人加廻り又々老組申付都合加廻り町分式組御家中三組申付置候事

一 拙者義御用ニ而被為召候旨四つ時出仕仕候様今朝御小納戸芦沢作十郎より申來則御請及返書候事

一 九つ半時頃御前江被為召御留守中而役筋之義ニ付思召之趣御人私ニ而被仰渡御請申上退去勘定奉行中も拙者ニ被為召栗田山岡

清水一緒ニ罷出候

三月十八日 晴 御出席

一 今日明ヶ六つ半時過御機嫌能御発駕被遊候町奉行代り当日御勘定奉行清水多橋出役有之例之場所江大年寄も罷出候諸事去ル丑ノ三月御発駕之節取計之通

御先払 同心小頭平組石名左助五兵衛中山伝内

掃除見分 川端又六三船孫八

人留京町江老入 藤森権六

町奉行代り清水多橋江同心組老人中山市左衛門遺ス

老人ハ御貸人使組老人罷越候由

一新五兵衛義ハ郡代役ニ而先格之通御境目江出役いたし候事御貸人馬例之通若堂⁽³⁾老人ハ御貸人使組老人ハ同心組福田甚蔵召連罷越候
一同心組加入ニ不及有⁽³⁾人ニ而御問合セ相濟候事

三月十九日 晴

一近來投火等致候悪党もの。組^{有之付}之もの申付心懸捕町奉行所江相渡候様ニと去ル十七日大沢三平江被仰付候由此段大御目付井上弥三兵衛より被申聞候事

一播州神奈郡新野村出生者之由徳左衛門と申坊主老人。五十八才^年右坊主烏散成者之由大沢三平組之者召捕候付三平江対談之上入牢歟牢番預ケ等ニ取計可申旨何分三平方可請取旨大御目付鈴木此右衛門申來尤御用番中此段被仰渡候由則大沢三平江及対談同心組中山市左衛門福田甚蔵兩人三平方江差遣シ右坊主手錠打連罷越直ニ先牢番預ケニ申付候則右同心兩人付添牢屋江差遣シ候右取計相濟御用番惣右衛門殿大御目付鈴木此右衛門 手紙ニ而御届申候事

一西新町英田屋平右衛門家屋敷北側表口三間裏行拾七間但シ大溝切井土蔵⁽³⁾ヶ所右之家屋敷式拾ヶ年以前申ノ十月質物ニ書入東新町美和屋善兵衛取次ニ而銀札六百目借用仕候処此度元利相濟シ右家屋敷請返シ候旨平右衛門断書差出シ承届ル

一右同町右同人家屋敷表口三間裏行拾七間但シ大溝切半役也東隣ハ樽屋勘右衛門西隣ハ箕作丈庵右家屋敷質物ニ書入新魚町林田屋治

右衛門取次ニ而銀札式百五拾目來ル十月切巻ヶ月式歩つゝニ相極メ借用仕度旨右同人願承届ル同廿七日本証文出ス

三月廿日 晴夜中雨

三月廿一日 晴

一此間町方火付沙汰有之候付町内関貫及暮候ハ、立候様ニ可申付旨大御目付鈴木此右衛門申來則大年寄江申渡候事

一大年寄玉置忠兵衛義病氣ニ付京都ニ而養生致罷在候処少々快方ニも申來候得とも安心難相成ニ付倅広四郎義即見廻罷越申度旨往來廿日計之逗留ニ而罷越申度由広四郎願出承届ル

一材木町三家屋幸三郎義此度伊勢參宮仕度往來四十日計之逗留ニ而罷帰度旨幸三郎願出承届ル

一上紺屋町南側ニ而坪井町桔梗屋庄右衛門家屋敷表口八間裏行拾七間但御役式軒八厘五毛役也東隣者今屋伝助借屋西隣ハ中津屋伊右衛門借屋ニ而右之家屋敷去寅ノ正月質物書入下紺屋町原田屋馬七取次ニ而銀札五百目借用仕候処此度元利返并いたし右家屋敷請返シ候旨庄右衛門断書差出シ承届ル

一右同町右之家屋敷質物ニ書入銀札五百目來ル十一月迄巻ヶ月巻歩六米つゝ、ニノ町内津嶋屋三右衛門取次ニ而借用仕度旨右桔梗屋庄右衛門願承届ル同廿八日本証文出ス

一明廿二日四つ時前御供揃ニ而司馬五郎様ニ宮辺江。夫より院庄江御遠乘ニ被為入御道筋京橋御門より京町夫より本町通二ノ宮江御出被成候旨小嶋右内より申來候付大年寄江申遣候

一同心組中山伝内養子ニ久世出雲守殿御領分西々条郡河本村庄屋新

助悴伝次と申者当卯式拾才ニ罷成内縁有之候付右伝次義伝内養子ニ仕度旨伝内願小頭左五兵衛を以差出シ願之通承届ル

三月廿二日 晴

一玉津屋茂八と申者烏散なる故大笹村ニ而昨晚方村番之者召補候旨則非人小屋ニ補置候由同心中山伝内より註進申出小頭よりも右之段申出候付御用番惣右衛門殿江罷越御届申上大御目付鈴木此右衛門江も罷越相届吟味中入牢申付置旨及御沙汰非人小屋江同心中山伝内石名左助兩人差遣シ目明シ非人頭非人四人差添召連罷越一通り於役所見届候上入牢申付右同心兩人差添牢屋江差遣シ候右取計相濟候而御用番惣右衛門殿大御目付鈴木此右衛門江手紙ニ而御届申達候事

三月廿三日 晴 御用日御出席

一西今町中横町中屋定次郎家屋敷表口四間裏行九間但シ三步三厘役也北隣ハ桧物屋八郎兵衛南隣ハ岩井屋清八ニ而右之家屋敷代銀札三百目ニ相極メ町内高松屋太助江壳渡シ申度旨定次郎願承届ル同廿八日本証文出ス

一福渡町南側ニ而久米屋治兵衛家屋敷表口式間半裏行拾七間御役半役也西隣ハ込屋仁兵衛東隣ハ沢田屋文三郎ニ而右之家屋敷銀札式百拾匁ニ相極メ同町福本屋藤七江壳渡申度旨治兵衛願承届ル同廿七日本証文出ス

一吹屋町年寄釜屋市郎右衛門義伊勢參宮仕度往来三十日計之逗留ニ而罷掃度旨市郎右衛願承届ル

一新魚町平田屋安右衛門平田屋幸助わら屋茂八いんへ屋文三郎右四

人四国江參詣仕度旨往来七拾日計之逗留ニ而罷掃度旨一緒ニ願出承届ル

一今日於御次御用番惣右衛門殿より左之通被仰渡則小頭大年寄立合セ宅江呼出シ申渡之右取計相濟御用番惣右衛門殿大目附所鈴木此右衛門江手紙ニ而御届申候事

今津屋孫十郎跡

舟頭町熊野屋

御藏元申付候

伝兵衛

一右伝兵衛江御藏元申付御舟奉行中江も通用手紙遣候

一牢舎人源右衛門義不相勝候由申出候付去ル七日服薬致させ候旨及御沙汰置然ル処快氣致候段申出候付服薬引取らせ候旨今日御用所江及御沙汰大目付中江も申達置候事

一牢内詮義場へい笠かへ痛所有之由牢番。大谷栄藏より書付差出シ今日大目付所江右書付差出シ御作事役人中見分之義被仰付度旨申立置候事

一備中ノ国久保屋郡林村生国之由宇兵衛と申者拾年已前当所江罷出若松屋徳次郎方ニ奉公いたし其後美濃職人町原田屋借家ニ居候而夫より去る月より宗永寺借屋ニ居申候処当月上旬」」より久世

高田江罷越今朝当所江罷出候由」」今日右宇兵衛義烏散成者之由大沢三平組之上紺屋町ニ而召補候由三平より当役所江可被引渡通用有之候付同心組中山市左衛門福田甚蔵兩人三平方江差遣シ則宇兵衛義召連罷越候付一通り於役所見届候上牢番預ケニ申付右同心兩人差添牢屋江差遣候右取計相濟此段御用番中大目付鈴木此右衛門江手紙ニ而御届申候事

三月廿四日 晴

三月廿五日 曇夜中雨

三月廿六日 晴

一三町目浜野屋善十郎内縁之者備前和氣郡和氣村秋山嘉吉と申者見廻ニ罷越候付廿日計逗留為仕度旨善十郎願承届ル

一出生播州明石在分之者之由ヲウゲン仁左と申者外人外ニ野介代村人別之者夫左衛門と申者之養子伊助と申者右兩人大沢三平組之者

今日召補候由兩人被引渡右仁左義林田村ニ而召補林田村ニ預ケ置候旨三平組之者罷越申聞則同心組中山伝内石名左助兩人指遣シ召

連

■罷越野介代村右伊助義ハ三平組之者直ニ召連罷越仁左義ハ則右同心兩人差添半番預ケニ申付候伊助義ハ一通吟味之上疑敷義も無之趣ニ付村預ケニ申付置候右取計候趣御用番惣右衛門殿大御目付鈴木此右衛門江罷越御届申上置候事

三月廿七日 晴

三月廿八日 晴 御用日御出席

一田辺村土居喜兵衛伯父儀三郎義十二年已前川口藤十郎養子ニ引請候処家風ニ相叶不申候付双方得心之上離縁いたし右喜兵衛方江指返シ度旨去寅十月断書差出シ其後郡代所之方届も無之ニ付承合候処郡代所之方ハ一通り地方目付共江届出候趣ニ付今日右藤十郎断書承届ル

一二階町西木屋庄八所持之地国請酒株当卯三月より来ル午三月迄四ヶ年之間式町目二葉屋伊助方江借請申度旨借り主伊助借シ主庄八

連印願承届ル

一小性町東側ニ而京町吉田屋喜八郎屋敷表口四間裏行拾五間但シ御役七步役也北者横町南隣ハ作人喜八ニ而右之家屋敷代銀札七百目ニ相極メ福渡町伊予屋文兵衛江売渡申度旨吉田屋喜八郎願出承届ル四月三日本証文出ス

一因州出生者之由四年已前罷出候由徳兵衛と申烏散成者昨廿七日□□村ニ而穢多召補候旨今朝申出候付御用番惣右衛門殿大目付中江及御沙汰今日七つ時過呼出シ一通り見届候上例之通同心組兩人藤森権六神田権兵衛差添牢屋江差遣シ半番預ケニ申付候右取計相濟御用番惣右衛門殿大御目付鈴木此右衛門江手紙ニ而御届申候事

三月廿九日 晴

一西新町米屋彦太郎娘たけ二十三才此度香々美沢田村善四郎倅勘四郎妻ニ貫候ニ付善四郎養女ニ遣度旨彦太郎願向役所引合候而承届ル

四月 御用番 伊達与兵衛殿

大目付月番井上弥三兵衛

大年寄

藏合孫左衛門

朔日 雨

一茂渡市右衛門義用事有之候付備前岡山中嶋射越屋新右衛門方江罷越度往來十日計之逗留ニ而罷歸り度旨市右衛門願御用番与兵衛殿江罷越及御沙汰大御目付井上弥三兵衛江も申達承届ル

四月二日 晴

一撰州大坂南本町三丁目小ほうし利兵衛伴伊助と申者老人例年之通墨筆売ニ参候由中ノ町福茂屋武助宿切手差出候

一安岡町材木屋庄右衛門義去ル十六日商売鉢にて其日帰りニ罷出候処罷帰りに申候付親類共并組合よりも方ニ相尋候得とも以今行衛相知レ不申候旨組合之者より断書差出シ候付定法之尋申付置候

四月三日 晴 御用日御出席

一今日左之通廻状出候

御家中武芸学文可相励旨兼而被仰出候処近来別而学文不心懸相聞候付当又御発駕前思召之趣被仰出候依之已後年若之面々者勿論老歳たり共随分心懸講釈場出席可有之候尤銘々申合会谈等相催不施勸学候様可被相心得候此段同役同列支配方江も可被相違候以上

四月三日

大目付

四月四日 曇時雨

一近来異風成紙鳶拵候もの有之候由右ニ付町方江触流シ取計候様大御目付并上弥三兵衛が昨日被申渡則今日左之通町方江相触候様ニ大年寄江申渡候

近来異風成紙鳶拵候もの有之由無ニノ事ニ手間入レ入用等有之候而ハ不宣事ニ候「右等之細工ニハ不限無益成事存付」者相知レ候ハ、急度可申付候兼而申渡候通銘々請前之義出情可致事候

四月四日

一二階町白銀屋庄助借屋「居候吉右衛門と申者此「千ヶ寺江」度旨来ル」日罷立往来百五拾日計之逗留ニ罷帰度旨吉右衛門願承届ル

四月五日 晴

一大熊勘解由殿今朝江戸表江被致出立候

一今日九つ半時御供揃ニ而司馬五郎様ニ迄本町筋御出被遊候旨稻垣茂士より申来候「大年寄江申遣候事

一江州神崎郡新堂村嶋屋新平と申者老人例年之通きせる墨筆売ニ参候由境町西川屋善助宿切手出ス

四月六日 晴

一伏見町倉敷屋左兵衛伴孫三郎義此度「近江屋市右衛門方が伯州倉吉呉服商イニ参呉候様被頼内縁も有之候付差遣申度尤益前迄逗留為仕度旨左兵衛願承届ル

一西新町小谷屋利右衛門義此度林田村上ノ町庄右衛門借屋江引越申度ニ付人別除利右衛門願差出「所引合候上承届ル

一撰州さかい筆屋武兵衛手代藤五郎と申もの老人例年之通墨筆売ニ参候由中ノ町福茂屋武助宿切手出ス

一播州網干「菊屋弥七郎同手代善蔵茂八上下三人例年之通小間物おろし売ニ参候由勝間田町吉田屋「兵衛宿切手」

四月七日 曇

一京都呉服「金屋太右衛門手代助七と申もの御当所御用ニ付罷越候付元魚町かゞミ屋友「方ニ逗留仕度由ニ付宿得度旨かゞミ屋友」願差出シ承届ル

四月八日 曇夜中雨

一西今町年寄坪屋勘助義病身罷成役義「相勤り旨役免願差出シ承届ル尤倅義是迄見習勤助代り年寄相勤候由ニ付跡役右倅江申付候

四月九日 晴 御用日御出席

一鍛冶場前土橋春土用ニ引取申候等之処当年「渡り場所近来悪敷罷成候付作人共「難儀候由依之「土橋麦作取揚旁勝手ニ付当月中差置呉候様京町船頭小姓町河原町右町内。役人組合共願書差出し今日御用番与兵衛殿へ及御沙汰候処御聞届相濟尤大目付中へも申達則当月中程土橋差置候様願之通大年寄へ申渡候

一「村穢多四郎兵衛湯原奥ニ而召捕へ盜賊幸「牢番預ケニ

可申付旨今日御用所へ及御沙汰大目付中へ「七ツ半時例之通同心中山伝内石名佐助右兩人差「牢屋江差遣し右取計相濟御用番与兵衛殿大御目付井上弥三兵衛へ手紙ニ而御届申候事

一奈良入角町墨屋伊兵衛手代「助と申者老人例年之通墨売ニ參候由京町加茂屋和六宿切手出し「

四月十日 晴

四月十一日 晴

一錢相場老奴ニ七拾三文通用立替り旨「日相届出候

一町作庄屋松田屋孫市郎義願ニ付役免「跡役櫻野屋助右衛門江申付候之旨御代官福田嘉兵衛より通用手紙来り承置候

一西今町備前屋太助家屋敷南側表口三間裏行拾式間但シ土手切半役也右家屋敷六年已前戌ノ三月質物書入銀札式百目同町大田屋十助取次ニ而借用仕候処此度元利相濟請返シ候旨太助断書出し承届ル

一右同町右備前屋太助家屋敷南側表口「間裏行拾式間但シ土手切半役也東隣ハ悉ひす屋千右衛門西隣ハ山田屋文六ニ而右家屋敷代銀札式百五拾目ニ相極メ同町大田屋十助江売渡申度旨太助願承届ル同十四日日本証文出ス

四月十二日 曇

一大橋十大夫殿今日江戸表江被致出立候

一米相場書差出シ候御蔵米五拾八匁五分町米五拾三匁五分

一伯州米子岩倉町藤本院弟子教覚と申山伏一昨十日大沢三平組鳥散成もの之由召捕候由然ル「非人參合候付右山伏義八非人江相渡

小屋ニ而吟「致させ可然旨三平被達候而右之趣申合候則十日夜直

ニ当番同心組三船孫八三平宅江差遣シ則非人江相渡シ昨日小屋ニ而吟味致させ候処何之疑敷義も無之趣ニ付当又三平江及対談候上小「より直ニ追払ハセ候此趣御席御座候付御用番中江御咄申上置大目付中江も及噂置候

一伯州あひミ郡小松谷もろ木村大工磯右衛門子「同国日野郡印と申者

嘉村一条山聖音寺ニ而九才之時登り拾七才迄罷在同州本寺と申

ニ弟子「成名如拙と申拾八才之由其後所々うろたへ居候処当月本行寺江罷越二月迄罷在二月廿日より長安寺江罷越居候由右如拙

義去ル十日夕長安寺ニて盗いたし其夜勝間田迄出居候由原田屋理助手筋を以尋出シ右盜取候ものハ不残「戻シ候得共右「直ニ

追払可申哉勝間田を連掃り可申哉之旨内分相聞候付先つ原田屋方迄つれ帰り外ニ疑敷義も無之哉理助方ニ而遂吟味候様ニ申付長安寺之方者承度ニ付寺社取次松嶋十学江及対談則十学より長安寺呼

出シ様子相聞候由外ニ疑敷義無之趣十学より通用有之原田屋理助
右如拙吟味致候書付付シ双方承合セ外ニ何之疑敷義も無之ニ付
今日御用番中大目付中及御沙汰候而原田屋方右如拙義直ニ追払
ハセ候事

長安寺ニ而盜取候物

奉納腰物巻腰 大小 番脇差巻腰 麻ころも巻つ 布子巻つ

袷巻つ 鼠色単物巻つ 又同巻つ 白単物巻つ 帶式筋 折敷巻

つ 風呂敷巻つ

拾四色

四月十三日 晴

一美濃職人町奥屋清右衛門養子ニ因州鳥取豆腐町奥屋善六伴五左衛
門と申者当卯廿七才右五左衛門ニ引取度旨清右衛門願出承届ル

一新職人町高角屋八十吉養子ニ播州小笠原信濃守殿御領分佐用郡大
垣内村与平次伴音八と申者当卯拾三才親類ニ而も御座候付右音八
養子ニ引請度旨八十吉願出承届ル

一新魚町平田屋安右衛門去ル二月町内年寄役免願承届ケ跡役無之候
而も兩人ニ而可相濟哉之旨其節申出候処ひめしヤ伝藏御藏元相勤
時ニ寄御問合申間敷旨此間大年寄申出右跡役同町魚待屋太郎右衛
門江申付可然旨吟味之上申出候付則右太郎右衛門江今日町内年寄
役。大年寄江申渡候

申付候。

一玉置忠兵衛義病氣段々快方ニ而夜前罷帰候旨同役孫左衛門より届
出候付御用番与兵衛殿大御目附井上弥三兵衛江手紙ニ而此段御届

申候事

四月十四日 曇 御用日御出席

一來ル廿七日於一ノ宮万人講有之其節町奉行代りハ御勘定奉行彦人
被致出役候様ニ今日被仰渡候郡代ニ而新五兵衛罷出候様ニと大目
付中。多橋新五兵衛被申渡候

一ノ宮万人講有之候当日ハ町方自身番申付候而可然旨今日大目付
中ハ被申聞候付此段大年寄江申渡置候事

一当月例之通万人講被仰付候ハ、一ノ宮市町井ニ万人講之節披露
建札等取計ハセ候様可仕哉之旨今日御用所江御伺申上候処兩度万
人講相定り居申候故例之通右之趣取計候様被仰渡則講元江申付候
様ニ大年寄江申渡候

四月十五日 雨

一昨十四日林田中ノ町平岡屋横小路ニ而非人兩人鳥散成躰ニ相見え
候由大沢三平組見届直ニ非人小屋江相渡シ非人共遂吟味候様ニ申
付候旨夜前三平より通用有之則小屋之者致吟味候疑敷義も無之
旨名面左之通之者野伏兩人人口書今日大沢三平被致持参及対談候上
疑敷義も無之趣ニ付則小屋之者右直ニ追払ハセ候様大年寄江申遣
候小屋払之事故いつ方江も届ニハ不及三平申合取計申付候事

勢州竹の郡宰符村之者之由 野伏小松と申者

因州鳥取之者之由 同 仁三郎と申者

野伏兩人共ニ小屋払ニ致させ候事

四月十六日 晴

一例之通一ノ宮市町御触書到来則同心并牢番三軒屋番人迄申渡候様
小頭左五兵衛江御触書之趣申渡候右御触書出候付例年之通惣町江

之触書大年寄江相渡候事

一右御触書之末ニ半切ニ而左之通御触書出候付是又同心組牢番三軒屋江も相触候様ニ左五兵衛江申渡候

来ル廿七日於一ノ宮河原万人講有之候下々□至迄右之場所江

参候義勿論御停止之事候

一加茂川殺生御留場之義今年ハ屏風岩より御水場迄建札之間帖

殺生致間敷此段可被相心得候

右之趣同役并支配方江も可被相達候以上

四月十六日

大目付

一例年之通竹の子之触書先格文段之通認させ今日大年寄江相渡候

一いせ屋長右衛門倅文次義用事有之大坂会所町松屋甚兵衛方江罷越申度往来三十日計之逗留ニ而差遣度旨長右衛門願承届ル

一西新町藤原屋武八義式拾四才此度大橋十大夫殿江出入奉公罷出申度旨則松尾武八と相改相勸申度由町内人別除右武八願承届ル

一伏見町北側ニ而大工才八家屋敷表口五間裏行拾三間但シ御堀切御役本役也西隣ハ関屋藤助東隣ハ辻屋市郎兵衛ニ而右家屋敷町内大

工屋利助取次ニ而質物ニ書入銀札四百五拾目借用仕度旨才八願承届ル同廿日日本証文出ス

一西新町藤原屋武八家屋敷北側ニ而表口四間半裏行拾七間但シ大溝切半役也東隣ハ桶屋助右衛門西隣ハ升屋嘉平次ニ而右家屋敷代銀

札式百目ニ相極メ町内升屋惣兵衛江壳渡申度旨武八願承届ル同廿日日本証文出ス

一今日左之通廻状出先格之通町医其外夫々江しらせ候様可取計旨大

年寄江申遣候

江戸表ハ飛脚到来殿様道中益御機嫌能去ル七日未之刻御着被

遊候旨申来恐悦之御事候右為御□明後十八日辰之中刻ハ巳之

中刻迄之内登城可有之此旨同役并支配方江も可被相達候以上

四月十六日 大目付

四月十七日 曇

一今日御着府御歛之御帳付候

一御勘定奉行清水多橋今日出坂被仰付候

一鍛冶場前土橋之義先年ハ広瀬鍛冶場両方共ニ御手前懸ニ被仰付候

四月十八日 晴 御用日御出席

一今日御着府御歛之御帳付候

一御勘定奉行清水多橋今日出坂被仰付候

一鍛冶場前土橋之義先年ハ広瀬鍛冶場両方共ニ御手前懸ニ被仰付候

四月十八日 晴 御用日御出席

一今日御着府御歛之御帳付候

一御勘定奉行清水多橋今日出坂被仰付候

一鍛冶場前土橋之義先年ハ広瀬鍛冶場両方共ニ御手前懸ニ被仰付候

一 大年寄藏合孫左衛門妻儀三十日計り之^留ニ而備前岡山西中島和田屋八右衛門方へ差遣度旨尤船ニ而差遣候由小桁木知ヶ原兩番処裏印之義同役忠兵衛ヲ以テ孫左衛門願書差出シ承届ケ則兩番処裏印取計遣し候

一 京都烏丸通六角下ル町ニ文字屋九兵衛手代新兵衛金十郎基六右三人例年之通呉服物売ニ参候由京町海老屋長右衛門宿切手出ス

四月十九日 晴

四月廿日 晴

一 小性町田戸屋宗十郎義宿屋致候処近来ハ客少ク渡世及難義依之太坂内本町式早目小松屋惣兵衛と申もの衣類古手物おろし売仕候ニ付御当地江出入為仕度旨健成者ニ付宿仕度由宗十郎願出外故障之義無之哉之旨大年寄へ承糺候処故障ニ相成候筋無之趣申出候ニ付承届ル尤外故障之義出来候ハ、差戻シ候様ニ可申付旨大年寄孫左衛門江申渡置候

一 境町西川屋善助方江信州筑摩郡木曾福嶋之宿品川屋理右衛門と申もの塗物おろし売仕候付右同様御当地江出入為仕度旨健成者ニ付

宿仕度旨善助願出右同様承届ル

四月廿一日 晴

四月廿二日 晴

一 新職人町年寄孫三郎義近来病身ニ「役義難相勤り旨役免願去ル廿日差出シ則今日役免承届ル跡役悴」吉願出候付右「江申付候段大年寄江申渡候

一 ノ宮市町ニ付土手之者共七八人罷越^致万歳神主より相頼候付世話仕度旨河原町山形屋新太断書差出シ承届ケ一札申付則差出シ候一 備前岡山小畑町鼠屋甚八と申者壹人例年之通元結おろし売ニ参候由二階町境屋伊右衛門宿切手「ス

一 米相場書差出候御藏米五拾七匁五分町米五拾四匁五分

四月廿三日 晴 御用日御出席

一 ノ宮市町ニ付土手之者共七八人罷越致万歳候付神主より被相頼世話仕度旨勝間田町山岡屋市右衛門断書差出シ承届ケ一札申付則差出シ候

一 右市町ニ付参り懸り之かるわさ七八人連ニ而参神主より相頼候付世話仕度旨福渡町今出屋長右衛門断書差出シ承届ケ一札申付則差出シ候

一 右市町ニ付参り懸り之法定芝居拾人連ニ而参神主被相頼世話仕度旨新職人町平助と申者断書差出シ承届ケ一札申付則差出シ候

一 右市町ニ付参り懸り之馬芝居五人連ニ而参神主被相頼候付世話仕度旨茅町平右衛門と申者断書差出シ承届ケ一札申付則差出シ候

一 来ル廿七日万人講有之候付同心組加人五人被仰付被下候様ニ大目付中江申達候

一 米相場書差出シ候御藏米五拾五匁町米五「式匁

四月廿四日 晴

一 御勘定奉行清水多橋今朝出坂有之候事

一 ノ宮田植祭ニ付今日より例年通同心兩人ツ、日々指出シ候事

一 大坂北浜大川町銭屋七郎右衛門手代佐兵衛と申者壹人例年之通小

問物屋江懸銀札取ニ參候由小性町ひち屋兵藏宿切手出シ候

一今日左之通廻状出先格之通町医其外夫々江為相知候様ニ可取計旨
大年寄江申遣候

從江戸表飛脚到來殿様益御機嫌能被成御座去ル十五日御參勤
之御礼首尾好被仰上候段申來恐悅之御事候右為御歎御帳付候
間明廿五日辰ノ中刻より巳ノ中刻迄之内登城可有之候此旨同
役同列組合支配方江も可被相達候以上

四月廿四日

大目付

四月廿五日 晴 御出席有之

一御參勤之御礼被仰上候御歎之御帳付

一宮万人講場所見分今日郡代所下代申合小頭左五兵衛差遣シ候
事

一東新町美和屋文助義当月十九日朝不計罷出相見え不申ニ付組合之
者申合方々相尋候得とも行衛相知レ不申段組合之者ノ註進書出
シ定法之尋申付候事

一式町目北側ニ而錢屋伝七家屋敷表口三間裏行拾七間御役半役也東
隣ハ松屋治左衛門西隣ハ福永屋藤助ニ而右家屋敷代銀札三百五拾
目ニ相極メ三町目浜本屋喜助江渡渡シ申度旨錢屋伝七祖母願出シ
承届ル五月四日本証文出ス

四月廿六日 晴

一錢相場老奴ニ七十四文立替候旨今日申出候事

一備前津高郡竹部中田村片山千吉と申者子之由文次郎と申者野郎十
三才之由昨夜一ノ宮村ニ而□□□□之者初藏幸藏と申者并目明十

右衛門右三人之者共右文次郎投火手懸之者ニ付召捕罷歸小屋之者
共昨夜致吟味候処□□村穢多弁藏と申者先達而投火致候由右野
郎訴人いたし右候付昨夜中心組中山伝内神田權兵衛石名左助并

目明十右衛門小屋之者三四人差遣し□□村ニ而弁藏召捕今日四つ
過時罷歸則右野郎儀呼出シ致吟味候上穢多弁藏小頭左五兵衛其外
同心目明立合致吟味候処白状ニ及兼右之趣御用番与兵衛殿へ罷越
及御沙汰大御目付井上弥三兵衛へも申達右弁藏儀先入牢申付候様
可仕旨御両所へ相届則同心中山伝内石名佐助并目明非人共差添牢
屋へ差遣し候右取計相濟御用番与兵衛殿大目付井上弥三兵衛へ手
紙ニ而御届申候事

一右野郎文次郎義ハ当分□□□□江預ケ置非人共当文致吟味候様申
付置候

四月廿七日 晴

一播州今市綿屋嘉市郎手代忠七武兵衛と申者式人例年之通呉服物并
帷子売ニ參候由二階町境屋伊右衛門宿切手出候

一江州神崎郡新堂村布屋長兵衛と申者老人例年之通きせる小間物お
ろし売ニ參候由右境屋伊右衛門ノ宿切手出候

一今日一ノ宮村於河原万人講有之町奉行代り御勘定奉行山岡与左衛
門。出役郡代ニ而新五兵衛致出役小頭同心例之通罷出候大年寄玉
置忠兵衛書役土井左六罷出候七つ半時過無滯相濟御用番与兵衛殿
江罷越御届申候事大御目付井上弥三兵衛江手紙ニ而相届候

寄札高式千八拾九枚

此銀札拾貫四百四拾五枚

三歩銀札三貫百三拾三匁五分

一右万人講取計方万事覗河原之通夫々江申付候

四月廿八日 晴 御用日御出席

一大坂北久太郎町丸尾屋藤兵衛手代宇兵衛と申者老人例年之通大工道具売ニ参候由京町海老屋長右衛門宿切手出シ候

一昨日一ノ宮村於河原万人講寄札高之義今日御用番与兵衛殿江及御沙汰大目付中江も申達候事

一今日万人講上り札渡シニ地方目付中嶋定八宅へ小頭左五兵衛同心兩人郡代所_{下代}老人例之通差出シ候

一今日八ツ半時より司馬五郎様二ノ宮江御遠乗被為入候旨宇津木弥右衛門の申来御遠乗二ノ宮江御出被成候ニハ京橋御門より本町通御出被成候由此段則大年寄江申遣候事

四月廿九日 晴

一信州筑摩郡木曾福嶋之宿品川屋理右衛門と申者上下式人塗物おろし売ニ此度初_願「候由境町西川屋善助宿切手出シ候尤去ル廿日右之者宿致候段。承届置候

四月晦日 雨

一阿州徳嶋新町三原屋平吉と申者足袋おろし売ニ前々々参候而堺町小鳥屋治郎右衛門方ニ宿致候処平吉義不勝手罷成商ニも得参不申右平吉甥防州岩国くか町綿屋嘉兵衛と申者ち々帷子売ニ平吉代りニ差越度旨境町小鳥屋治郎右衛門願承届ル

一來ル五月より司馬五郎様御社参并御仏詣五ツ時之御供揃ニ而御出被成候之旨宇津木弥右衛門より通用手紙来候付御仏詣御道筋右之

通心得相心得居候様可申付旨大年寄孫左衛門江申渡置候

五月

御用番 山田衛守殿

大目付月番 永井甚大夫

大年寄

玉置忠兵衛

朔日 晴

五月二日 晴

一來ル四日一ノ宮市町引払ニ付例年之通町方江之触書今日大年寄朝_マ忠兵衛江相渡候事

一御殿中間忠助と申者馬方町ニ借宅いたし罷在右忠助中ヶ間之者今助と申者病氣ニ而心安致候付引請世話いたし遣シ罷在候処今朝忠助家内留守之内右今助義裸切いたし尤相果ハ不致由右之趣大年寄忠兵衛より申出候付一通り御用番衛守殿并大目付永井甚大夫江手紙ニ而御届_願候事

五月三日 晴 御用日御出席

一錢通用今日の七拾三文ニ立替り候旨大年寄の申出候事

一尾州知多郡_願崎之内寺本村陰陽師高橋伊豆と申者上下式人例年之通旦那廻りニ参候由小性町ひぢや兵藏宿切手出シ候

一來ル廿日出羽守様御城下御通行院庄御茶屋御休ニ付其節例之通致出役万端先格之通可取計旨今日大御目付井上弥三兵衛の被申渡候事町奉行代り御勘定奉行山岡与左衛門被致出役候様右同様大目付中の被申渡候

一 去月廿九日一ノ宮市町江同心組中山伝内石名佐助右兩人致出役候
処ニ階町鳥屋佐助小屋ニ而物さわかしき様子見届候付鎮候様目明
十右衛門ヲ以テ申付候処同心共申付ヲ用意候様子ニ而間も無く小
屋懸ケ相仕廻罷帰候趣ヲ申聞為相嗜申へき旨挨拶等も致候ハ、市
町之儀其分ニ致置可申と兩人とも心得罷在候得共右挨拶も致不申
役人江たてあい候趣ニ而筵等切落し罷帰候由其上又々翌日ハ右小
屋へ罷出候由右掛り合有之候へハ在宿も可致所断なく罷越右等之
趣佐助儀甚心得違之段右同心兩人ハ此間申出候付大年寄玉置忠兵
衛ハ致吟味候様ニ申付候処鳥屋佐助「書付ヲ以テ申出候趣甚心
得違之儀故其分ニ難捨置勿論目明十右衛門ハ申聞候趣をも小頭左
五兵衛方ハ為致吟味候処右十右衛門儀も入念候得共右佐助義不得
心之趣ニ相聞旁以對シ役所へ不_レ_レ之義ニも相成候付右之次第今
日御用番衛守殿江及御沙汰大目付中へ」「達鳥屋佐介義呵追込可
申付旨御窺申上候処吟味次第其通可取計旨被仰渡候付尚又大目付
中へも此段申達則今日八ツ半時大年寄忠兵衛呼出し鳥屋佐助義去
ル廿九日市町におゐて役人申付ヲ不相用役所江對シ不敬之義甚心
得違不届ニ付急度可申付候得とも以憐_レ怒_レ一通り呵追込申付候段
忠兵衛於宅可申渡旨則忠兵衛へ申渡之右取計相済御用番衛守殿大
御目付永井甚大夫へ手紙ニ而御届ケ申候事

一 先達而召捕候投火手懸候文次郎と申野郎□□□□江預置候処来ル
六日呼出シ一通り致吟味并入牢申付置候□□村ニ罷在候穢多弁藏
母妻子共右同日呼出シ是又致吟味候上右之者共先ツ入牢可申付旨
今日御用番衛守殿へ及御沙汰大目付中へも此段申達置候事

一 来ル廿日出羽守様御城下御通行ニ付御城下ニ而若御休ニも可相成
哉ニ付玉置忠兵衛方兼而用意致置候様今日忠兵衛へ申付置候事并
御使者宿之儀も相定置申出候様是又申付候

一 鍛冶場前土橋来ル六日取崩シ候様御勘定所ハ御役人へ被申付候旨
依之六日ハ舟渡シニ申付取計候様今日御勘定奉行山岡与左衛門ハ
通用有之則大年寄忠兵衛江此段申遣候事

一 小須賀一学殿下村友右衛門殿御兩人江戸表ハ立帰ニ今日被致着候
事

五月四日 曇屋後又々晴

一 一ノ宮市町無滞相済今日限引払候由同心共見届罷帰候尤いつ方江
も不相届町奉行所先格ニ候へとも当時新五兵衛而役引請相勤郡代
所よりハ相届候付同心共日々差出シ候段書加え御両所江相届候事

一 明五日九ツ半時御供揃ニ而司馬五郎様川部辺江御遠乗ニ御出被成
候旨御道筋京橋御門より宮川大橋本町通り御出被成候由小嶋右内
ハ申来候付御道筋先格之通取計候様大年寄忠兵衛江申遣候

五月五日 晴

五月六日 小雨

一 越中富山板屋理兵衛役介人善次郎嘉兵衛「兩人罷越例年之通
当十月迄京町」方ニ召抱置壳葉仕らせ度旨菊屋清右衛
門願承届ル

一 越中富山船橋町松井屋源兵衛手代嘉七と申者上下式人例年之通反
魂丹壳ニ参候由京町加茂屋和六宿切手出シ候

一 今日□□村并藏母妻子呼出シ一通り致吟味右吟味別ニ先達而召捕

非人小屋江預ケ置候野郎文次郎呼出シ同様致吟味候後弁藏役介致吟味右何茂入牢申付置候吟味之節立合小頭左五兵衛部屋目付川端又六。同心組神田權兵衛石名左助右兩人牢屋江差添遣候尤目明シ十右衛門非人頭も差出シ候弁藏母義ハ郷中人別之者故地方目付村役人勿論下代立合□是ハ郡代所取計ニ致候右吟味後右同心兩人差添野郎文次郎入牢又後ニ弁藏母并妻子家内五人一緒ニ入牢申付右同心兩人差添目明シ夫々差添遣候右取計入牢申付候段御用番衛守殿大御目付永井甚大夫江手紙ニ而御届申候事

一 鍛冶場前土橋今日引取被申付候由此間御勘定奉行山岡与左衛門より通用有之則今日夕舟渡シ申付候段御用番衛守殿大御目付永井甚大夫江手紙ニ而御届申候事

五月七日 晴夕立

一出羽守様御通りニ付。御道下見分例之通差出シ則小頭左五兵衛。今日差出シ候事。町分。大年寄人。

五月八日 雨

一去ル廿七日一ノ宮ニおゐて万人講有之其節之成り上り札当町ニ而相渡候様此間申付右残り札三町目浜本屋嘉助宅江則今日同心小頭郡代所下代々人例之通差出シ取ニ出候分相渡させ候事

一下紺屋町中谷屋喜兵衛借屋ニ居候茂兵衛と申者妹しゅん三拾五才右同人倅幸吉七才右母子此度日上村伝三郎妻子ニ遣度旨喜兵衛願兩役所引合セ候上承届ル

五月九日 曇 御用日御出席

一二階町鳥屋左助義去ル三日追込申付置候処取早七日ニ相成候付今

日追込差免可申哉之旨御用所江御伺申上候処差免候様取計可申旨被仰渡則大目付中江も此段申達今日追込差免候段可申渡旨大年寄忠兵衛江申渡候右取計相濟御用番衛守殿大御目付永井甚大夫江手紙ニ而御届申候事

一 近来投火沙汰相止世上静謐相成候付先達而申付置候御家中并町方非人加廻りもはや引取らせ可申哉之旨大目付中江及相談候上御用所江及御沙汰候処取早引取らせ可然旨被仰渡候付此段大年寄江申渡候尤町内申合夜廻り并町々関貫置候義ハ是迄之通やはり其俣申付置候

一去ル六日野郎文次郎弁藏母妻子呼出シ致吟味候趣今日御用所江及御沙汰文次郎口書差出シ置候勿論大目付中江も申達文次郎口書差出シ其後御用所江差出シ置候

五月十日 晴

一 銭相場今日七拾文通用相成候旨大年寄□

一 銭相場今日六拾八文遣ひニ相成候旨大年寄申出候

五月十二日 晴

一 銭相場今日七拾文遣ひニ相成候旨大年寄申出候

一 上紺屋町年寄熊屋源左衛門義近来致足痛弥不相勝候付役免願此間差出シ承届ル跡役之義倅清助義四年已前より名代乍当分相勤来候由ニ付則倅清助江跡役申付候様大年寄忠兵衛江申渡候事

一 町方繼馬式拾五疋之内ニ而在分江賃荷物付出シ相對ニ而賃取馬往來致させ候事ハ兼而不相成趣ニ相極り居候由ニ付弥右之通相守り

。候様ニ馬指共江申付置候様ニと今日大年寄忠兵衛江申渡置候事
右之趣又々此後大年寄忠兵衛罷出馬持共難儀及候由内々ニ而ハ在
分荷物ニ付ケ候様相極り候

一出雲国松江御領神門郡知野宮村權八娘とよと申者病氣ニ付播州姫
路領手野村より去ル九日送り出シ御領分江送り來候由今朝川部村
より申出候付町分江來り候ハ、無滞町分送り出シ候様ニ大年寄江
申渡置候事

右病人送り遣シ候様ニ申付候処林田村迄送り參病人快方ニ付林田
村ハ步行仕度旨相願候由付則書付取候而歩行致させ候様取計候旨
申出候間送り遣シ候義御届ニ不及相濟候事

一今日大般若御祈禱例之通無滞相「先例之通御札三枚相廻り候
并同心組江頂戴為仕候分例之通小勤者中江相頼貫イ遣候事

五月十三日 雨

五月十四日 晴 御用日御出席

一二階町茂渡市右衛門裏御堀端屏覆損シ申候ニ付取繕申度御堀江足
代おろし申度旨市右衛門願出シ今日御用所江及御沙汰大目付中江
も申達承届ル

一明十五日明々後十七日両日町在御道見分先格之通罷出可申之段御
用所江及御沙汰大目付中江も申達人馬之義申達候

一錢通用七拾式文ニ今日立替候旨大年寄申出候

一明十五日八つ半時御供揃ニ而司馬五郎様二宮江御遠乗ニ被為入御
道筋例之通京橋御門ハ本町通御出被成候旨稲垣茂士より申來則大
年寄江申遣候

一渡部惣右衛門殿大坂御用今日被蒙仰候由

一出羽守様近々御通行之御視渡し舟兼田川江相廻シ視渡し場江ハ高
瀬舟申付差出シ候様ニと大御目付弥三兵衛より今日被申聞候付此
段大年寄江申遣御藏元江申付候様ニ取計ハセ候事馬船御續「

一明後十六日於牢屋先達而召捕候者共不殘遂吟味并藏義拷問取計并
藏「も手懸り之義も有之候者共ハ右同様拷問取計可申候旨今日

御用所江御伺申上候処勝手次第吟味之上取計可申之旨被仰渡候付
則右取計之用意夫々江手配等申付置候事尤此段大目付中江も申達
置候事

一出羽守様御通行之砌人馬之義先格之通取計寄セ馬等例之通取計可
申之段御用所江及御沙汰置候事尤寄馬之義ハ郡代所取計也

一出羽守様御通行ニ付例之通町方江之触書大年寄江相渡候事

五月十五日 雨昼後晴

一今日五つ時過より西筋御道見分罷出二階町より安岡町迄見分例之
通小頭左五兵衛大年寄孫右衛門。罷出候夫より在分院庄迄見分罷
越候七ツ半時過相濟掃懸御用番衛守殿江罷越御届申大御目付永井
甚大夫江手紙ニ而相届候両役相勤候故郡代所之方も一緒ニ相届候
事

一今日左之通廻状出町方夫々江為相知候様大年寄忠兵衛江申遣尤同
心組三軒屋番人牢屋番人江も為相知候様小頭左五兵衛江申渡候

於江戸表当月廿三日御結納御祝義來月五日御入興御決定之段
申來候此段為相知候様ニ御用所御申ニ付申達候
右之趣同役并支配方江も可被相達候以上

五月十五日

大目付

五月十六日 曇

一 渡部惣右衛門殿今朝大坂表江被致出立候

一出羽守様御通行ニ付人馬之義御先触一昨夜申来則左之通昨日大年

寄へ申付候事

繼馬式拾五疋人足百五拾人

右之数申来候付人足之義大年寄江申付寄セ馬五疋是ハ郡代所取計

ニ而申付候事

一 雲州松江御領分大原郡東谷村之者左之六人伊勢參宮下向病氣ニ而

歩行難成播州揖西郡鍛冶屋村より送り出シ今晚川部村迄送り来候

由川部村より註進申出候付町分江送り来候ハ、早々送り遣候様大

年寄忠兵衛江申遣候

銀右衛門娘すき十九才佐兵衛娘すて廿才平助娘二め十八才幾右衛

門娘とら十四才庄右衛門子長四郎拾九才徳右衛門子文五郎拾八才

ノ六人尤同行拾老人有之由

一 今日四つ半時頃ハ牢屋詮義場へ罷越先格之通同心小頭左五兵衛并

部屋目付藤森権六平組中山市左衛門福田甚蔵目明十右衛門至迄立

合セ穢多弁蔵吟味之上拷問取計候上弁蔵口書為致其外入牢申付置

候盜賊之者共一ト通り致吟味右取計相濟御用番衛守殿大目付永井

甚大夫江手紙ニ而一ト通り御届申候尤右拷問水責ニいたし候書役

土居左六郷中人別之者茂致吟味候付下代日下伝平義も出役為致候

右取計夜ニ入り相濟候右弁蔵吟味之上大笹西村八十八と申者打預

ケ申付置候是ハ郡代所取計之事

一 姫路屋伝蔵ハ入江屋藤助と申者へ借物出入之義ニ付右藤助二三十

日日限ニ而筋立候様大年寄へ今日申渡外ニ新魚町作人初太郎ハ同

丁油屋権太郎へ借物出入之儀是又急々筋立候様大年寄玉置忠兵衛

へ申渡置候事

五月十七日 晴

一 昨日申出雲州松江之領分大原郡東谷村六人之道者町分無滞送り出

西在分ハ宮尾村へ無滞送り出候段郷中ハ相届出候付町在御領分無

滞送り届候旨御用番衛守殿大目付永井甚大夫へ手紙ニ而御届申候

事

一 今日五ツ半時過ハ東筋御道筋御見分罷出境町ハ在分御塚目迄罷越

例之通町分小頭左五兵衛大年寄蔵合孫左衛門罷出平組神田権兵衛

町分境迄供ニ罷出候夫ハ在分へ罷越七ツ半二迄罷帰直ニ御用番衛

守殿へ罷越御届申大目付永井甚大夫へ手紙ニ而相届候御質人馬例

之通尤若堂ハ御使組野上藤内自分雇中山伝次右兩人召連候事

五月十八日 晴 御用日御出席

一 今日左之通廻状出町分江為相知置候様大年寄忠兵衛江申渡尤同心

組三間屋番人牢番足輕中間へも為相知候様小頭左五兵衛江申渡候

事

来ル廿一日晴雲院様御一周忌ニ而於泰安寺御茶湯被仰付候右

為相知候様被仰出候

五月十八日

大目付

一 明後廿日出羽守様御通行ニ付町奉行代り山岡与左衛門出役被致右

ニ付同心組兩人差向置候処今日被申聞ナカ則兩人相廻候小頭左五兵衛

へ申渡置ク

一 当町旅籠屋肥後屋一軒并宿屋旅籠屋と申者三軒都合四軒兼而申付有之候処近年往来等懸り事ニ寄右之家数「ハ差支候儀も有之由右「境町大坂屋作次と申者当時渡世」「及難儀候由右宿屋旅籠屋右同様ニ仕候ハ、渡世之為ニも可相成旨当人も兼而申込も有之由先達而小頭大年寄共右之通内意申聞候得共当時差支之筋も有之哉是外宿屋旅籠屋障ニも可相成哉其所難斗ニ付何分遂吟味申出候様大年寄玉置忠兵衛江申達置候処此間ニ至り達而申上候趣ニ相聞依之右申達之趣并書ヲ以テ申出候様忠兵衛江申付此間右并書ヲ以テ又々申出候故左候ハ、此上外宿屋旅籠屋内々承合させ差支故障之儀も無之候ハ、可申付旨則忠兵衛へ申達置則此段大御目付中へ今日及噂候外故障も不相成」「差支之儀も有候ハ、当役筋吟味之上取計可申付旨相談之上右之通被申聞候付尚又大年寄忠兵衛呼寄入念右差支并外故障之儀得与承糺候処故障之筋も無之趣ニ付則今日大坂屋作次江境町外宿屋旅籠屋同様ニ申付候段大年寄忠兵衛へ申渡候尤定法も有之由右定法相守相動候様可申渡旨申渡候右大年寄忠兵衛并番役所へ取置則町奉行所御用たんすへ入置候事

一 東新町鍛冶屋伊三郎家屋敷北側ニ而表口老間半裏行十七間御役二歩五厘東隣ハ鍛冶屋勘四郎家西隣者種屋伊助ニ而右之家屋敷四年以前相願伯父勘右衛門の私親佐右衛門江相讓候得共去年親佐右衛門相果私幼少之身分ニ御座候へハ此度右家屋敷伯父勘右衛門へ差戻し申度旨左候へハ勘右衛門義ハ英田郡山口村へ五年切ニ出職致罷有候故此度家守五木屋源助へ諸役等相動させ申度旨右伊三郎願

差出し承届ル

一元魚町湯原屋伊「国遍路へ罷出申度由来ル廿一日罷」「往来八十日計之逗留」罷帰度旨伊助願承届ル

一 右同町市場屋市兵衛義右同様四国へ罷出右同日罷立往来日数右同様逗留ニ而罷帰度旨市兵衛願承届ル

一 右同町三介義右同様四国へ罷出右同日罷立往来日数右同様逗留ニ而罷帰度旨三助願承届ル

五月十九日 晴

一 小須賀一学殿今朝江戸表江被致出立候

五月廿日 晴

一 出羽守様夜前土居御泊ニ而今日九ツ時御城下御通行当日町奉行代勘定奉行山岡与左衛門林田町山本屋横町ニ而御目見申上立宿山本屋与三七方ニ而御通行前大番所江之注進等先格之通与左衛門取計町分御通行相濟候上御用番中へ被相届大目付中へも被相届候由大番所へ左之通御出際之由御家老格御年寄山田衛守殿御年寄伊達与兵衛殿大目付井上弥三兵衛中奥目付土岐三太左衛門御徒目付富沢金左衛門出役之由風廻り御先物頭磯野伊兵衛御道見分御徒目付高橋三天夫并下目付彦人町分御先払同心組左之通右之外同心組左之通罷出候

町分御先払同心小頭石名左五兵衛 小紋羽織着 同心組中山伝内 福田甚蔵 御注進之者 川邊六 田平左衛門

馬駅へ藤森權六 神田權兵衛 山岡与左衛門供江 中山市左衛門 石名侯助 屋敷番ニハ關三内孫八 八ッ川端又六

一新五兵衛儀ハ院之庄へ郡代ニ而罷出供之者御賃人岡田伝内 見分 中山伝治 其外人馬例之供廻り

右之通夫々罷出出役之面々同心組ニ至込先例之通被下物有之候町奉行代り山岡与左衛門へハ金貳百疋其外磯野伊兵衛へも右同様被下候由

一御使者宿齋藤孫右衛門相勤出守様御警堀内源太右衛門と申者御取次村井六之進被出候由

一在宿醫師渡部休庵三谷端針当日在宿申付置候事

一磯野伊兵衛立宿東新町ごまや源助御徒目付下目付立宿同丁かぢ屋平左衛門御先弘立宿同丁かぢ屋理八

一院之庄川辺両渡シ場へ例之通御蔵元老人宛罷出船年寄大坂屋次郎右衛門釜屋市郎右衛門東西へ老人宛罷出候

一鍛冶場渡舟兼田へ相廻具候様御舟奉行此間通用有之則。一玉置忠兵衛宅用意致罷在候得共御小休も無之事。助渡シ舟ニ願申付候

一同心組へ被下物員数左之通

御先弘兩人 江老人 江貳百文ツ、合四百文被下候

小頭 江三百文被下候

馬駅 江被出候兩人 江銀四匁老人 江貳匁ツ、

一兼田川御蔵元伝蔵舟年寄次郎右衛門へ六百文下裁許人へ百文惣舟

江壹貫百文被下候

一院之庄川御蔵元伝兵衛船年寄一郎右衛門へ六百文下裁許人へ百文

惣舟 江壹貫文被下候

一明廿一日五ツ時御供揃ニ而司馬五郎様泰安寺へ御仏詣被仰出候旨

小嶋左内申申来候付則大年寄忠兵衛へ町分掃除及申遣候御道筋田町御門先格之通之由

一右御通行ニ付人馬左之通数入用之由届書付差出候事

町馬貳拾五疋 三拾疋 手札人足百四拾八人
在馬五疋 分弘人足八拾三人 貳百三十老人

五月廿一日 晴

五月廿二日 曇

一河原町松次郎と申者七年已前酉ノ歲町内人別ニ差加え置候処備中松山本町養父柳屋小兵衛と申者病死致候付右松江江罷歸り親家相續仕度右松次郎願承届ル

五月廿三日 晴 御用日御出席

一去ル廿日出羽守様御通行之砌町分江出役いたし候ものとも江被下置候。員数名面書付郡代所書付一諸ニ認御用懸り大目付井上弥三兵衛書付昨晚持参差出シ候右扣郡代所取一卷紙袋之内江入置候事

一山本三右衛門娘さよ拾九才此度伯州日野郡黒坂判屋四郎兵衛方江養女ニ差遣シ度町内人別差除度旨三右衛門願御用所江一通り及御沙汰大目付中江申達承届ル

五月廿四日 晴

一先日京都より虚無僧番僧立寄町宿ニ致逗留罷在候由右逗留中無拠少々入用物有之由吟龍より左之通書付を以郡代所下代共迄申出候付先例之通町在より出シ遣候様可取計旨大年寄忠兵衛江申渡候勿論郡代所下代江も此段申渡候

銀札貳拾八匁三分 入用高也 拾四匁七分五厘町分 拾四匁七分五厘在分

一今日左之通廻状出候付町方江相触候様大年寄忠兵衛江申渡候尤夫々

江例之通為相知候様小頭左五」 「申渡候

丹後守様御義左兵衛佐様与御改被成」此段為相知候様被仰

出候尤右御名指合」可被相改候

右之趣同役并支配方江も可被相達候」

五月廿四日 大目付

一元魚町藤九郎と申者四国遍路ニ罷出」由」廿六日罷立往来
八拾日計之逗留ニ而罷帰度旨藤九郎願承届ル

一鍛冶町鍛冶屋六右衛門家屋敷北側ニ而表口式間裏行拾七間御役五
歩役也東隣ハ鍛冶屋忠左衛門西」鍛冶屋与助ニ而右之家屋敷
代銀札八百目ニ相」内鍛冶屋喜兵衛江壳渡シ申度旨六右衛
門願承届ル同廿六日本證文出ス

一伏見町辻屋六郎右衛門倅忠右衛門と申者大坂表江罷登於彼地病氣
付御屋敷ニ而致養生被差置候由依之親類共早速罷登り召連罷歸り
候様可申付之旨大御目付永井甚大夫より申来尤右六郎右衛門義ハ
当時町人別離候得とも右忠右衛門義ハ兄弟共役介ニ而町人別之由
ニ付一家共急ニ罷登り連帰候様可申渡之旨申来則大年寄忠兵衛早
速呼出シ右之趣申渡候事

五月廿五日 晴

一大笹西村八十八と醫師今日九ツ過呼出シハツ時より郡代所下代地
方目付同心小頭左五兵衛も合セ目明シ十右衛門も差出シ并藏懸
り合之義致吟味御書日下伝平ニ認させ吟味之上晚かた直ニ牢番預
ケニ申付則同心組藤森権六神田権」添牢屋江差遣候右牢番預ケ
取計相濟」衛守殿大目付永井甚大夫江手紙ニ而御届申候事

一紀州在田郡箕嶋浦梳屋五兵衛手代銀右衛門半左衛門助右衛門と申

者三人例年之通梳折敷壳ニ参候由小性町田戸屋宗十」宿切手出ス

一撰州大坂内本町式丁目小松屋宗兵衛与申者上外人」類古」物

おろし壳度初而壳ニ参候由右同人の宿切手出ス

一明廿六日四ツ時御供揃ニ而司馬五郎様炮術催行御」鉄砲町先格
之場所へ御出被成夫の直ニ二宮江御遠乗被為入候旨稲垣茂士の申
来右ニ付ゆだ御道筋掃除之儀大年寄忠兵衛へ申遣候

五月廿六日 晴

五月廿七日 晴

五月廿八日 晴 御用日御出席

一去ル廿五日大笹西村八十八と醫師呼出シ致吟味候趣今日御用所
御目付中江も申達今以八十八并藏野郎文次郎三人申口相違ニ付此
上八十八并藏対決申付文次郎三人共品ニより拷問今一応申付へき
旨尤来月二日牢屋詮義場へ罷越右取計可申旨今日及御沙汰大目付
中へも申達置則夫々江手配申付置候事

五月廿九日 晴

一惣町江左之通相触させ候様今日大年寄忠兵衛へ申渡」

去月已来町方ニ鳥散成他所女差置候者も有之様粗相聞候右等
之儀兼々停止之段相触置事ニ候故無く他所者忍ひ差置候事相
知候ハ、急度可申付候丁内年寄共の氣ヲ付可申出候

右之趣惣町中江入念可被相触候」

一林田町鍵屋勘七倅幸吉十九歳此度大坂高麗橋壺丁目三井八郎右衛
門方江当年の来ル子ノ歳迄十ヶ年切奉公ニ差遣相勤させ申度旨勤

七願承届ル

一東新町作人市右衛門借家ニ居候治兵衛と申者五十三才妻三十七才
俸十一才家内三人此度林田村定次郎借家江引越「申度旨市右衛
門願兩役所引合候上承届ル

一京町作人長七義四十五才只今迄京町今出屋半兵衛借家ニ「処町
方ニ而渡世難相成ニ付林田村源七母縁者故俸幸吉兩人罷越一所ニ
相暮申度丁内人別除ケ長七願兩役所引合候上承届ル

六月

御用番 伊達与兵衛殿

大目付月番 鈴木此右衛門

大年寄

斎藤孫右衛門

朔日 晴

一今日七ツ時御供揃ニ而司馬五郎様ニノ宮辺江御殺生御出被成候旨
御道筋西大番所より本町通り御出被成候由此段小嶋右内ノ申来則
大年寄孫右衛門江申遣候

六月二日 晴

一今日五ツ時過より牢屋詮義場江罷越牢舎人八十八野郎文次郎穢多
弁蔵此外徳左衛門ノ坊主宇兵衛右五人遂吟味弁蔵義ハ又々拷問取
計則小頭左五兵衛同心組中山伝内石名左助罷出書役并目明シ右
衛門夫々例之通立合罷出部屋目付ハ川端又六罷出候吟味夜ニ入相
濟御月番与兵衛殿大目付鈴木此右衛門江手紙ニ而御届申候事

六月三日 晴 御用日御出席

一昨日於詮義場遂吟味候ものとも口書今日大目付中江差出シ候上御
同所江差上置候事

一大川筋も濁水ニ付小桁村井堰用水上り兼田方行届不申候ニ付船通
ひ筋セきふさき申度旨願出先格相糺承届ルニ付船頭頭ノ積ミ下シ
候ふね日々川下シの分申合一諸ニ舟出シ勿論セキ候場所ニハ人付
ケ置候様ニ申渡置候間通舟之節明ケ通シ差支無之様ニ申付候此段
御蔵元共江申渡右之通舟差下シ候義申合一諸ニ出舟取計候様ニと
可申渡旨今日大年寄孫右衛門江申渡候事

一例年之通二階町石松院ニ而疱瘡守護神江来ル七日ノ十四日迄施主
御座候付燈明指上尤夏祓祈禱護摩修行致度旨寺社奉行所江相願相
濟候由石松院より断書差出シ承置候

一林田町鍋屋治兵衛義松井市右衛門と相改御城代組奉公ニ罷出申度
ニ付家内治兵衛共ニ同人内妻并女子式人町内人別除ケ治兵衛願承
届ル

一林田町松井汲也倅松井市右衛門と申者只今迄御城代組相動居候処
病身ニ付此度代番之義相願相濟候由右市右衛門義汲也家内人別ニ
結度旨汲也願承届ル鍋屋治兵衛右松井市右衛門兄弟之由此度入代
りニ相成候旨大年寄孫右衛門ノ申聞候

六月四日 曇少雨

六月五日 曇

一播州姫路龍野町和泉屋孫兵衛同手代久兵衛甚也と申者三人例年之
通小間物売ニ參候由中ノ町福茂屋武助宿切手出シ候

一右同州網干新在家村加賀屋善七手代清八と申者一人例年之通小間

物おろし売ニ参候由右同人より宿切手出シ候

六月六日 晴

一米相場書差出シ候御蔵米五拾七匁町米五拾四匁

一安岡町河本栄昌洪屋嘉兵衛鍛冶屋長右衛門右三人讃州金比羅江参

詣明七日出立往来六日逗留ニ而罷帰旨願出承届ル

一去月廿四日大年寄江申渡置候伏見町辻屋六郎右衛門悱忠右衛門義大坂御殿より

。今朝無滞召連帰り候旨大年寄申出候付此段大目付鈴木此右衛門江手紙ニ而相届候事

一下紺屋町不動院ニ而例年之通来ル七日より十四日迄祇園之御戸開

申度旨寺社奉行所江断書相济候由不動院断書差出シ承置候

一船頭町和泉屋清助兄庄助義式拾式才此度大庭郡久世村金沢屋宗五

郎方江養子ニ差遣度町内人別差除度旨清助願承届ル

一伏見町年寄正木屋佐助義此度八右衛門と改号致度旨佐助願承届ル

六月七日 晴

六月八日 晴

一今日左之通廻状出惣町相触候様大年寄孫右衛門江申渡候

此段例之通夫々江為相知候様小頭江も申渡候

東武の先月廿七日出之飛札今曉到来殿様上々様益御機嫌能被

成御座今廿七日就吉辰御縁女様江御結納之御祝儀被進之御使

者勘解由差添岡村要助相勤之従向方様茂為御取替御使者増田

須右衛門差添桜居安右衛門罷越首尾好被為濟候旨申来御悦之

御事候依之為御怡御帳付候間明九日辰之中刻の巳之中刻迄之

内登城可有之候此旨同役并支配方江も可被相達候以上

六月八日

大目付

一明九日四ツ時御供揃ニ而司馬五郎様丸淵刃江御川狩ニ被為人御道

筋京橋御門夫の鍛冶場前を御舟ニ被為召候旨稲垣茂土の申来則大年寄江申渡候

一林田中之町三宝屋新兵衛所持之他国請酒株去寅三月相預三ヶ年之

間二丁目二葉屋伊助質置候处此度勝手ニ付取戻し申度旨尤伊助手

前ニ而他所酒商売売相止候旨株主新兵衛預り主二葉屋伊助連印願承届ル

六月九日 曇 御用日御出席

一今日御怡之御帳付諸士登城有之候右相济暑気伺御機嫌頭分以上御

帳付候

六月十日 晴

六月十一日 曇 昼後晴

六月十二日 曇

一京都今井町岡嶋右兵衛と申者老入例年之通墨売ニ参候由京町加茂

屋和六宿切手出ス

一町中宗門改帳并添證文共案詞宗旨奉行中の今日被差越則大年寄へ

相渡候

六月十三日 晴

一昨日左之通御触書出今日相廻り則惣町中江相触候様ニ大年寄江申

遣小頭左五兵衛江も例之通夫々江相触候様ニ申遣候

於江戸表田安中納言様御病氣之処御養生不被為叶去ル四日

御逝去被成候段申来候依之今日の来ル十八日迄七日之内鳴

物高声御停止之事ニ候尤普請ハ三日之間遠慮可有之旨被仰出候

右之趣同役并支配方江も可被相達候以上

六月十二日

一桶屋町年寄桶屋佐平次義此度勘右衛門と改号致度旨佐平次願承届ル

一今日左之通廻状出候付小頭大年寄共江も為相知置候

当月五日御入興之儀御故障有之御延引被成候段申来候追而御

日限可申達候此旨為相知候様被仰出候

右之趣同役并支配方江も可被相達候以上

六月十三日

大目付

六月十四日

晴 御用日御出席

一御堀掃除料之内銀札百目此間大年寄孫右衛門より差出シ今日関下次江則相廻シ候

六月十五日

晴

一吉野郡中谷村勘次と申者老人例年之通晒蠟纏節木綿嶋并荒物おろし売ニ参候由境町大室屋藤兵衛宿切手出ス

六月十六日

曇

一勝部村蓮池蓮葉例年之通御弘相成旨望之もの有之候ハ、来ル廿日迄申出候様町方江相触可申旨今日御勘定奉行中々通用有之則廿日迄ニ御代官所江入札差出候様町方江触書大年寄江申付候

六月十七日

曇

六月十八日

晴 御用日御出席

一今日左之通御触出惣町江相触候様大年寄江申遣シ小頭左五兵衛江も例之通夫々江相触候様ニ申遣候

来ル廿日有徳院様廿一回御忌ニ付於地藏院御供養被仰付候此

段為相知候様被仰出候

右之趣同役并支配方江も可被相達候以上

六月十八日

大目付

一明後廿日御供養被仰付候付町方自身番之義先例之通申付候様ニ是又大年寄江申渡候

一先達而投火沙汰有之節町内申合夜廻りいたし其後町内関貫ノ置候様申付置候処此節静謐相成候付もはや夜廻り引取町内関貫も開キ

置候様可申付哉之旨今日大目付中江申達候上御用所江及御沙汰右

之趣大年寄孫右衛門江明日より相止候様ニと申渡候事

一伏見町辻屋市郎兵衛弟忠右衛門と□者廿才罷成候処去ル四月頃

よりふと致乱心種々養生等致候へとも次第ニ相募及難義市郎兵衛

義當時至而不如意ニ付かこひ等得拵不申難義仕居申候付何とぞ牢

屋御借シ被為下候様仕度旨市郎兵衛願今日大目付中江及相談先格も有之義ニ付御用所江御窺申上候処先例も有之候ハ、承届可遣□

与兵衛殿より被仰渡此段大目付中江申達則願書大目付所江差出シ

置願之通承届候段大年寄孫右衛門江申渡候

六月十九日

晴

一辻屋市郎兵衛弟乱心者今日牢屋江差遣シ候付同心組福田甚蔵。牢屋江差遣シ候尤賄之義ハ賄之^宿

一今般有徳院様御供養被仰付候付座頭共御布施頂戴罷出候由大年寄

孫右衛門より申出候付御用番与兵衛殿被罷越此段御窺申上候処御
布施被下置候旨被仰渡候付大御目付鈴木此右衛門江も此段申達則
御勘定奉行山岡与左衛門江及対談先例之通銀札場ニ而取替之義通
達被呉候様ニ申談置候

六月廿日 晴

一座頭共江御布施被下置候段今朝大年寄孫右衛門江申遣シ尤今日相
渡候様ニ可取計旨申遣シ右ニ付小頭部屋目付例之通罷出候様ニ是
又左五兵衛江申遣候

一今日配當場江小頭左五兵衛部屋目付藤森権六罷出座頭共江御布施
被下左之通無滞相渡シ相濟候段小頭部屋目付届出配當場城正城並
兩人より例之通書付差出シ候

合銀札七百四拾九匁分五厘 相渡候分

六月廿一日 晴

一今日来ル廿六日迄徳守宮社内涼有之候付例之通同心組差出シ候
様大御目付鈴木此右衛門江外御用ニ而罷越候席ニ被申聞則今夕よ
り例之通兩人ツ、申合罷出候様可取計旨小頭左五兵衛江申遣候

一西今町南側ニ而久保田利右衛門家屋敷表口三間裏行拾五間但四歩
壹厘五毛御役也東隣ハ麦屋「兵衛西隣ハ久保田屋利右衛門ニ而右
之家屋敷代銀札七百目ニ相極メ坪井長門屋惣兵衛江亮渡シ申度旨
久保田屋利右衛門願承届ル同廿五日本證文出ス

一大御目付鈴木此右衛門より罷越候様ニと手紙来即刻罷越候処左之
通町在江相触候様ニ被申渡則大年寄孫右衛門呼出シ惣町江相触候
様以御書付申渡「

当春以来諸国ニ而種々之浮説申触し夫ニ付伊勢參宮敷敷有之

趣相聞候処近来此辺よりも追々參詣之族有之様粗相聞候銘々

家業も有之処打捨置世上之浮説ニ迷ひ參宮等致候而ハ却而神

慮ニも叶間敷義ニ候間其段末々迄吞込不參候様ニ可申聞候

〔別懸〕大年寄共町内年寄共江

口達「覚

今度之御触書全參宮之者共御指留被成候と申事ニハ無之銘々今日
差懸り可相動家業打捨置前後不相構罷出候事ハ無心も可有之事之
由思召候且又婦人幼少之子共引連罷出候由酷暑之節万一重キ病氣
抔相煩候ハ、甚難義可「候其子も不便之事ニ候間此等之類ハ猶以
可有思慮事ニ候甚敷無之様ニ參詣致候事ハ格別之事ニ候間此段心
得違ひ無之様ニ可申聞事

六月廿二日

六月廿二日 晴

一川端又六義積氣相勝不申ニ付真賀湯原江三廻り入湯仕度旨去ル十
八日小頭左五兵衛を以口上ニ而願無抛趣故承届ケ則今朝致出立候

六月廿三日

晴 御用日御出席

一去ル廿日於配當場座頭共へ被下置候御布施銀札高之儀今日御用所
江及御沙汰大目付中へも申達「

一惣馬持共一人ニ付大豆式俵ツ、拝借仕度尤八月より十月迄月々御
扶持大豆ヲ以テ返納可仕段例歳之通願出勘定奉行中へ内談いたし
候上御用所江相伺御聞届相濟大目付中へも申達其段大年寄江申渡
候

一今日左之兩人被為召左之通被仰付候

銀札場奉行御金奉行兼役 岡半四郎

銀札場目付 井上忠治

一近來町方のもの浮説ニ迷ひ駭敷伊勢參宮致候趣相聞え候付此間觸流シ取計候様被仰渡相觸候得共大勢之義存候通趣意行届不申候趣ニ付今日大目付中江相談之上左之通可申渡哉之旨御用所江御窺申上候処其通申渡可致旨被仰渡候ニ付則大年寄孫右衛門呼出シ申渡之候

近來町方之もの浮説に迷ひ人々前後不相構駭敷伊勢參宮致候段相聞え候依之伊勢參宮願差出シ候共当年中右願書承不届候并ぬけ參宮致候もの相知レ候ハ、急「可申付候

一町方年若之もの共申合往來參宮之もの駕籠乘せ往來致候由志ニ而潜ニ致候ハ、格別之義ニ候へ共日々ことよふニいたし昇(マ)など建差し(マ)ものなど次第ニ物好ニ拵駕籠廻シ着類不相応之躰ニ相聞え候病人或ハ足痛之ものも有之駕籠ニ乗せ遣し候事ハ平生其時ニ随ひ町内役人江申出定法も有之処此方好之駕籠ニ乗せ慰躰之様ニ相聞「不宜甚心得違之事ニ付右駕籠廻シ候義可相止候且又町方所ニより往來參宮之ものへ湯茶ニても給させ候由施之義ハ銘々志ニ而勝手次第之事ニ候へとも揚(マ)焼灯などいたし大キなる目印等致置候様相聞え候右目印等之義相止メ引取候様可申付候

右之趣町内年寄共呼出シ大年寄ニて申渡候様今日孫右衛門江申渡之候

六月廿四日 曇

一美濃職人町吉田屋彦兵衛悻平助と申者廿三才此度下田邑平六と申もの方江養子ニ差遣度旨町内人別除彦兵衛願而役所引合セ候上双方承届ル

一福渡町井口屋庄藏家屋敷東横町ニ而表口式間半裏行八間溝切御役三步也北隣ハ沢田屋伊助南隣ハ右庄藏ニ而右家屋敷代銀札式百目ニ相極メ町内「屋佐七江壳渡申度旨庄藏願承届ル同廿六日本證文出ス

一御堀掃除料残り銀札の分関十次ハ催促申來今日大年寄江右之段申付置候

六月廿五日 小雨

一今日四ツ時御供揃ニ而司馬五郎様丸洲辺江御川狩ニ被成御出候旨御道筋京橋御門ハ鍛冶場前夫より御舟ニ被為召候由小嶋右内ハ申來此段大年寄江申遣候

一右御出今日雨天ニ付相止明廿六日四ツ時御供揃ニ而丸洲江今日之御道筋御出被成候由宇津木弥右衛門より申來此段大年寄江申遣候

六月廿六日 雨

六月廿七日 雨

一今日渡部惣右衛門殿大坂表ハ御帰着有之候

六月廿八日 雨 御用日御出席

一牢番足輕松岡左助居宅屋根及大披難義致候旨先達而より申出候付

今日大目付中江此段申立御繕被仰付度旨申達置候

六月廿九日 曇

一 播州網干余陸屋惣七同手代彦右衛門と申者式人例年之通八百屋物
おろし売ニ参候由中ノ町正木屋伊左衛門宿切手出ス

一 右同州網干塩屋伊兵衛同弟助三郎と申者式人例年之通荒物塩物お
ろし売ニ参候由右同人ノ宿切手出ス

一 今日左之通廻状出候

御家中自分者不及申妻子等ニ至迄他領へ罷越候儀夫々支配頭

江相届候尤一宿以上者願差出シ御聞届之上罷越候儀兼而御定

之事情然ル所近来寺社参詣等之儀ニ付心得違之族も有之様粗

相聞候ニ付可被遂御吟味候得共今度者以御憐愍ヲ御用捨被成

候以後万一無断他行之面々於有之者御吟味之上急度御咎可被

仰付候間兼々其旨可被相心得候

右之趣同役并支配方江茂可被相達候以上

六月廿九日

大目付

六月晦日 晴

一 町方類族之者無事ニ罷在候旨例之通京町年寄共ノ届書差出シ承置
候

一 一昨廿八日於御用所御用番伊達与兵衛殿ノ被仰渡候者上御婚禮御

老中御招請御座候へハ御物入多右ニ付大坂表御借物も相調候へ共

數敷御物入ニ而御不足有之候ニ付町内江御借物被仰付候右ニ付大

目付井上弥三兵衛へ得与及対談右取計方弥三兵衛申合此段下方江

可申渡旨被仰渡候依之御用所退キ弥三兵衛江申談候右申付候名面

見付割合等之儀昨今弥三兵衛宅へ罷越申談候上今日七ツ時月番大

年寄斎藤孫右衛門宅ニ而申付候名面之者呼出シ小頭石名左五兵衛

立合セ孫右衛門ノ申渡取計セ候大年寄同役玉置忠兵衛義も罷越候
由何茂御請申聞候段申渡相濟候旨大年寄兩人ノ届出候付右申渡相

濟候趣御用番与兵衛殿右懸り合大目付井上弥三兵衛江手帟ニ而御

届申候町内右御借物申付候人数高割別帳ニいたし御用算筒へ入置

候右御借物ハ。当霜月（懸り銀ニハ無之）ニ至り御返シ被成候由一昨廿八日御用番与

兵衛殿ノ被仰渡有之候事則此段大年寄へ申渡候（右御用銀米月十八日迄ニ正
金銀或ハ銀札言も銘々勝
手次第差出候
様ニ申付候事）

一 今昼御用番与兵衛殿ノ御用向有之罷越候様ニと申来即刻罷越候所

大目付鈴木此右衛門立合ニ而左之通被仰渡則拙者宅江大寫屋平右

衛門呼出シ小頭左五兵衛大年寄忠兵衛立合セ左之趣申渡右取計相

濟御用番与兵衛殿大目付鈴木此右衛門江手帟ニ而御届申候事

今般御用達外並之通被仰付候

大嶋屋

平右衛門

御用向委細勘定奉行ノ可申渡候

一 京町戸屋岩右衛門親佐右衛門と申者大坂坂出町大屋次三郎方ニ居

申候処急病申越候付明日致出立往来三十日計逗留仕罷帰申度旨岩

右衛門願承届候

七月

御用番

伊達与兵衛殿

大目付月番 井上弥三兵衛

大年寄

玉置忠兵衛

朔日 晴

七月二日 晴

一 今日八ツ時半時半舍人八十八義引出シ再吟味いたし候同心組中山市

左衛門神田權兵衛牢屋へ差遣シ右吟味相濟右兩人召連罷越人牢申
付置候

七月三日 晴 御用日御出席

一御堀掃除料惣高式百八拾九匁分四厘之内百匁去月十四日先納関
十次江相廻シ残而百八十九匁分四厘残之分大年寄差出候付今日
御作事御役人右同人江相廻候

一先達而より致吟味候牢舍人共吟味書并弁書今日御用番中江差出置
候

一御勘定奉行清水多橋今日大坂表の御着有之候

七月四日 晴

一此間御用銀町方江被仰付候処又々追懸見付割被仰付候段昨日御用
番中の被仰渡則今日大年寄玉置忠兵衛宅ニおゐて小頭左五兵衛立
合セ忠兵衛の申渡取計候右申付候者共名面割合書付此間申付候帳
面奥ニ記置候

一大坂北濱町錢屋七郎右衛門手代作兵衛と申者老人例年之通小問物
へ掛銀札取ニ参候由小性町ひぢ屋兵藏宿切手差出ス

七月五日 晴昼後小雨

一町方江被仰付候御用銀追割共ニ昨晩迄ニ取計申渡相濟候付御用番
中并大目付井上弥三兵衛江手紙ニ而御届申候事

七月六日 小雨

一河原町平助と申者京町藤屋善三郎借家河原町ニ有之右平助母坪井
村百姓平六と申者後家此度病氣罷在候付罷越世話致度ニ付町内人
別除右平助願承届ル

一元魚町糝屋彦十郎致所持候旅籠屋株橋本町元屋武八当卯ノ歳々来
ル未ノ歳迄借請商売仕度尤右年数之内彦十郎方ニ而者旅籠屋相止
候旨元屋武八願先例も有之由大年寄申出候付承届ル

七月七日 小雨

七月八日 晴

一錢相場今日の老匁ニ七拾三文通用相成候旨大年寄忠兵衛より申出
候

七月九日 曇小雨 御用日御出席

一今日八ツ時御供揃ニ而司馬五郎様ニノ宮江御遠乗ニ被為入候旨稲
垣茂士より申来御道筋例之通京橋御門より本町通り御出被成候由
申来則大年寄忠兵衛江申遣候雨天ニ付御延引相成候段申来候

一例年之通盆中御触書出候町方江も例年之通触書大年寄江相渡候尤
同心組牢番足輕^中三軒屋番人江も相触候様小頭左五兵衛江申渡候

一例年之通盆中町廻り来ル十四日罷出候旨御用番中江及御沙汰大目
付中江も申達御貸人馬之義申達候并小勤者江も御貸人馬之義申談
置候

一町方宗門改ニ付印形取之候寺院方帳面大年寄忠兵衛の昨日差出候
付今日神社取次細江藤右衛門江相廻シ候事

一來ル十四日盆中ニ付御出席無之段大目付中より為知有之候

一今日左之通御知らせ廻状出候ニ付町方江相触候様大年寄江申遣牢
番三間家番人江も例之通為相知候小頭左五兵衛江申渡候

江戸表の飛脚到来殿様益御機嫌能成御座先月廿七日就吉辰
巳之刻御入輿御婚姻御規式御祝義等首尾好御整被成候段申来

恐悦之御事候依之為御怡御帳付候間来ル十八日辰之中刻ハ巳之中刻迄之内登城可有之候此旨同役并支配方江も可被相達候以上

七月九日

大目付

七月十日 曇時雨

七月十一日 晴

一 鍛冶町鍛冶兵衛と申者七ヶ年以前相願当国之内大庭郡野川村文右衛門と申もの方江引越罷在候処右治兵衛義不勝手ニ付又々罷歸り同町鍛冶屋甚兵衛縁類之者故引請世話致度由次兵衛家内三人治兵衛年三拾六才妻かね三拾五才子源吉八才右町内人別ニ差加へ度旨鍛冶屋甚兵衛願出承届ル

一 石州中ノ郡古市村平三郎娘ますと申もの参宮下向之者病氣之由播州鎊西郡鎊西村より送り出シ今日林田村ハ送り来候付小田中安岡村江送り遣候由大年寄忠兵衛ハ届出翌十二日郡代所之方送り届候段申出一諸ニ御用番与兵衛殿大目付井上弥三兵衛江手紙ニ而御届申候事

七月十二日 雨八ツ後晴

一来ル十四日五ツ半時司馬五郎様泰安寺妙法寺江御仏詣被成候旨宇津木弥右衛門ハ申来則大年寄江申遣置候

七月十三日 曇

七月十四日 晴

一例歳之通町廻り者七ツ半時過より罷出五時過罷歸候供人有之丑ノ歳之通騎馬同心組兩人中山伝内福田甚威罷出候御届手紙遣候義先

格之通翌朝相届候積リニ致置候

七月十五日 晴夕立

一 昨夜町廻り罷出相替義無御座候段今朝御用番中大目付中江手紙ニ而御届申達候

七月十六日 晴夕立

七月十七日 曇

一 同心組中山市左衛門孫久々足痛ニ而及難義兎角相勝不申候付市左衛門義右孫嫁召連伯州三朝江三廻り入湯為仕度旨小頭左五兵衛を以願出無趣ニ付願之通承届ル尤明十八日致出立候旨申出候

一 安岡町作人小右衛門ハ古川村与三兵衛俸庄八と申もの武拾四才右引請町内別ニ結度旨小右衛門願向役所引合セ候上承届ル

七月十八日 晴 御用日御出席

一 今日為御怡御帳付諸士登城有之候

一 東新町糶屋甚右衛門借家ニ居候忠助と申者去ル二月木山参詣致候旨申罷出罷歸不申ニ付其後所々相尋候得共行衛相知不申ニ付町内人別差除度旨糶屋甚右衛門願御用番中江及御沙汰承届候尤大目付中へも申達則願書差出候

一 今日七ツ時御供揃ニ而司馬五郎様二ノ宮辺江御出被成候旨御道筋先格之通京橋御門ハ本町通御出被成候由稲垣茂士より申来則大年寄忠兵衛江申遣候

七月十九日 晴夕立

七月廿日 晴

一 錢六拾箇但シ式百目入大川筋積下シ明廿一日取計候付小桁木知ケ

原両番所裏印取計與候様ニ銀札場奉行近藤伊左衛門岡半四郎連名
手紙来り則両所裏印取計差遣候

七月廿一日 晴

一今日左之通廻状出例之通惣町江為相知候様大年寄忠兵衛江申遣シ
同心組牢番三軒屋番人江も為相知候様例之通小頭左五兵衛江申渡
候外ニ御祝儀有之候旨ニ状一諸ニ相廻リ此段同心組牢番三軒家江
も申遣候様ニとは又左五兵衛江申渡候

江戸表の飛脚到来殿様益御機嫌能被成御座今般御婚禮被為濟
候御礼去ル朔日首尾好被仰上候旨申来恐悦之御事候依之為御
歎御帳付候間来ル廿三日辰之中刻の巳ノ中刻迄之内登城可有
之候

此旨同役并支配方江も可被相達候以上

七月廿一日

大目付

今般御婚禮首尾能被成御整候御祝儀被下候間来ル廿三日五ツ
時番外之面々迄登城可有之候御小性組以下ハ九ツ時登城可有
之候尤嫡子之面々江も被下之候
右之趣同役并支配方江も可被相達候以上

同月同日

大目付

追而御預ケ之下代足輕迄御祝儀被下置候旨「可被申聞候以上
上

七月廿二日 晴

一米相場書差出シ候御蔵米五拾五匁五分町米五拾式匁五分

七月廿三日 晴 御用日御出席

一今日為御歎御帳付諸士登城有之候早而御祝儀御赤飯御吸物御酒被
下之番外以上昼前御小性組以下昼後銘々詰所ニ而頂戴之且又同心
組牢番足輕三軒家番足輕共迄今日御祝儀被下則於宅頂戴為仕右御
礼ハ御用番中江罷越御礼申置候

一今般御婚禮御祝儀頂戴座頭共来ル廿六日罷出候旨申出候付御用番
中江及御沙汰候処御婚禮御祝儀悉ツ分被下置候旨被仰渡此段大目
付中江も申達勘定奉行中江も申達例之通銀札場取替有之候様通達
被與候趣及対談候則悉ツ分被下候段大年寄江申渡候

一作州西々条郡上斎原村三郎右衛門と申者伊勢參宮下向より足痛い
たし播州明石郡金崎村より書付を以送り来り川辺より申出則林田
村の送り来「山北村江送り遣候段大年寄忠兵衛より申出翌廿四日
郡代所之方届出候付他領香々美上村江無滞送り遣候段当役所一諸
ニ御用番与兵衛殿大目付井上弥三兵衛へ手紙ニ而御届申候事

七月廿四日 晴

一下紺屋町四郎左衛門借屋ニ居候清八と申もの式拾六「妻廿五才
右両人勝手ニ付此度天野忠太長屋江引越申度町内人別除四郎左衛
門願承届ル

一東新町茂渡藤右衛門役介人岩吉と申もの拾八才此度下村藤右衛門
殿江平岡岩吉と改号いたし奉公ニ出シ申度旨町内人別除藤右衛門
願承届ル

一中ノ町米屋八郎兵衛本家伯父松嶋屋七郎左衛門と申者享保二戌年
相願算真嶋郡新庄村「嶋屋義左衛門と申者方江引越居申候処娘不
縁いたし右八郎兵衛方江引請養育致罷在候処翌年致病死右七郎左

衛門造酒株有之候付右之株八郎兵衛江引請少々つゝ酒造売買仕度旨八郎兵衛願外故障も無之趣故承届ル

七月廿五日 晴

一坪井町羽織屋十右衛門先達而相願候林田上ノ丁引請置候賀村玄仙家内式人勝手ニ付林田上ノ丁へ罷帰度旨町内人別除度願十右衛門差出シ兩役所引合候上承届ル

七月廿六日 晴

一今朝下村友右衛門殿江戸表へ御出立有之候
一今日配當場へ小頭左五兵衛部屋目付川端又六罷出座頭共江御婚禮御祝義一ツ分被下之左之通無滞相渡相濟候段小頭部屋目付届出配當場正城並兩人例之通書付差出候

合銀札六百七拾八匁 相渡候分

七月廿七日 晴

一武州児玉郡入浅見村八助と申五拾計之もの千ヶ寺参りニ罷出雲州意宇郡西津田村と申所ニ而致足痛歩行難成伯州米子町より送り出シ宮尾村より来り右町内江送り来候付林田村江送り遣候段大年寄忠兵衛が届出在分送り遣相濟候ハ、一諸御届申候積り致置候
一作州久米郡油木村ひしり大明神社司村上伊勢守妻りと申もの三十計之由伊勢参宮いたし道中致腹痛山城国紀伊郡吉祥院村より送り出シ則林田村より送り来右町分無滞送り遣候段大年寄忠兵衛より届出在分送り遣相濟候ハ、一諸御届申候積りニ致置候

七月廿八日 晴 御用日御出席

一新五兵衛不快ニ付今日ハ出勤難儀当病断之義勘定奉行中江相願遣

候

一昨日申出候送りもの兩人とも御領分村々無滞送り遣候旨郡代所より届出候付今日町分兩役所一諸御用番中大目付中江手紙ニ而御届申候

七月廿九日 晴

一先達而町内江申渡させ候今般御用銀之義不納有之者共江日延申付置今以皆済ニ不相成候併是迄相納候金銀子銀札之分不殘銀札場江相廻シ候様ニと。井上弥三兵衛井山岡与左衛門も通用有之則大年寄忠兵衛江申遣相納候分左之通今日銀札場忠兵衛が相納させ候

金 拾兩壹歩 六拾八匁九分かへ代六百八拾五匁七分式厘五毛

銀 拾貫五百目

銭 壹貫四百三拾五匁五分五厘但シ七拾三文替

銀札六拾五貫五百六拾六匁式厘五毛

合七拾八貫百八拾七匁三分

右之分今日大年寄忠兵衛が銀札場江相納メ則札元之預り手形忠兵衛より差出シ右手形を以新五兵衛が御金蔵江今日相納候事

八月

御用番 渡辺惣右衛門殿

大目付月番 永井甚大夫

大年寄 玉置忠兵衛

朔日 晴

一八朔諸士五ツ時登城桜之間ニおゐて御帳付大書院御縁側通りニ而

渡部惣右衛門殿伊達与兵衛殿御烈座御面調右早而御用席江御勘定奉行山岡与左衛門清水多橋当役新五兵衛罷出御祝義申上末座の御用所退出仕候

一去ル廿六日座頭共江被下置候御婚礼御祝義一ツ分銀札高御用番惣右衛門殿江及御沙汰大目付中へも申達則配當場差出候書付大目付中役所江差出置候

一但州二方郡室寄村龍満寺弟子盆堯と申僧執行罷出病氣付久世村の送り出則町内江送り来り早速林田村江送り遣候段大年寄忠兵衛の注進申出在分送り届候段申出シ次第一所ニ御届申候積ニ致置候

八月二日 曇

一昨日申出候送り者坊主義在分無滞送り遣候段申出候付則町分御届之儀両役所一所ニ御用番惣右衛門殿大御目付永井甚大夫江手紙ニ而御届申候

一町分宗門改帳不残今日大年寄忠兵衛の差出候

八月三日 晴 御用日御出席

一町方の御借り入銀未皆済無之ニ付来ル十五日迄日延被仰付候間其段大年寄江申渡尤其内働不働之者共。書付出シ候様ニ可申付旨今日大御目付永井甚大夫より被申渡候依之大年寄忠兵衛呼出シ右之趣申渡候

一例年之通御年貢米町在ニおゐて切手替或ハ外払致候義御停止之御触書御用番中の御渡被成則町内江相触候様ニ大年寄江御触書を以申渡候

一鍛冶町鍛冶六左衛門家屋敷鍛冶町南側ニ而表口巷間半裏行八間御

役三步役也東隣ハ鍛冶屋清三郎西隣ハ鍛冶屋喜七ニ而右之家屋敷代銀札三百目ニ相極町内鍛冶屋庄助江壳渡申度旨ハ左衛門願承届ル同七日本證文出ス

八月四日 曇

一雲州松江御城下百姓町本庄屋惣右衛門と申者妻六拾七才同人娘いろ式拾式才右式人連ニ而西国順礼ニ罷出候処右ふり致足痛播州姫路領印南郡神爪村と申所の送り出シ右川辺村の巡々林田村の送來候付則新田村へ送り遣候旨大年寄忠兵衛の届出右在分送り遣候旨申出次第両役所ニ相届候積ニ致置候

一右送りの今日在分送り遣候旨申出候付両役所一諸ニ御用番惣右衛門殿大目付永井甚大夫江手紙ニ而御届申候

八月五日 晴夕立

一中ノ町福茂屋武助より左之通宿切手三通差出シ候

播州網干新在家村加賀屋善七手代清八と申もの老入例年之通小間物おろし壳参候由尙通

右同州姫路龍野町和泉屋孫兵衛同手代久兵衛甚七と申もの三入例年之通小間物売ニ参候由尙通

備州津宇郡妹尾村太兵衛手代岩次郎と申もの老入例年之通畳表元結木綿壳参候由尙通

ノ三通

八月六日 晴

一石見国浜田御領分東仙道村市三郎と申もの京都本願寺参詣いたし足痛ニ而美作国勝南郡新田村江罷越步行難相成右新田村より送り

出シ則林田村より送り来早速在分江送り遣候旨大年寄届出在分送り遣候旨申出次第兩役所一諸ニ可相届事

八月七日 小雨

一昨日申出候石見国市三郎と申送りもの分宮尾村江無滞送り遣候旨申出候付御用番惣右衛門殿大御目付永井甚大夫江手紙ニ而兩役所一諸ニ御届申候

一中買とも米相場書差出シ候御蔵米五拾四匁米五拾匁

一さかい町西川屋善助より左之通宿切手四通差出シ候

大坂大手筋折屋町田金屋庄左衛門梓庄三郎と申者老人例年之通腰物小道具売ニ参候由忝通

勢州安芸郡白子村炊屋仁左衛門手代庄右衛門庄次郎と申もの式人例年之通紺屋欸并呉服物売ニ参候由忝通

備前岡山下市町中嶋屋久六と申者老人例年之通元結売ニ参候由忝通

右同国野田屋町出石屋清右衛門梓清十郎と申者例年之通元結売ニ参候由忝通

四通

一尾州嶋崎之内横須賀神職吉田土佐守門人吉田左右と申者上下式人此度御当地江用事有之罷越大橋多宮殿被相頼十五日計之間小性町肥地屋兵藏方ニ差置申度旨右等之先例も有之由ニ付右兵藏断承届ル

一鍛冶町鍛冶甚兵衛先達而相願引請候鍛冶次兵衛家内三人此度勝山御領分真嶋郡垂水村百性千之助引請当年より来ル已之歳迄三ヶ年

之間出職ニ罷越申度由ニ付差遣置度段甚兵衛願出承届ル

八月八日 晴

一林田町田部屋治助と申もの門ニ而高野押入下村忠兵衛と申もの持牛今朝相煩相果候由右取捨之義忠兵衛より相願候旨田部屋治助より断書差出シ則取捨之義申付候

八月九日 晴 御用日御出席

一大御目付永井甚大夫支度出来次第立歸り出府被仰付候依之当月之月番井上弥三兵衛被相勤候由

一今日村山波江被為召御近習勤出府被仰付候

一同心組中山市左衛門孫嫁召連揚湯三朝より昨夜無滞罷歸候旨左五兵衛届出候

八月十日 晴

一雲州意字郡西木町村新六母参宮下向より足痛歩行難成播州佐用郡佐用村より送り出シ則林田村より送り来例之通在分江送り遣候旨大年寄忠兵衛届出晩方在分も送り遣相落候段申出候付河役所一緒ニ御用番惣右衛門殿大御目付井上弥三兵衛江手紙ニ而御届申候一町方之者惣御堀端江近來ちりあくた不浄捨候由別而二階町堀はた刃大猫など捨置候由何ニ而茂御堀江捨不申様ニ町方江触流シ取計候様ニ大目付井上弥三兵衛被申聞候右之趣相触候様ニ可取計旨今日大年寄江申渡候

八月十一日 晴

一惣町宗門帳三拾三冊并添證文三拾三通奥書致兩判宗旨奉行中江今日不残相廻シ外ニ案詞帳添證文忝通共是又一諸ニ返達ス

八月十二日 曇

八月十三日 晴

一雲州大原郡東阿用村太郎と申者参宮下向より暑ニ中り歩行難相成
千本村より送り出シ則林田村より送り来例之通町分無滞送り遣候
旨大年寄忠兵衛より届出在分も無滞送り遣候旨昼時分申出候付両
役所一諸ニ御用番惣右衛門殿大目付井上孫兵衛江手紙ニ而御届申
候

一箕作丈庵娘さと拾七才此度備前国和氣郡塩田村弥平次と申もの方
江養女ニ差遣度旨御当地人別除ケ丈庵願承届ル

八月十四日 晴 御用日御出席

一竹船式艘御作事御用ニ付積下シ候付小桁木知ヶ原番所裏印之義
取計呉候様ニ関十次□通用有之則両番所通り手形裏印取計遣候
一今日左之通廻状出候

近年鴈鴨渡り候節鉄砲打候故御用之鳥難取候ニ付此節より来
ル十月中鉄砲打候義可為無用候尤十月後たり共於御留場鉄砲
打候義御停止之事ニ候此段申達候様御用所御申ニ付申達候
右之趣同役并支配方江も可被相達候以上

八月十四日

大目付

八月十五日 晴

一大目付永井甚大夫今朝江戸表□被致出立候
一町方御借入銀日限今日迄之処今以不納ニ付猶又大年寄忠兵衛
不納之者町内年寄呼出シ此上随分相働是非皆済致候様申渡其上納
兼候面々町内吟味被仰付候間町内之者吟味之上不勝手之者上納難

相成者共八年寄組合より難事差出候様年寄共江忠兵衛可申渡旨
御用所被仰渡候段昨日井上孫三兵衛被申渡右之趣則忠兵衛江
今曉方申渡候

八月十六日 晴風

一京都大覚寺宮御用之由年来四十計り飛脚躰之者病氣之由ニ而昨十
五日坪井駅ハ駕籠ニ乗せ御城□馬借問屋江送り来り右之者何方江
罷越候様子茂相不知レ勿論坪井駅ハ参候人足申口西筋三鴨新庄辺
ハ送り来り候由飛脚躰之者往来致候付当所問屋ニ而請取右病人不
相勝様子ニ付早速医者井上一□片岡東馬兩人江見せ薬等給させ候
得共熱強ク言舌分り兼何方江罷越候者共不相知候得共京都江罷帰
候飛脚躰之者荷物こり式ツ絵府。有之病氣差而急篇も有之間敷哉
と存薬等用意致させ又々駕籠ニ乗せ勝間田駅江昨昼後差送候処勝
間田駅問屋場辺ハ病氣差重り向方問屋へ引渡候時分致病死右ニ付
勝間田問屋ニ而難請取旨申聞候由「□此方へ注進向方ハ大年寄
合曉へ。注進申越候付早速大目付井上弥三兵衛へ罷越及相談夫御用
番惣右衛門殿江罷越及御沙汰右病人又々駕籠人足等勝間田江差向
今夕兼田橋どこ辺迄引戻させ死骸檢使被仰付御徒目付遠藤十助当
役所ハ部屋目付川端又六下目付壱人右出役致兼田橋どこ河原ニ而
檢使見届候処病死ニ相違無之趣申出候付右死骸ハ林田高福寺へ被
仰付御手合セ被成置則高福寺内へ仮埋取計セ且又右之次第京都御
留主居田中武兵衛江新五兵衛ハ通用及文通右荷物絵府共ニ武兵衛
迄以飛脚送り遣候様被仰渡則今夕右書状認御用番中大目付中江懸
御目今夕町方之者飛脚忠兵衛ハ申付明朝差立候積ニ取計候右等之

趣委細之訳武兵衛江申遣候文段ニ有之則寄翰留ニ写置候

右病人所持之絵附左之通

大覚寺宮

菊之紋 御用

裏焼印紙ニ而記有之

こり沓ツに指札有礼左之通

大覚寺宮内

本多帯刀荷物

一右旅人病死ニ付問屋役人々遂吟味候処從公儀御尋之者ニ而ハ無御座候由一札差出シ則大目付中江差出シ其後ニ当役所江納置候様ニと被相戻候付御用簞笥江入置候事

八月十七日 曇

一「藤十郎義近年足痛いたし近来ハ差重り歩行相叶不申由ニ付勝北郡湯郷村へ入場致度旨明十八日罷立ニ廻り計之逗留ニ而罷帰度由藤十郎承届ル
一播州加古川ねぢわく細工手伝九郎兵衛七次郎と申者式人例年之通呼越当十二月中頃迄ニ階町嶋屋藤吉方に逗留為致旨藤吉断書承届ル

一明十八日五ツ時御供揃ニ而司馬五郎様嵯峨辺江御殺生ニ御出被成御道筋大番所今町夫々安岡町二ノ宮原江御出被成候由小嶋右内々申来此段大年寄忠兵衛江申遣候
一今朝町飛脚を以京都田中武兵衛江文通ニ及則為致出立候
一町方宗門帳三拾式冊添證文式拾七通相違之分宗旨奉行中々相戻り

則直シ差出候様大年寄「申付候

八月十八日 小雨 御用日御出席

一司馬五郎様今日御殺生御出御延引被成候旨申来候付大年寄江其段為知遣候

一本源寺裏手小道ニ而ころも沓ツ。拾ひ候由此段申出候「西大番所

橋江右之建札為致置候様可申付旨大目付井上弥三兵衛より被申渡候付則大年寄呼出シ右之段申付候

八月十九日 晴

一今日九ツ半時御供揃ニ而司馬五郎様嵯峨辺江御殺生御出被成候旨御道筋田町御門より田町筋右両所今町安岡町二ノ宮原筋江御出被成候由小嶋右内より申来此段大年寄江申遣候

八月廿日 晴

一小田原御領分久米北条郡山手公文南村庄助弟喜三郎と申もの伊勢参宮下向より病氣付「難歩行成勝南郡岡村より送り出シ則林田村より送り来町分無滞送り遣シ候旨昨夜申出今日在分も送り届相済候付一諸ニ御用番惣右衛門殿大目付井上弥三兵衛江手紙ニ而御届申候

八月廿一日 曇

一町方宗門帳三拾式冊添證文式拾七通相違之之分直シ下方々昨日差出シ候付宗旨奉行中江今日相廻シ相済候
一今日万人講場所請取ニ小頭左五兵衛差出シ郡代所々下代害人引渡シニ差出シ候
一竹船老艘御作事より御用ニ付積下シ候付小桁木知ヶ原番所裏印取

計具候様ニ関十次より申来則兩番所裏印手形式通取計遣候

八月廿二日 曇

一雲州能義郡宮田村幸右衛門娘とめと申もの伊勢參宮下向より病氣付歩行難成播州揖西郡芝田村の送り出シ則林田村より送り來町分無滞送り遣シ候旨大年寄忠兵衛より申出在分も無滞送り遣相濟候付兩役所一諸^(ト)ニ御用番惣右衛門殿大目付井上弥三兵衛江手紙ニ而御届申候

八月廿三日 雨 御用日御出席

八月廿四日 雨

一新魚町米四郎縁類之者絹屋五郎右衛門と申もの致所持候造酒株米四郎江相譲り置候付此度少々ツ、造酒商売仕度旨米四郎願株相譲り故障之義無之趣ニ付承届ル

一伏見町北側ニ而檢物屋清兵衛後家家屋敷表口式間半裏行拾三間半但御役半役也東隣ハ正木屋八右衛門西隣ハ廿屋新助ニ而右之家屋敷代銀札式百目ニ相極メ町内古銀屋善六江壳渡申度旨清兵衛後家願承届ル同廿七日日本證文出ス

八月廿五日 曇

一昨夜生野御代官所手代大井田与五郎中里忠助連名書狀到來当月十五日上下米大豆小豆蕎麥当町直段之義相場付ニ致奥印相廻シ吳候様ニ申来右飛脚待セ置直ニ大年寄江申付相場付今日差出シ候付則返書認させ今日右書付ともニ直ニ飛脚江相渡シ差遣候右文段文通留ニ有之候

一今曉七ツ過大年寄忠兵衛罷越申聞候ハ山田衛守殿内下女兩人之内

壹人伯州ものニ而新魚町傘屋伊八と申もの妻縁類之由ニ付右伯州もの伊八方衛守殿江奉公ニ差出シ候由然ル処昨夜傍輩之方右伯州ものと致喧嘩候上脇差ニ而切付ケ候由右ニ付右之女魚町江引取候様ニ衛守殿ハ被仰渡候処右伊助夫婦在方江罷越留守故差懸り致方なく組合之者とも罷越請取先ツ組合之者之氣を付伊助方留守江差置候旨右之趣大年寄申出候付一通り御用番惣右衛門殿江及御沙汰大目付井上弥三兵衛江も申達置候

八月廿六日 曇風

一今日八ツ半時頃京都江差遣候飛脚之者罷歸り田中武兵衛より返書來り早速右返書御用番惣右衛門殿大目付井上弥三兵衛江持參御目ニ懸ケ候去ル十五日致病死候者之義向方飛脚ニも無之似せもの之由委細申来右返書ニ有之候

一目明シ十右衛門原田屋利助右兩人義吟味筋之者有之ニ付兩人より承筋有之故今日呼出シ小頭為立合直ニ兩人口承候

八月廿七日 晴風

八月廿八日 晴 御用日御出席

一御用銀追々納候式貫目余之分大年寄月番替故当役所江左之通相納置候尤忠兵衛の送り差添出シ候又々忠兵衛方江右式貫目余之分差戻シ先達而之通銀札場江大年寄方相納させ候

八月廿九日 晴

一去ル廿六日京都田中武兵衛の返書來り右ニ付又々御評儀之上今一応武兵衛江書狀遣候様昨日大目付中ハ被申渡則今日仕廻御飛脚明

日出立ニ付右案詞相認御用番惣右衛門殿へ持參掛御目大目付井上
弥三兵衛江も及對談右書狀相認則明日之御便リニ京都田中武兵衛
江之書狀大坂御藏屋敷迄差遣候右文段別帳ニ記シ有之候

一京町ニ居申候塩屋新兵衛妻義小性町ひぢ屋兵藏姉ニ而之候処右
新兵衛并妻子去ル子ノ年御領分追払被仰付候処右新兵衛妻久々病
氣も罷在御当所江出養生之儀致度由ニ付ひぢ屋兵藏方江新兵衛妻

并倅代三郎為看病相添右兩人兵藏方江差置度由且那寺妙法寺ヲ以
テ相願候処此度御聞届相濟候旨右ニ付新兵衛妻子兩人兵藏方ニ差
置養生為仕度旨右兵藏方斷書差出シ御聞届相濟候儀故承届ル

一京都烏丸通り六角下ル町ニ文字屋九兵衛手代新兵衛金十郎甚六右
三人例年之通呉服売ニ參候由京町ゑび屋長右衛門宿切手差出ス

一大坂北浜大川町錢屋七郎右衛門手代佐兵衛と申者老人例年之通小
間物屋江掛取ニ參候由小性町ひぢ屋兵藏宿切手差出ス

九月 御用番 伊達与兵衛殿
大目付月番 鈴木此右衛門
大年寄 斎藤孫右衛門

朔日 晴
一鍛冶町鍛冶屋清三郎と申もの立願ニ付四国遍路罷出明二日罷立往
来百日計之逗留ニ而罷歸り度旨右清三郎願承届ル

九月二日 曇
一町方御貸り入銀之義ニ付町内吟味去ル十五日申付置候処不納之
者廿七人の分町内歎書差出シ今日右歎書大目付井上弥三兵衛江差

出シ候

九月三日 曇 御用日御出席

一御勘定奉行清水多橋今日大坂御用被仰付候

一來ル九日御用所御出席無之旨大目付中坊主ヲ以テ知らせ有之候

一牢舍人徳左衛門坊主宇兵衛右兩人出牢御領分追払申付候様今日於

御次ニ大目付鈴木此右衛門被立合御用番伊達与兵衛殿被仰渡候

ニ付八ツ時過同心組三舟孫八石名佐助兩人牢屋へ差遣シ則兩人呼

出し左之通申渡之尤小頭左五兵衛不快ニ付部屋目付川端又六立合

申渡相濟直ニ他領皿村江右兩人則三舟孫八石名左助差添遣シ追払

取計セ候右取計相濟夜ニ入御用番与兵衛殿大目付鈴木此右衛門江

手紙ニ而御届申候

徳左衛門坊主 兩人江申渡

宇兵衛

先達而吟味筋有之入牢申付置候処以憐愍御領分追払

申付候

一大年寄玉置忠兵衛方江播州龍野の半兵衛大助久四郎忠七加七郎幸

七次兵衛藤次郎半次郎市藏伊左衛門ノ十老人例年之通呼寄セ来辰

四月迄召抱油仕事為仕度旨忠兵衛願承届ル

一町方御借入銀先日相納候後左之通相納候由取早右之外相納不申旨

此間大年寄忠兵衛の申出候付則左之分先日之通銀札場江相納請取

手形被差出候様一昨朔日忠兵衛江申渡置候処則相納相濟候由札元

請取手形今日差出候故右手形ニ而近々御金藏江相納申積之事

一銀百巻匁

一 錢三十匁

一 銀札式貫五百八十七匁五分

合式貫七百十八匁五分

七月廿九日御金藏江相納候分共ニ

都合八拾貫九百五匁八分右御借入相納候高

九月四日 晴

一 司馬五郎様今日泰安寺江御仏詣御定日之処今日者御延引被仰出候旨稻垣茂士ハ為知申来候

一 生野御代官所手代大井田与五郎中里忠助連名書状到来米大豆相場書之義申来霜月二日頃返書取ニ可差越旨則相場書之義申付候様大年寄江申渡置候

九月五日 晴

一 町方御貸り入後納之分左之通銀札場江大年寄忠兵衛より銀相納右請取手形を以送り相認今日御金奉行中江相納候

式貫七百拾八匁五分 相納候銀錢銀札共

一 錢相場。卷匁ニ七拾式文通用立替候旨大年寄孫右衛門より申出候

一 今日左之通御触書出惣町中江相触候様大年寄江申遣同心組牢屋三軒屋ハも相触候様部屋目付川端又六江申渡候

於江戸表御台様御不例之処御養生不被為叶去月廿日被遊蕩去候旨申来候依之普請鳴物高声御停止之事候尤日數之儀ハ追而可被仰出候

右之趣同役并支配方江も可被相達候以上

九月五日

一 京都御留守居田中武兵衛ハ書状到来先達而申遣候大覺寺宮御用と

申繪府致所持候病死者之義ニ付又々々武兵衛方ハ書状到来則翌六日御用番中大目付中江持参御目ニ懸候

九月六日 曇夜中雨

一 今日左之通廻状出惣町中江相触候様大年寄江申遣同心組牢屋三軒屋江も相触候様小頭左五兵衛江申遣候

御台様薨去ニ付普請ハ来ル十一日迄鳴物高声ハ来ル十九日迄御停止之旨被仰出候右ニ付来ル九日重陽之廻勤可為無用候

右之趣同役并支配方江も可被相達候以上

九月六日

九月七日 雨

九月八日 曇

一 中買共ハ米相場書差出シ候御蔵米五拾五匁五分町米五拾卷匁五分

九月九日 晴

九月十日 晴

一 撰州大坂玉造上末綿町松坂屋忠右衛門と申者老人例年之通唐弓弦おろし売ニ参候由東新町因幡屋新七宿切手差出ス

一 撰州大坂嶋之内大宝丁善次郎と申者老人例年之通「」するのふ金どふし売并直シニ参候由中ノ町福茂屋武助宿切手差出ス

一 播州賀茂郡三木町形屋与兵衛と申者老人例年之通紺屋形売ニ参候由右同人ハ宿切手差出「」

「」小山屋与三右衛門ハ左之通宿切手五通差出ス

播州網干丸尾屋六三郎と申者老人例年之通荒物類并塩物おろし売ニ参候由 壹通

右同州網干平松屋惣九郎と申者老人例年之通小間物并さらし蠟売ニ参候由 壹通

右同州網干余陸屋武兵衛と申者老人例年之通八百屋物并鯉節売ニ参候由 壹通

右同州網干河元屋当七と申者老人例年之通荒物類并鯉節おろし売ニ参候由 壹通

右同州網干野田屋平蔵と申者老人例年之通小間物おろし売ニ参候由 壹通

九月十一日 曇
五通

九月十二日 晴

一 中買共々米相場書差出シ候御蔵米五拾六匁五分町米五拾式匁五分

一 播州網干塩屋伊兵衛同弟助三郎と申者式人例年之通荒物塩物。売。おろし
ニ 参候由中ノ丁正木屋伊右衛門宿切手差出ス

一 播州網干余陸屋惣七同手代彦右衛門と申者式人例年之通八百屋物おろし売ニ参候由中ノ丁正木屋伊右衛門宿切手差。おろし

一 摂州池田ニ居候河村周作と「の元魚町湊屋」「義縁類のものニ而此度内用有之罷越喜七」「三十日計逗留為仕度旨湊屋喜七。承。願届ル

九月十三日 晴

一 町分宗門帳五冊添証文五通先頃相直シ不申由ニ而又々今日宗旨奉

行兼役黒田多膳より被相「候付急ニ相直シ差出シ候様ニ大年寄江申遣則相」「翌十四日直シ差出シ候付則黒田多膳江相廻シ候

九月十四日 晴 御用日御出席

一 江州神崎郡新堂村嶋屋新平と申もの老人同手代弥次兵衛平助と申もの式人ノ三人例年之通きせる并墨筆おろし売ニ参候由境町西川屋善助宿切手差出ス

一 伏見町倉敷屋太兵衛梓孫三郎義此度京都近江屋市右衛門方伯州倉吉江呉服商内ニ参呉候様ニ被相頼内縁も有之候付差遣シ明後十六日罷立当十二月下旬迄逗留仕らせ度旨倉敷屋太兵衛願承届ル

九月十五日 曇

一 京都御留守居田中武兵衛江去月廿九日指「書状之返書又々今日申来右書状則御用番与兵衛殿「持参御目ニ懸大目付中江も致持参候

九月十六日 晴

一 「御代官平岡彦兵衛殿手代中里忠助大井田与五郎連名書状到来当卯七月十五」「津山町上中下「相場之義下方江申付相場書」「シ呉候様ニ申来則右相場書之義明日晩方迄ニ申付差出候様ニ大年寄江「遣尤明後日返書取ニ可参旨仍而右相場書共ニ明後日取計遣候様。積り之事。致儀候

一 京六条上ノ口通高瀬川西江入ル町升屋勘六と申もの老人例年之通小間物きせるおろし売ニ参候由二階町境屋伊右衛門宿切手差出ス

九月十七日 曇夜中雨

一 京都田中武兵衛が今日かわこ式ッ先達而相廻シ候荷物被差戻相届

候事

九月十八日 曇 御用日御出席

一 林田町豊国屋重右衛門借屋江御作事杖突石井幸七と申もの引越セ申度旨重右衛門願承届ル

一 紀州海士郡日方浦池谷町善四郎手代宗十郎藤七政吉利右衛門四人例年之通梳折敷売ニ参候「小性町田戸屋宗十郎宿切手差出候

一 中買とも米相場書差出シ候御蔵米五拾八匁五分町米五拾四匁五分

一 例月四日廿九日司馬五郎様御仏詣刻限「四ツ時ニ相成候旨稲垣茂士より通用有之候付大年寄孫右衛門江申渡置候

一 先達而町方江被仰付候御用銀皆納いたし候「致出精候付御酒被下候間大年寄於宅取計不納「もの共不足之分ハ是非申付候高「当

暮迄ニ上納或ハ来春ニ至候而も是非相納候様可致其内不足之分預りいたし当役所江差出候様ニと右当月可申渡之旨今日大御目付并

上弥三兵衛より被申渡候付大年寄孫右衛門呼出シ此段申渡候
皆済之者人数 九拾壹人
不納不足致候者人数 式拾七人

一 昨十六日生野御代官所手代申来候米相場書并返書取ニ宮尾村

一 明十九日迄御遠慮ニ付当月所々祭礼無之徳守宮祭礼来ル廿二日祭

一 礼有之候付例年之通夜宮より小頭同心組警固罷出候様小頭江申渡置候

一 徳守宮今夕夜宮明日祭礼日ニ付今夕夜廻りより徳守江見廻りニ罷

越明日昼廻りハト通見廻り罷出候様ニ同心組江申付候此段大目付中江承合此趣ニ取計候様ニ被申聞候依而今明日警固者無之候

一 明十九日生野御代官平岡一学殿御城下通行被致候付例之通先扨同心組罷出候様小頭左五兵衛江申遣シ大年寄孫右衛門へ先格之通取

計候様申遣候事
一 右御代官先触申来候趣大年寄孫右衛門ハ早速註進申出候事

一 右御代官明十九日泊ニ相成候付先格之通町奉行「止宿江見廻ニ可罷越哉之旨御用番与兵衛殿江罷越御伺申候処先格之通止宿

江可罷越旨被仰聞此段大御目付鈴木此右衛門江も申達人馬之儀兩役兼被仰付被下度旨申遣候

一 右御代官泊り宿之儀堺町鳥屋与三次江此間申付置候
九月十九日 曇

一 生野御代官平岡彦兵衛殿御子息一学殿見習被相動候由昨十八日赤穂郡久崎村と申所ニ被泊候由今日暮六ツ時当町着被致堺町鳥屋与

三次方ニ止宿被致先格之通町奉行ニ而見廻ニ罷越新五兵衛義川崎村へ罷出夫ハ直ニ絹布裏付上下ニ而罷越取次矢部丹次と申者対面

挨拶いたし別人黒田伴次郎と申者罷出是又挨拶におよび夫ハ一学殿被逢候付罷通対面相成之挨拶ニおよひ直ニ引取帰リ懸ケ御用番

与兵衛殿江罷越御届申大御目付鈴木此右衛門江手紙ニ而相届候新五兵衛御貸人馬例之通若高商人一人中山伝次召通候者人御貸

一 御使者被遣大御番平沼織右衛門被相動候右立宿元魚町菊屋江申付候

一 御先扨同心組。森権六神田権兵衛相動夫ハ旅宿「夜中九ツ時

迄相詰夫々川端又六三船孫八相詰明朝「兩人直々先払相勤候筈候
一播州網干新在家印部屋清六と申者老人例年之通塩物并經節おろし
売ニ昨日参候由勝間田町吉田屋与三兵衛宿切手差出ス

一播州網干横浜菊屋弥七郎同手代善藏上下式人例年之通小間物おろ
し売ニ昨日参候由右同人宿切手差出ス

九月廿日 晴

一今朝六ツ半時頃平岡彦兵衛殿御子息一学殿旅宿被致出立町分先払
同心組川端又六三舟孫八相勤無滞通行相濟御用番并大目付中江相
届候

一今日町方之者御用銀皆済いたし候もの共九拾老人江御吸物御酒被
下大年寄玉置忠兵衛於宅。取計ハセ候尤小頭左五兵衛老人より之
為差遣シ候晩方右取計相濟御用番与兵衛殿江一通り新五兵衛御礼
ニ罷越候

(別紙) 一右九拾老人之内今日当病拾人有之左之者共

勝間田町神田屋次七郎 同町山かたや喜兵衛 林田町かたや又七
材木町河内屋藤三郎 伏見町倉敷屋太兵衛 魚町かたや七左衛門
宮脇町竹田屋安左衛門 元魚町紙屋善十郎 坪井町はまや作右衛
門 安岡町小倉屋次右衛門

ノ拾人

一中買共る米相場書差出シ候御藏米六拾目町米五拾六匁

九月廿一日 晴

一同心組室井作右衛門義病氣久々引込罷在候処病氣快今日致出勤
候段小頭左五兵衛届出作右衛門義も罷出致对面候

(ママ) 御 一野井野預り所。倉敷村又右衛門と申者願候筋有之御当役所へ出訴

之義相断出候由右ニ付河端代八古川弥四郎兩人「添簡ヲ以テ罷
出尤林田町福吉屋平七平助へ懸り合之義有之由何分遂吟味候上從
是可得御意旨先一ト通り返書ニおよび右罷出候者へ相渡遣候

一西川小形進六酒井良藏永松太惣左衛門連名書状到来当十月米相場
平均直段相極候ハ、可申遣旨頼来明廿二日返書町宿迄可出シ置積
り之事

一鍛冶場前土橋懸渡シ出来今日橋往来ニ而舟渡シ相止候旨御役人
藤田弥左衛門林十郎次相届出候付此段御用番与兵衛殿大御目付
鈴木此右衛門江手紙ニ而相届申候事

一安岡町小右衛門梓庄八式拾四才同人妻すて式拾式才同人梓勘兵衛
三才右三人此度新田村武平方江引越シ申度町内人別除ケ申度旨小
右衛門願両役所引合候上承届ル

一今日徳守宮夜宮ニ付例之通為警固小頭石名左五兵衛并平組中山市
左衛門石名左助中山伝内福田基藏罷出候

九月廿二日 晴

一奈良今井町墨屋伊兵衛手代源助と申者老人例年之通墨売ニ参候由
京町加茂屋和六宿切手差出

一西川役人々昨日差越候書状之返書今日玉嶋屋迄差遣置候

一一生野御代官平岡一学殿明廿三日宮尾村出立ニ而御城下通行生野江
帰陣被致候旨先触到着候段大年寄孫右衛門届出候付町分先格
之通取計候様孫右衛門江申付御先払同心組罷出候様小頭江申遣候
一右御代官通行ニ附先格之通町在取計可申段御用番中へ及御沙汰大

目付中へも申達置候

一今日徳守宮祭礼ニ付例年之通警固小頭平組差出候小頭石名左五兵衛平組中山伝内藤森権六神田権兵衛福田甚蔵罷出候祭礼無滞相濟候段届出候付御用番中大目付中江手紙ニ而御届申候

一大坂堺筋北久宝寺町岸部屋茂十郎手代五兵衛と申者上下式人例年之通小間物おろし売ニ参候由新魚町鳥屋与三兵衛宿切手差出ス

九月廿三日 雨 御用日御出席

一今日大般若御祈禱有之例之通無滞相濟候御札三枚例之通相廻り外ニ拾壹枚小勤者ノ請取同心組江相渡候

一播州今市綿屋嘉市郎手代忠七武兵衛と申者式人例年之通呉服売ニ参候由二階町境屋伊右衛門宿切手差出ス

一生野御代官平岡一学殿今朝宮尾村被致出立候由御城下六時過被致通行例之通御先弘同心組藤森権六神田権兵衛罷出候無滞町分通行相濟候段申出候付御用番中大目付中江御届申候

一乃井野役人古川弥四郎河端代八より一昨日差越候書状之趣今日御用番中江及御沙汰大目付中江も申達候

九月廿四日 曇

一今晚御飛脚仕廻ニ付先日京都田中武兵衛ノ追々差越候書状之返書

一緒ニ認明日之御便りニ差遣シ相濟候右返書下書昨日御用番中大目付中懸御目ニ差遣シ候委細書翰留ニ有之候

一今日大隅宮祭礼有之例之通町分江同心組四人差出シ川端又六三舟孫八室井作右衛門石名左助罷出候尤大隅祭礼相濟不及届ニハ先格也

一丹州宮津本町紙屋与七郎と申もの壱人例年之通ふともの絹きれく売ニ参候由新魚町とり屋与三兵衛宿切手差出ス

一今日小須賀一学殿江戸表ノ御帰着有之候

九月廿五日 晴

一桶屋町嘉平次と申もの福永屋番頭金銀紛失之義ニ付今日九ツ半時呼出シ小頭部屋目付立会セ吟味筋有之嘉平次口承候尤大年寄孫左衛門孫右衛門兩人罷出諸吟味伊勢屋長右衛門并町内年寄組頭組合も罷出則口書取之由

一坪井町高砂屋兵助所持之他国請酒株当卯ノ九月辰ノ九月迄壹ヶ年之間小性町□屋理七借り請商売仕度旨理七借シ主兵助連印願差出シ承届ル

九月廿六日 晴

一昨廿五日九ツ半時より司馬五郎様二ノ宮辺江御遠乗ニ御出被成御道筋京橋御門ノ京町本町通御出被成候旨稻垣茂士ノ申来此段大年寄江申達候

一今日四ツ時より牢舎人八十八野郎文次郎穢多弁蔵右^三人呼出シ小頭左五兵衛部屋目付川端又六平組両人中山市左衛門神田権兵衛差出シ目明シ十右衛門立合セ又々致吟味口書取之候右吟味相濟出入ともニ市左衛門権兵衛牢屋江差遣シ候

九月廿七日 晴

一今日九ツ時より牢舎人仁左徳兵衛幸松茂八右四人呼出シ小頭左五兵衛部屋目付藤森権六平組三舟孫八福田甚蔵差出シ目明シ十右衛門立合セ致吟味口書取之候右吟味相濟出入ともニ孫八甚蔵牢屋江

差遣シ候

一茂渡藤右衛門義用事御座候付伯州黒坂村安右衛門方江罷越度旨来ル廿八日罷立往来七八日計之逗留ニ而罷帰度旨藤右衛門願承届ル

九月廿八日 晴 御用日御出席

一今日九ツ半時御供揃ニ而司馬五郎様川部辺江御遠乗ニ被為入御道筋京橋御門より本町通御出被成候旨小嶋右内申来則大年寄孫右衛門江此段申遣候

一昨日致吟味候牢舍人四人之者吟味書今日大目付中江差出シ置候

一新魚町肥後屋次兵衛後家養子ニ大庭郡久世村大庭屋佐兵衛倅佐七と申者去ル二月養子ニいたし罷在候処此度不縁ニ付右佐兵衛方へ

差返シ度旨町内人別除ケ願肥後屋次兵衛後家申差出シ承届ル

一三浦志摩守殿内筑摩源右衛門渡辺庵兵衛兩人連名之書狀勘定奉行中宛ニ而到来当十月米平均相場相究候ハ、可申遣旨申来り明朝右及返書候積リニ魚町樫野屋江申遣置候

九月廿九日 晴

一昨夜勝山より差越候書狀之返書今日。飛脚罷在候樫野屋江為持遣シ候

一摂州堺町楯屋左兵衛と申者墨筆売前分御当地へ参来り私宿仕候然ル処近年不勝手罷成候而得参上不仕候依之佐兵衛甥北糸屋町河内屋甚右衛門と申者右同所ニ而京物類木綿類反物并絹切々売買仕候右左兵衛替ニ御当地へ出入仕らせ度旨中ノ丁福茂屋夫助願差出シ外故障之儀も無之旨大年寄孫右衛門申出候付承届ル

九月晦日 晴

一紀州高野山万生院快僧密然と申僧上下三人例年之通御当地江旦那廻リニ参候由坪井町桔梗屋庄右衛門宿切手差出候

一昨廿八日之夜野条縫助はな紙入元魚町より二階町辺ニ而落シ候由右ニ付町方江触流シ取計呉候様ニ内々ニ而頼被申聞候故此段昨大年寄孫右衛門江申遣一通り触流シ取計候様ニ則孫右衛門江申遣候

一明朔日六ツ半時御供揃ニ而司馬五郎様杉山江御鹿狩ニ御出被成候旨御道筋京橋御門より御出被成候由稲垣茂士申来此段大年寄江申遣

十月

御用番 山田衛守殿

大目付月番 井上弥三兵衛

朔日 晴時雨

一御勘定奉行清水多橋大坂表江今朝出立有之候

十月二日 晴

一大年寄齋藤孫右衛門方始座之義此度「玉嶋屋安右衛門方ニ而為売申度由尤孫右衛門方ニ而始売候事ハ相止候旨同役孫左衛門を以届口上書を以申出承置候

一坪井町大坪屋伝右衛門後家所持之家屋敷表口四軒裏行拾七軒御役者軒役也東隣者糝屋くに家屋敷西隣ハ塩屋八郎右衛門家屋敷右之家屋敷代銀札五百匁ニ相極メ町内富士屋嘉右衛門江売渡シ申度旨伝右衛門後家願承届ル同七日日本証文出ス

十月三日 晴 御用日御出席

一先年会所有之節之上総殿屋敷前ニ捨有之候番脇差一腰是者其節誰拾イ候哉当役所ニ差置候様ニ大目付中ハ被申聞候由外ニ去寅ノ十二月戸川町ニ而綿打長八と申者拾イ候由小脇差一腰町内年寄其節役所江差出シ預リ置又外ニ当二月橋本町朝本屋源蔵借家ニ居候中間権八と申者拾イ候脇差一腰右三腰町奉行所ニ有之右脇差取早拾イ候者江差遣シ可然旨今日大目付中江及対談候処右之通取計可然候段大目付中被申聞候付今日御用番衛守殿江御伺申上候処御評儀之上右伺之通夫々江遣候様可取計旨被仰渡候付此段大年寄孫左衛門江申渡朝本屋源蔵江右一腰相渡シ御中間権八江源蔵ハ相渡候様申渡戸川町分一腰是も拾イ主江遣候様町内年寄へ可申渡旨大年寄孫左衛門江此段申渡候

中間権八拾イ候脇差者備中ノ国住皆部アザイ「と有之一ト通り
捨有之也

戸川町之者拾イ候脇差鹿相成物無銘

上総殿屋敷前ニ有之番脇差拾イ候者耽と不相知先役所ニ差置候

一去ル八月十五日致病死大覚寺官様似せ絵府致所持候病死者之荷物こり式ツ先ツ是ハ当年中当役所ニ差置右病死之者所持之錢九百文余りはハ其節借埋被仰付「高福寺江世話ゆき料之為鳥目ハ被遣候而も可然旨今日大目付中へ及対談候上此段御用番中江御伺申上候処其通り取計候様被仰渡尚又大目付中へ申達候処是ハ当役所より高福寺江内々ニ而遣シ可然旨井上弥三兵衛被申聞候故又々此段御用番衛守殿江御伺申上候処左候ハ、内々ニ而取計遣候様御差図

有之依之同心組ニ右之意味合申含近々高福寺へ右鳥目計リ差遣候様大目付中江対談相極置候

一当月大年寄共札元御用達御目見申上候節差上候經節惣町經節扇子代銀札七十九匁五分町方ハ差出シ候付今日小勘者所江相廻シ大納戸ハ請取手形取之則大年寄へ請取相渡候

一野条縫助ハ此間内々ニ而頼来り候鼻紙入拾イ候者申出候様ニ町方江触流シ大年寄ニ取計セ候処小性町作人宗兵衛と申もの二階町之内八百屋町ニ而拾イ候由右紙入今日差出シ候「縫助江相戻シ遣候一中買共ハ米相場書差出候御蔵米六拾壹匁町米五拾」

一御勘定奉行栗田唯次今日江戸表ハ帰着有之候

十月四日 晴

十月五日 曇九ツ時分ハ雨

一錢相場七拾三文遣立替り候旨大年寄孫右衛門より今日届出候

一昨三日御用所江及御沙汰大目付中江対談致置候林田高福寺江遣候鳥目右致病死候もの所持之分不残九百五十文今日同心組川端又

六江申付町奉行所ハ為持遣シ候則高福寺請取差越御用算笥江入置候

候

十月六日 風雨

十月七日 晴

一備前国邑久郡山田村源左衛門と申もの忤甚平と申もの三拾壹才吹屋町金屋勘助肝煎ニ而桶屋町作人長七養子ニ貫ひ申度旨町内人別入長七願承届ル

十月八日 晴

一 明九日六ツ半時御供揃ニ而司馬五郎様杉山辺江御鹿狩御出被成御道筋京橋御門の鍛冶場土橋へ御出被成御帰者広瀬土橋の大番所通り田町御門江御帰り被成候旨稲垣茂士の申来此段大年寄孫左衛門へ申遣候

十月九日 雨 御用日御出席

一 来ル十五日万人講ニ付前夜の町方太鼓為打候旨申出候付此〔〕御用番中へ及御沙汰大目付中へも申達候

一 来月万人講日取之義十五日十八日兩日之内興行いたし度旨講元の伺出候付此段御用番中へ御伺申上候処十八日ニ被仰付則此段大年寄へ申渡候

一 来ル十五日来月十八日万人講有之候付例之通御触書相廻り候

一 去月廿日町方之者御用銀皆済致候もの共御吸物御酒被下右入用銀札式百五拾三匁之由大年寄共請〔〕証文差出シ候付今日。御勘定奉行山岡与左衛門江及対談右之銀札相廻り候付則大年寄孫左衛門江銀札相渡候

一 去月吟味書差出シ候牢舍人玉津屋茂八伯州徳兵衛右見国ノ者幸松明石ノもの仁左右四人御領分追払被仰付候間勝手次第取計候様ニと今日大目付井上弥三兵衛被立合於御次御用番衛守殿より被仰渡候右ニ付来ル十六日取計候様ニ可仕旨井上弥三兵衛江及対談置候

十月十日 晴

一 来ル十五日万人講ニ付町方江之触書例之通取計候様ニ大年寄孫左衛門江申渡候

一 今日江戸表の大御目付永井甚大夫被致帰着候

十月十一日 晴

一 今日万人講場見分小頭左五兵衛差出シ郡代所の下代日下伝平例之通罷出候

一 撰州豊嶋郡池田村月軒町植木屋平兵衛と申者老人例年之通植木売ニ参候由新魚町鳥屋与三兵衛宿切手差出ス

十月十二日 晴

一 中買共の米相場書差出シ候御蔵米六拾匁五分町米五拾六匁五分

一 吉野郡中谷村勘次と申もの老人例年之通晒蠟鏝節木綿嶋并荒物類おろし売ニ参候由境町大宝屋藤兵衛宿切手差出ス

一 播州龍野下町本屋佐吉と申もの老人例年之通書物売ニ参候由二階町境屋伊右衛門宿切手差出〔〕

十月十三日 晴

十月十四日 晴 御用日御出席

一 明十五日万人講ニ付同心加人式人例之通大目付中江申達候

一 中買共の米相場書差出シ候御蔵米六拾匁町米五拾六匁

十月十五日 晴

一 今日万人講ニ付当日町奉行代り御勘定奉行山岡与左衛門郡代栗原新五兵衛五ツ時過の兩人致出役例之通御徒目付下目付小頭同心出役土井左六大年寄斎藤孫右衛門致出役無滞相済御用番衛守殿江罷越相届ケ大御目付井上弥三兵衛江手紙ニ而相届候

寄札高 壹万三千八百壹枚

三步銀高 貳拾貫七百壹匁五分

十月十六日 晴

一今朝五つ時過牢舎人玉津屋茂八伯州之者徳兵衛石見之国之者幸松
明石出生之者仁三右四人御領分追弘左之通申渡之同心組中山伝内
神田権兵衛兩人牢屋へ差遣」則右四人呼出シ小頭左五兵衛部屋
目付川端又六立合セ於宅申渡候川辺御境目右同心兩人差添遣シ追
弘取計セ候右取計相濟御用番衛守殿大御目付井上弥三兵衛江手紙
ニ而御届申候

一今日講元役所へ残り錐渡シニ小頭同心兩人川端又六室井作右衛門
例之通差出シ郡代所下代も差出シ候

追弘四人之者左之通申渡

其方共儀先達而吟味筋有之

玉津屋 茂八

入牢申付置候処以憐愍御領分

伯州之者 徳兵衛

追弘申付候以後立歸り出入之

石見之国之者幸松

徘徊ニ召捕曲事可申付候

明石出生之者仁左

卯十月十六日

一西今町勝屋常右衛門所持致候自国請酒株去ル寅ノ八月坪井町藤屋

嘉右衛門江借置候処此度取返シ申度旨常右衛門願承届候

一西今町勝屋常右衛門所持致候自国請酒株当卯十月の来ル巳ノ十月

迄三ヶ年之間此度安岡丁庄野屋利助へ借り請度旨借り主利介借シ

主常右衛門連印願差出シ承届候

十月十七日 曇

一筑前遠賀郡柏原浦小平次手代庄兵衛金兵衛次吉十五兵衛と申者四

人例年之通茶碗類売ニ参候由小性町田戸屋宗十郎宿切手差出ス

一今日又々残り錐渡シに小頭左五兵衛講元役所江差出候

十月十八日 晴 御用日御出席

一去ル十五日万人講寄高之義今日御用所江及御沙汰大目付中江も申
達候

一安藤造酒助殿今日江戸表の御帰着有之候

十月十九日 晴

一錢巻刃ニ七拾式文通用相成候旨大年寄孫左衛門の相届出候

一大坂北浜大川町錢屋七郎」手代佐兵衛と申者老例年之通小
間物屋江懸銀札取ニ参候由小性町ひちや兵衛宿切手差出ス

一出雲守殿御領分勝間田役人八木伝次郎中村与左衛門連名書状到来

御城下米相場当月十五日より来ル廿九日迄之上中下。相場書遣候

様ニ申来則致承知候趣。及返書候委細書翰留ニ有之候

一今日九ツ時より牢舎人医師八十八穢多弁蔵呼寄シ兩人対決之上致

吟味候尤小頭左五兵衛并部屋目付藤森権六平組中山市左衛門神田

権兵衛立合セ八十八弁蔵兩人対決之上致吟味口書キ取候

十月廿日 晴風

十月廿一日 晴

一備前岡山中ノ町真嶋屋太平次手代源兵衛と申者。例年之通万紙類

おろし売ニ参候由境町西川屋善助宿切手差出ス

一中買共の米相場書差出シ候御蔵米六拾匁五分町米五拾六匁五分

十月廿二日 晴

一今日八ツ時牢舎人文次郎呼出シ小頭部屋目付川端又六平組中山伝

内福田甚蔵立合セ又々致吟味候則牢屋江伝内甚蔵差遣シ取計セ候

十月廿三日 晴 御用日御出席

一 去ル未ノ正月十九日万人講之節四拾四番^三残り錐之分左之通去ル十五日突渡シ候ニ付御勘定所より請取則講元江相渡候事

銀札百六拾九匁三分六厘也

一 中買共々米相場書差出シ候御蔵米六拾壹匁町米五拾七匁

一 紀州高野山宝蓮院使僧円桂房と申僧上下式人例年之通旦那廻リニ

參候由伏見町正木屋八右衛門家守材木町宇助宿切手指出ス

一 西新町升屋惣兵衛妻ニ勝南郡国分寺村定七妹あき拾七才右引請町

内人別ニ差加へ度旨惣兵衛願兩役所引合セ双方承届ル

一 今日昼後より牢屋詮義場江小頭左五兵衛部屋目付藤森権六平組神

田権兵衛右三人遣シ野郎文次郎穢多弁蔵又々吟味致させ候

十月廿四日 晴

十月廿五日 晴

一 備前岡山小畑町鼠屋甚八と申もの老人例年之通元結おろし売ニ參候由二階町境屋伊右衛門宿切手出ス

一 牢舎人野郎文次郎穢多弁蔵今日右兩人拷問申付吟味取計可申之旨

御用番衛守殿江今朝罷越御伺申上候処勝手次第取計候様御差図有

之候付大御目付井上弥三兵衛江も此段手紙ニ而及通用候

一 今日九ツ時々牢屋詮義場江罷越例之通小頭左五兵衛部屋目付川端

又六平組室井作右衛門神田権兵衛目明シ十右衛門立合セ野郎文次

郎穢多弁蔵兩人拷問取計之上嚴敷致吟味候処是迄兩人共偽申聞候

段及白状則兩人口書申付候暮相右取計相済御用番衛守殿大目付井

上弥三兵衛江一ト通り手紙ニ而御届申候

十月廿六日 曇

一 河原町多賀屋平三郎借家ニ居候作人助右衛門五十才妻きく四十七才右夫婦林田上ノ町ろくと申者妻母親ニ而此度勝手ニ付右母方へ引越セ申度旨平三郎願出兩役所引合セ双方承届ル

一 西新町富屋吉兵衛借家江林田上ノ町半兵衛借家ニ居候源助と申者

三十七才同人母七十才妻三十才右三人借家へ引請貸申度旨吉兵

衛願出兩役所引合セ双方承届ル

一 境町西側ニ而ひわた屋助七家屋敷表口四間裏行十一間但シ御役迄

間役也南隣ハ老斛屋作兵衛北隣ハ針屋宗十郎ニ而右家屋敷質物ニ

書入吹屋町北村屋孫七手前々銀札百五十匁当卯ノ十月ヨ来ル巳ノ

十月切壹ヶ月老歩半之利足ニ而借用致度旨右助七願貸シ主孫七連

印ニ而差出シ承届ル十一月二日本証文出ス

十月廿七日 晴

十月廿八日 晴

一 米相場書差出シ候御蔵米六拾壹匁五分町米五拾七匁五分

一 元魚町古川屋惣助方江雲州松江八軒屋町和泉屋九右衛門棹喜代松

と申もの先達而逗留仕居候処又候此度惣助方江百日計逗留為仕度

旨惣助願承届ル

一 鍛冶町鍛冶伝右衛門と申もの伯父六右衛門義五ヶ年已前亥ノ十二

月相願久米南条郡弓削村百姓長吉と申もの方江出職仕罷在候処今

年迄ニ年数相立候付又々来ル辰ノ歳申ノ歳迄五ヶ年之間是迄之

居懸リニ持仕度旨右伝右衛門願出承届ル

一 今日左之通廻状出候

被仰渡之趣有之候間来月朔日四つ時出仕可有之候以上

十月廿八日

大目付

十月廿九日 晴

- 一 雲州杵築大社多久十大夫と申者上下式人例年之通旦那廻りニ参候由小性町ひち屋兵藏宿切手差出ス
- 一 勢州朝熊岳明王院使僧休賀坊悦思坊宝藏坊と申僧上下六人例年之通旦那廻りニ参候由小性町ひち屋兵藏宿切手差出ス

十一月

御用番 渡部惣右衛門殿

大目付月番 永井甚大夫

大年寄

玉置忠兵衛

朔日 晴

- 一 御吉事日ニ付御用所御出席御普代之面々出仕其餘日参之面々裏付上下ニ而罷出御祝義赤飯頂戴之大目付所江御礼申達尤先格之通御用所へハ不罷出候
- 一 今日四ツ時諸月番登城之処御勝手向御難渋ニ付殿敷御儉約被仰出大御目付永井甚大夫江戸表大沢長大夫兩人江御勝手方惣吞込被仰付候旨此段御知セ御書付ヲ以七間廊下におゐて大目付永井甚大夫の演説之趣被仰渡候
- 一 備中倉敷御代官万年七郎右衛門殿手代吉田勝右衛門若林久米右衛門兩人連名書状到来当十月十五日ハ廿九日迄米上中下直段書付相廻呉候様申来則右相場書奥書印形いたし返書共今日直ニ差遣候
- 一 乃井野役人古川弥四郎川端代八兩人連名書状当十月十五日ハ廿九

日迄米上中下直段書付相廻呉候様申来則相場書返書共明日差遣候様可致旨飛脚之者差留置候

- 一 先達而大年寄孫左衛門ハ差出候坪井町あやか六兵衛かきや吉兵衛境公事先日小頭左五兵衛大年寄兩人差遣シ見分致させ候上双方へ見分之通り可申渡旨今日大年寄忠兵衛へ申渡置候右公事訴状書役御用簞笥へ入させ置候
- 一 来ル三日御用所御出席無之旨大目付所ハ坊主ヲ以知らせ有之候

十一月二日 晴風

- 一 昨日乃井野役人ハ申来候米相場三段之書付則奥書致印形今日飛脚之者へ返書共相渡置候
- 一 明三日勝山江米相場書遣候付使組老人飛脚之者被仰付被下度旨昨日大目付中へ申達則今日右書状使組小堀文内と申者へ相渡明朝罷越候様申付候
- 一 西川役所江米相場書差遣候付書状差添今日是ハ町宿。吉田屋迄遣置候事
- 一 明三日五ツ時御供揃ニ而司馬五郎様ニノ宮江御遠乗被為入夫より直ニ田邑辺御鹿狩ニ御出被成御道筋二階町御門八百屋町夫より本町通二ノ宮江御出被成候旨小嶋右内ハ申来此段大年寄忠兵衛江申遣候

十一月三日 晴風

- 一 勝山江之米相場書使組小堀文内飛脚ニ差遣シ今朝差立遣候
- 一 昨夜生野より手代大井田与五郎中里忠助連名書状到来米大豆相場書取ニ飛脚参則今朝右相場書返書共相渡遣候
- 一 鍛冶町鍛冶伝左衛門家屋敷南側ニ而表口式間裏行六間御役三歩三

厘役也東隣ハかち屋又市郎西隣ハかち屋市郎右衛門ニ而此度右之家屋敷代銀札六百目ニ相極メ則東隣之又市郎江壳渡申度旨伝左衛門願承届ル同六日本証文出ス

十一月四日 曇

一町講釈之義当月定日万人講前ニ而場所故障之筋相聞之候付来ル六日十日迄相動候様河合意齋江申渡候旨大御目付永井甚大夫為 hands 紙来則此段大年寄江申遣置候

一坪井役所大友林次より書状到来当十月米相場書遣呉候様申来則右相場書返書共ニ飛脚之もの江差遣候

一宮尾村河岸ハ近々御廻米川下有之由ニ付例年之通柳ノ堤箱番所番人之義例之通申付候様大年寄江申遣候

一牢番中間伊助義病身ニ付番代之義相願候付先格之通同心小頭方ニ而遂吟味候上取計候様ニ申聞候処勝部上村助右衛門と申もの牢番中間相望候由則郡代所江も願差出シ承届候付此段小頭江申渡中間小頭方江及通用候様ニ左五兵衛江申渡候尤伊助番代願承届ル

一山田衛守殿御召仕之女老入追払被申付候付同心組老入致拜借され度旨明五日期五つ時迄ニ衛守殿御宅江可差遣旨手紙ニ而申来候付

同心組明日之出番兩人右之刻差遣可然旨小頭左五兵衛江申遣候
一播州網干新在家村かがや善七手代利八と申者老入例年之通小間物おろし壳ニ参候由中ノ丁福茂屋武助宿切手差出ス

一撰州大坂南本町三丁目小おろし和兵衛と申者老入例年之通墨筆壳ニ参候由右同人宿切手差出ス

一撰州境北糸屋町河内屋甚右衛門と申者老入此度初而木綿類糸物類

反物并絹々々壳ニ参候由右同人宿切手差出ス

十一月五日 晴

一今朝六ツ半時頃同心組川端又六室井作右衛門右兩人山田衛守殿江差遣候処四ツ時過召仕之女老入追払被申渡候由川部御境目江則同心組右兩人差添罷越七ツ時無滞相済兩人罷帰候

一昨朝勝山江米相場書差遣候飛脚使組小堀文内昨四日夜罷帰候尤返書来候

一東新町米屋道休家屋敷南側ニ而表口四間半裏行拾七間御役三歩八厘四毛東隣ハ五木屋源助家西隣ハ中元屋文吉ニ而右之家屋敷并長サ五間ニ横三間之土蔵老ヶ所右之通同町五木屋源助取次ニ而質物ニ書入銀札老實目借用仕度旨尤来ル辰ノ十月切ニ式割之利足を加請返シ申度由米屋道休願出承届ル同十七日本証文出ス

一河原町南側ニ而作人喜代助家屋敷表口四間裏行六間但御役七歩役也東隣ハ作人安兵衛西隣ハ作人理兵衛ニ而右之家屋敷代銀札八拾五匁ニ相極メ同町同組作人理兵衛江壳渡シ申度旨喜代助願承届ル同廿六日本証文出ス

十一月六日 晴

一勝間田役所八木伝次郎中村与左衛門連名書状到来米相場書取ニ飛脚差越則右相場書返書共ニ飛脚之ものへ相渡遣候

一西川江差遣候米相場書當時吉田屋江遣置候処右返書今日向方ハ来候

十一月七日 晴

十一月八日 晴

一奈良今井町岡嶋忠兵衛手代庄右衛門と申者老人例年之通墨壳ニ参候由京町加茂屋和六宿切手差出ス

十一月九日 晴 御用日御出席

一宮脇町西之端大番所前之関貫殊之外損候旨註進□付大年寄忠兵衛ハ此間差出候付今日大目付中へ申達御作事ハ見分有之候様申立置候

一今日左之通廻状出町方江相触候様申遣自身番之義も先格之通申付候様ニ是又申遣候尤左之趣同心組牢番足輕中間三軒家江相触候様ニ小頭左五兵衛江申遣候

来正月梅香院様十七回御忌之処御取越来ル十四日於泰安寺

御法事被仰付候此段為相知候様被仰出候

右之趣同役并支配方江も可被相達候以上

十一月九日 大目付

一先達而町方御用銀被仰付候砌新五兵衛義出精致候付来ル十五日御吸物御酒被下候旨今日大目付永井甚大夫より被仰渡候御勘定奉行栗田唯次山岡与左衛門江も御吸物御酒被下候段甚大夫より被仰渡有之候由其外江戸表ハ御婦シ被成候面々御婚禮御用相動候面々右同様同日御吸物御酒被下候由

一来ル十四日御用所御出席十五日ニ相成之旨大御目付永井甚大夫より被申聞候

一米相場書差出シ候御蔵米六拾匁五分町米五拾六匁五分

十一月十日 晴

一米相場書差出シ候御蔵米六拾匁匁町米五拾七匁

一伏見町辻屋市郎兵衛義三拾才近来殊之外不勝手ニ罷成渡世送り難

ニ付此度大坂本町木村屋吉右衛門と申もの方江来ル巳ノ三月迄三ヶ年之間奉公仕度旨尤留守引請之義ハ縁類之もの元魚町八百屋平左衛門家守役町用之義何用引請世話仕候旨右市郎兵衛并元魚町八百屋平左衛門連印ニ而願出承届ル

一銀札場より錢六拾箇備前江積下シ有之候ニ付例之通両番所通り手形裏印取計呉候様ニ銀札場奉行中ハ申来則木知ヶ原小桁両番所裏印取計遣候

十一月十一日 晴

十一月十二日 晴

一来ル十四日梅香院様御年回御取越御法事ニ付四ツ時司馬五郎様泰安寺江御参詣被成候由已後正月十四日御証月ニ付御仏詣被成候之由宇津木弥右衛門より通用手紙来り此段大年寄玉置忠兵衛江申遣置候

十一月十三日 晴

一今日万人講場所見分ニ小頭石名左五兵衛差出□郡代所ハ下代植月喜三次例之通差出シ候

十一月十四日 晴

一今日御法事ニ付今朝同心組兩人川端又六室井作右衛門西大番所江辻固先。例之通差出候

一来ル十八日万人講ニ付町方江之触書例之通取計候様ニ大年寄忠兵衛江申渡候

十一月十五日 晴 御出席有之

一今日七間廊下におゐて此間被仰渡候左之面々御吸物御酒被下之右相濟大目付役所江罷出御礼申述候

栗田唯次 山岡与左衛門 栗原新五兵衛 御小性 丈助

馬場熊次 山岡十蔵 御金奉行 次左衛門 御料理人田淵

嘉平次 飯塚祐助 池部孫大夫

一來ル十八日万人講ニ付前夜分町方太鼓為打候旨申出候付此段御用所江及御沙汰大目付中へも申達置候

一來ル十八日万人講ニ付同心加人式人并御貸人馬之儀大目付中へ申達小勤者中へも申達置候

御貸人馬之儀ハ郡代所日記ニ記シ可置事

一今日於御用所大目付永井甚大夫立合レ御用番惣右衛門殿分新五兵衛江又々左之通被仰渡候勘定奉行兩人へも又々御酒被下候段於御用所被仰渡候由御吸物御酒頂戴後大目付中へ御礼申退出後御用所廻動いたし候

先達而町方へ御用銀被仰付候砌致出情太義(マ)ニ思召候依之今日御吸物御酒被下候

右被仰渡早而御用番惣右衛門殿分左之通被仰渡候

先達而町方御用銀被仰付候砌大年寄共相働候ニ付今般御吸物御酒被下候之間此段可取計候

右之趣被仰渡候付則今日大年寄月番玉置忠兵衛呼出シ小頭左五兵衛立合セ此段申渡シ孫左衛門孫右衛門へも忠兵衛分申達候様申渡候依之來ル十九日新五兵衛宅へ八ツ時罷出候様申聞

一來月万人講被仰付候間此段申渡取計候様御用番中分被仰渡候旨大御目付井上弥三兵衛分今日被申渡則此段講元へ申渡候様大年寄へ

申渡候尤日取之儀差懸り之処來月五日と相極此段御用番惣右衛門殿へ御窺申則五日ニ相極り是又大年寄江申渡置候

一明十六日五ツ半時分司馬五郎様二ノ宮江御出被成夫分川向川下江御出加茂川刃夫分林田村之方上ノ丁江西歸り被成候由御道筋小嶋此母前分細工之丁大番所夫より今町安岡町御出被成候旨稻垣茂士分通用有之町分御道筋則大年寄忠兵衛江申渡候

一今日左之通廻状出町方江相触候様忠兵衛江申渡同心組牢番三間屋番人へも相触候様小頭左五兵衛江申渡候

御前様御名御勢与様与奉称候右御名ニ差合候名相改候様被仰出候

右之趣同役并支配方へも可被相達候以上

十一月十五日 大目付

十一月十六日 晴

一昨日郡代所江註進申出候三州渥美郡中柴村ふさと申女西筋分送り來り候ニ付町分林田村江送り届候段大年寄忠兵衛分届出在分送り遣シ候ハ、両役所一諸(マ)ニ御届申積ニ致置候処則昼後御領分村々無滞送り遣候段申出候付両役所一諸(マ)ニ御用番中大目付中江御届申候

一同心組藤森権六今日牢屋江遣シ置候西部下村源四郎吟味中入牢申付候付例之通同心組老人差出シ候

一宮脇町徳守地子居米子屋吉助夫婦伯州米子之ものニ而去春当所江罷越近来宮脇町福松屋和七借屋ニ居候処右夫婦勝手ニ付此度国元親共方西罷歸り申度町内人別除右吉助願家主福松屋和七連印ニ而差出シ承届ル

一 来月五日万人講被仰付候付其節之割合書付差出シ則建札之義大年
寄忠兵衛江申渡候

十一月十七日 曇

一 梅香院様御法事此間於泰安寺被仰付右ニ付来ル廿日座頭共御布施
頂戴ニ罷出候旨大年寄忠兵衛申出候付御用番惣右衛門殿江罷越
右之段御伺申候処御布施可被下置旨被仰渡尤勘定奉行中へ可及通
用由御差図有之此段大御目付永井甚大夫江も申達候則御勘定奉行
山岡与左衛門へ通用手紙遣シ例之通銀札場取替有之候様是又及
通用候仍而来ル廿日被下置候段大年寄江申遣候

十一月十八日 晴風 御用日御出席

一 今日万人講ニ付当日町奉行代り御勘定奉行栗田唯次郡代栗原新五
兵衛五ツ時過シ兩人致出役御徒目付下目付同心小頭平組出役土井
左六大年寄藏合孫左衛門致出役無滞相濟御用番惣右衛門殿江罷越
御届申大目付永井甚大夫江手紙ニ而相届候

寄札高老万式千貳百七拾壹枚

三步銀高八貫四百六匁五分

十一月十九日 曇

一 大年寄共三人江御吸物御酒被下候付今日於宅取計遣候右相濟御用
番中江一通り御礼新五兵衛罷越候
一 今日講元役所江例之通小頭左五兵衛郡代所下代植月喜三次差出シ
渡シ場江同心組兩人例之通差出シ候

十一月廿日 曇夜中雨

一 今日配當場江小頭左五兵衛部屋目付藤森権六罷出座頭共江御布施

被下左之通無滞相渡シ相濟候段小頭部屋目付届出配當場城正城並
兩人より例之通書付差出シ候

合銀札六百拾匁式分五厘

相渡候

十一月廿一日 朝雨昼後晴

一米相場書差出シ候御藏米六拾目町米五拾六匁

十一月廿二日 晴風昼後雪

一 京都愛宕山長床防使僧常意防と申僧上下三人例年之通旦那廻りニ
參候由小性町ひちや兵藏宿切手出ス

一 今日左之通廻状出例之通夫々江相触候様大年寄江申遣同心組牢番
足輕三軒家番江も為相知候様小頭左五兵衛江申遣候

從江戸表飛脚到来殿様益御機嫌能被成御座去ル十一日上使一色
源次郎殿を以御鷹之鷹御拝領被成候段申来右悦之御事候依之明
廿三日辰ノ中刻より巳ノ中刻迄之内右為御悦御帳付候間登城可
有之候

右之趣同役同列組合并支配方江も可被相達候以上

十一月廿二日

大目付

十一月廿三日 曇 御用日御出席

一 今日五ツ半時シ諸士登城為御帳例之通桜之間ニおゐて御帳付候
一 明後廿五日明ケ六ツ半時シ司馬五郎様杉山江御猪狩夫シ院之庄刃
江御出被成御道筋京橋御門シ鍛冶場前御出被成御帰リ本町通り西
大番所シ竹之馬場通御帰被成候由稲垣茂士シ通用有之此段大年寄
江申遣候

一 去ル十八日万人講寄札高之儀今日御用所江及御沙汰大御目付中へ

も申達候

一 去ル廿日坐頭共江御布施被下候銀札高之儀今日御用所江及御沙汰大目付中へも申達候

一 去ル十五日万人講三步銀銀札場江講元の内納メ銀札拾三貫目。。証取

一文書通当月十八日万人講三步銀内納銀札十四貫目同銀札場札元預り手形老通ノ式通今日御勘定所へ相納メ則勘定奉行中請取手形取置候

一 去ル申ノ十月廿四日万人講三十八番残り錐之分去ル十八日突渡候

付銀札四百七十四匁式分八厘今日御勘定所へ請取則講元江相渡候

一米相場書差出候御蔵米五十九匁町米五拾五匁

一 去ル十九日大年寄三人江拙者出宅御吸物御酒被下候

一 諸人用銀札五匁七分五厘今日御勘定所江手形相廻シ右銀札請取夫々江相払候

十一月廿四日 晴

一 大坂菜種屋桜井屋庄三郎と申者手代利兵衛平兵衛兩人召連三人昨
日境屋伊右衛門方江罷越候由右者当町菜種屋八軒江菜種代有之去
歳も罷越及催促候得共不埒ニ罷成候由然ル処右庄三郎江戸表御奉
行所江相願御十判持参いたし候之由右訴状御十判之写大年寄忠兵
衛持参見せ候付写留此段先ツ承置候

一 阿州板野郡成瀬村吉右衛門と申もの壱人例年之通藍玉売ニ参候由
舟頭町今岡屋浅右衛門宿切手出ス

一 右同州同郡川端村常出屋清兵衛と申もの壱人例年之通藍玉売ニ参
候由舟頭町右同人より宿切手出ス

一 阿州名東郡芝原村栄次郎同国板野郡高房村新兵衛と申もの兩人例
年之通藍玉売ニ参候由材木町河内屋藤三郎宿切手出ス

一 右同州名西郡高原村直兵衛同手代与兵衛と申もの兩人例年之通藍
玉売ニ参候由材木町右同人より宿切手出ス

十一月廿五日 晴

一 江戸表太田舍人其外御帰シ被成面々昨日帰着有之候

十一月廿六日 晴

一 京都百万遍屋敷非藏人藤嶋遠江妹みかと申女玉置忠兵衛内縁之者
ニ付此度忠兵衛方役介ニ引請申度旨忠兵衛願孫右衛門を以差出シ
承届ル

十一月廿七日 曇

一 紀州海士郡日方浦池谷町善治郎手代五兵衛源兵衛と申もの式人例
年之通腕折敷売ニ参候由小性町田戸屋宗十郎宿切手出ス

一 筑前遠賀郡山家浦伝十郎手代善治郎と申もの壱人例年之通茶碗
類売ニ参候由右同人より宿切手出ス

十一月廿八日 晴 御用日御出席

一 鍛冶町伝左衛門と申者家内三人此度勝手ニ付林田上ノ丁吉井文針
引請ニ而林田村江罷越申度旨伝左衛門願出シ兩役所引合セ双方承
届ル

一 来月五日万人講ニ付例之通大目付中へ御触書今日出候右ニ付例之
通惣町へ相触候様大年寄忠兵衛江申渡候

一 昨夜郡代所江註進申出候安芸国賀茂郡宮科村為助と申者步行難相
成候付因州へ送り出シ則林田村送送り来り町分無滞送り遣候段大

年寄忠兵衛ハ届出在分無滞送り出候ハ、兩役所一諸(マ)ニ可相届

一先月当月兩度万人講仕切り帳面書付講元ハ昨日差出候付三歩銀残り銀札七百九十四匁分八厘差出シ則送り手形相添今日御勘定所

江相納候先達而内納メいたし候分共ニ銀式拾七貫七百九十四匁分八厘相納メ仕切り相濟候則勘定奉行中請取手形記置候

一牢舎人弁藏并母妻子共不殘領分追払被仰付医者八十八義出牢呵追

込可申渡旨今日御用番惣右衛門殿御次ニおゐて大目付永井甚大夫

立合ニ而被仰渡候依之明廿九日朝右取計可申段申上置候右ニ付夫

々手合之儀小頭左五兵衛江申渡置候

一阿州板野郡中留村兵助手代平兵衛と申者壹人例年之通藍玉壳ニ参

候由京町今出屋半兵衛宿切手差出ス

一阿州名西郡幸嶋村平次兵衛手代長右衛門新九郎与申者貳人例年之

通藍玉壳ニ参候由右同人宿切手出ス

一阿州名西郡幸嶋村武右衛門手代与兵衛と申者壹人例年之通藍玉壳

ニ参候由右同人宿切手出ス

一出雲大社中官西村神大夫と申御師上下四人例年之通御当地江旦那

廻リニ参候由桔梗屋庄右衛門宿切手出ス

十一月廿九日 晴

一今朝五ツ半時牢屋江同心組神田権兵衛中山市左衛門兩人差遣シ牢

舎人穢多弁藏并母妻子呼出シ於宅小頭左五兵衛部屋目付川端又六

為立合左之通追払申渡医者八十八義ハ出牢呵追込申渡是ハ郡代所

取計之弁藏并母妻子申渡相濟右同心組兩人差添川辺御境目江送り

遣シ無滞送り払例之通見届一札取七ツ時過兩人罷歸り右取計相濟

御用番惣右衛門殿大御目付永井甚大夫江手紙ニ而兩役所一諸(マ)ニ御届申候

穢多 弁藏江申渡

其方義当四月野郎文次郎と申者差置候処火付之手懸りニも有之

趣右文次郎申聞候付其方召捕先達而入牢申付其後度々拷問之上

遂吟味候処取初ハ之申口致相違彼是偽之義申聞候段不届至極ニ

候依之死罪之取計ニも可申付候得共格別之御憐愍御領分追払

申付候勿論其方母妻子共不殘追払申付候此以後立歸り於令徘徊

者召捕曲事可申付候

卯十一月廿九日

穢多弁藏 母妻子江申渡

弁藏義吟味筋有之先達而入牢申付其後拷問之上遂吟味候処是迄

偽之義共申聞不届ニ付御領分追払申付候依之其方共御領分追払

申付候此以後立歸り於致徘徊者召捕曲事可申付候

卯十一月廿九日

一町内類族之者無事ニ罷在候旨京町年寄共連印ニ而例之通書付差出

シ承置候

十一月 曇

十二月

御用番 伊達与兵衛殿

大目付月番 鈴木此右衛門

大年寄 斎藤孫右衛門

朔日 少雪

十二月二日 晴風

一今日万人講場所見分ニ小頭左五兵衛差出シ郡代所より下代日下伝
平例之通差出シ候

一西新町井筒屋和兵衛持来候旅人旅籠屋株勝手ニ付伏見丁和氣屋善
兵衛方江当卯霜月(卯)已ノ十一月まで三ヶ年之間借り請申度旨右善
兵衛并借シ主井筒屋和兵衛兩人連印願差出シ承届ル

一京町塗師屋甚六家屋敷安岡町南側ニ而表口式間半裏行十式間御役
半役之處東隣ハ明石屋源六西隣ハ納屋嘉兵衛ニ而右之家屋敷代銀
札式百目ニ相極町内明石ヤ源六江壳渡申度旨京町塗師屋甚六明石
屋源六連印願承届ル同十一日本證文出ス

一此間大坂菜種屋桜井ヤ庄三郎と申者江戸表三御奉行御十判相願当
町菜種屋八人之者共江古掛ケ之義ニ付来春二月江戸御評定所江罷
出候様御十判ヲ以テ申来候処右八人之者致請書来春罷出申積候処
右八人之者扱ヲ以テ五步三步宛ニ取扱相済内済ニ相成候段今日孫
右衛門右申出相済候

十二月三日 雪 御用日御出席

一当町江罷越候大坂菜種屋桜井屋庄三郎御十判ヲ以テ申来候趣昨日
内済ニ相成候段今日御用番中へ及御沙汰大目付中へも申達相済候
一来ル五日万人講ニ付前夜夕例之通太鼓打セ候旨大年寄孫右衛門右
昨日申出候付今日御用番中へ及御沙汰大目付中へも申達置候
一来ル五日万人講ニ付同心組加人兩人被仰付度旨大目付中江申達小
勘者中へも申達候人馬之儀ハ郡代所右大目付中江申達置候

一今日寒氣為窺御機嫌頭分以上御帳付候

一今日右錢相場壹匁ニ七十三文通用立替候由大年寄孫右衛門右届出
候

十二月四日 晴

一福渡町北側ニ而喜兵衛家屋敷表口式間表行十七間但シ半役也東隣
ハ作人運藏西隣ハ中村ヤ忠三郎ニ而右之家屋敷代銀札百五十匁ニ
相極メ同町大工幸次江壳渡申度旨右喜兵衛願承届ル同十日本證文
出ス

一境町東側ニ江舟頭町初村屋伝三郎家屋敷表口九步壹厘六毛裏行式
間三步三厘三毛但シ御役壹步六厘六毛南隣ハ大華屋勘右衛門北隣
ハ藤屋孫市ニ而右之家屋敷代銀札七十匁ニ相極町内小山屋次兵衛
江壳渡申度旨右伝三郎願承届ル同十日本證文出ス

十二月五日 晴

一今日万人講ニ付当日町奉行代り御勘定奉行山岡与左衛門郡代栗原
新五兵衛五ツ時過右兩人致出役御徒目付下目付同心小頭平組書役
土井左六大年寄玉置忠兵衛致出役無滞相済御用番与兵衛殿江罷越
御届申大目付鈴木此右衛門江手紙ニ而相届候

寄札高四千五百拾壹枚

三步銀高六貫貳百貳拾六匁五分

一昨四日暮六ツ時境町三津屋平右衛門裏糶室焼キ早速消留候由右之
次大年寄孫右衛門届出今朝御用番与兵衛殿江罷越御届申右之次
第及御沙汰隣町さハき之趣故右平右衛門義。五三日はと
上候処吟味次第其通取計候様ニ被仰渡候付此段大目付鈴木此右衛

門江八万人講場より手紙ニ而相届遣シ則大年寄孫右衛門江右追込之義申渡候尤三津屋平右衛門も其節之次第斷書差出シ候

十二月六日 晴

一今日万人講残り札渡シニ講元役所江小頭左五兵衛差出シ郡代所下代日下伝平差出シ候渡シ場江同心組兩人例之通差出シ候

十二月七日 風雪

十二月八日 雪

一坪井町角屋庄助家屋敷鍛冶町東横町ニ而表口三間裏行四間半御役老歩七厘之役也北隣者伊賀屋和兵衛南隣者三町目境ニ而右家屋敷代銀札四百目ニ相極メ町内富岡屋宇兵衛江売渡シ申度旨右庄助願承届ル同十一日本證文出ス

一元魚町西側ニ而作人善六家屋敷表口式間裏行拾九間但シ御役三歩老厘役也北隣者作人喜左衛門南ハ右善六ニ而右家屋敷代銀札百三十拾目ニ相極メ同町市場屋佐助江売渡シ申度旨右善六願承届ル同十四日本證文出ス

一錢式拾三箇川下シ裏印之申出候付則小桁木知ヶ原両番所裏印取計遣候

十二月九日 雪 御用日御出席

一境町三津屋平右衛門義去ル五日追込申付置候処最早五日ニ相成候付今日差免可申旨御用所江御申上候上大目付中へも申達則今日差免候旨大年寄孫右衛門江申渡候右取斗相寄御用番与兵衛殿大目付鈴木此右衛門江手紙ニ而御届申候

一去ル五日万人講寄高之儀御用所へ及御沙汰大目付中へも申達候

一馬持共廿五人不勝手ニ付一人大足三棧ツ、拜借之儀願出□御用所

江相同御聞届相済大目付中へも申達則大年寄江申渡候

一坪井役所大友林次々書状到来先達而米平均相場差遣候挨拶申来寒中爲見廻經節式十節到来則右書状ヲ以テ大目付中へ申達候処御用所江大目付中へ被相伺候上勝手次第受納いたし候様鈴木此右衛門へ被申聞則相応之返書札申遣直ニ飛脚之者江返書相渡候

一播州姫路龍野町和泉屋孫兵衛同手代甚七久兵衛と申者三人例年之通小間物売ニ参候由中ノ丁福茂屋武助宿切手差出ス

一播州姫路外とふふ町椀屋藤兵衛手代長兵衛権次郎と申者式人例年之通椀ぬり物類ニ参候由右同人宿切手差出ス

一御勘定奉行栗田唯次山岡与左衛門兩人共不快今日出勤難相成ニ付大目付中江当病届之義頼来則大目付中江当病届申達候御持

一組之者佐藤新八と申もの元魚町松物屋清八甥ニ而新八母ハ小田中村ニ居申候処新八義不行跡ニ付八年程已前郡代所江勘当願差出シ候節松物屋清八義も印形いたし差出シ候処右新八義当時伊兵衛と申大坂江罷越居候由此度右松物屋清八江たより罷越候途中より致足痛播州佐用郡乃井野村より送り来則清八方大年寄孫右衛門へ致吟味候処右之趣故御領分人別之者ニ而無之ニ付町内役人より右之趣書付いたし又々送り戻シ可申旨大年寄孫右衛門へ申出候付右之通送り戻シ候様ニ申付候

一伊勢内宮藤波神主手代北村善右衛門と申御師者人例年之通旦那廻りニ参候由二階町境屋伊右衛門宿切手出ス

一伊勢山田村田三大夫手代高田十蔵と申御師上下三人例年之通旦那廻りニ参候由右同人より宿切手出ス

十二月十日 雪

十二月十一日 晴

一博奕之義停止之処近來町方ニ而取沙汰有之由ニ付又々今日町方江
触書差出シ候此段大年寄江申渡候文段触書留ニ有之候

一林田村虚無僧吟龍義宗用ニ付去ルニ日備前岡山江罷越候処罷帰候
由往來雜用拾九匁五分ニ而内九匁七分五厘町方出シ遣シ在分よ
り例之通右之半分出シ遣シ候

一渥美右膳長屋ニ居候新助と申もの家内四人此度元魚町藤野屋重吉
借家江引越申度町内人別入り之願右重吉の差出シ承届ル

一橋本町西側ニ而大工平左衛門家屋敷表口式間裏行拾貳間半御役四
歩ニ而南隣ハ吉野屋勘六北隣ハ山形ヤ喜八ニ而右家屋敷同町後藤
屋定八取次ニ而質物ニ書入銀札百匁來辰ノ六月切ニ借用致度旨平
左衛門願承届ル同十八日本證文出ス

一新魚町塩田屋市左衛門家屋敷表口五間裏行九間御役本役也東ハ境
町通り筋西隣ハ出雲屋次助ニ而右家屋敷去ル寅ノ六月境町備前屋
喜七江質物ニ書入銀札三百匁借用致居申候此度元利相揃請戻シ
候旨質置主市左衛門取主喜七兩人ハ断書差出シ承届ル

十二月十二日 晴

十二月十三日 晴

十二月十四日 晴 御用日御出席

一今日新五兵衛不快ニ付出勤難相成御勘定奉行山岡与左衛門江当病
届之義相頼遣候

一明十五日五ツ時御供揃ニ而司馬五郎様川向夫ハ院庄辺江御殺生ニ

被為人候旨御道筋京橋御門ハ御出被成候之由小嶋右内ハ申來候付
此段大年寄孫右衛門江申遣候

十二月十五日 雪

一先達而差出候町方御用銀当七月致皆納候分五拾四貫目之分元利此
度御返濟被仰付候旨尤右之内半数者直ニ年内出銀被仰付相残ル半
數ハ來正月下旬迄ニ致調達候様可申渡旨昨日大目付永井甚大夫
申來候付勘定奉行中へ及対談今日大年寄孫右衛門へ此段申渡候
一先達而乃井野御預り所倉敷村嶋屋又右衛門ハ橋本町福吉屋平七へ
先年借銀残り之義乃井野役所ハ添簡ヲ以テ申出候義内濟ニ仕候旨
嶋屋又右衛門ハ濟口一札差出候付則乃井野役所江懸合候一卜通書
狀認右又右衛門江明日相渡候様大年寄孫右衛門江申渡候

十二月十六日 曇

一播州網干余陸屋惣七同手代彦右衛門と申者ハ式人例年之通八百屋
物売ニ参候由中ノ丁正木屋伊右衛門宿切手差出ス

一播州網干塩屋伊兵衛同弟助三郎と申者ハ式人例年之通荒物塩物売
ニ参候由右同人宿切手差出ス

一町方御用銀御返濟之儀下方江今日大年寄孫右衛門於宅小頭左五兵
衛立合セ不残江申渡相濟候段大年寄孫右衛門ハ届出候付則大目付
永井甚大夫江届ケ手紙遣候

一此間乃井野御領分江差返シ候送り者伊兵衛儀町内役人より添書い
たし差戻候処去ル十四日致病死候旨乃井野役人水谷仲右衛門ハ書
狀到來弥人別外之者ニ候哉聞合申來右伊兵衛八年已前小田中村母
親勘当願差出シ御領分帳外者ニ相違無之旨及返書相濟候

十二月十七日 晴

一 鍛冶町加治屋清助去ル戌十二月御願差出候而播州赤穂郡小山村彦三郎と申者引請ニ而亥ノ歳迄五年切出職仕居申候処年数相立候付又々来辰ノ歳より申ノ歳迄五ヶ年之間右之所ニ居懸リニ持仕度奉存候旨鍛冶屋清助願承届ル

一 戸川町佐和屋虎吉兄儀助去寅六月御断申上来ル午ノ歳迄五年切ニ備前岡山下市町綱屋源五郎方へ罷越居申候処不勝手ニ付今度罷帰申候然ル処大坂天満中屋敷古屋甚兵衛義内縁御座候付御当地人別差除役介人ニ差遣申度奉存候旨戸川町佐和屋虎吉承届ル

一 辻屋忠右衛門儀当卯式十壹歳ニ罷成申候然ル処当春ノ氣分衰候付出牢致させ看病致候旨願是者来ル廿三日相伺へき願書之事

一 福渡町北側ニ而豊屋多次兵衛後家屋敷表口三間半裏行十七間但シ壹軒役也東隣ハ作人林内西隣者但馬屋武右衛門ニ而右之家屋敷代銀札三百匁ニ相極メ町内松山屋清助江壳渡度旨福渡町豊屋多次兵衛後家松山屋清助連印願承届ル同廿日本證文出ス

十二月十八日 晴 御用日御出席

一 今日拙者不快ニ付出勤難相成御勘定奉行山岡与左衛門へ当病届之儀相頼遣候

一 祇園坊例年之通御札納之儀勘定奉行中及御沙汰被與例之通相濟則相納候様大年寄江申渡候

一 去ル申ノ十一月廿一日万人講有之節四番残り錐之分銀札五百式十八匁八分四厘今日御勘定所分請取則大年寄江相渡講元江相渡させ候

一 例年之通月廻ニ付惣町江蝕書大年寄へ相渡相触させ候

十二月十九日 晴

一 阿州板野郡鶴嶋浦藍屋喜右衛門同手代徳兵衛上下式人例年之通藍玉壳ニ参候由吹屋町沢屋惣左衛門宿切手出ス

一 新五兵衛妻儀存寄ニ相叶不申候付離縁仕候御届口上書今朝佐々木弥大夫ヲ以テ大目付中へ差出候事右口上書相趣御聞届相濟候段夜ニ入り佐々木弥大夫申来候

一 小嶋右内御藏通イ井大豆切手失候付右通イ切手共相廻り候歎又ハ拾イ候者有之候ハ、御藏奉行役所江申出候様ニ町在江可相触旨大目付鈴木此右衛門申来候付則大年寄へ申付候

小嶋右内宛十月三日付

大豆 四俵 切手一枚

同 五升 切手一枚

右之分失候由申来候

一 今般町方御借入皆納いたし者共元利左之通夫々江御返済被仰付元利銀札高五拾八貫九百六拾六匁八分六厘御金奉行中分仮證文ヲ以テ請取去ル十六日大年寄江相渡シ則夫々江呼出シ相渡候由尤當時右之内半銀直ニ御借入被仰付右銀札式拾七貫目余先ツ大年寄方へ預ケ置候

十二月廿日 晴

一 昨日郡代所江申出候倉敷町へ之送り者徳平と申者町分無滞林田村へ送り遣候段大年寄孫右衛門申届出在分送り送り遣候ハ、両役所一諸ニ御届申候積之事

一昨日廻状出テ今日相廻り候

小嶋右内御蔵通イ并右内名宛十月三日之日付大豆四俵壹枚同五

升壹枚致紛失候付右通イ并切手相廻候歟又者拾ひ候もの有之候

ハ、可申出候旨町在江相触候御家中又もの長屋者等右通ひ切手

相廻候歟又ハ拾イ候もの有之候ハ、可申出候此旨相触候御用

番差圖ニ付申達候

右之趣同役并支配方へも可被相達候已上

十二月十九日

大目付

一新魚町入江屋藤助家屋敷同町南側ニ而表口四間裏行十式間御役壹

軒役也右之家屋敷去ル丑十二月ニ町内姫路屋伝蔵林田屋次右衛門

取次ニ而質物書入銀札三百目借用仕居申候此度元利相済シ右之

家屋敷請戻申候付右藤助願承届ル

一右同人家屋敷此度直ニ戸川町井口屋庄助取次ニ而質物ニ書入銀札

百五十匁来辰ノ十月切ニ借用仕度旨右同人願承届ル同廿三日本證

文出ス

一今朝申出候送り者在分無滞送り遣候旨郡代所江申出候付両役所一

十二月廿一日 雨

一錢相場今日七拾式文遣ニ立替り候旨大年寄孫右衛門ハ届出候

一町方当時御借入半銀相納候義何頃相納候哉急ニ相納候様取計可申

旨勘定奉行中ハ申来り大年寄方江相納預り居候付今日ニも銀札場

江急ニ相納候様大年寄孫右衛門江申渡置候

十二月廿二日 晴

十二月廿三日 晴 御用日御出席

一当暮町方。半納之分銀札式拾七貫目今日御金奉行中江相納則請取

手形取置候此段勘定奉行中へ及対談相済候

一去ル五日万人講諸人用残り三分銀式貫三百十八匁九分八厘講元ハ

差出シ右之内銀札三百目講元三人江御酒代例歳之通当役所ハ差遣

候付今日勘定奉行中へ及対談則右之内三百目講元江差遣候様申渡

銀札相渡候

引残而銀札式貫十八匁九分八厘此分御勘定所江相納候則請取手

形取置候

一狩野洞学孫娘江式人ふち兼而被下置候処元魚町八百屋平左衛門妹

ニ而右御扶持方平左衛門ハ母方江通達も不致去ル十三日請取候由

又々廿二日平左衛門母方も請取ニ罷出候由右間違之儀有之由役

人中ハ色々取扱有之候得共右平左衛門間違不念之挨拶も不致不埒

ニ付御蔵奉行中へ渡方御役人中ハ相届候旨御蔵奉行川井内左衛門

ハ昨日御当役所江内々通用有之其分ニ難捨置御蔵奉行中当役双方

ハ大目付中へ申達候処二三日程呵追込申付可然旨何分当役筋ハ御

用所江及御沙汰可然旨被申聞候付則御用番与兵衛殿江御同申候処

同之通三日程追込申付可然旨御差圖有之候付則今日大年寄孫右衛

門呼出シ八百屋平左衛門追込取計候様申渡候右追込申付候段御蔵

奉行川井内左衛門江通用手紙遣候

一牢舎人河原町源右衛門義暫入牢申付置候御領分追払ニ茂被仰付

可然哉之旨先達而大目付中へ及相談御用所江相同置候処今日於御

次大目付鈴木此右衛門立合レ御用所与兵衛殿ハ被仰渡候旨右源右

衛門義出牢御領分追払被仰付候旨被仰渡候則此段小頭左五兵衛江

申渡同心出役兩人明廿四日差出候様ニ申渡候

一 鍛冶町鍛冶市郎右衛門義鍛冶頭次左衛門同様鍛冶頭ニ可申付旨今

日於御次大目付鈴木此右衛門立合ニ而御用番与兵衛殿被仰渡則

大年寄呼出シ右之段申渡候様孫右衛門江申渡候

一 御儉約ニ付出火之時分町内鉦打給被召上。町内出役之者ハ相動候

様可申渡旨今日大目付永井甚大夫被申渡此段則大年寄孫右衛門

江申渡候

一 辻屋忠右衛門義登り症ニ而去ル六月牢拜借願入置候処気分茂落付

余程衰へ老氣ニ当り候而親共看病致遣度旨依之出牢願八百屋平左

衛門ハ差出シ御用番中江及御沙汰大目付中へも申達承届候段大年

寄江申渡候

一 中ノ丁新屋甚兵衛借家ニ居候吉田屋忠吉義当卯四十三才妻ふゆ三

十三才倅文太郎八才娘かめ二才右家内四人東南条郡林田上ノ丁瓦

屋喜七方へ内縁御座候付引越申度旨両役所引合候上承届ル

一 林田上ノ丁長右衛門と申者当卯五十八才妻四十四才娘式十才倅

十四才罷成申候此度勝手ニ付私借屋へ右之家内四人引越申度奉存

候町内人別入り市右衛門願両役所引合候上双方承届ル

一 河原町荒神屋治兵衛借家居候田邑屋六郎右衛門年七十五才倅喜代

助年四十五才同人妻たみ三十九才娘わさ十才才右四人此度林田村

金七与申者由緒ノ者ニ而御座候付引請世話仕呉候付罷越申度奉存

候依之町内人別除ケ右次兵衛願両役所引合候上双方承届ル

一 御勘定奉行清水多橋大坂表ハ帰着有之候

十二月廿四日 曇

一 今朝牢屋へ小頭左五兵衛部屋目付藤森権六平組室井作右衛門石名

佐助差遣牢舎人源右衛門出牢追払申渡させ直ニ川辺村御境目江同

心組右兩人差添無滞追払取計セ相済御用番与兵衛殿大目付鈴木此

右衛門江手紙ニ而御届申候

一 鍛冶町鍛冶屋市郎右衛門鍛冶頭申渡候儀昨日取計外ニ元魚町八百

屋平左衛門義昨晩方追込申付右同様取計候段一諸ニ御用番与兵衛

殿大目付鈴木此右衛門江手紙」申候

十二月廿五日 雪風

一 播州網干新在家伊部屋治六と申者老人例年之通塩物并經節おろし

売ニ参候由勝間田町吉田屋与三兵衛より宿切手差出ス

一 右同州網干横浜菊屋弥七郎同手代善藏上下式人例年之通小間物お

ろし売ニ参候由右同人より宿切手差出ス

十二月廿六日 曇

一 播州加茂郡三木町形屋与兵衛と申もの老人例年之通紺屋形売ニ参

候由中ノ丁福茂屋武助宿切手差出シ候

一 元魚町八百屋平左衛門義今日追免差免候段大年寄齋藤孫右衛門江

申渡右申渡相済御用番与兵衛殿大目付鈴木此右衛門江手紙ニ而御

届」候

一 橋本町福吉屋平七ハ倉敷嶋屋又右衛門方ニ而借銀出入之義先達而

乃并野役所ハ添簡を以差出シ候処今般内済ニ相成訴状願下ケ又右

衛門より此間差出シ右ニ付乃并野役所よりも内済相成候趣今日接

抄之書状到来此方ハも右内済相成候段先達而書状差遣シ候

一 東新町の 一統玉林商ひ向之義ニ付歎書先日指出シ候処此間廿四日
地方目付土井太郎右衛門呼出シ。兼而申渡候通之義申合置東新町之者共江
も一ト通年寄迄此段申聞置候様ニ今日大年寄孫右衛門江申聞置候

十二月廿七日 晴

十二月廿八日 曇 御用日御出席

一 倉敷村又右衛門の橋本町福吉屋平七へ借シ銀之儀内済ニ相成り又
右衛門の願下ケ致候付乃井野江一ト通り及文通候処右返書今日来
り先日向方の差越候書状返書□則宿小性町阿波屋方迄返書遣置候
一 吉野郡中谷村勘次郎と申者老人例年之通晒蠟鯉節木綿嶋并荒物類
売ニ参候由境町大宝屋藤兵衛宿切手差出ス

明和九壬 辰年 正月の十二月二至
御用日記
栗原新五兵衛
大沢三平
廿五

(表紙)

正月

御用番

小須賀一学殿

大目付月番 井上弥三兵衛

大年寄月番

蔵合孫左衛門

元日 晴

一辰上刻諸士登城校間ニおゐて御帳付已後於松間御縁側御名代御家
老安藤造酒之助殿御受礼御礼前ニ御用所江御勘定奉行当役ニ而新
五兵衛罷出御祝義申上候

一今日大年寄共三人江門礼一ト通り罷越候

正月二日 雪 御出席

一例年之通御用初ニ付日参之面々出仕御用席江御勘定奉行山岡与左
衛門清水多橋当役ニ而新五兵衛御蔵奉行川井田左衛門御金奉行近
藤伊左衛門岡半四郎田中次左衛門右之面々御祝義前ニ罷出例之通

御祝義申上已後七間廊下ニおゐて御吸物御酒頂戴之早而大目付所
江罷出御礼申達候

一明三日五ツ時御供揃ニ而司馬五郎様八幡宮江御社参夫の妙法寺泰
安寺江御仏詣被成候旨稲垣茂士の申来此段大年寄孫左衛門江申遣
置候

一米相場書差出シ御蔵米六拾貳匁町米五十八匁

一勝山筑摩源右衛門渡辺唐兵衛連名ニ而年頭祝書両役所へ書状到来
則及返書候

正月三日 晴

正月四日 曇

一西川酒井良蔵永松太惣左衛門連名ニ而年頭祝書両役所へ書状到来
則及返書候

一米相場書差出シ御蔵米六拾壹匁町米五十七匁

〔正〕月五日 晴

一乃井野古川弥四郎川端代八連名ニ而。書状両役所へ到来則及返書
候別紙ニ錢相場書之儀申来則奥書致印形遣候

正月六日 晴

一昨五日夜御勘定奉行平井半平江戸表へ帰着有之候

一今日大年寄札元御用達諸吟味御蔵元年頭改逢候も例之通盃いたし
晚方町内年寄とも不残呼出シ逢候而今日不残一日ニ相仕廻候

一小頭左五兵衛書役代り土井左六右兩人も今日致盃候

正月七日 晴

一坪井大友林次の年頭書状両役所へ到来則及返書候

正月八日 雪

正月九日 雪 御用日御出席

一 大年寄札元町医諸吟味御藏元御用達先格之通來ル十六日御用所御
逢可被下哉之旨今日御用所江相伺候処先例之通御逢被成候旨御聞
届ニ付此段大目付中へ申達御門通行之儀申達候上名面書付中奥目
付中へ相渡尤右之趣大年寄江申渡置候

一 今日八ツ時御供揃ニ而司馬五郎様ニノ宮刃江御遠乘ニ被為人御道
筋京橋御門より本町通御出被成候旨昨夜稻垣茂士より申來此段大
年寄孫左衛門江申遣候

正月十日 雪

一 生野御代官所手代大井田与五郎中里忠助連名書状■夜到来錢相場
書之義例年之通申來則右相場書ニ致奥印返書共ニ今日町宿迄差遣
候

正月十一日 晴

正月十二日 晴

一 今日例之通於御城大般若御祈禱有之候御札十二枚小勤者所江取々
遣シ例之通同心組江頂戴致させ候

一 今朝渡部惣右衛門殿江戸表江御出立有之候

正月十三日 晴夜中雨

一 戸田一郎左衛門義病氣罷在候処養生不相叶昨夕相果候旨大年寄孫
右衛門ノ一ト通り届出承置候

一 明十四日四ツ時御供揃ニ而司馬五郎様泰安寺江御仏詣被成候旨稻
垣茂士ノ通用有之則此段大年寄へ申遣置候

正月十四日 晴 御用日御出席

一 司馬五郎様今朝泰安寺江御仏詣被成候砌西大番所脇ゆだ江之横小
路江人留之者一人罷出下駄ヲはき居候躰御徒目付ノ中奥目付中へ
申達候由右之趣大目付中へ被申達候由右躰之儀甚不束成ル儀故右
之者一ト通り御用所江拙者ノ相伺追込申付可然旨大目付井上弥三
兵衛より被申聞此段則御用所江御伺申候処伺之通追込五三日申付
以後ノ等申付候様御用番一学殿ノ被仰渡則大年寄呼出シ致吟味
候処西今町中屋定次郎と申者町内組合之者ニ而一人宛小廻りと申
者ニ而罷出居候由孫右衛門申聞右定次郎追込申付候段大年寄孫右
衛門江申渡候大年寄右取計相濟候段届出候付御用番一学殿大目付
井上弥三兵衛江手紙ニ而御届申候大年寄孫左衛門月番之処故障有
之当分孫右衛門相勤則同人江申渡候

正月十五日 晴

正月十六日 晴

一 諸士登城御具足御祝儀頂戴御祝儀後御勘定奉行中当役御用所一
ニ罷出候

一 町医大年寄札元御用達其外左之者共御用所御面謁有之先格之通当
役取計無滞相濟候

松之間御縁側通ニ並居御家老御年寄

岩作幸碩
川嶋桃庵

松之間江御出大目付弥三兵衛同下段
東之方町奉行同西之方ニ着座
何茂年頭御祝儀申上候段取合申述

当病 箕作丈庵
病中 河合友益
北山周兼
中嶋仙庵

御感元
熊野屋

伝兵衛

中之口北之方ニ並居御家老
御年寄銀鷺之間へ御出大目付同
敷居際ニ着座町奉行同敷居
際下段ニ相詰名披露取計之

当病 茂渡市右衛門
藏合孫左衛門
齋藤孫右衛門
玉置忠兵衛
山本三右衛門
川口藤十郎
茂渡藤右衛門
武田七郎兵衛

一町医大年寄御用達諸吟味御感元当病之者共御祝儀前ニ御用所并大目付中へ当病御届申候事
一今日八ツ時々同心組三間屋番人牢屋足輕兩人於宅孟遣シ候大谷栄藏中村善兵衛当病届出候
正月十七日 曇屋後雨
一大坂天満中屋敷古屋甚兵衛伴古屋儀助用事御座候□昨日罷越尤日数三十日計逗留仕らせ度旨三丁目平野屋助左衛門願差出シ承届ル
正月十八日 晴 御用日御出席
一西今町中屋定次郎義去ル十四日追込申付候処今日ニ而五日ニ相成候付今日追込差免可申哉之旨御用番一学殿へ御伺申候処差免候様取計可申段被仰渡此段大目付中へも申達則大年寄孫右衛門江申渡候右取計相済御用番中大目付中へ手帑ニ而御届申候
一久世出雲守殿領分勝間田役所八木伝次郎中村与左衛門連名ニ而年頭書状到来将又旧年米相場書等遣シ度々及文通候付右為挨拶金貳百足送り来り早速右書状ヲ以大御目付井上弥三兵衛迄相伺候処御用所江大目付中へも被伺候由右送り来り候貳百足受納いたし可然旨則弥三兵衛へ被申聞候付右返書ニ礼申遣候
一旧冬大年寄三人へ御歳暮之御祝儀江戸表へ差上候付其節御奏者中迄先格之通書状差遣候処右返書今日来候付此段大年寄孫左衛門江申聞置候
一林田延命寺来月朔日夕四十八夜説法いたし候由右ニ付東西両橋江

但右一所ニ南ノ方ニ地方目付並居郡代役ニ而致披露干而屏風之内へ御家老御年寄御入其間ニ何茂退座致させ跡へ左之者共くり出ス

病中 三室屋宇左衛門
高松屋平兵衛
濱野屋善十郎
塩屋八郎右衛門
沢屋孫四郎
福永屋藤助
大嶋屋平右衛門
伊勢屋長右衛門
御感元
姫路屋伝藏

中ノ口北ヲ上トノ並居
御家老御年寄銀鷺
之間へ御出大目付町奉行
如前着座名披露取計
之相済直ニ御退出也

当病 大嶋屋平右衛門
伊勢屋長右衛門
御感元
姫路屋伝藏

建札之儀申出此段申達候付例之通申付取計呉候様寺社取次細江藤右衛門の通用有之此段御用番中へ及御沙汰大目付中へも申達則大年寄孫左衛門江申渡置候

正月十九日 晴

一備前岡山橋本町塩屋伝六手代茂兵衛と申者老人例年之通酒掛取ニ参候由堺町西川ヤ善助宿切手出ス

一備前岡山下片上町大和屋清右衛門手代義助と申者老人例年之通醬油掛取ニ参候由右同人宿切手差出ス

一大坂北久太郎町堀筋松屋甚兵衛手代平兵衛と申者老人例年之通小間物おろし売参候由二階町境屋伊右衛門宿切手差出ス

正月廿日 晴風

一今日より錢通用壹匁ニ七拾三文立替候段大年寄孫左衛門の届出候

正月廿一日 晴

一此間魚住藏人の両役所の年頭書状到来郡代所の今日及返書候

正月廿二日 晴

正月廿三日 晴夜中雨 御用日御出席

一昨夜八ツ半時頃福渡町北側裏家雪隠有之場所右雪隠もへ出候付早速打寄消留候由右一ト通註進大年寄孫左衛門の申越則其段御用番一学殿江及御沙汰大目付中申達置候処晚七ツ時ニ至孫左衛門の断書持参右之次第届出其節火ももへ上り他町もさき候趣故為致吟味候処佐和家虎吉家守忠三郎と申もの罷在候由右忠三郎義二三日追込申付候様ニ可仕旨御用番一学殿江手紙ニ而御届申上置大目付中江も同様相届遣シ依之明朝忠三郎義追込申付候様ニ大年寄孫左

衛門江申遣候

一船頭町田原屋六兵衛所持致候自国請酒株去ル丑ノ年の卯年迄三年切東新町茶屋六郎右衛門借り請居候処又々当辰年の午ノ年迄三ヶ年之間借請度旨借り主六郎右衛門借シ主六兵衛連印願差出シ承届ル

正月廿四日 晴

正月廿五日 晴

一坪井町劔屋市郎左衛門後家致所持候地国請酒株去ル丑ノ才の五ヶ年之内京町吉田屋喜八方へ代官置候処今度取戻申度奉存候旨右劔屋一郎左衛門後家願承届ル

一牢舎人勝部村源四郎呼出シ致吟味候付同心組出番宝井作右衛門牢屋へ差遣シ源四郎召連罷出吟味相濟又々右同人足輕神西源内差添牢家へ差遣候

正月廿六日 晴四ツ時分の雨

正月廿七日 晴風

一京町戸屋岩右衛門義河原丁年寄役罷在候処近来病身罷成候付役免願此間差出シ右願之通今日則役免之儀大年寄へ申渡尤右跡役京町多賀屋平三郎へ申立候通申渡候様ニ大年寄孫左衛門江申渡候

正月廿八日 曇 御用日御出席

一福渡町忠三郎と申者去ル廿四日追込申付置候処最早五日ニ相成候付追込差免可申段今日御用番中へ及御沙汰大目付中へも申達則今日差免候段大年寄へ申遣候右申渡取計相濟御用番中大目付中へ手帟ニ而御届申候

一乃井野森对馬守殿来月上旬爰元本源寺江御参詣之由依之町分取計

之儀三浦志摩守殿関播磨守殿御通行之例ヲ以取計可然旨今日大御
目付井上弥三兵衛が被申聞候尤拙者儀其節町奉行ニ而町分江罷出
御止宿へも一卜通り罷越可然旨大目付弥三兵衛が被申渡候

正月廿九日 晴風

一今朝御勘定奉行清水多橋大坂表江出立有之候

一播州加古川がねぢわく細工手伝ニ九郎兵衛長次郎と申者式人例年
之通呼越シ候而昨日着尤逗留之儀当三月中頃迄差置度旨二階町嶋
屋藤吉願承届ル

一今日牢舎人源四郎致吟味候付牢家江同心組三舟孫八郡代所足輕神
西源内差添遣候

二月

御用番 伊達与兵衛殿

大目付月番 永井甚大夫

大年寄月番 玉置忠兵衛

朔日 晴

一今日牢舎人源四郎致吟味候付牢屋が同心組石名佐助郡代所足輕神

西源内差添遣候

一米相場書差出候御蔵米六拾匁五分町米五十六匁五分

(貼紙)

一切レ金通用相滞候付小判老歩共切レ金疵へけ疵大小無構自今小判
目四歩迄無滞通用之儀従公儀御触書出候段大目付中が廿八日出

廻状今日到来此段惣町江相触候様大年寄玉置忠兵衛江触書差遣候
外ニ御家中之面々武芸学文此已後随分出精いたし候様ニと之廻状

致到来候

二月二日 曇

一今日牢舎人源四郎致吟味候付牢屋江同心組福田甚藏郡代所足輕神
西源内差添遣候

二月三日 晴 御用日御出席

一近々对馬守殿爰元本源寺へ仏詣被致候付若当所ニ御止宿候ハ、致
心当置候様ニ此間大目付中被申聞則茂渡市右衛門方ニ御止宿之心
当ニ可申付旨今日御用所へも及御沙汰大目付中へも申達則市右衛
門へ此段申渡置候様ニ大年寄忠兵衛江申渡候

一对馬守殿御出御當日火之番物頭中并御使者御番方外ニ御徒目付下
目付立宿之儀最寄之方夫々へ申付置候様大目付永井甚大夫が被申
聞則申付置候様ニ是又大年寄忠兵衛江申渡置候

一方向が御使者宿之儀大年寄斎藤孫右衛門方へ申付置候

一当日在宿医師針医夫々江申付置候様是又大年寄江申付置候

一拙者義当日林田町江罷出夫が御止宿江罷越候付人馬之儀例之通被
仰付置被下候様ニ大目付中へ申達置候

一方向が御使者有之候節例之通案内之者申付置候様是又大年寄江申
付候右之外ハ播磨守殿志摩守殿御通行之例ヲ以万事取計候様大年
寄江申渡置候

二月「四日 晴」

一備前邑久郡山田牛窓大工喜左衛門市兵衛半右衛門半兵衛吉助五左
衛門と申者六人例年之通細工ニ昨日参候由一かい丁堺屋伊右衛門
宿切手差出ス

一勢州安芸郡白子村形屋忠右衛門と申者老人例年之通紺屋形売ニ昨日参候由右四人宿切手出ス

二月五日 晴

一播州姫路龍野町和泉屋孫兵衛手代久兵衛と申者老人例年之通小間物売ニ昨日参候由中ノ丁福茂や武助宿切手差出ス

一播州網干新在家村かがや善七手代清八と申者一人例年之通小間物売ニ昨日参候由右同人宿切手差出ス

一伏見町蔵敷屋太兵衛倅和助孫三郎義例年之通京都近江屋市右衛門方方呉服商ニ因州伯州之内へ参呉候様無抛被相頼候由尤内縁も有之旨当六日ニ罷立来ル十二月下旬迄逗留仕度旨右蔵敷屋太兵衛願承届ル

一今月左之「(貼紙)通廻状出同心」組牢屋足輕三間屋番へも相触「置候様小頭左五兵衛」江申付候

近々森对馬守殿塚町御止宿ニ候其節御旅宿前御家中下々至迄往来有之間敷候尤兼而被仰出候通火之元堅可被申付候右之趣同役并支配方へも可被相達候以上

二月五日 大目付

二月六日 晴

一今昼七ツ時過森对馬守殿到着ニ付林田町例之場所江町奉行ニ而拙者罷出途中ニ而目見对馬守殿挨拶有之候夫夫大年寄玉置忠兵衛方御本陣ニ相成直ニ見廻ニ罷越取次奥田源兵衛と申者罷出外ニ川端代八挨拶ニ罷出別人用人林権大夫と申者罷挨拶等有之对馬守殿被逢候由申聞候而無間も新五兵衛罷出致目見对馬殿一ト通り挨拶有

之右早而目録金式百疋被下頂戴之則別人右取次へ厚ク挨拶ニおよひ罷出立宿山小屋江罷帰ル右之段御用番中へ罷越御届申大目付中永井甚大夫へ罷越候而右之次第申達候

二月七日 晴

一米相場書差出シ御蔵米六拾匁町米五拾六匁

一対馬守殿用人林権大夫旅宿京町菊屋清左衛門方江今朝出懸ケニ罷越権大夫江逢候而昨日目見いたし候礼申述夫夫立宿山小屋江罷越候

一朝五ツ時頃对馬守殿忠兵衛方御出立本源寺江被致仏詣夫より二ノ宮江参詣致され御帰ケイり懸ケ溪花院江御参詣又本源寺江御帰り八ツ時過頃本源寺御出立徳守江御参詣夫夫妙願寺江御出御止宿有之其節又々麻上下ニ而妙願寺江見廻ニ罷出取次岡村金弥と申者及挨拶別人林権大夫罷出挨拶有之無間も下宿桶屋町大坂屋江引取夫夫御用番与兵衛殿江罷越御届申上大目付甚大夫へも罷越相届ケ候

一昨六日对馬守殿御到着之砌向方方使者被指越斎藤孫右衛門方江御取次御使者被指出候由今日向方方又々使者被差越右孫右衛門方江又々御使番御取次被差出候由

一大坂北浜大川町銭屋七郎右衛門手代佐兵衛と申もの老人例年之通小間物屋へ掛銀札取ニ参候由小性町ひぢ屋兵藏宿切手差出ス

二月八日 晴

一今朝五ツ時对馬守殿御出立ニ付又々林田町例之場所江。麻上下ニ而。罷出途中ニ而目見いたし又々挨拶等有之候右御通行相濟立宿嶋屋江引取夫夫御用番与兵衛殿大目付永井甚大夫江も罷越右之次第御届申候

二月九日 晴 御用日御出席

一拙者義今日不快ニ付大目付中江当病届御勘定奉行山岡与左衛門江相頼遣候

一对馬守殿より被下物出役之面々江書付ヲ以テ被相送候段昨朝河端代八ハ拙者迄相廻候ニ付昨朝大目付中江罷越右之趣申達右書付今日甚大夫江差出被呉候様与左衛門江頼遣候大年寄共三人江被下物有之右之趣茂致書付大目付中へ差出候今般对馬守殿御到着ニ右取計方委細ハ別帳ニ認同心御先弘名面等も記置御用算筒江入置候

二月十日 晴 夜中雨

一備前岡山野田屋町出石屋清右衛門粹清十郎と申者老人例年之通元結完ニ昨日参候由堺町西川ヤ善助宿切手差出ス

一右同国下市町中嶋屋久六と申者老人例年之通元結完ニ昨日参候由右同人宿切手差出ス

二月十一日 雨

二月十二日 晴 七ツ時合雨

一筑前遠賀郡柏原浦小平次手代市三郎茂吉と申者二人例年之通茶碗類売ニ昨日参候由小性町多戸ヤ宗十郎宿切手出ス

一坪井町劔屋一郎右衛門後家致所持候地請酒株当辰年より午ノ才迄三ヶ年之間東新町たす屋清八借請度旨右清八願出承届ル

一東新町玉屋伊左衛門致所持候自国請酒株去ル丑ノ年合卯ノ才迄三年切借り請候処又々当辰才合午ノ才迄三ヶ年借請度旨同町肥後屋

長助願承届候

一字津木弥右衛門長家ニ居候吉兵衛と申者当辰五拾七才ニ罷成候此

度福渡町金藏借家へ引越度旨町内人別人右金藏願承届候

一土佐屋金十郎家守重右衛門借家ニ居候次兵衛と申者当辰五十才妻三十八才伴十才此度宇津木弥右衛門長屋へ引越申度旨町内人別除ケ右重右衛門願承届ル

一細工町南側ニ而劔柄屋十三郎致所持候家屋敷表口式間表行十壹間之処東隣ハ右劔柄屋十三郎南隣ハ真嶋ヤ喜六ニ而右之家屋敷右之家屋敷四年以前丑ノ三月ニ願出同町大工伊助方へ質物ニ書入銀札百目借請候処此度元利致返済請返シ候旨右十三郎断書差出シ承届ル

一鍛冶町かちヤ勤七伴勤次義去ル戌極月願出シ播州平福古殿町藤助方へ五年切鍛冶奉公ニ罷越去卯才迄年数相立然ル処又々今年合来ル申ノ才迄五ヶ年之間右之所ニ居申度旨右勤七願承届候

一堺町三津屋平右衛門致所持候他国請酒株去卯才より未ノ才迄五年切ニ東新町樽屋清八江貸置候処不勝手ニ付此度右平右衛門江相返シ申候旨三津屋平右衛門願承届ル

一土居近江守殿御支配所当国内久米南条郡小原北村喜助と申者当辰四十八才妻かね四十四才右兩人西新町大田屋十助内縁有之候付此度引請申度旨尤人別人右十助願承届候

一中ノ丁平岡屋忠藏借家ニ居候三木彦右衛門当辰四十一才此度三浦志摩守殿御領分真嶋郡勝山千種屋吉右衛門と申者内縁ニ付引越渡世致度旨町内人別除ケ右忠藏願承届ル

一細工町劔柄屋重三郎借家居候岩右衛門親孫七夫婦中尾伴助長家ニ居候処此度岩右衛門方へ引請申度旨右十三郎願承届候

一 日上村藤四郎伴儀助と申者当辰二十七才東新町三右衛門縁類之者
二 而此度引請申度旨町内人別入右三右衛門願両役所引合候上双方
承届候

二月十三日 晴

一 今日八ツ時町家之者其呼出シ。共御用銀正月切之者不納ニ付役所へ呼出シ小頭左五兵衛。部屋目付権六。大年寄玉置忠兵衛立合セ近々之内急度相納候様新五兵衛ハ直
ニ申渡置候

ニ申渡置候

一 桶屋町かけ屋市右衛門借家ニ居候庄兵衛と申者宿願御座候而廻国

ニ罷出申度尤年数当年ハ五六年之内ニハ罷帰申度旨右家主かけ屋
市右衛門願届ル

二月十四日 曇 御用日御出席

一 三丁目若本屋勘兵衛甥忠吉義当辰廿三才ニ罷成候先年両親相果候
故私引請役介ニ仕候処兼而行跡不宜不所存者ニ御座候付親類共度
々異見差加候得共承引不仕然ル処去ル廿一日風与罷出帰不申候付
方々相尋候得共行衛不相知右之通之者故於何方如何様ニ変儀も難
計依之義絶勘当致度旨右勘兵衛願并下紺屋町桶屋文右衛門忠吉伯
父連印ニ而差出シ今日御用番与兵衛殿江及御沙汰大目付中へも申
達候上承届候尤願書大目付中江差出候

一 本覚寺江衆僧罷越今夕ハ二七日之間説法致候ハ東西両橋江建札之
義御聞届相濟候段寺社取次松嶋十字ハ右取計具候様通用有之候故
御用所江及御沙汰右建札之義取計候様大年寄忠兵衛江申遣候
一 朝鮮種人参相對直段ヲ以国々ニ而右人参壳弘望候者者京大坂朝鮮
種人参壳弘会所江申込相對直段ヲ以買請壳捌可申旨此度從公儀御

触書出候付此段町在江相触候様大御目付永井甚大夫右御書付被相
渡則惣町江相触候様大年寄忠兵衛江右御書付写差遣候右御触書文
段触書帳ニ留置候

二月十五日 晴

一 東新町平左衛門借家ニ居候福渡屋文吉当辰五十才家内四人此度林
田上ノ丁与吉借家へ引越度町内人別除右平左衛門願両役所引合承
届候

一 米相場書差出シ御藏米五拾八匁五分八匁五分町米五十四匁五分

二月十六日 晴

二月十七日 雨

二月十八日 晴 御用日御出席

一 町方ハ当春御借入御用銀半数廿七貫目之内左之通去ル十五日迄ニ
相納一昨日銀札場江大年寄玉置忠兵衛ハ則相納札元預り手形当役
所江差出候付右預り手形ニ送り證文差添今日御金奉行中へ相納則
御金藏請取手形取置候尤左之員数相濟候趣永井甚大夫江及噂御勘
定奉行平井半平へも及通用置候

銀貳百八拾三匁

同三拾六匁四分

錢七拾三匁六分

銀札貳拾四貫四百七匁

式拾四貫八百目

此分相納候

二月十九日 晴

一 米相場書差出シ候御藏米五拾七匁五分町米五拾三匁五分

一 撰州豊嶋郡池田村同新町植木屋平兵衛同手代茂八と申者上下式人

例年之通植木売ニ参候由新魚町鳥屋与兵衛宿切手差出シ候

一 西新町惠比屋文右衛門義高野山江参詣仕度当月廿一日ニ罷立往来廿日計之逗留ニ而罷歸り申度旨右文右衛門願承届ル

一 先日对馬守殿御到着之砌御本陣申付候置候義ニ付材木屋方致吟味候様ニ大年寄孫左衛門江申付其後遂吟味候段申出候付右市右衛門方御本陣之心当ニ申付可然旨内意申渡置候処市右衛門方差支多ク御湯殿雪隠も無之趣内意相聞候大年寄吟味行届不申候趣と被存候付此段大御目付中江及対談候処一通り叱置已後万事入念可申旨当役所より叱申渡可然旨昨日大御目付永井甚大夫より被申聞候付今日孫左衛門呼出シ一通り叱已後万事入念候様ニと今日孫左衛門呼出シ申渡置候

二月廿日 晴

一 今日江戸表下村友右衛門殿御帰着御勘定奉行清水多橋大坂表より帰着有之候

一 大年寄玉置忠兵衛養女ニ備中国戸川与市殿支配所都宇郡早嶋村油屋義兵衛娘いと当辰ニ拾六才罷成内縁有之候付此度請申度旨忠兵衛願承届ル

二月廿一日 曇

一 林田町川辺屋利助借家ニ居候和助と申者家内三人此度林田上ノ町平七借家江引越セ申度旨家守弥次郎分願出而役所引合候上承届ル

一 東新町大嶋屋平右衛門父儀右衛門并平右衛門弟并吉右衛門人此度西国順礼ニ差出シ申度今日罷立往来日数百日計之逗留ニ而罷歸り可申由平右

衛門願承届ル

一 雲州松江水つぎ土手町紺屋義兵衛弟喜三七と申者当辰式拾八才罷成去六月伊勢参宮致候処漸当月当町迄罷歸り十三四日頃より相煩介抱致遣シ候得とも一切歩行難相成何とか村送りニ申付呉候ハ、罷歸り度旨願申候由右断書東新町地子居組合七人連印ニ而今日差出シ早速承届東新町より送り出シ遣候様ニ申渡候

一 中ノ町福茂屋武助より宿切手三通左之通差出候

撰州境北糸屋町河内屋甚右衛門手代弥次兵衛と申者老人例年之通木綿糸物類反物并絹切々売ニ参候由老通

右同州大坂嶋之内大宝町万屋善次郎と申者老人例年之通皮足袋すいのう金と「売直シ参候由老通

播州姫路龍野町和泉屋孫兵衛同手代甚五郎と申もの式人例年之通小間物売ニ参候由老通

ノ三通差出シ候

二月廿二日 晴

一 昨日東新町分送り出シ遣候雲州松江紺屋義兵衛弟喜惣七と申もの御領分村々無滞宮尾村江送り遣候段郡代所江院庄村より申出候付而役所江一諸御用番与兵衛殿大目付永井甚大夫江手紙ニ而御届申候

一 播州赤穂森山城守殿家中辻源太と申者元魚町藤野屋重吉縁類之者ニ而少々用事有之昨夜罷越七八日計逗留為仕度旨重吉願承届ル

一 桶屋町西側ニ而桶屋六歳家屋敷表口老間半裏行拾老間半但シ式歩半役也南隣ハ買主七助北隣ハ作人伝七ニ而右家屋敷代銀札九拾目

ニ相極同町七助江壳渡シ申度旨右六藏願承届ル同廿八日本證文出ス

二月廿三日 晴 御用日御出席

一鍛冶場前渡シ船損シ候付御繕之義御蔵元兩人より書付ヲ以註進申出候付今日御用所江差出シ見分之儀被仰付被下度旨申上置候

一近来非人大分御家中江入込候付小屋之者兩人宛御家中相廻候様可申付哉之旨大目付中江申談候上御用番与兵衛殿江及御沙汰則小屋之者御家中兩人ツ、加廻いたし候様ニ大年寄忠兵衛江申渡置候

一宮川橋下ニ非人躰之者大分居候付追并橋近辺はき溜捨候事兼而停止之段相触置候処近来はき溜大分溜置候様相聞候付此段申付置候様大目付永井甚大夫被申聞候付大年寄忠兵衛江申渡置候

二月廿四日 曇小雨

二月廿五日 晴

一京六条。通り高瀬川西江入ル町升屋勘七と申者老人例年之通小間物きせるおろし壳ニ参候よし二階町境屋伊右衛門宿切手差出ス

二月廿六日 晴

一安岡町池田屋太兵衛娘きく当辰廿五歳此度西北条郡山北村庄七妻ニ差遣度旨町内人別除ケ右太兵衛願兩役所引合セ双方承届ル

二月廿七日 晴

二月廿八日 晴 御用日御出席

一來月出羽守様御通行之砌馬數五十疋御家老中江向方御家老の申來候付例之通寄馬用意馬共廿八疋申付可然旨大目付永井甚大夫の被申聞則寄馬廿八疋申付候様。下代江申渡候

一來月六日七日兩日町在御道筋見分先格之通出役可仕旨御用番与兵衛殿江及御沙汰大目付中へも申達人馬之義例之通被仰付度旨申達

并小勤者吉田文左衛門江御貸人之義申談置候

一來月三日御用所御出席無之旨大目付所の知らせ有之候

二月廿九日 雨

二月晦日 曇

一播州網干塩屋伊兵衛同弟助三郎と申もの式人例年之通八百屋物おろし壳ニ参候由宿切手中ノ町正木屋伊右衛門の差出ス

一右同州網干余陸屋忠七同手代彦右衛門と申もの式人例年之通八百屋物おろし壳ニ参候由右同人より宿切手出ス

三月

御用番 小須賀一学殿

大目付月番 鈴木此右衛門

大年寄月番

斎藤孫右衛門

朔日 曇

三月二日 雨

三月三日 晴

三月四日 晴夜中雨

一播州賀茂郡三木町形屋与兵衛と申もの老人例年之通紺屋形壳参候由中ノ町福茂屋武助宿切手出ス

一撰州大坂玉造上木綿町松坂屋忠右衛門と申者老人例年之通唐弓弦おろし壳ニ参候由東新町因幡屋新七宿切手出ス

一上紺屋町円乘院讚州金毘羅江参詣仕度来ル七日ニ罷立往来四五日之逗留ニ而罷帰申候旨円乘院願承届ル

一堺町小林山城義讚州金比羅参詣来ル七日罷立七日計之逗留ニ而罷帰申候旨右山城断書差出シ承届候

一二町目小倉屋茂兵衛父母同町浜本屋喜助母元魚町虎屋佐右衛門母

二階町戸屋伝吉母西今町伏見^屋茂七母同町上総屋和助同町作人喜助後家船頭町和泉屋金吉母右九人此度西国順礼仕り度明五日ニ罷立往来八十日計之逗留ニ而罷帰申度旨銘々同文段願差出シ承届ル

三月五日 雨

一二階町安楽院金毘羅江参詣仕度来ル七日ニ罷立同十六日頃罷帰申度旨安楽院断書差出シ承届ル

一中ノ町作人平四郎後家借屋ニ居候平兵衛と申者此度新田村源七と申者方江内縁有之引越申度人別除ケ願右後家差出シ兩役所引合セ双方承届ル

一勝間田町大屋仁左衛門忒市太郎十才大坂嶋之内御堂筋錢屋宇兵衛と申者内縁有之此度差遣度旨人別除右仁左衛門願承届ル

一京町桶屋四郎兵衛妹まさ三十六才此度備前御領分兒嶋郡八浜村和助妻ニ遣度旨人別除右四郎兵衛願承届ル

一安岡町久米屋金十郎家屋敷^地焼失跡北側ニ而表口六間半裏行四間半但御役老軒三步役東隣八日笠屋甚兵衛西隣八平屋利助ニ而右之家敷地之内東方ニ而表口三間半裏行十四間半但御役ハ六歩五厘役

之処代銀札百五拾匁ニ相極同町大和屋与三兵衛へ売渡申度旨金十郎願承届ル同十五日本證文出ス

一三丁目。備中屋源助同人娘たつ右兩人戸川町作屋庄兵衛借家伊勢七妹りよ同町作人長兵衛母下紺屋町年寄太郎右衛門母同町長吉母^{テウ}右六人此度四国遍路ニ罷越申度来ル七日ニ罷立往来百日計之逗留ニ而罷帰候様仕度旨銘々同文段ニ而願差出シ承届候

一。若松屋善左衛門義金毘羅江参詣仕度来ル七日ニ罷立往来七八日計之逗留ニ而罷帰度旨右善左衛門願承届ル

三月六日 曇昼後雨

一吹屋町熱田若狹義金毘羅江参詣仕度来ル七日ニ罷立申度旨断書差出シ承届ル

一下紺屋町満照院金毘羅江参詣仕度来ル七日ニ罷立同十六日頃ニ罷帰度旨断書差出承届候^{河原下}

一。熱田市正金毘羅江参詣仕度来ル七日ニ罷立往来七日計之逗留ニ而罷帰度旨断書差出シ承届ル

一西新町升屋甚兵衛弟勤助義京都本寺江参詣為仕度明後八日出立仕往来三十日計之逗留ニ而罷帰申度旨右甚兵衛願出承届ル

一右同町高松屋平兵衛妻并忒平吉娘もよ右三人之者此度京都本寺江参詣為仕明後八日ニ罷立往来三十日計之逗留ニ而罷帰申度旨右平兵衛願出承届ル

一宮脇町阿賀屋助次郎金毘羅江参詣仕度明七日ニ罷立往来七日計之逗留助次郎願承届ル

一安岡町長太郎重太郎清兵衛佐助惣助利助伊助長吉甚吉藤助右拾人金毘羅江参詣仕度明七日ニ罷立往来八日計之逗留ニ而罷帰可申

旨右拾人之もの願承届ル

三月七日 曇屋後晴

一元魚町豆腐屋茂兵衛立願ニ付金毘羅江参詣仕度明八日ニ罷立往来七日計之逗留ニ而罷帰候旨茂兵衛願承届ル

一右同町一場屋佐助金毘羅江参詣明八日出立七日計之逗留佐助願承届ル

一此間雨天ニ而大川筋水出テ鍛冶場土橋余程損候由右ニ付舟渡シニ

可申付旨御勘定奉行清水多橋カ申来右舟渡之義可申付旨大年寄孫右衛門江申遣候右舟渡ニ申付候趣御用番一学殿大目付鈴木此右衛門江手帟ニ而御届申候

三月八日 晴

一明九日八ツ時御供揃ニ而司馬五郎様二ノ宮江御遠乗被為入候旨尤御道筋京町御門カ本町通り御出被成候旨稻垣茂士カ通用有之此段大年寄江申遣候

一元魚町豊屋喜兵衛妻義病氣ニ付播州魚崎野上一齋と申医師江罷越療治致度旨尤来ル十三日出立ニ而往来五十日計之逗留ニ仕罷帰度旨右喜兵衛願承届ル

一今夕大御目付鈴木此右衛門カ罷越候様手紙来り即刻罷越候処江戸表去月廿九日同晦日出火之処大火ニ相成御屋敷も御類焼尤上々様益御機嫌能高田御屋敷へ御退被遊候段申来候右ニ付町方今夕カ自身番申付万事相慎火之元別而入念候様可申付旨被申聞罷帰即刻大年寄孫右衛門呼出シ右之趣申渡候

一今夕左之通廻状出牢屋三間屋カへも相触候様小頭左五兵衛江申遣候

江戸去月晦日出飛脚到来去月廿九日昼時分麻布辺カ出火候処

大風ニ而殊之外成大火相成御城御櫓等も御類焼御屋敷廿九日夕より晦日夕迄御類焼尤上々様益御機嫌能高田御屋敷江御退

被遊候段申来候此段為相知候様御用所御申候就右此節相慎火之元等別而被入念鳴物等当分遠慮可有之候

一右ニ付為伺御機嫌明九日四ツ時カ九ツ時迄之内御帳付候間登城可有之候此旨同役并支配かた江茂可被相達候以上

三月八日

大目付

三月九日 晴 御用日御出席

一今日諸士平服ニ而登城四ツ時カ九ツ時迄伺御機嫌御帳付候

一万人講残り錐之銀札御金蔵江相納り右之分手形カ壹通当役所ニ預り

置候様ニと御勘定奉行清水多橋カ今日被申聞則御金奉行預り手形壹通当役所ニ預り置右手形御用カ江入置候

一今日左之通廻状出大年寄孫右衛門へ此段知らせ置候一統慎之内故

同心組牢屋三間屋へハ改メ知らせ不申聞候

来ル十一日光円院様三十三回御忌ニ付於泰安寺御茶湯被仰

付候此段為相知候様被仰出候

右之趣同役并支配方へも可被相達候以上

三月九日

大目付

一姫路屋伝藏義旧冬カ病氣之処以今不相勝右ニ付湯治江入。度尤十

三日ニ罷立往来十六日計之逗留ニ而罷帰度旨右伝藏願承届候

一今日町馬廿五日足為見分大年寄孫右衛門宅江小頭左五兵衛部屋目

付藤森権六差遣シ見分為致例之通毛付帳面差出候

三月十日 晴

一今日四ツ時過御道見分ニ罷出境町々東新町迄見分夫直ニ在分
東筋江罷越候御貸人馬例之通小頭左五兵衛大年寄孫左衛門。道筋
付添罷越候若堂同心組三舟孫八老人中山伝次頼ミ右兩人川辺迄直
ニ召連候

一錢通用今日七式文ニ立替り候段大年寄孫右衛門召届候

一今日左之通廻状出小頭左五兵衛江例之通申遣候大年寄孫右衛門江
も「為相知置候」
(貼紙)

千松様鉄弥様御義御出生御届無御座候付先月十三日御先手橋
本阿波守殿ヲ以御用番松平周防守殿江御届被成候此段為相知
候様被仰出候

右之趣同役并支配方へ茂可被相達候以上

三月十日

大目付

三月十一日 晴

一今日四ツ時過御道見分ニ罷出二階町々安岡町迄見分夫直ニ在
分西筋江罷越候御貸人馬例之通小頭左五兵衛大年寄玉置忠兵衛諸
吟味いせ屋長右衛門道筋付添罷越候若堂同心組石名佐助老人中山
伝次頼兩人院之庄迄直ニ召連候右見分相濟。御用番一学殿江罷越
昨今町在御道見分罷出候段御届申大目付鈴木此右衛門江手紙ニ而
相届候

三月十二日 曇

一大目付永井甚大夫勘定奉行山岡与左衛門。大坂御用被仰付候由右
兩人今曉出立有之候

一備前岡山中ノ丁真嶋屋多平次手代源兵衛と申者老人例年之通万紙
類壳参候由堺町西川屋善助宿切手出ス

一新魚町わら屋茂八義西国順礼致度今日罷立往来六十日計之逗留ニ
而罷帰り可申旨茂八願承届ル

一出羽守様来ル十六日御通行ニ付町方江例之通触書差出シ候様ニ昨
日大年寄江申渡候

三月十三日 雨

一下村友右衛門殿大坂表江今朝御出立有之候

一江戸表御屋敷御類焼ニ付町方自身番去ル八日文申付置候処今日切
ニ而最早相止候様ニ可申付旨昨日大目付鈴木此右衛門より申来則
大年寄孫右衛門江申渡候

三月十四日 晴 御用日御出席

一鍛冶場土橋此節引取舟渡ニ可相成処此間舟渡シ土橋痛相初候処
直ニ舟渡シニ為致候段今日御用番一学殿江御届申上大目付中へも
相届候

一今日左之通之触書小頭左五兵衛江申達大年寄孫右衛門江申渡候
町方ニ而立宿致候もの町奉行初メ出役之面々江酒有合候共決
而出シ申聞敷事候賄之義及延引時刻ニ移候ハ、其節上下共焼
味噌ニ而茶漬出シ可申候
右之趣立宿致候者江堅可被申渡候

辰 三月十四日

右触書之趣大目付中江及対談右之通相触可然旨被申聞候付大年寄
江申渡置候

一箕作文庵借家ニ居候太助義此度林田上ノ丁伊助借家江引越セ申度旨町内人別除右丈庵願兩役所引合候上双方承届ル

一桶屋町大坂屋次郎右衛門眼病ニ付此度大坂西横堀吉野屋町西村考作方へ眼療ニ罷越度旨尤来ル十八日罷立往来三十日計之逗留ニ而罷帰度旨右次郎右衛門願承届ル

一大坂境筋北久宝寺町岸部屋茂十郎手代五兵衛と申者老人例年之通小間物おろし売ニ参候由新魚町鳥屋与三兵衛宿切手出ス

三月十五日 晴

一今日御道見分東江植月喜三次西江日下伝平罷出候

三月十六日 晴

一今日九ツ半時頃出羽守様御城下御通行ニ付当日町奉行ニ而平井半平出役例之通妙法寺角江罷出御目見被申上被下物例之通金貳百疋被下候由尤東大番所江註進同心組罷越候表番。町分江筋違橋江御見被成註進右大番所江同心組兩人相勤候平井半平御貸人御俵約ニ付同心組老人鍵持老人草履取手別人騎馬御俵約ニ付合羽籠持挾箱持無之候同心組名面出人帳ニ有之候

一馬駅江同心組兩人御先払例之通小頭左五兵衛平組兩人罷出候右名面。同心組出人帳ニ有之候

出羽守様被下物左之通

一馬駅兩人江銀四匁老人江貳匁ツ、

一御先払兩人小頭左五兵衛共ニ三人江鳥目六百文老人江貳百文ツ、

一院之庄川惣舟江鳥目壹貫文

一御藏元舟年寄江鳥目六百文

一船廻シ老人江鳥目百文

金田川被下物右同断

東大番所江山田衛守殿伊達与兵衛殿大目付鈴木此右衛門中奥目付西尾多内御徒目付高橋三大夫。付組老人出役有之候

一御使者宿齋藤孫右衛門方ニ而出羽守様御使者仙石源「御取次赤見類助被出候由

一町医例之通在宿申付置候右之外先格之通取計之義大年寄へ申付候一米相場書差出シ御藏米五拾八匁町米五十四匁

一宮川橋下ニ非人躰之者行倒相果居候由橋本町申出候由大年寄申出テ大目付構之場所故早速鈴木此右衛門江知らせ先ツ非人番仕居候様ニ申付置候

三月十七日 雨

一昨夜大目付中江知らせ申遣候宮川大橋下ニ行倒相果居候男御徒目付下目付見分罷出候由病死相違無之旨先格之通取捨之義可取計旨大目付鈴木此右衛門申来り則先格之通非人江申付取捨候様可申付旨大年寄孫右衛門江申遣候

一昨日牢舍人源四郎義出牢之上郡代役所ニ而申渡取計致候付同心組中山伝内福田甚藏兩人牢舍人源四郎召連罷越候

三月十八日 曇 御用日御出席

一明十九日九ツ時々司馬五郎様二ノ宮江御出京橋御門本町通り御出被成御帰ニ本源寺江被為入候由稲垣茂士通用有之此段大年寄

江申遣候

一御家中江非人加廻り先月廿三日申付置候処非人躰之者此節立退候様子ニ付最早小屋之者加廻り引取らせ候様ニ可申付旨御用所江及御沙汰大目付中へも申達最早引取せ候様大年寄孫右衛門江申遣候

三月十九日 晴

一今日左之通廻状到来大年寄札元町医其外捨扶持取之者江申渡候様大年寄孫右衛門江申渡候

江戸表御屋敷御類焼被成御勝手方御差支被成候段申来無拋月渡米并扶持方米之内毎月少々宛減シ相渡候様御蔵奉行江被仰付割合ヲ以相渡可申候間此旨相心得候様可及演説旨御用所御申ニ付申達候

割合

一千五十石百七拾石迄八歩引五十人扶持取も此部へ入

一百六十石式拾八俵取迄六歩引扶持方取之内七人扶持取迄

尤部屋住五人扶持取も此部江入

一部屋住三人扶持取五歩引

一大年寄札元地方目付町醫其外捨扶持類七歩引

但シ寿光寺扶持方并下地引方無之捨扶持類ハ不

及引取

一御給米取之面々ハ御給米相滞候故引方無之候

右之趣同役并支配方へも可被相達候以上

三月十八日

大目付

一西今町直屋孫四郎弟幸藏義不勝手ニ付此度当国大庭郡赤野村伝藏

と申者縁者ニ付当辰ノ才才申ノ才迄

之間差遣置申度旨右

孫四郎願承届ル

南側ニ而

一京町藤田屋善三郎家屋敷。表口五間裏行十七間但シ御役壹軒役也東隣ハ豆腐屋半右衛門西隣ハ岩佐孝碩ニ而御座候尤裏ハ河原町北側ニ而表口五間裏行八間但シ御役半役也東隣ハ豆腐屋半右衛門西隣ハ作人九右衛門ニ而右之両屋敷代銀札三百目ニ相極京町大村ヤ

源右衛門江売渡申度旨右善三郎願承届ル同廿九日本證文

一西新町并筒屋和兵衛家屋敷北側ニ而表口四間半裏行十七間但シ大溝切七歩役也東隣者菊場屋藤助西隣者薬屋与七ニ而右之内東之方表口壹間半裏行同断但シ式歩役之所右之家屋敷代銀札式百目相極同町菊場屋藤助江売渡申度旨右和兵衛願承届ル同廿五日本證文出ス

三月廿日 晴

一ノ宮市町之節去年之通万人講有之候ニ付講元之義井上弥三兵衛江及相談候而下請之者三人高雄屋藤助今屋左七浜本屋喜助右三人下役をも。引請候様ニいたし今日講元ニ申付候此段大年寄江申渡候

一去歲御用銀被仰付候不納之もの式拾七人江今日大年寄孫右衛門於宅小頭左五兵衛立会セ急ニ相納候様催促申渡させ候

三月廿一日 晴

一大年寄玉置忠兵衛倅広四郎義備中早嶋油屋義兵衛と申もの方江往來十日計之日數逗留ニ差遣度旨忠兵衛願承届ル

一細工町鍛柄屋十三郎家屋敷南側ニ而表口式間裏行拾壹間但シ式歩

五厘役也東隣ハ右重三郎西隣ハ真嶋屋嘉六ニ而右之家屋敷代銀札百四拾五匁ニ相極町内松山屋孫七江壳渡申度旨右重三郎願承届ル同廿六日本證文出ヌ

一 小性町作人文四郎家屋敷表口式間裏行拾間但シ半役也東隣ハ藤野屋十兵衛西隣ハ作人十藏ニ而右家屋敷代銀札八拾目ニ相極川原町作人藤吉江壳渡シ申度旨右文四郎願承届ル同廿九日本證文出ヌ

三月廿二日 晴

一 米相場書差出シ御藏米五十九匁町米五十五匁

三月廿三日 晴 御用日御出席

一 一ノ宮於市町万人講有之日取之義五月朔日二日両日之内致興行度旨講元ノ伺書差出シ今日御用所江及御沙汰日取り朔日ニ相極り則建札之義及御沙汰此段大目付中へも申達大年寄孫右衛門江右之趣申渡候

一 牢舍人野郎文次郎義御領分追払被仰付候付此段取計候様ニ今日於御次ニ大目付鈴木此右衛門被立合御用番一学殿被仰渡候右取計明後廿五日可申渡旨申上置候

一 左之趣町方江相触候様ニ御用番一学殿今日被仰渡大目付中へも申達此段惣町江相触候様ニ大年寄孫右衛門江申渡候尤勘定奉行中御用所江申上られ候様ニ相聞候

銀札通用ニ付正銀錢内々取遣イ停止之旨先達而度々相触候所近来不埒之族茂有之候旨相聞候不届之事情他国他領之者之義ハ銀錢ニ而相払可申候共銀札場ニ而兩替致させ請取可申候銀札場遠方小分之ハ小売場有之候間右之場所ニ而引替

可申候当地之者正銀錢取遣之義ハ不相成候右之通弥以内々取遣堅停止之間此旨急度相守可申候「此已後相背族有之におゐてハ急度咎可申付候尤目付之者相廻候間心得違無之様ニ可致候已上

辰三月廿三日

一 中ノ町新屋甚兵衛家屋敷中ノ丁南側ニ而表口式「行十七間但シ御役三步三厘東隣ハ福屋甚六西隣「右甚兵衛ニ而右家屋敷代銀札百五十目ニ相極橋本町佐渡屋伊右衛門借家ニ居候亀甲屋浅右衛門江壳渡申度旨右甚兵衛願承届ル同晦日本證文出ヌ

一 福渡町土佐屋金十郎家守十右衛門借家居候新助義家内三人此度南新座町野間宗庵屋敷長家江引越申度旨町内人別除右重右衛門願承届ル

一 西今町高田屋新右衛門立願御座候而妻しゆん娘よし右兩人召連四国八十八所江致参詣度尤来ル廿四日罷立往来八十日計之逗留ニ而罷帰度旨右新右衛門願承届ル

一 吉田左右と申者江安藤齋宮殿祈禱被相頼候由右祈禱相濟候内当町ニ逗留之義差免置候様ニ今日大年寄孫右衛門江申聞置候

三月廿四日 雨

一 中ノ丁菊屋兵藏娘きち十八才此度西北条郡上田邑見内村義八妻ニ差遣度旨町内人別除右兵藏願而役所引合候上双方承届ル

一 大坂金田町金屋半兵衛伴源藏同手代六兵衛と申者上下式人例年之通大工道具壳ニ参候由二階町さかい屋伊右衛門宿切手差出ヌ

三月廿五日 晴

一今朝半舎人文次郎義御領分追払左之通申渡候尤於牢屋小頭左五兵衛より申渡させ候同心組中山伝内福田甚蔵罷越右両人川部御境目江送參無滞追払相濟候段届出候付御用番一学殿大御目付鈴木此右衛門江手紙ニ而御届申候

野郎文次郎江申渡

其方義去歳投火有之候砌召捕其後度々致吟味候処偽之義申聞不届ニ付入牢申付置候得共格別之憐愍を以此度出牢御領

分追払申付候已後立歸り於令徘徊者召捕曲事可申付候

辰三月廿五日

三月廿六日(貼紙) 晴

一米相場書差出シ御蔵米六拾匁五分町米五十六匁五分

三月廿七日 雨

一ノ宮万人講場所請取講元罷越候付小頭左五兵衛例之通今日差出候一尾州嶋崎神職吉田左右と申者上下式人安藤斎宮殿より祈祷被申付要用之義有之候而十五日計致逗留候付境町西川屋善助方宿之義被相頼候故右之宿仕度旨西川屋善助願承届ル

一大御目付鈴木此右衛門より呼ニ參罷越候処中間市郎兵衛と申もの致出奔候由届有之右ニ付目明シ江申付尋出シ候様ニ可申付旨此右衛門より被申聞則目明シ十右衛門義早速呼出シ右之趣直ニ申付候一右中間市郎兵衛人相等。林田下ふか屋安之丞能存居可申間同心組差出シ吟味致させ置候様大御目付鈴木此右衛門より申来則同心組出番両

人川端又六室井作右衛門申付林田町年寄方江遣し吟味之上一札致させ持參相届出候是ハ右ふかヤ方江中間市郎兵衛義布衣反持參売

候由則右安之丞方ニ而相納候由右ニ付差遣シ候則一札翌廿八日大目付中江差出シ候

一今日下村友右衛門殿大坂表より御帰着有之候

三月廿八日 晴 御用日御出席

三月廿九日 晴

一江戸御屋敷御類焼ニ付先達而町方慎火之元之義大年寄江申渡置候処鳴物之義致家業ニ候警女座頭并稽古ハ不苦候間此段町方江申渡候様ニ今日大御目付鈴木此右衛門より申来則大年寄孫右衛門呼出シ此段申渡候

三月晦日 雨

四月

御用番 山田衛守殿

大目付月番 井上弥三兵衛

大年寄月番 蔵合孫左衛門

朔日 雨昼後晴

四月二日 晴

四月三日 晴 御用日御出席

一中ノ町小山屋与三右衛門より左之通宿切手五通差出候

播州網千野田屋平蔵と申者壹人例年之通小間物おろし売ニ參候由彦通

右同州網千丸尾屋六三郎と申者壹人例年之通荒物類并塩物おろし売ニ參候由彦通

右同州網干余陸屋武兵衛と申者老人例年之通八百屋物并鯉節売
ニ参候由老通

右同州網干河本屋常七と申者老人例年之通荒物類并鯉節おろし
売ニ参候由老通

右同州網干平松屋惣九郎と申もの老人例年之通小間物并さらし
蠟売ニ参候由老通 五通差出シ候

四月四日 晴

一 中ノ丁平岡屋忠右衛門義撰州大坂榎木町八丁目玉子屋九兵衛方迄
用事御座候而明五日出立往来三十日之逗留ニ而罷帰申度旨右忠右
衛門断書差出シ承届ル

四月五日 晴

四月六日 晴

一 錢通用老奴ニ七十三文ニ立替候旨大年寄孫左衛門ハ届出候

四月七日 雨屋後晴

四月八日 曇小雨

一 安岡町明石屋源六義撰州大坂過所町松屋甚兵衛方江罷越度旨尤明
九日罷立往来三十日計之逗留ニ而罷帰度旨右甚兵衛願承届ル

一 中ノ丁佐野屋吉兵衛家屋敷北側ニ而表口四間裏行十七間但シ半役
也東隣者羽屋忠助西隣者久屋文兵衛ニ而右之家屋敷代銀札五百五
拾匁ニ相極同町福茂屋武助江売渡申度旨右吉兵衛願承届ル同日
本證文出ス

一 鍛冶町かち屋藤四郎家屋敷南側ニ而表口五間裏行十七間但シ老軒
役也東隣者かち屋七右衛門西隣者かち屋庄助ニ而右之家屋敷代銀

札式百目ニ相極町目福^三屋助右衛門江売渡度旨右藤四郎願承届ル
同十三日本證文出ス

四月九日 晴 御用日御出席

一 林田延命寺ニ而常念仏之義相願相濟候由右ニ付東西両橋江右之建
札願出相濟候由寺社取次大場猪平次ハ通用有之候付御用番中江及
御沙汰大目付中江も申達此段大年寄孫左衛門江例之通取計候様申
遣候

四月十日 晴

一 吉野郡中谷村勘次郎手代孫兵衛と申もの老人例年之通晒蠟鯉節木
綿嶋并荒物おろし売ニ参候由境町大宝屋藤兵衛宿切手出ス

一 中ノ町福井屋市兵衛六拾才妻四拾九才伴善蔵拾九才次男才次郎拾
式才家内四人此度不勝手ニ付当国之内土屋能登守殿御領分勝北郡
福井村孫左衛門と申もの「有之候付引請與三ヶ年之間出職仕度
旨市兵衛願出承届ル

一 下紺屋町原田屋利助借屋ニ居候作人権次并妻娘とら伴伊三郎同娘
かん此度林田上ノ町親弥吉方江引越申度旨内人別除利助願而役所
引合セ候上双方承届ル

四月十一日 雨屋後晴

一 今日四ツ時過町内年寄呼出シ小頭左五兵衛部屋目付大年寄立合セ
御用^取不納之者廿五人之義不情^{マツ}ニ付町内年寄共へ申渡致出情早ク
相納候様ニ可取計旨申渡置候

四月十二日 晴

一 今日大坂表より大目付永井甚大夫御勘定奉行山岡与左衛門被致扇

着候

一奈良今井町墨屋伊兵衛手代源助と申もの老入例年之通墨売ニ参候
由京町加茂屋和六切手出ス

四月十三日 曇昼宿雨

一信州筑摩郡木曾福嶋屋品川屋利右衛門手代十三郎と申もの老入例
年之通塗物類おろし売ニ参候由境町西川屋善助宿切手出ス

一伏見町大工屋利助と申もの去秋相果候処右利助後家英田倉敷合
屋宇兵衛と申もの右後家親類ニ而「方江当盆前迄罷越世話相
頼申度ニ付罷越度由右後家願承届ル

一ノ宮市町ニ付参懸り之大坂道頓堀拾三人連見せ物有之神主より
被相頼彼地江罷越世話致「舟頭町舟本屋佐助より願出承届ル

四月十四日 曇 御用日御出席

一來ル十月万人講日取之義十五日十八日両日之内講元中伺出并建札
之義願出候付大目付中江申達候上御用番中江及御沙汰候処十五日
ニ相極り并建札之義例之通可取計旨被仰渡候付猶又大目付中江申
達此段大年寄孫左衛門江申渡候

一明十五日九ツ時御供揃ニ而司馬五郎様ニノ宮江御遠乗ニ被成御出
御道筋京橋門より本町通御出被成候旨稲垣茂士より通用有之此段
大年寄江申遣候

一西今町北側ニ而出雲屋文七家屋敷表口式間半裏行町並拾五間但シ
式歩五厘役也西隣ハ玉屋吉右衛門東隣ハ土居屋佐七ニ而右之家屋
敷代銀札百五拾目ニ相極町内直屋孫四郎江売渡シ申度旨文七願承
届ル同十七日本證文出ス

四月十五日 雨

一今日司馬五郎様ニノ宮江之御出雨天ニ付延引申來則大年寄江申遣
候

一昼七ツ時前鍛冶場舟渡シ水出相留り候旨大年寄孫右衛門より届出
候付御用番衛守殿大御目付井上弥三兵衛江手紙ニ而御届申候

四月十六日 晴

一昼四ツ時過鍛冶場前水落舟渡シ相始候段届出候付御用番衛守殿大
目付井上弥三兵衛江手紙ニ而御届申候

一今日四ツ時過大沢三平長屋ニ居候定平呼出シ請人太兵衛召連罷出
則小頭部屋目付立合セ「榎六神戶村ニ而政右衛門と致喧嘩候次第
遂吟味則口書取之候

一今日八ツ時半時神戸村懸り合之者元魚町黒坂屋幸助商人長七と申者
兩人呼出シ小頭部屋目付大年寄孫左衛門諸国吟味内年寄立合セ致
吟味則口書取之候

一ノ宮市町ニ付四五人連レ候参懸り之操見セ物有之神主「被相頼
彼地江罷越世話致度旨戸川町玉屋伝六中願出承届ル

一ノ宮市町ニ付土手之者共八人連ニ而万歳芝居仕候付神主中被相
頼彼地江罷越世話致度旨川原町山形屋新太中願出承届ル

一上紺屋町北側ニ而作人市右衛門娘ゆり家屋敷表口式間裏行九間壹
尺五寸但シ御役式歩五厘也東隣ハ疊屋勘六西隣ハ片岡屋清兵衛ニ
而右之家屋敷代銀札九拾匁相極町内作人善七江売渡度旨右市右衛
門娘ゆり願承届ル同五月廿二日本證文出ス

四月十七日 晴

一今日より一ノ宮田植祭り当日故同心組例之通差出シ候今日ハ中山市左衛門福田甚蔵差出シ候

一明十八日九ツ時御供揃ニ而司馬五郎様二ノ宮辺□御遠乗ニ被成御出御道筋京橋より本町□被成候旨稲垣屋茂士より申来此段大年寄孫左衛門□申渡ス

四月十八日 晴 御用日御出席

四月十九日 晴

一京都鳥丸通り六角下ル町二文字屋九兵衛手代新兵衛金十郎甚六右三人例年之通呉服物売ニ参候由京町海老屋長右衛宿切手出ス

四月廿日 晴

(罷越)
四月廿一日 曇昼後雨

四月廿二日 雨

一西新町爪田屋弥助と申者米屋ます家守ニ而右借家居候菊田屋武助と申もの近来不勝手ニ罷成候付渡世及難義此度勝北郡下野田村市郎右衛門方江当辰ノ歳より来巳ノ歳迄式ケ年之間出職仕度由右武助妻娘家内五人之者共罷越申度旨爪田屋弥助願承届ル

四月廿三日 小雨御用日御出席

一馬持共廿五人馬廿五疋江是迄三拾疋之分大豆被下候処御儉約ニ付五疋分之大豆被召上廿五疋分御儉約之□内相渡り五疋分之大豆被召上候旨此段申渡候様ニと大御目付永井甚大夫より今日被申渡則大年寄孫左衛門呼出シ此段申渡ス

一來月朔日一ノ宮ニおいて万人講有之其節非人拾人ニ減シ右拾人差出シ候様可申付旨大年寄孫左衛門江申付ル

四月廿四日 雨

一同心組中山伝内養子伝次義所存ニ相叶不申候ニ付此度離縁致候由小頭左五兵衛を以昨日相届承置候

一今日八ツ後牢屋詮義場江罷越二ノ宮村政右衛門再吟味いたし候付同心組室井作右衛門老人差遣候

四月廿五日 晴

一明廿六日四ツ半時御供揃ニ而司馬五郎様二ノ宮夫より長法寺辺江御殺生御出被成御道筋二階町御門夫より本町筋御出被成候由稲垣茂士の申来則大年寄孫左衛門江申遣候

四月廿六日 晴

一大坂大手筋折屋町田金屋庄左衛門倅庄次郎と申者老人例年之通腰物小道具売ニ参候由境町西川屋善助宿切手出候

一今日八ツ時過より三平長屋ニ罷在候定平義呼出シ小頭左五兵衛部屋目付立合セ再吟味いたし口書取之候

四月廿七日 晴

一今日左之通廻状出惣町江相触候様大年寄孫右衛門江申付^{同心組}牢番足輕三間屋江も相触候様小頭左五兵衛江申遣候

一蓮淨院様御病氣之処御養生不被為成御叶去ル十八日御逝去被成候依之今日の来月二日迄□之内鳴物高声御停止之事候尤武芸稽古普請者不苦候

右之趣御役并支配方江も可被相違候已上

一今日一ノ宮万人講場所見分小頭左五兵衛差出シ郡代所□も下代日

下伝平差出候

一大坂北久宝町丸屋藤兵衛手代宇兵衛と申者老人例年之通大工道具
売ニ昨日参候由京町海老屋長右衛門宿切手出ス

一今日左之通廻状出町方江計相触候様ニ大御目付井上弥三兵衛申
来則大年寄江申遣同心組牢屋三軒家江も相触置候様小頭左五兵衛
江申遣候

鳴物御停止之内菖蒲飾可致遠慮候此段可及演達之旨御用番
御申ニ付申遣候

右之趣同役并支配方江も可被相達候已上

四月廿七日

大目付

一京町国屋忠八義江戸日本橋宮河町近江屋」」もの内縁有

之要用之義出来ニ付罷越申度明後廿九日出立いたし往来日数五拾
日計之逗留ニ而罷歸り申度由忠八願承届ル

四月廿八日

曇七ツ前の雨

御用日御出席

一防州岩国久か町綿屋加兵衛手代文内次兵衛善八と申もの三人例年
之通ち、ミ帷子売参候由境町小鳥屋治郎右衛門宿切手出ス

一町方御用銀当春御借返シ式拾七貫目之内左之通追々相納候分大年
寄孫左衛門の差出シ今日当役所の御金蔵江送り手形を以相納則御

金奉行中の之請取手形取置候

銀札壹貫五拾目

相納候

一来月三日一ノ宮ニおいて万人講有之候付同心組式人四人被仰付被
下度旨大目付中江今日申達并小勘者江も申談置候

四月廿九日

雨

一昼九ツ過時の鍛冶場前舟渡シ水出相止候旨申出候付御用番衛守殿

大目付井上弥三兵衛江手紙ニ而御届申候

一芸州沼田郡天神町金谷善六伴助五郎と申者年廿三才右之もの三月

廿九日国元出参宮下向之所一兩日宮川三枚橋之脇ニ行倒病氣付候
趣相聞候ニ付大目付中江為知手紙差遣候処御徒目付下目付為見分

今日被差出候処弥大目付中構之場所ニ而見分相濟候由右之助五郎
義町宿屋江引取らせ快気次第早ク送り遣候様ニ可取計旨申来候付

大年寄孫左衛門江申渡候則大年寄孫左衛門の町内年寄江申付候由
伏見町和氣屋次兵衛と申もの方江引請させ療治之義井上一粹江申

付候由大年寄孫左衛門届出ス

五月

御用番

伊達与兵衛殿

大目付月番 永井甚大夫

大年寄月番

玉置忠兵衛

朔日 晴

昨日出候由
一今日左之通廻状到来例之通夫々江為相知候処大年寄忠兵衛江申渡
候

自江戸表飛脚到来去ル十八日為上使藤沼藤十郎殿御越御暇
被仰出紗綾十卷御拝領翌十九日大納言様奥津左京殿を以同

五卷御拝領被成候旨申来右様之御事候用意来月三日為御歎
御帳付候間巳ノ刻の午ノ刻迄之内登城可有之候此旨同役并

支配方江も可被相達候以上

四月廿九日

大目付

一今日四ツ時前鍛冶場前水干落舟渡シ相始候旨届出候付御用番与兵衛殿大目付付永井甚大夫江手紙ニ而御届申候

一播州今市綿屋嘉市郎手代忠七と申者老々人例年之通呉服もの并帷子売ニ参候由老通と外ニ

大坂北久太郎町境筋松屋甚兵衛と申者上下式人例年之通小間物おろし売ニ参候由二階町境屋伊右衛門より宿切手式通出ス

一昨日伏見町和氣屋次兵衛と申宿屋江引請候芸州之行倒者病人病氣快成候付今日井口村江送り遣候段大年寄忠兵衛が届出候郡代所の届出ハ、一緒ニ御届申候積リニ致置候翌二日御領分無滞送り遣候様申出大目付中江兩役所一所ニ相届候

五月二日 晴

五月三日 晴昼後雨 御用日御出席

一今日於一宮万人講有之新五兵衛兩役兼五ツ半時罷越例之通同心小頭左五兵衛平組不残罷越加入使組四人是又罷越大年寄齋藤孫右衛門出役書役土井左六召連罷越候七ツ時過無滞相濟罷帰直ニ御用番与兵衛殿江罷越御届申大目付永井甚大夫江手紙ニ而相届候御貸人馬例之通之内若堂御貸人老々人挾箱ハ御俵約ニ付無之候

寄札高 千四百三拾五枚

内七百参拾五枚村々庄屋が致世話入り候分

三步銀貳貫百五拾貳匁五分

一今日為御怡例之通於桜之間御帳付候新五兵衛義一ノ宮江出役ニ付

勘定奉行中相頼大目付御使番中江不参相届候

五月四日 雨九ツ時が晴

一今日中嶋定八宅におゐて万人講残り札渡シ小頭左五兵衛平組藤森権六三舟孫八差出候郡代所下代老々人例之通差出候

一大川筋水出。鍛冶場前舟渡シ相止り候旨申出候付御用番与兵衛殿大御目付永井甚大夫江手紙ニ而御届申候

一今日左之通廻状出候

江戸表が飛脚到来殿様益御機嫌能被成御座先月廿二日御暇之御礼首尾好被仰上御懇之被為蒙上意御馬御拝領被遊候段申来恐悦御事候此段為相知候様被仰出候

五月四日

大目付

一ノ宮。来ル六日迄日延之義願出相濟候間此段為相知候様御用所御申ニ付申達候

右之趣同役并支配方江も可被相達候已上

五月四日

大目付

一明五日九ツ半時御供揃ニ而司馬五郎様二ノ宮江御遠乗候為入候旨御道筋京橋御門夫が本町通り被為入候旨稲垣茂士が通用有之此段大年寄江申遣候

一鍛冶場前水干落候付暮前が舟渡シ仕候旨申出候付御用番与兵衛殿大御目付永井甚大夫江手紙ニ而御届申候

五月五日 晴

五月六日 曇昼後雨

一今朝御用番与兵衛殿が罷越候様手紙到来罷越候処中間吉六と申者

御吟味筋有之是迄割場ニ番付居候処今日牢番預ケニ申付候様被仰渡右ニ付勘定奉行栗田唯次江引合候而今日八ツ時割場ノ當役所江召連可罷越様唯次ノ中間頭江通用有之筈ニ申談置候依之同心組兩人右之刻罷出候様ニ左五兵衛江申付候

一右中間吉六義八ツ時割場ノ召連罷越候付當役所ニ而左之通申渡同心組神田権兵衛室井作右衛門兩人差添外ニ割場中間老人は又差添牢屋江差遣ス右牢番預取計相濟御用番与兵衛殿大目付永井甚大夫江手紙ニ而御「」申候

其方義御吟味筋有之候付吟味中

中間

牢番預ケ申付候

吉六

一一ノ宮市町今日切り引弘同心共見届候段申出候

五月七日 雨

一一ノ宮万人講残り錐之分渡シニ今日講元方江小頭左五兵衛差出シ郡代所も下代喜三次差出シ候

五月八日 晴

一今日町分溝見分ニ小頭左五兵衛部屋目付川端又六差出シ大年寄も罷出候此外諸吟味例之通罷出候

一越中富山船橋町松井屋源兵衛同手代嘉七と申者上下式人例年之通反元丹壳ニ参候由京町加茂屋和六宿切手出ス

一当国真嶋郡組村平助と申もの四国遍路ニ罷出候処丹州柏原ノ病氣ニ付送り来則東筋より東新町江送り参例之通安岡村迄送り遣候段

大年寄忠兵衛ノ届出在分送り届候ハ、一緒ニ相届候積り之事

五月九日 晴 御用日御出席

一去ル三日一ノ宮村におゐて万人講有之候節之寄高今日御用所江及御沙汰大目付中江も申達候

一大沢三平長屋者定平并懸り合町家之者吟味書今日御用所江差出候

一御掃城ニ付十日町在御道見分ニ罷出可申旨御用所江及御沙汰大目付中江も申達人馬之義例之通申達候尤小勤者江茂申談置候

一昨日申出候当国真嶋郡組村平助と申送りもの御領分無滞送り遣候

一段届出候付兩役所一緒ニ御用所并大目付中江今日御届申候

一去ル三日万人講之節六十卷番添突之分御金蔵ノ左之通今日請取講

元江相渡可申旨則左五兵衛江相渡候

銀札三百三十三匁三分六厘

申壬十二月五日分廿九番也

一先達而西川領里公文村高津宮地祭之場所江罷越及狼藉之者共御裁

許之義此間大目付中江及対談候上御用番与兵衛殿江御同申上候処

同之通可取計旨今日於御次ニ大目付永井甚大夫立合ニ而与兵衛殿

ノ被仰渡左之者共則今日七ツ時呼出シ小頭部屋目付大年寄諸吟味

町内年寄組合立合セ夫々江申渡候右取計相濟御用番与兵衛殿大目

付永井甚大夫江手紙ニ而御届申候右申渡之趣ハ申渡帳ニ文「」記

置候追払兩人江中山伝内石名佐助兩人差遣候

安岡町

町分追払

吉右衛門

兵吉

同町

手錠追込

藤助

材木町

此四人之者江同心組

右同断

権四郎

中山市左衛門福田甚

蔵兩人差添差遣候

上紺屋町

右同断 伊 助

鍛冶町横丁

右同断 利 八

外ニ左之兩人不行跡之趣兼而町内役人差図不請趣共相□候付此段御用所大目付中江も及御沙汰今日呼出シ呵申渡「申渡も別帳記置候

安岡町おか屋

呵 安兵衛

同町鍛冶手間

同 宇之助

一今日於御次ニ大目付永井甚大夫立合レ与兵衛殿被仰渡候者江戸表御屋敷御類焼ニ付町在懸り銀被仰付候員数等大目付中江承合下方江可申渡旨被仰渡候右ニ付左之通御書付相渡り候則札元御用達今日七ツ時呼出シ申渡惣町江之申渡大年寄共江申渡候尤小頭左五兵衛立合候右申渡相濟御用番中大目付中江手紙ニ而御届申候

在中林山彦畝ニ付銀式弔ツ、

同持高老石ニ付銀老々ツ、

札元御用達共銀七拾貫目

惣町銀三拾貫目

一此間牢番預ケニ申付置候中間吉六義当役所ニ而吟味致候「今日与兵衛殿被仰渡尤大目付永井甚大夫も致吟味候様ニ被申渡候一越中富山板屋理兵衛役介人善次郎嘉兵衛と申者兩人昨日罷越例年

之通当十月迄請人取私手前ニ召抱置売葉仕らせ度旨菊屋清左衛門願承届ル

五月十日 晴

一今日四ツ時分町在御道見分ニ罷出京町東筋江罷越例之通小頭左五兵衛大年寄蔵合孫左衛門付添罷越例之通見分いたし七ツ時過罷歸り御用番与兵衛江罷越御届申大目付永井甚大夫江手紙ニ而相届候若堂同心組福田甚蔵召連候挾箱持者無之其外人馬例之通

五月十一日 晴

一御城着ニ付馬之義土居分三十疋今朝大年寄迄頼来候由。町馬廿五疋有之残而用意馬共ニ八疋不足此分郷中江寄馬可申付旨今日大目付鈴木此右衛門江御用懸り故及通用候処右寄馬八疋可申付旨例之通可取計段申来候付則郡代所取計ニ而申付候

一江州神崎郡新童村嶋屋新平と申者老人例年之通きせる并墨筆おろし売ニ昨日参候由境町西川屋善助宿切手差出ス

一奈良今井町岡嶋忠兵衛と申者老人例年之通墨売ニ昨日参候由京町加茂屋和六宿切手差出ス

一銭八拾箇備前江相廻シ候ニ付川筋積下シ申候旨札元通り手形式通銀札場奉行中分相廻り則小桁御番所未知ケ原兩番所裏印取計遣候一従公儀御尋之もの之義人相書を以被仰出候廻状相廻り外ニ左之通

為知之廻状相廻り候付惣町江相触候様ニ大年寄忠兵衛江申遣候御尋もの之御書付別帳ニ記置申候右兩通之趣同心組牢番足輕三軒家江も相触「様ニ小頭左兵衛江申渡候

来ル廿一日晴雲院様三回御忌ニ付於泰安寺御茶湯被仰付候

此段為相知候様ニ被仰出候

右之趣同役并支配方江も可被相違候以上

五月十一日

大目付

五月十二日 晴

一今日例之通於御城大般若御祈禱有之御札參候同心組江頂戴致させ候分十式枚小勤者所江取ニ遣シ候

一明十三日御用所日之御出席有之候旨大目付鈴木此右衛門より為知手紙來候

一御帰城ニ付京町江材木町迄之間裏石垣草取申候付御掘江足代おろし申度旨申出候付御用番与兵衛殿大御目付永井甚大夫江手紙ニ而御届申候

一牢番預ケニ申付置候中間彦六義今日呼出シ小頭左五兵衛部屋目付川端又六平組石名左助三船孫八立合セ八ツ半時致吟味則口書取之候右平組兩人牢屋江差遣シ七ツ半時又々牢番方江差添遣候

一林田町ふか屋安之丞義も八ツ時呼出シ例之通大年寄小頭部屋目付諸吟味為立会遂吟味則口書取之候尤町内役人召連罷出候

五月十三日

晴 今日日々御出席

一芸州出生之者右妻申聞候由野伏体之宮川橋下ニ行倒相果居候旨右場所大目付中構場所ニ而昨日御徒目付下目付為見分被指出候処病死ニ相違無之趣相届出候由昨夜大目付中江手紙來右ニ付取捨之義

先格之通可申付之旨昨夜永井甚大夫より申來候ニ付取捨候様ニ可申付旨大年寄忠兵衛へ申遣則今日右取捨之義申付候段大目付^永井

甚大夫江申違候

一去ル九日申渡候町方之者手錠追込申付置候者共今日五日ニ相成候

付明朝差免候様取計可申旨今日御用所江御伺申上候処勝手次第差免候様ニ可取計旨被仰渡候付明朝大年寄於宅先格之通小頭部屋目付立合セ大年寄於宅差免候様ニ小頭左五兵衛江申渡置候

一今日左之通廻状出ス

火之元之義前々被仰出候得共尚又御城着前火之元堅被申付

殊御^著當日者別而相慎可申事

一御城着之節御城内可為人込候間銘々供之もの御城内に指置

中間敷候猶又喧嘩口論無之様ニ相嗜可申事

右之趣同役并支配方江も可被相違候

五月十三日

大目付

五月十四日 雨

一今日御用所御出席無之旨御勘定奉行栗田唯次新五兵衛連名ニ而大御目付井上弥三兵衛江手紙ニ而申來候

一「日御伺申上置候町方之者今朝手錠追込差免候」大年寄忠兵衛江御届出候付御用番与兵衛殿当番大目付中江手紙ニ而相届候

一東新町鍛冶屋新藏借屋ニ居候かち屋半兵衛家内三人此度林田村甚

兵衛借屋江引越度旨人別除新藏願兩役処引合セ双方承届ル

一右同町玉屋伊左衛門借屋江林田上ノ町六助俸伊助と申者此度引越セ度旨人別入猪左衛門願兩役所引合セ双方承届ル

一今日飛脚到來去月廿八日御免駕被遊候処同廿九日去ル八日迄富土川大井川満水ニ而御滞御座候之旨申來候由此段大目付井上弥三

兵衛江為知手紙來候

御城着御日限ハ不相知候由右之趣為御知廻状も出候

五月十五日 小雨

一御城着御日限相知レ不申ニ付御用所御出席無之「左右次第日参之義相始り候旨大御目付鈴木此右衛門ハ手紙来候

一川嶋桃庵義内用事有之候付備前岡山拔古庵方へ罷越申度明十六日罷立往来十六日計之逗留ニ而罷帰度旨桃庵願承届ル

五月十六日 雨

一中間吉六兩親町方人別之者故今日ハツ時過右兩親呼出シ小頭部屋目付大年寄此外町内役人例之通立合セ致吟味口書取之候

五月十七日 晴 御出席

一〇日左之通廻状出尤大目付より別ニ為知手紙来〇大年寄江為知道シ町馬急ニ土居之駅江遣候様申遣候

伏見之駅ハ飛脚到来殿様益御機嫌能被成御旅行尤十四日伏

見之駅御止宿来ル十八日土居之駅御止宿十九日御城着被成

候旨申来候此段為相知候様御用番御申ニ付申達候

右之趣同役并支配方江も可被相達候已上

五月十七日

大目付

一來ル十九日巳ノ上刻登城可仕旨廻状別ニ出候得共是ハ不記置候

一此間御触書出候御尋もの之證文組之もの大年寄惣町遂吟味候上町

在自分證文共ニ四通今月大目付所江差出候

一今日より御用所御出席日々ニ相成候段大目付中ハ為知手紙来候

一昨朝大沢三平長屋もの定平呼出シ右之外懸り合之もの共御裁許被

仰付候間夫々於宅取計候様ニ今日於御次大目付鈴木此右衛門被立

合御用番与兵衛殿より被仰渡候付明朝五ツ時小頭左五兵衛平組兩人罷出候様ニ小頭左五兵衛江申付置候

一此間於役所申渡置候札元御用達之者共御懸銀割合之義ハ御勘定所ハ札元御用達江ハ割合被取計候付此段申渡置候様ニ大御目付永井甚大夫より被申渡則大年寄忠兵衛呼出シ右之趣申渡置候

一伏見町帶屋源七伴伝次郎之義去ル寅ノ三月相願江戸表江罷越当国ニ而田附筑後守様ニ其迄相動居申候処当辰ノ〇月〇午ノ五月迄三ケ年之間相動させ申度旨帶屋源七願承届ル

一太田舍人長屋ニ居候弥源次と申者五拾式才此度福渡町大工幸次借家江引越セ申度旨町内人別入右幸次願承届ル

一安岡町北側ニ而磯屋いぬ屋敷地表口四間壹尺裏行十六間半但シ御役五步役ニ而東隣者庄野屋権七西隣ハ神目屋勘兵衛ニ而右之屋敷地代銀札百八拾匁ニ相極同丁大坂屋勘助江売渡申度旨磯屋いぬ願承届ル同廿一日日本證文出ス

五月十八日 晴 御出席

一牢番預申付置候二ノ宮村政右衛門義郡代所江呼出シ今朝五ツ時申渡有之ニ付同心組中山市左衛門福田甚藏。兩人牢屋江差出シ召連罷越候

一大沢三平長屋者定平義請人預候処今朝五ツ時呼出シ小頭部屋目付立合セ左之通申渡之夫ハ郡代所引請ニ而取計之右取計相濟御城江出仕之上御用番与兵衛殿并当番大目付中江御届申候

大沢三平長屋者

其方義先達而於神戸村二ノ宮村

定平江
申渡

政右衛門と及口論候上打擲ニ相

一旦罷歸候処其分ニ而不相濟ニ

付二ノ宮村庄屋方江罷越居候趣

故右懸り合之者共遂吟味候処故

右衛門及打擲外ニ院之庄村角八と申者政右衛門身方ニ相

成同様打擲致候段申出候故咎申付候其場之次第及吟味候処

前後不行届趣殊ニ逃歸り候旨万端致方不宣不屈成事候且又

其方田部村人別之者ニ候処無願町方江罷出当春御家中長屋

江罷越候由定法も有之処村役人江茂不相届我忒哉致方不屈

至極候旁以急度可申付候得共以憐愍御城下追払申付候尤田

部村人別差離シ候

辰 五月十八日

元魚町

一。黒坂屋幸助義ハ大年寄場合ニ而呵置候様ニ則忠兵衛江申渡候

一 中間吉六一郎兵衛兩親一昨日呼出シ致吟味口書取大目付中へ一昨

日差出シ候処当役所御用所江差出シ可申旨大目付中へ被申聞候

付今日御用所江差出候

一同心組藤森権六病氣引込罷在候処昨日夕出動いたし候由此間大目

付中江申達置候同心加入者人明日取候義相止候則加入ニ及不申段

大目付中江今日申達候并小勤者江も申談候

一 林田町ふか屋安之丞義中間市郎兵衛懸り合之ものニ付町内預ケニ

申付置中間一郎兵衛請人西新町菅屋三右衛門并下請人同町山田屋

彦六右兩人江一郎兵衛行方稠敷行衛相尋候様ニ右両様可申付旨今

日於御次大目付永井甚大夫立合レ御用番与兵衛殿へ被仰渡候付大

年寄忠兵衛宅小頭左五兵衛差遣シ町内役人立合之上大年寄忠兵衛

へ申渡させ候右申渡取計相濟御用番与兵衛殿大御目付当番江手紙

ニ而御届申候

五月十九日 雨 御出席

一 今日殿様僖御機嫌能夜前土居御泊ニ而今日八ツ時過御城着被遊右

ニ付町奉行代り御勘定奉行平井半平出仕致され万端去々寅ノ才之

通被取計候同心組役割等左五兵衛へ取計東新町大嶋屋方立宿申付

右之外去々歳之通り取計有之候

一 大川筋水出今日七ツ時鍛冶場舟渡シ往来相留り候段申出候付御用

番与兵衛殿大目付中当番江御届申候

五月廿日 雨 御出席

一 昨昼後三間屋上え之壘^イ三間程崩レ候段三間屋足輕届出候付今日此

段御届申候

一 明廿一日四ツ時御供揃ニ而司馬五郎様泰安寺江御仏詣被成候旨稻

垣茂士へ申来此段大年寄江申遣候

一 昼八ツ時過大川筋水干落鍛冶場前船渡シ相始候段申出候付御用番

与兵衛殿大御目付当番江手紙ニ而御届申候

一 昨廿一日五ツ時御供揃ニ而地藏院泰安寺妙法寺本源寺御社参御仏

詣被仰出候由御道筋例之御道筋御出之趣中奥目付本多嘉内へ申来

大年寄忠兵衛江申遣例之通同心組御先払之義申付候

五月廿一日 曇 御出席

一 小性町横丁土橋破損御繕之義書付ヲ以申出候付今日御用所江差出

シ見分被仰付度旨申上置候

一今日御出御延引ニ相成候段中奥目付の通用有之当番同心組郡代所
足輕江御城の申越候

一今日左之通廻状出候

明廿二日御目見被仰付候間辰ノ中刻登城可有之候此旨同役
同列組合支配方江茂可被相達候尤嫡子之分同日御目見被仰
付候間可被得其旨候已上

五月廿一日

大目付

一鍛冶場前川筋水出船渡シ相止候旨今朝申出候付御用番与兵衛殿大
目付中当番へ手紙御届申候

一町中宗門帳之案詞宗旨奉行小嶋此母の相廻候付例之通取計候様大
年寄忠兵衛江為持遣候

五月廿二日

晴 御出席

一今日五ツ半時諸士登城御目見申上当役茂表ニ而御目見申上候

一明廿三日五ツ半時御供揃ニ而地藏院江御社参夫の泰安寺妙法寺本
源寺江御仏詣被仰出候旨中奥大目付中の通用有之大年寄忠兵衛江
申遣例之通同心組御先弘之義申付候御道筋先例之通之由

一鍛冶場前水干落舟渡シ相始候段大年寄忠兵衛の届出候付御用番与
兵衛殿大御目付当番江御届申候

一大坂久宝寺町尾張屋七兵衛手代権兵衛と申者上下八人御当地御用
ニ付一昨日参候由京町綿屋源七断書右源七差出シ承届ル

五月廿三日

風雨 御出席

一今日五ツ半時御供揃ニ而地藏院江御社参夫の泰安寺妙法寺本源寺
江御仏詣被遊例之通御勘定奉行平井栗田山岡当役栗原七間廊下江

罷出候

一今日九ツ半時鍛冶場前水出舟渡シ往来相留候段申出候付御用番与
兵衛殿当番大目付中江手紙ニ而御届申候

一銭通用老奴ニ七拾四文遣イニ相成候由大年寄届出候

五月廿四日

晴 御出席

一今日四ツ時大川筋水干落鍛冶場前舟渡シ往来仕候段申出候付御用
番与兵衛殿へ御届申上当番大目付中江も相届候

五月廿五日

晴 御出席

一明廿六日御出ニ付御用所御出席無之段大御目付永井甚大夫より知
らせ手紙来候

五月廿六日

晴

一今日四ツ時過より御対面所江被為入候

五月廿七日

雨 御出席

一茅町鹿屋半平商売躰之義ニ付大坂心齋橋筋梶木町玉子屋九兵衛方
江罷越申度尤当晦日ニ罷立往来廿五日計之逗留ニ而罷帰度旨右半
平願承届ル

五月廿八日

曇 御出席

一成覚寺江衆僧参り致説法候願相濟候付東西両橋江建札之義御聞届
相済旨寺社取次細江藤右衛門の通用有之候付今日御用番与兵衛殿
江及御沙汰大目付中江も申達例之通取計候様大年寄忠兵衛江申遣
候

一橋本町後藤屋孫市義去月一ノ宮芝居小屋ニ而役者之ものと及口論

諸役人江對シ無礼かさつ致方ニ付手錠追込申付可然旨外ニ勸進元舟元屋佐助義呵追込候様ニ取計可申旨右兩人之義今日大御目付弥三兵衛が被申聞候付御用番与兵衛殿江御同申上候処右之通取計可然旨被仰渡候付近々取計申積ニ小頭左五兵衛迄内々申聞置候

五月廿九日 晴 御出席

一吉野郡中谷村勘次と申もの老人例年之通晒蠟鯉節木綿嶋并荒物おろし売ニ参候由境町御大宝屋藤兵衛宿切手出シ候

一左之通町方江之触書惣町江相触候様大年寄忠兵衛へ今日指遣候

近来遊女躰之もの差置候様ニ粗相聞え候他国もの無届差置候義兼而停止之事情宿致候もの詮義之上相知候ハ、急度。可申付候此旨惣町裏借屋迄入念可被相触候已上

五月廿九日

一新魚町鳥屋与三兵衛が左之通宿切手式通差出ス

京六条通油小路下ル町香具屋兵助同手代清八と申者老人例

年之通小間物売ニ昨日参候由

大坂堺筋北久宝寺町岸部屋茂七郎同手久兵衛と申者老人例年之通小間物おろし売ニ昨日参候由

五月晦日 晴 御出席

一大年寄共明朔日御目見被仰付候旨御奏者村山平学が被申渡候付則蔵合孫左衛門斎藤孫右衛門玉置忠兵衛連名ニノ以奉書申遣候尤差上物之義小勘者吉田文左衛門江相頼將又御門通行之義大目付中江申達候上中奥目付柴山左衛門江申達置候

一尾州知多郡嶋崎之内寺本村陰陽師高橋伊豆上下式人例年之通御家

中町方旦那廻り昨日参候由小性町ひちや兵蔵切手出ス

一東新町大嶋屋。平右衛門父。義右衛門并弟弁吉ヲ召連西国巡礼ニ罷出此節罷帰候積之処京都ニ而用事御座候而未相済不申候付是が五十日計逗留仕度旨右日延之義平右衛門願承届ル

一伊部長屋ニ居候茂七と申者式十四才此度福渡町勘吉と申者之借屋江引越申度尤町内人別人右勘吉願承届ル

六月

御用番 下村友右衛門殿

大目付 当番持

大年寄月番
斎藤孫右衛門

朔日 晴

一今日月並之御礼被為請先格之通七間廊下江郡代役ニ而罷出御通懸ケ御目見申上候

一今日大年寄三人御目見被仰付蔵合孫左衛門斎藤孫右衛門玉置忠兵衛辰刻過登城致させ鯛三拾枚宛差上御目見申上候

六月二日 晴 御出席

一同心組より先達而弁書を以申出候趣拙者奥ニ名相認候而可差出旨昨日大御目付井上弥三兵衛が被申聞候付則弁書拙者名面ニいたし今日大目付中江差出シ候

六月三日 曇 御出席

一昨四日五ツ半時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊「中奥目付土岐三太左衛門が通用有之此段大年寄」「遣シ例之通御先払之義小

頭左五兵衛江申遣候

六月四日 晴 御出席

一今日五ツ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊例之通御勘定奉行栗田山岡兩役七間廊下江罷出候

一元魚町米屋喜助義立願ニ付讚州金毘羅江參詣仕度尤来ル六日出立ニ而往来九日計之逗留ニ而罷帰度旨右喜助願承届ル

一今日左之通御触書出町方江相触候様大年寄孫右衛門江申遣^{ロウ}牢番足輕三軒屋同心組江相触置候様小頭左五兵衛江申付候

從公儀先達而被仰出候真鍮錢追々御当地へ通用可申候間壹文ニ而並錢四文之代リニ相用ひ無差支様可令通用候尤式分

以上ハ御定法之通通用無用候
右之趣同役并支配方江も可被相達候以上

六月四日 大目付

六月五日 晴 御出席

一今日井上弥三兵衛ハ手紙到来明六日丸淵辺江御川狩御出被遊候付陸路江松明大分差出シ不益之人夫出シ「義思召ニ不相叶候付此段順路之町在江可及差図旨申来候付此段相心得居候様ニ大年寄孫右衛門江申遣候

一例年之通痘瘡守護神江来ル七日ハ十四日迄施主御座候付「差上度奉存候尤夏祓御祈禱護摩修行致度右届書石松院ハ差出シ承置候
一三津屋平右衛門所持仕候他国請酒林当十日迄之内借請商売仕度旨八百屋平左衛門願承届ル

一明六日九ツ時御供揃ニ而嵯峨洲江御川狩御出被遊候由御道筋京橋

御門より京町夫より鍛冶場前夫より御舟ニ而御出被遊候旨中奥目付浜田平橋ハ申来「此段大年寄孫右衛門江申遣御先弘之義小頭左五兵衛」遣候

六月六日 小雨 御出席

一今日九ツ時御供揃ニ而嵯峨洲江御川狩御出被遊候

一今日七ツ前時御供揃ニ而司馬五郎様ニノ宮辺江御遠乘御出被成御道筋竹之馬場ハ大番所今町通り御出被成候旨稻垣茂士より申来此段大年寄孫右衛門江申遣候

一今日八ツ半時過橋本町後藤屋孫市舟頭町舟本屋佐助兩人呼出シ小頭左五兵衛大年寄諸吟味町内年寄立合セ左之通申渡之右取計相濟御用番友右衛門殿大御目付当番江手紙ニ而御届申候
後藤屋孫一江付森
同心組神田權兵衛
室井作右衛
門罷越候

橋本町後藤屋孫市へ申渡ス

其方義当四月一ノ宮市町見せ物小屋ニ而役者相手取り相互ニ悪口いたし候上役者壱人捕投候由出役之者茂有之処不弥成義ニ候不相濟義も有之候ハ、役人江「可出候処地他入込大勢之中ニ而右等之次第かさつ成」不届至極ニ候依之急度可申付候得共以憐愍手鏡追込申付候相慎可罷在候

六月六日

舟頭町舟本屋左助江申渡ス

当四月一ノ宮市町見せ物小屋におゐて後藤屋孫市役者相手取り悪口いたし候上手筆ニいたし地他人込大勢之中ニ而右等之かさつ不届ニ付咎申付候其方義万事引請居候付早速取

鎮靜謐ニ可致処手□之段不埒之至ニ候依之急度可申付候得
共以憐愍「申付候相慎可罷在候

六月六日

一上紺屋町渡部休庵方江備前岡山上ノ町井手屋源吉と申者縁家之者
ニ而今度内用ニ付昨日罷越十四五日計リ逗留仕らせ度旨右休庵願
承届ル

一例年之通来ル七日夕十四日迄祇園之御戸開申度旨下紺屋町不動院
届書差出シ承置候

六月七日 晴 御出席

一明八日五ツ半時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊候旨中奥目付柴山
李左衛門より通用有之此段大年寄江申遣御先弘之義例之通同心組
江申付候

六月八日 晴 御出席

一今日四ツ時過シ泰安寺江御仏詣被遊例之通御勘定奉行平井栗田山
岡当役栗原七間廊下江罷出候

一明九日九ツ時御供揃ニ而丸洲江御川狩御出被仰出御道筋京橋御門
より京町鍛冶場前シ御舟ニ而御出被遊候旨中奥目付本多嘉内シ申
来此段大年寄孫右衛門江申遣□同心組御先弘例之通差出シ候様小
頭左五兵衛江申遣候

一坪井町鍵屋吉兵衛伯父福渡町山崎屋喜三兵衛家屋敷南側ニ而表口
五間裏行拾老間半但シ老軒役也西隣ハ紺屋文助東隣ハ皆木屋甚兵
衛家ニ而喜三兵衛義此度病氣いたし吉兵衛万端引請前後世話仕然
ル処喜三兵衛家屋敷存生之内鍵屋吉兵衛江相譲り置尤親類其外何

之構も無之由依之右吉兵衛と名代仕替申度旨鍵屋吉兵衛願組合連
印町内役人役判ニ而差出シ相違無之趣大年寄孫右衛門申出「願
之通承届ル

六月九日 晴

一今日九ツ時過より丸洲江御出被遊候

六月十日 晴 御出席

六月十一日 晴 御出席

一明十二日五ツ半時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被仰出候旨中奥目付
西尾多内シ通用有之此段大年寄江申遣シ御先弘之義例之通小頭左
五兵衛江申遣候

一例年之通勝部蓮池蓮葉人札来ル廿日迄ニ御代官所江差出シ候様惣
町江例之通相触可申旨大年寄孫右衛門江申遣候

六月十二日 雨 御出席

一今日四ツ時泰安寺江御仏詣被遊御勘定奉行平井栗田山岡当役栗原
例之通七間廊下江罷出候

一伯州米子片原町吉兵衛と申もの夫婦連ニ而西国ニ罷出候処作州福
力村ニ而右吉兵衛義足痛いたし則福力村シ送□出シ今日林田村よ
り送り来西筋江例之通送り遣「大年寄孫右衛門シ届出在分送
り濟候ハ、一緒ニ御届申積リニ致置候

六月十三日 晴 御出席

一明十四日五ツ半時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被仰出候由中奥目付
本多嘉内シ通用有之此段大年寄孫右衛門江申遣候同心御先弘例之
通申付候

一昨日申出候伯州江之送りもの町分無滞送り遣シ今日在分も無滞送り遣候段申出候付一緒ニ今日御用番友右衛門殿大御目付当番江御届申候

一東新町美和屋喜市親文助所持之家屋敷南側ニ而表口式間ニ裏行十七間御役三步三厘三毛役也東隣者鍋屋八郎兵衛西隣ハ黒田可臥家ニ而右之家屋敷同町水口屋茂兵衛江代銀札五百目ニ壳渡申度旨右喜市願承届ル

一当町ニ而源右衛門と申者江大坂之者酒壳懸ケ有之候付江戸八丁掘岡崎町平右衛門居和兵衛と申者及催促筋不立ニ付訴状差出シ候由大坂御奉行所源次屋惣左衛門江御渡被成候段大坂御蔵屋敷御役人より爰元大目付中江申来候由右源右衛門と申者吟味申付候様ニ今日大御目付井上弥三兵衛被申聞則大年寄江吟味申付候

六月十四日 晴 御出席

一今日四ツ時泰安寺江御仏詣被遊御勘定奉行平井栗田山岡当役栗原例之通七間廊下江罷出候

一徳守宮地内今夕の涼有之同心組兩人ツ、十九日迄指出ス右之通申付候処御徒目付下目付江八十四日十七日廿九日三度致出役候様ニ被申付候由組之もの承罷帰候由申出候付当役所同心組も右同様三度罷出可然旨翌十五日昼廻り中山伝内石名左助兩人江申渡置候尤毎夕夜廻り「立寄見廻り候様ニ別段ニ申付置候

六月十五日 晴 御出席

一今日月並之御礼被為請候

一昨日大年寄江吟味申付候当町ニ源右衛門と申酒商壳致候もの有

之右訴状差出候手懸り之もの有之哉今日も吟味致させ候処右様もの酒商壳是迄致候もの無之旨申出候付今日右一札大年寄連印ニ而差出させ則右一札ニ当役奥書致印形大目付中江差出シ候尤御用番友右衛門殿江持参御目ニ懸候上晩方大目付中役所「差出シ候右一札之扣御用篋^(三)江入置候

六月十六日 晴 御出席

一今日八ツ半時御供揃ニ而司馬五郎様二ノ宮辺江御川狩御出被遊御道筋京橋御門の本町通り御出被成候旨稲垣茂士の申来此段大年寄江申遣候

一明十七日五ツ半時御供揃ニ而地藏院江御社参被遊候旨中奥目付西尾多内へ通用有之右ニ付人留之義大年寄江申遣候

一舟頭町舟本屋左助橋本町後藤屋孫市去ル六日追込申付置候処今日ニ而十日も過候付兩人共追込差免可申哉之旨御用番一学殿江御伺申上候処何之通差免可然旨被仰渡候付此段大目付中江も申達則今日七ツ時過右兩人差免候様可申渡旨大年寄孫右衛門江申遣候尤源市^{差免}ハ同心組老人神田権兵衛差出シ手錠差免候右取計相濟今日之御用番一学殿大御目付当番江手紙ニ而御届申候小頭左五兵衛義も大年寄宅へ立合指出候。

一官市町ニ而警固之者同心組勤方之義先達而物頭町奉行より相伺尤四月十九日見せ物小屋ニおゐて橋本町後藤ニ孫市役者老人相手取り及口論右ニ付物頭組同心組ニ相成り物頭を申達候歟夫ニ付此方も同心組并書差出シ則大目付迄先達而差出置候処勤方之義^{双方}書付ヲ以テ今日大目付役所ニおゐて井上弥三兵衛を物頭中当役江

一 諸ニ被仰渡候依之其節相^{ツメ}候同心組川端又六三舟孫八兩人義七

ツ時呼出シ小頭左五兵衛立合セ呵追込申付候委細大目付中ハ被相渡候書付ニ有之日記ニハ略之候右書付写書通御用^{ツメ}篋^{ツメ}江入置候尤老通組之者江已後為心得相渡置候且又同心組江申置候段一ト通り大目付中江手紙^{ツメ}相届置候

六月十七日 晴 御出席

一 今日四ツ時過地藏院江御^{トキスキ}社^{トキスキ}詣被遊例之通七間廊下江御勘定奉行平井栗田山岡当役栗原罷出候

一 筑前遠賀郡柏原浦小平次手代庄兵衛と申者老人例年之通茶碗類完ニ昨日参候由小性町田戸屋宗十郎宿切手出ス

一 二階町年寄阿賀屋与十郎義近年殊之外売商向不埒罷成渡世難義におよひ年寄役難相動ニ付^役免願出此度三木文吾と改号いたし小須賀一学殿江入奉公致度旨町内人別除右兩様。与十郎願去ル十四日差出シ願之通今日承届ル

六月十八日 晴 御出席

一 今日八ツ時半時御供揃ニ而二ノ宮江御遠乗ニ被為人御道筋二階町御門より銀札場前本町通真直ニ御出被遊候由中奥目付本多嘉内ハ通用有之此段大年寄江申遣シ候御先^{ツメ}弘之義例之通同心組申付候様ニ小頭左五兵衛江申遣候

一 林田町門屋又七養子ニ大田村源兵衛梓榎之丞十才此度引請町内人別ニ差加度旨又七願当役所引合セ双方承届ル

一 京六条通油小路下ル町香具屋兵助手代甚七と申者老人例年之通小間物ニ参候由新魚町鳥屋与三兵衛宿切手出ス

六月十九日 曇 御出席

一 明廿日五ツ時半時御供揃ニ而地藏院江御^{ツメ}社^{ツメ}詣被仰出候由中奥目付柴山左衛門ハ通用有之則大年寄江人留之義申遣候

一 御出之節同心組御先^{ツメ}弘ニ罷出候節夜分御帰之砌大ノ字挑灯^御老張ニいたし老帳減シ且又御船ニ而御帰被遊候節御揚り場御挑灯御紋大ノ字都合三張建置候処向後御紋挑灯式張ニいたし大ノ字御挑灯相止候様可申付旨今日大目付井上弥三兵衛ハ被申渡候付此段小頭左五兵衛江申渡御藏元江も申渡候様大年寄孫右衛門江申渡候尤御紋御挑灯此已後者明ケ開き建候様ニ御藏元江可申付旨大年寄江申渡置候

六月廿日 曇 御出席

一 京町。年寄理左衛門義先年眼病疾来候処次第眼薄ク罷成難儀仕候依之丁役御免被下候様右理左衛門願承願ル尤跡役之儀京町小性町年寄梓清六江申付候此段大年寄孫右衛門江今日申渡候

一 細工町大工小市郎親礪山市郎兵衛今般御徒格被召出候付家内之者町人別差除度旨右小市郎願承届ル

一 今日地藏江之御^{ツメ}社^{ツメ}詣御延引ニ相成候由中奥目付浜田^{ツメ}ハ通用有之人留之義申付候付此段大年寄江も為知遣候

一 細工町作人次左衛門借屋ニ居候喜八と申者之娘十八才此度上横野奥大谷村五助と申者江差遣度尤町内人別除右次左衛門願向役所引合セ双方承届ル

六月廿一日 雨 御出席

一 今日栗原新五兵衛町奉行仮役無滞御免被仰付跡役大沢三平町奉行

役被仰付此段惣町江為相知候様ニ大年寄孫右衛門江申渡候

一右被仰渡例之通御居間ニ而御急町奉行役被仰付候人念可相勤之旨

御家老安藤造酒之助が役料付人並之通席只今迄之通ニ被仰付候旨

被申渡退弥三兵衛が「付請之甚大夫ハ同道也引統御用所面謁相

濟

一昨晚下村權右衛門御役被召放遠慮被仰付之由

一同大橋十大夫御役免尤拝領もの有之候由

六月廿二日 雨

一昨晚先役中組并諸具帳面等磯野伊兵衛江引渡「朝大目付所江相届候

一同心夜中通り札老枚小者夜中通り札老枚銘々證文ニ而受取

一先似役新五兵衛が同心組其外支配筋之者共例之通「(3)軍司及御用櫃

万端無残送り之通受取之

廿三日 夕雨有

一役中受取渡し相濟由大目付所江届ル

一「軒屋番善兵衛居所之後げやきの木中折居宅のきニ少々懸り居候

由届出尤昨夜之事之由

一御作事が瓦四千六百枚川下切手木知ヶ原 小拵ニ通相廻り候得共態々々

飛脚も御失墜之事故拙者印鑑御飛脚便迄延引可致ニ付其段相断御

用番中が御指図ニ而大目付中が新五兵衛呼に参印形御頼ニ付其趣

に相濟申候

一先達而拙者相勤候内津山鳥飼とも御城下ニ而乗馬致間敷旨申渡竹

之馬場ニ而乗場御渡し被成候其節之通又候弥相心得候様申渡候

一二階町年寄阿賀屋与十郎跡役同町山手屋弥太郎へ申渡候

一御城下惣馬持共拜借大豆式表(3)ツ、例之通ニ而及御沙汰御聞届被成

候

廿四日 夕雨

一明廿五日御役申文可被仰付之旨永井甚大夫被申聞之

廿五日 晴

一堺町かけヤ市右衛門元魚町桶屋伊助兩人河原町作人定七借屋早助へ掛り出入以上三通大概左之通

堺町かけヤ市右衛門分

河原町早助と申者粹文蔵与申者去々々々私妻仕立物仕遣し候

処賃錢不差越催促仕候処擲掛り私面へ疵付候得共堪忍仕其

後相尋候而不見昨十九日前を通り候ニ付呼候へハ口論仕

懸け鉄刀持參私弟伊助參候を打擲疵付堪忍難仕旨

元魚町かけヤ伊助分

私儀昨十九日之晚堺町兄市右衛門へ參候処文蔵と市右衛門

差引事ニ付壹端鎮候半へ參懸り候へ者右之文蔵何ら訳もな

く私江鉄刀を携打擲額に疵付気分も不相勝難儀之仕合不届

者に候間如何之訳ニ候哉吟味申付呉候様

右之兩人訴出候ニ付尋候上

河原町定七借屋 文蔵親 早助

私十三年已前河原町堺和屋勘四郎借屋江罷越跡ニ同町石井

ヤ弁四郎借屋江九年去ル卯八月同町作人定七借屋へ引越し

申候粹文蔵当辰が八年前酉歳に美濃職人まち原田屋馬七借

屋へ去人別宅二年計其後ハ久世江參去ル卯四月頃罷帰折節

ハ宅江も参り以後者参り不申左御座候へハ家内人別ニてハ
無御座候旨

右訴状答状三通別ニ有之候何分相手文蔵欠落致候哉親元
江も不参候趣先ハ取上なき類に候併打擲ニ逢疵も有之旨
候間一端申上置候是ニ付候而触出候書面

川原町早助悴文蔵と申者此間元魚町かけヤ猪助と申者
ヲ致打擲候後逃去候哉在処不知候此已後右文蔵見請候
ハ、早速可申出候様銘々町内末々之者共へ可申渡候以
上

大年寄へ申渡為触昼夜廻り之同
心井目明共へも心を付候様申含
メ候

一今日神文大目付当番井上弥三兵衛御使番黒田多膳中奥目付浜田平
橘

一郡代近來ハ新五兵衛吉人故火事場へハ町奉行ニ而出役候趣ニて此
度而役立候ニ付以後者郡代中ニも火事場出役ニ相成候

一御用席へ御前被為入候節之時例日之出座之節以同相束可申上儀ハ
一所に濟候様其外ハ前後罷出不申様此間鈴木此右衛門被申聞候併
町奉行郡代共ニ致言上候事用捨氣聞を厭候事も有之候一分立申上
候事も有之候得者其段御伺被下度旨当番大目付弥三兵衛江申談候
処承知いたし直に被伺候処御聞届被成揃ニ而罷出候者格別其外可
申上候儀前後何か度も可罷出由ニ相濟候段同人ハ被申聞候

一播州姫路龍野町泉屋次兵衛小間もの売切手出撰州大坂嶋之内大宝
町万屋吉次郎皮足袋するのう金通し売切手出撰州網干新在家村

かまヤ善七手代新八小間もの卸切手出る

廿六日 晴

一江戸表御類焼跡表御長屋御普請於御国切組ニ而舟廻被仰付候右ニ
付町方望之者人札来ル五日迄ニ出し勿論仕様帳之儀も御作事ニ有
之候間其旨触出候様当大目付鈴木此右衛門被申聞即日大年寄孫右
衛門江申遣ス

廿七日 晴

一御目見医師河合友益長病之処今曉相果候届ニ付今日及御沙汰候
一今日御前被為入於御用席町奉行御勘定奉行郡代例日出座後又々御
呼出ニ而御用番衛守殿被申渡

東西御差支ニ付町在懸り銀被仰付夫ニ付候而ハ下方故障難
渋之筋可有之候然ル所近年下方ハ差而申出候筋も無之先穩
に相聞万一難渋之筋も致遠慮不申出候而者上御趣意ニ不相
叶候間随分無遠慮些細之儀たり共可申出候

一学被申聞候ハ御静隠之儀何事も不申上候而計ニてハあし
く候今般之儀御新制之儀存寄候趣右に不限無遠慮申出候様
ニ可被心得候

一材木町おけヤ忠助太平次昨廿六日晚方ハ行方不知近所一類共迄相
尋候得共不相知候処林田百間土手川筋八出村分ニ流死致し居申旨
追々注進仍之郡代所町奉行所立相場ニ付双方見分ニ差出尤同心藤
森権六差出吟味之上書付取之帰ル今夕郡代大村庄助町奉行大沢三
平申合御用番山田衛守殿へ届に罷越

右流死之母之名しか年五十四見分之書并材木町家主并五人

組共之書付別ニ有之候

廿八日 晴

一吉ヶ原御番所印鑑相廻候儀ニ而郡代町奉行兩人より書状遣し尤御
飛脚便ニ出ス文段扣ニ有之候

一昨夕御用番中へ申達候材木町流死母取計之趣言上仕候大目付所江
も申達候

一津山役馬昨日届出候趣及御沙汰

一当辰二月始メ大納戸役所紛失物三月初旬同様右役所へ訴出候以來
中間市兵衛欠落ハ同人兄吉六当町牢番預ニ相成居申候町分ニても
内々吟味有之五月十八日ニハふかヤ安之丞も町内預ケ相成居申候
以今手懸りも無之趣右等之次第今日井上弥三兵衛ハ被申聞一件之
吟味書とも一袋被渡之受取之置

一今日札元并御用達諸吟味之面々帰役ニ付改之対面致候

廿九日 晴

一石名平太兵衛被為召町奉行附町目付と被仰付候
一類族無替儀之段京町へ届申出候

七月

御用番 伊達与兵衛

大目付 当番持

大年寄

藏合孫左衛門

朔日 晴

一月並之御礼被為請諸士登城隨而町奉行役被仰付候御礼表ニ而被為

受献上例之通ニ而申上候尤御礼廻勤

一今日小須賀一学出府

一宗旨奉行中へ例歳之通案文廻状出ル

一明二日五半時御供揃ニ而加茂川筋へ被為入候御道筋京橋より川井
円左衛門前夫へ鍛冶場御乗船被成候旨中奥目付へ被申聞候同心御
先払御波戸場之儀例之通ニ大年寄共へ申付候御紋之挑灯先格之通
差出ス

一野田村山伏大乗院と申者美濃職人町吉田屋平吉娘怪病ニ付祈禱致
し遣候処其驗無之事を憤り右之山伏挾箱二箇差扣不相渡旨申之及
難儀候由久瀬殿役所へ添翰取訴訟可申由相聞候仍之大年寄於宅吉
田屋并五人組呼出し山伏挾箱之入記を為認内々引合立合ニ而相渡
候様申付候

一撰州大坂本町三丁目小ほうし理兵衛筆墨売切手

二日 晴

一泰安寺去月十一日之夕坪井町辰ヤ後家兼而密会ニ候哉忍び込申合
イ候上ニ而懷劍等携又候翌十二日之夕泰安寺ニ参候約諾之処前夜
之趣おもハしく戸を指し裏通渡部休庵方へ逃退被困候事及露顯寺
社方へ申立有之右ニ付辰屋後家儀ハ町預ケ休庵儀ハ他参差留可申
尤泰安寺いつかたに罷在候哉手配之儀昨日於御次与兵衛殿於対談
間被仰渡当番此右衛門立合右旁仰候而寺社奉行村山平学へ申談尚
又御取次大場猪平次へ引合同心差向妙願寺ニ泰安寺罷在哉否互ニ
申合候処妙願寺ニ罷在候由為知猪平次へ申越候ニ付辰屋後家小頭
左五兵衛ヲ向町預に申付休庵ハ大年寄へ他参を差留

一 泰安寺ハ成道寺江申渡之上妙願寺同道ニ而村上平学於宅預ケニ相成途中同心兩人尤是迄ハ御使番ヲ差添成道寺ニ而困ニ入候御作事懸り差固仕向ハ井上弥三兵衛引請

此段昨晚取計相済成道寺ニ而昼夜番人ハ御使組也

一 今日昼後ハ急ニ取計ハツ半頃辰屋後家呼出し於宅吟味申付候立合石名平太兵衛大年寄忠兵衛年寄兩人組合罷出ル後家みお申口別ニ記ス

一 休庵申儀者同時ニ大年寄方ニて呼出し小頭左五兵衛諸吟味立合則孫左衛門於宅申口別忝記ス

一 縁取式枚大村庄助ハ預り候

三日 小雨終日

一 野井乃古川弥四郎ハ川嶋代ハ此間之返書昨夜到来扣ニ留候

一 昨日辰屋後家并休庵及吟味候趣与兵衛殿江及御沙汰候
一 昨日辰屋後家并休庵及吟味候趣与兵衛殿江及御沙汰候
一 昨日辰屋後家并休庵及吟味候趣与兵衛殿江及御沙汰候

一 今日辰屋後家再吟味申付候是ハ休庵弁書ニ泰安寺樓廻ヲ出候事後家ハ其儀を陳し候故也即刻白状ニ

および候故同書読聞無相違旨申之引取せ候

一 江州神崎郡新堂村嶋屋新平手代幸助きせる墨筆売切手出

四日 晴

一 今日御仏參被遊七間廊下例之通罷在候庄助ハ無詰合

一 休庵弁書辰屋後家申口差出ス

一 御城内紛失もの御穿鑿之儀ニ付存寄書入御内覽候

一 泰安寺暑邪之気味不相勝候ニ付服薬致させ度旨寺社方申出候付大

目付中ハ被申聞候即刻周齋を申付候様大年寄江申遣ス

一 今日大場猪平次於宅泰安寺吟味被申付候由同心兩人申来り差向候挑灯ハ先方ハ出さず候

五日 晴

一 於御国切組入札之儀来ル十日迄之追触申付置候様ニ御作事方申聞候間今日再触差出ス

一 司馬五郎様八半時御供揃ニ而京口ハ直に東新町大嶋屋横手より百間敷迄御出被成候由其段取計

一 馬持共拜借大豆老人式俵ツ、相願及御沙汰候

一 村上平学拙者兩人共御用処江可罷出之旨被仰聞罷出候処泰安寺并辰屋吟味書最早差詰候上ハ御裁許筋相考可申上旨則泰安寺申口之書付御渡被成御請申上候

六日 晴

一 西川永松太惣左衛門酒井良藏ハ婦役怡状来今朝返書遣ス

一 盆中触書相渡ス

七日 晴

一 船持共拜借米三表ツ、願書差出シ差上置候

一 明日五ツ半時泰安寺御仏參被遊候旨中奥目付中ハ通用夫々申渡候

八日 晴

一 今日御仏詣被遊例之通七間廊下詰合

一 泰安寺并辰屋後家御裁許筋村山平学江も談し合候上後家并忝計方

一 家屋敷家財等之儀考書言上致置

一 明九日四ツ時御供揃ニ而加茂川筋江被為入京橋口ハ町筋直に玉林

江御懸り被遊候旨中奥目付中ハ通用夫々申渡候

一於対談之間与兵衛殿被仰渡立合番井上弥三兵衛

蔵合孫左衛門ハ

穀類川下之儀是迄孫左衛門受込運上銀不残被下候処以後右

運上銀取上尤取立之儀ハ同人江被仰付候仍之追而勤金被下

候

塩運上取立之儀是迄無之候得共向後老儀ニ付老分ツ、運上

取立申付右取立之儀ハ同人江被仰付候仍之追而勤金被下候

右即刻取計候

一明九日四半時御供揃ニ而司馬五郎様かも川筋江被為人候御道筋入

道坂夫ハ袋町本通為知申渡候

一明日御出ニ付無御出席無之旨大目付中ハ為知

一播州網干余陸屋惣七同手代彦左衛門式人八百屋もの切手

一播州網干塩屋伊兵衛同町助三郎荒物塩物卸売切手

九日 少雨天

一三軒屋番中村吉兵衛長病昨夜相果候旨届出候

一今日御出ニ付無登城

十日 小雨

一三軒屋番人相果候儀大目付永井甚大夫江申達ス

一宗別帳二冊寺社取次中江廻ス

一町方小間割ニ取計候三拾貫目先月廿五日切ニ先役ハ申渡置候処漸

此間迄ニ廿八貫目余納り申候ニ付其分銀札場江收納仕度旨御用番

与兵衛殿江同候処其旨取計候様被仰聞候故則日大年寄孫左衛門江

申渡候尤残り之分も来ル八月切ニ濟納書付取可申旨申含メ候

一御用席御前被為人村山平学拙者御呼被為出候而泰安寺并辰屋御裁

許之趣意段々之存寄御糺被成銘々存付申上候

一舟持共拜借米ニ當時御差支之儀御取上なき段御用番与兵衛殿被仰

聞候去歳も同断ニ候右馬持共拜借も同様ニ候得共大豆と米との差

違も有之且馬役之儀者格別之筋も有之儀御含ニも御座候儀と御移

リニ付即日大年寄へも申渡候

一馬持共拜借も二儀之処御借渡之旨證文出ス

十一日 暮前ハ雷夕雨

一蔵合孫左衛門斎藤孫右衛門ハ此間被仰付候運上又候穀物川下運上

等之儀町方江舳差出候様可然旨大沢長大夫江御勝手方懸り清水多

桶ハ通し有之候其旨為舳之段長大夫被申聞候ニ付及御噂舳出し候

扣ニ有之

一明十二日五ツ半時御供揃ニ而泰安寺御仏詣ニ付中奥目付中通用有

之夫々相触候

一御用所御前被為人泰安寺懸り合辰屋後家御裁許同書之上弥相決し

認可出候寺社方申渡之書付も見合之為御見被成候由奉畏早刻添判

改候而差出候寺社奉行中も同様ニ而追付於対談大目付立合与兵衛

殿仰渡され候同書御返下被成候

一八半時ハ出役其外辰屋後家呼出し等之取計手配付置寺社奉行中ニ

て者泰安寺へ申渡し有之候ニ付同心組四人差向候様被申聞候

一坪井町辰屋後家みを倅元次郎呼出し年寄五人組并取計入用ニ付髮

結とも呼寄候渡部休庵儀も玄関ニて申渡等致見聞候様ニ手配ニ

て同心出番此方ニて式人申付候御裁許左之通

辰屋後家みをへ申渡

俣元次郎も一所ニ

其方儀此度泰安寺江対し候訳及御吟味候之処互ニ幼年之頃
の相馴染候由申之候且又去月十一日夕兼而申遣し候事有之
俣元次郎を何方江も遣し置其方ヲ伴ひ立返可申及違背候ハ、
差殺可申由泰安寺申之候得共其方得心不致候ニ付甚憤り懷
劔等差出し候躰おそろしく存先其場ハ有候由乍然所詮密通
之中テ之申合押而不糺之候翌十二日之夕又々忍ひ込候処居
宅をかまし渡部休庵へ欠込委細物語候故休庵困候而忍はセ
其夕變儀ハ無之泰安寺も引歸り候由扱其方夫左七ハ致死去
候而も俣有之候婦人としてハ第一身を慎可申之処主シなき
身と存分に取乱シ剩幼少よりと事をよせ重キ一寺之出家を
たぶらかし其所ニ居申候年寄并組合迄悪名難儀をかけ世間
人口を恐レ不憚密会事を重ね法外言語同断不届之至ニ候右
一件泰安寺御糺明決し其方白状無相違之上急度可申付候得
共以御慈悲尚又髪を払セ御領分追払申付候此已後立歸於致
徘徊者可為困事者也

辰七月十一日

右之通ニ申渡候勿論髪を払候旨申大意ハ後家ハ左七相果候
時ハ自身ニ飾をおろし髪を切候町之末迄を着存分ニ取乱し
殊更泰安寺と馴なしみ其外平日之不行作有之終に件之仕義
ニ及候事早竟後家之躰婦人之義をうしなひ候ニ付其非其咎

教へしめし候子細ニ而再於役所ニ飾を捨後家之姿に作り替
追払候義なり此外ニ蹈之大意有之

今日寺社奉行村上平学於宅泰安寺ハ脱衣御領分追払候津

山十り四方并江戸京大坂御構之由也是ハ東江被払候

。同寺隱居追院御構同事是ハ西へ被払候

。妙願寺閉門是ハ寺社取次之於宅申渡候也

三ヶ寺取計之書付写しハ別ニ有之候

十二日 晴

一坪井町鍛柄屋吉右衛門堺町嶋屋藤助兩人共数年ねち俣細工仕候而
渡世仕来り仍之前々ハ獄屋御めん并御仕置者御用等被為仰付候ニ
付右為御手当先年ハ御領分へねちわく細工人等一切他所者入込候
儀御差止御預ヲ以渡世仕所近年新イ田村江播州加古川宮右衛門と
申者細工仕近在ヲ引受細工仕候得共他領之儀迷惑仕候所当年者当
町私仕来「操屋方へ新田村ハ取ニ参り猥ニ細工仕候右他所者入込
候義御差留被成可被下候旨銘々願書出し申候ニ付今日御用番与兵
衛殿へ及御沙汰候処早速御聞届被成旨被仰聞候ニ付其段大年寄共
へ申渡候

一明十三日ハ十六日迄御出席無之旨大目付所ハ為相知候

一來ル十四日例歳之通町廻りニ罷出候様及御沙汰候大目付所江も同断

一昨日泰安寺当住ハ川辺へ同寺隱居ハ院庄へ追院ニ而送り御徒目付

下目付同心中山伝内
石名左助罷越候処地方目付立石五左衛門俣才兵衛も御

徒目付呼出し見届之書付を同人江申付候処是迄例も無御座殊更立

届「御注進可申旨今儀郷調不申郡代所江者御届申理ニ至り申候又

庄屋とも認有之奥書ハ可仕哉と一向訳立不申右寺ハ無滞御境目迄送り候上ニ而書面調かたく其俣ニて引取候由今朝同心兩人噂申出候ニ付今日御徒目付河村市兵衛富沢金左衛門ニも及噂申出金左衛門申候者河辺ニてハ地方目付へ認させ同心ハ書物取不申よし先達而も同所ニてハ地方目付書付致候由ニ相聞「其儀還而意味

いかニ存当番大目付中江も申談し是ハ金目付役之者書付取ニハ不及同心取候而いかにも可濟哉と請之候上同心共江も其儀申聞せ候右ニ付郡代大村庄助江も通用候処同意ニ付則被申合候哉院庄庄屋改メ候而書付持参致し候取次中江も出し候由ニ候

一中之町三室屋宇左衛門養子板倉撰津守殿御領分備中矢懸百姓中西李右衛門倅市右衛門と申者当辰廿三歳先達送り添書来ル

一東新町源屋願林田上之町筏屋甚七取持ニ而林田村甚右衛門娘養女に貰

一二丁目あい屋次兵衛願林田村又兵衛娘さよ倅宗兵衛妻に貰

一美職人町田中屋文助願借屋居申作人忠右衛門後家林田町ニ而倅作人平四郎方江引越申度

一中之町葉屋藤吉願借屋徳助娘林田村小兵衛方へ妻に貰

一配当場城正病身ニ付伯州見笹に入湯往来廿日之逗留十四日出立願

一三丁目はまの屋善十郎家守九兵衛願押入村本多考悦方へ養子願

一京町使者屋敷御用ニ付委細者大沢長夫と申談致へく候尤郡代所并御代官所出役場に相成候由粗相心得候様御用番与与兵衛殿被仰聞候

十三日 晴

一明十四日五半時御供揃地蔵院泰安寺江御仏詣被成候御道筋例之通中興目付中々通用同心先払町方掃除等申渡ス

一昨日之処有之鍬柄屋嶋屋願ニ付東新町のた屋礮右衛門と申者もねち獲致し候様相聞候ニ付為尋候処に今細工も致し獄屋御用勤候旨相聞候事也

一渡部休庵の坪井町辰屋やしき跡に雑具状巻物差置度右ニ付引合相済承知之上断申出る

十四日 晴暮前夕雨

一今日御仏詣被遊候ニ付例之通七廊下へ罷出当役勘定奉行郡代御通り懸御目見へ申上ル盆中故外御用無之退出

一〇夕町廻り無相替儀且又伯州会见郡外江村市右衛門夫婦娘と三人連にて順礼播州佐用郡佐用村の女房壱人足痛病人ニて送り来り東新町の安岡村へ継送り候旨東新町の申出候町廻りと送り者両様御両方江御届申達ス送り手形ハ無之候へ共病躰無相違且那寺往来も所持致候

十五日 夕雨烈シ

一林田上之町いつ屋甚七借屋伊介東新町茶屋清兵衛家来丈助と申者横町ニ昨十四日七ツ時分待受致打擲候由食事も不給痛絶無心元存右打擲ニ逢候者江うけ取候事も得不仕右伊助方江引取様裁許之願訴出候仍之先大目付当番鈴木此右衛門江達置郡代大村庄助江申通置右出方為吟味同心部屋目付故障ニ付室井作右衛門へ差向見届させ取支人同町九十郎と申者口書取帰ル尚又容躰書医師渡部甫庵町医吉武齋寿小池友的三人の取之郡代所に而者右相手上ノ町伊助

ハ預ケ申付候由

茶屋清兵衛家来丈助養躰之事

一 上向キ疵所相見へ不申候へ共袋打ニ而惣身うつき別而胸腰痛
夜前ハ一向喰事給不申候元々歩行不相叶弁舌相分り不申候夫
ニ付爰度變病無心元奉存候以上

月番大年寄宛

掛り医者中

七月十六日 昼雨

一 茶屋清兵衛下来打擲被逢支人九十郎呼出遂吟味候申口取之候

十七日 晴

一 今日茶屋清兵衛訴へ上之町伊助懸り合并醫師養躰書諸書付御用番
与兵衛江申達ス

一 明十八日九ツ半時御供揃ニ而二宮江被為入候ニ階町御門の八百屋
町夫の本通りニ御懸り被成候旨中奥目付□の通用夫々相触候

一 鍵屋安左衛門明十八日郡代所江呼出度旨其段申渡置候

一 戸川町作人長兵衛母永元備前屋伊セ七妹りよ先達而相願四国偏路
往来百日之日数三月七日立候処不帰当月中日延断出ス

一 町会所郡代所御代官所役所ニ当分御渡被成候ニ付場所見分之為大
沢長夫夫御勝手惣請込大沢三平町奉行場所ニ懸り候ニ付大村庄助郡代也御作

一 事奉行関十治其外下目付も罷候而大工頭等も罷越候所役所割相濟
大年寄孫左衛門町内年寄も罷出る

十八日 晴

一 玉置忠兵衛綿実座御取上向後綿実彦本ニ付川下ケ運上銀式匆五分
宛差出シ可申事尤綿実油の儀忠兵衛方ニ而候儀ハ不苦候其外

ニ而候儀停止之事尤綿実彦本ニ付式匆ツ、忠兵衛方ケ運上銀差
出可申事綿実運上取立請込之儀玉置忠兵衛可申付事

一 綿運上彦本ニ付川下シ彦匆陸荷五分向後差出し可申事尤蔵合是迄
被下候判賃ハ相止候事操綿運上取立請込之儀蔵合孫左衛門へ可申
付事

右之通今日御用番与兵衛殿被仰渡勿論委細之儀者大沢長大夫へ聞
合候様被仰聞候兩人へ勤金ハ追而被下候事

一 右之兩様惣町へ触出し取計候扣ニ有之

十九日 晴

一 御中聞市兵衛先吉六是迄年番預候其原ニ而平舎ニ相成候
一 かわら町土橋痛損書付出候ニ付及御沙汰大目付所江出ス

一 京町使者やしき郡代御代官所役所ニ御渡被成候旨永井甚大夫ケ被
申渡候今日大村庄助不快罷出ず候故拙者承之通達ス

廿日 曇り小雨 廿一日 晴

一 茅町今晚百万届申上以後者役所承置可申旨御断申置候

一 先達而御城内ニ而紛失もの一件ニ付町預ニ相成居候ふか屋安之丞
町内預差免候尤他参差止之旨申渡」

一 中之町大塚屋重次郎訴訟勝間町苅田屋治七郎へ取次倉敷村松右衛
門銀三貫目取次当辰四月切ニて同家頭用九兵衛と申者相人ニて酒

六「質物東新町肥後屋兵左衛門加判之処限月不相濟候双方懸り合
右九兵衛此頃播州へ歸り居候を重次郎方へ差越候ニ付同道ニて治

七郎へ参及催促候得共外借も有之由弥遲滞上御裁許無之内ハ相渡
し難申と申趣ニ付是ハ質物之儀ニ候得共外相對之借物と違申候質
物相渡し可申と申之候得共濟し不申無抛申出候旨願出候

一勝間田町荊田屋治七郎相手方の答段ニ不勝手ニ有之返濟延成「
 相渡候可申と申候処一家之者迄左様ニ致候而者當日の渡世致方無
 之酒売候而三步払残之儀者年賦ニ致候様申儀ニ付三貫目之内貳貫
 目重次郎取替も有之貳百六拾匁相渡置此度酒売ニ而一貫目払候ハ
 五」ニ取候而相濟し吳候様頼申候而又々壹貫五百目之挨拶致内濟
 進候由也

一中ノ町大塚屋の再願先月廿六日の酒売場ヲ引候処七月六」商売初
 而此通ニテハ預ケ候質物之酒減し致難儀候旨申出候右出入之有増
 及御沙汰候

一坪井町百万遍

一明廿二日於御対面所御囃子有之大役人以上ニ男三男ニ而も武芸ニ
 出御目通江出候者拜見被仰付候尤御用勿論私用ニ而不能出候共勝
 手次第時刻遅罷出候而も又々不残不相濟内罷帰候而も是又勝手次
 第之事ニ候追而平服ニテ可被罷出候不「」ニ而も不及断候旨大
 目付所の廻状出る

廿二日 晴

一今日御囃子御出候ニ付登城無之

廿三日 晴

一ふか屋安之丞町預ケ免之代参止之一昨日取計兩御届今日違之

一幾野御代官平岡彦兵衛手代中里忠助大井田与五郎より栗原新五兵
 衛先役町奉行宛ニ而来書当御代官所作州吉野郡村々御貯麦御払被
 仰付右直段見合候間御城下津山町当辰七月十五日上中下表相場書
 御取御役中奥書御印形ニ而被遣候様彦兵衛殿被申聞候由申来り則

大年寄申渡し相場書可出旨取計候文段扣ニ有之候

一三軒屋番中村善兵衛悻豊治と申者番代願之通申付今日及対面候小
 頭石名左五兵衛同心ヘヤ目付藤森権六詰合

廿四日 八ツ後少雨

幾野の来状之趣及御沙汰候

一御使組書役土井佐六母長病之処昨日相果候旨届承置候

一中買共の御蔵米六拾七匁町米七拾七匁

一生野御代官所平岡彦兵衛殿手代大井田中里兩人江返書上中下表直
 段三通相認飛脚ニ相渡ス

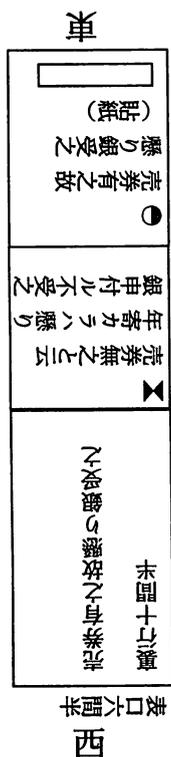
一安岡町百万遍

一二丁目福永屋藤助此度之御懸り銀調達得不仕恐入候ニ付御用達ニ
 而罷有甚憚奉り候義ニ而右御免被下候様断書差出尤御用達共懸り
 銀之儀者辻三拾貫目ニテ此分御勘定奉行懸り合候間此間中引合候
 処又候浜野屋善十郎儀も皆納得不仕半納ニテ御免被下候様断書差
 出兩様御勘定奉行山岡与左衛門迄可然考弁ニ付候様申談置
 一安岡町久米屋金十郎借屋作人左七家内四人北郷権八長屋江引越断
 書出ル

一船頭町片田屋市右衛門儀此度御懸り銀一統之小間割申付候所

表口三間

裏行三間



右図之如き場所表口^{六間} 八朔割暮割共ニ出銀出し申候土手江付候東之端三間ハ明和二年ニ相求候由申之^三此印之分三間ハ一向不及着趣申出候ニ付今日小頭石名左五兵衛大年寄藏合孫左衛門諸吟味棟梁五郎兵衛居町^三建治と申大工為出相改候処十間半裏行ヲ打土手江付候東^三此印之処改候処三間無相違候へ共^三此印之分三間と同一出候へ共老間半ニ候由申出追々可取計義ニ付先承置粗ハ見分以前及御沙汰置^三

廿五日 晴

一 司馬五郎様今日二宮刃江八半時御供揃ニ而御遠乗被成御出候昨日稲垣茂士^三通用有之例之通為知候

一 四国扁路船頭町市兵衛願

一 福永屋藤助浜野屋善十郎歎書昨日書面之通段々引合候

廿六日 七ツ過夕雨

一 船頭町片田屋方見分之大概絵図ヲ以御用番与兵衛殿へ申上置追々吟味裁許可仕旨申上ル

一 今夕地藏院江忍見廻りニ同心兩人出ス

廿七日

一 福渡町山崎屋喜三兵衛家屋敷南側表口五間裏行拾老間半老軒役也右喜三兵衛甥坪井町かき屋吉兵衛へ譲置ニ付此度同人^三願出候親類共何之構も無之吉兵衛名代仕替可申旨承之置候

一 坪井町鍵屋吉兵衛願之趣先年御咎之元魚町湯のみ屋善左衛門久世表ニ住居金沢惣五郎与改其後徘徊御免被下以右惣五郎倅嘉五郎當辰式拾式才ニ罷成候私甥ニて候由今度商売為見習当辰^三来午之歳迄三ヶ年之間私方へ差置度旨願出先達而右意味相有之者故御用番中江於御次申上候所承届候様被仰聞尤大目付所江も申達其旨聞届候段大年寄江申渡ス

迄三ヶ年之間私方へ差置度旨願出先達而右意味相有之者故御用番中江於御次申上候所承届候様被仰聞尤大目付所江も申達其旨聞届候段大年寄江申渡ス

廿八日 晴

一 大目付御状
一 江戸表^三飛脚到来日光御門取様御不例之処御養生不被為叶去ル十六日薨去之旨申来候依之今日^三来ル廿九日迄三日之内鳴物高声御停止之事ニ候尤普請ハ不苦候右之趣同役并——夫々例之通触出ス 七月廿七日之日付

一 席順之儀御奏者市村数馬江承合候処町奉行被仰付候節も席是迄之通と被仰渡候儀先年^三当御役ニ被仰付候へハ直に磯野伊兵衛次座之心得ニ可能有候由被申聞候

一 備前橋本町塩屋伝六手代茂兵衛老人瓦懸取参西川屋善助宿切手

一 西川屋善助宿切手大坂大手筋折屋町田金屋庄右衛門倅庄三郎腰物等小道具売昨日入込

一 大目付所^三廻状半切御藏當時有米不敷ニ付御家中扶持方米之外者於銀札場町相場を以切手御買上被仰付候其旨可被相心得候右之趣同役并——

一 一部屋目付川端又六先達而倅坂井藤太儀小須賀一学殿先頃江戸出立

之頃藤太甥^{御家老組}有元重八供に被召連候頃藤太儀重八を意趣有之^三立を妨候由仍之藤太儀も番人付重八儀ハ禁足ニ罷在候由右ニ付親又六

ニ候へハ重八ハ孫子之儀旁差扣申度伺出候ニ付左茂可有儀ニ而承届置候所此間兩人儀吟味も有之候由相聞候ニ付小頭石名左五兵衛目付藤森権六差向又六^三口書取置候

廿九日 小雨昼前有

一 当六月日記ニ有之河原町早助倅文蔵不罷帰候由早助ハ断書出之及御沙汰

晦日 晴

一 辰屋追払跡屋敷へ休庵受取候雜具暫差置候処又々引渡候旨承届ル
一 三丁目年寄若柰屋徳次郎ヲ多十郎と改号
一 京町会処郡代並御代官所兩役所に成候ニ付出火之砌組付六人差出可申旨御用番与兵衛殿被仰渡則日大年寄へ申渡ス

八月

御家老安藤造酒之助 大目付当番持

御用番伊達与兵衛 大年寄玉置忠兵衛

朔日 晚ニ小雨

一例之通諸士登城御目見え無滞当役御座間ニ而御目見申上ル

一 今日御役替

今般御新政ニ付其方儀御
小性頭格刑法惣奉行被仰付候
重役之筋候間入念可相勤役料是迄
之通附人並之通

井上弥三兵衛

右同断

御小性頭格御勝手惣奉行

鈴木此右衛門

役料右同

右同断

御小性頭格御政事惣奉行

永井甚大夫

役料右同

今般御新政ニ付刑法惣奉行
井上弥三兵衛江被仰付固是詮儀
属役被仰付中間老人被下候

平井郷左衛門

今般御新政ニ付刑法詮儀
方平井郷左衛門被仰付其方
添役被仰付候役料被下候

福田嘉兵衛

右之外役替有之候得共掛り合無之ニ付不記之

二日 昼頃雨

一 安藤造酒之助来春御参勤之御供山田衛守来歳江戸詰被仰付候例之
通三役於御席右御挨拶申之

一 京町会所駆付六人最寄 京町二人伏見町一人河原町一人小性町一人 郡代大村庄
助江申達ス 船頭町一人昨一日申渡候

三日 晴

一 明六日五ツ半時御供揃ニ而泰安寺へ御仏詣被成候段中奥目付中ハ
通用ニ而取計候

一 此度兩番所江被差出候疏状箱之儀惣町江触出候様今日取計候文段
御触書扣に有之畧爰

四日 少雨

一 船頭町片田屋市右衛門裏行通り東並三間之西巻間半外に米屋分之
方ニも留を取角と角惣間數為取之申候処打出し卷尺五寸も相見候
由申出る

一 中之町三室屋宇左衛門養子又右衛門引受願差出ス

五日 晴

一 司馬五郎様今日八半時御供揃ニ而二宮江御遠乗被為入御道筋ニ階御門ニ蔵合前夫ニ本町筋夫々為知候

一 東新町茶屋清兵衛下人段々慎氣致候御書付去ル三日ニ差出し候ニ付尚又下人丈助ニ相手伊助ヲ以來遺恨差挟申間敷之旨主人清兵衛兩判取之今日御用番与兵衛殿へ及御沙汰候処御聞届之上御郡代大村庄助江も右之段被仰聞候而今日上之町伊助手錠追込差免し地方目付宅ニ而申渡候様申渡有之双方懸り合相濟候

六日 雨甚し

一 安岡町ひかさや才兵衛と申者一昨日ニ相見不申候処今朝新田村わニ谷堤之地ニ水死致候趣注進申出候付御郡代所へも村方ニ申出下代植月喜三次此方目付藤森権六罷出立合見分之上書付取之候処銘々申分も無之則夕与兵衛殿へ申達大目付所へも手紙届死骸取片付申付候

一 御代官春木楠五郎殿手代小林要助と申者昨夕塚町同尾高屋ニ泊り可申之処亭主段々不届之仕方ニ付致拔立右ニ付大年寄玉置忠兵衛罷越色々及挨拶候而止宿ハ致候由は八雲州鷺森と申処江通船御用ニ付罷越候ニ付参かけニハ塚町肥後屋ニ泊り候由此節も宿之仕方馬方坏も不埒之儀有之候而立抜兩座相重り候之段今日大年寄申聞候御代官所御用ニ付往来之手代へ右之通成不礼相聞候而者以後之為不宜候ニ付御伺可付旨及詮義候

七日 雨

一 明日泰安寺江五半時御供揃ニ而被成御出旨中奥目付ニ通用一安岡町ひかさ屋水死見分之書付大目付所江差出ス

一 宗旨帳面差出可申旨宗旨奉行中ニ申来候

一 西今町庭瀬屋平七借屋壽光寺 地内人別町彦三郎妻之母彦三郎 引受置今朝出候

処不相見所々尋ニ出候得者おけ屋町突出しに所持之傘有之是しるへニ尋候処八出村分川尾に流死致し居申候ニ付注進申出則刻見分被遣候処尤郡代所下代日下伝平同心藤森権六其外在町役人組合立合疵も無之平生も心掛り之儀無之差詰り書付取之帰ル夜に入御用番与兵衛殿へ御届死骸片付之儀も御伺申御聞届ニ付其段申遣ス大目付所江茂届書届遣ス

一 御年貢米町在ニおゐて切手替或ハ外払御停止之例歳之通御触書御家中江少々宛之為替米不苦候趣有之則日触出ス

一 昨今打過水死之儀申上候上ニ候哉刑法奉行ニ死生之儀者甚不輕義ニ思召候ニ付是迄五人組親類共吟味ニ而存生之内不審も無之落候得共以來之向兩隣之者迄入念可遂吟味旨ニ聽ニ付則大年寄忠兵衛江申渡候

一 二町目尾高屋与兵衛肥後屋治兵衛御家馬指宇兵衛作兵衛宇兵衛ハ馬指兼候三人之者共此間手代止宿之節不埒候ニ付為以後追込申付候様御用番与兵衛殿へ御伺申上候処其通取計候様尤御前被遊御出座候時也御聞届相濟候

八日 雨

一 水死見分書御席江出ス

一 宿屋馬指共追込申渡ス文段申渡扣ニ記之

一 福渡町一場屋利助願五六ヶ年已前銀札引負ニ付追払被仰付候林田東新町鍋屋儀右衛門家内三人之内当人も相果娘も相果後家彦人ニ

成眼病相煩罷有右願主利助儀ハ後家為弟之間引請申度書付差出弥
三兵衛江 及对談御伺申上候処御聞届被成即日申渡す

九日 雨

一夜分四頃を過抜身ニて徘徊致候者有之候由相聞候ニ付同心共夜分
忍廻り為致候様刑法奉行へ及对談其計申付候

一西川屋善助切手勢州安芸郡白子村形屋仁左衛門手代庄右衛門庄次
郎式人紺屋形 并呉ふく物売昨日入込候断

十日 晴

一井上弥三兵衛刑法惣奉行被仰付候儀ニ付属役動向之儀為心得被受
取候御書付写之候別ニ有之銘々共勤方之儀者追而被仰出候由

一茂渡市右衛門持病不勝候ニ付奥津入湯願明十一日立十六日往来之
文段

十一日 晴

一水死之者向両隣五人組等吟味仕候両町之書付刑法方江出ス

一伏見町証屋与四郎兵衛借屋大工原助娘はつ当辰二十八歳娘七歳召
連下田野村作助伴勤三郎妻ニ遣し町内人別離

一明十三日五ツ時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣通用

一所々祭礼之節罷出候自分賄御徒目付右之外郡代下代町同心御使組
表組御中間等何茂候昼ふち相渡以後神主を賄在中を之賄出させ申
間敷之旨刑法方を被申聞候

十二日 晴

一書役御使組土井左六当年御蔵立番申付候右代り野村喜兵衛申付候
旨御勘定奉行山岡与左衛門を通用手紙到来

一今日射術御覽被成候

十三日 雨

一柔術御覽被成候

一昨日五半時御供揃ニ而泰安寺御仏詣本多氏通用

一旅籠屋馬指追込差免候候上今日差免候御届申達ス

一属役願書加判之儀郷左衛門三平ハ相互庄助嘉兵衛ハ同列と申儀弥
三兵衛を同候上ニ而被仰出候

十四日 雨

一町方御於所々小盗之沙汰有之同心共心付候様之儀刑法方へ及噂候

一鍛冶場渡し留り御届申達ス

十五日 雨

一御作事奉行関十治を手紙昨日御用木宮川ヲ相流候処水絶暮過迄追
廻上流之処木数三百本計数御手人ニ而川上難成無抛橋本町林田町

伏見町材木町有田町ニ而人足申付候由届之趣被申聞候則刑法方へ
及噂沙汰会釈之御沙汰も被致候段申述候

一

日記重高く成候ニ付明日を別帳ニ記ス

明和九 壬辰年

安永元 十一月廿五日被仰出也

町奉行 御用日記

八月九月十月十一月十二月但当月九日安永改元之趣
に至る

大沢三平

(中表紙)

八月十五日 雨

一 今日月並之御礼諸士登城当役御居間御目見申上ル早而月番居残追々被仰付候趣大法左之通

一 勤方之御判物御渡し被成候面々

御奏者番 御番頭 寺社奉行 御小姓頭 刑法惣奉行 御政事奉行 御勝手惣奉行 大目付

右之通ニ而諸役所屬役之分チ三奉行役所ニ而申渡し有之候町奉行大沢三平詮議方平井郷左衛門刑法奉行屬役郡代大村庄助詮議添役刑法奉行支配ニ被仰付候旨御政事奉行永井甚大夫被申渡之候

一 町目付石名平太兵衛ハ大沢三平支配ニ被仰付候ニ付御勘定奉行山岡与左衛門ハ引渡通用申談し候

一 先日洪水ニ而廣瀬橋崩小屋之者作目付ハ為働候旨其節渡舟大破ニ

付高瀬船相廻候様井上弥三兵衛被申聞候ニ付大年寄江申渡候

十六日 晴

一 河水落候ニ付船渡し初ル届申達ス

一 明十七日地藏院御社参五半時御供揃

一 御新政ニ付牢番 大谷栄蔵 松岡左助 中間式人詮義添役福田加兵衛へ渡ス

一 広瀬江高瀬為廻候船頭ハ舟主ハ老人差添候由一日五匁ツ、

一 二階町湯原屋十助儀兼而宮川車場證文之加判致し置申所此度山北村弥兵衛ハ林田鍵屋安左衛門へ引讓候由此所ニ林田村幸助と申者田地ニ井溝筋ニ而水入麦作故障有之麦代米式俵半ツ、先達而ハ弥兵衛方より差出候処十助請判も致候由此度ニ付幸助へ麦代請取可

申処安左衛門手前ニ而者弥兵衛ハ右懸り物有之段ハ決而無通用故麦代滞候ニ付幸助ハ郡代所江訴状差出し双方吟味片付

麦代ニ俵半 訴訟おくれ 可渡過料 弥兵衛 ニ付式貫文 幸助 湯原屋 十助儀者呵申渡シ

右文段扣ニ有之畧之

一 広瀬渡へ御用馬船を廻候可申ニ相成候処痛有之弥高瀬御雇ニ成候

此段井上弥三兵衛ハ申来ル

十七日 雨

一 美濃職人町財布ヤ平七借屋忠太願備中板倉領板倉村幸右衛門と申者伯父ニ而六拾四歳此度引請申度願

一 加治場渡船往來止る御届申達ス

一 元魚町玉屋伝六家屋敷表口五間半裏行拾七間但七間役也南隣ハ米屋喜三北隣者作人十助此屋敷去ル寅六月質物入黒坂屋幸助ハ三百

五十日滞候処此度元利返済受戻之趣断書出ス

十八日 雨

一 鍛冶場渡往来明相届申候

一 三軒屋番所屋根いたみ候届井上迄弥三兵衛へ申達ス

十九日 雨

廿日 雨

一 大年寄共々献上之錫一折代六匁ツ、拙者献し扇子不出入三分七厘

五毛大納戸の書付被相廻候則申渡ス

廿一日 雨夜大風

一 鍛冶場船往来止り相届ル

一 三軒屋中村豊治前之樺森木風折之由其外並木等例之由届申達候

一 町会所西側塀倒レ候之由家守の書付出候勘定所へ通用ニ而相渡置

一 牢舎人入替ニ付同心出呉候様刑法方の頼ニ付明日差出候事申渡ス

廿二日 晴

一 司馬五郎様林田辺被成御出本通町通夫々相知らせ候

一 当町於役所ニ筆墨帛外入用之節少々之用銀も無御座候ニ付刑法方

へ及沙汰候処大沢長大夫江被引請於勘定所銀札五十匁借用致し預

り候付廿歩一銀相納次第返納可仕旨認山岡与左衛門江相渡申候

一 御触書刑法方が被渡触出ス

兼而被仰出候操綿実錦他所江内々指出候儀御停止ニ候得共猶又今

般敵敷被仰出候間其段相心得可申渡候已上

一 十七之日記ニ有之元魚町玉屋伝七家屋敷此度堺町内作人相讓申度

旨願書聞届ル

一 上紺屋町嶋田松仙孫弁治儀当辰八歳二宮村吉右衛門方養子遣

一 二階町作人太兵衛林田村徳屋仁兵衛後家借屋居申候処粉屋長四郎

と申者辰三十七同妻まつ廿四才同娘さん九才三人親類ニ付引受申

度人入別

一 広瀬渡し船造作出来□朝御作事の渡候ニ付引替高瀬舟返し可申旨

御郡代大村庄助の手紙

一 安楽院脇二階町分塀御堀江倒候注進井上弥三兵衛江届候

廿三日 晴

一 鍛冶場渡し往来明申達ス

一 二階町塀勝手次第取上可申由弥三兵衛被申聞候

一 町分ニ而近廻り作物盗人有之由人情ニ背き狼籍右ニ付触出候様成

仕方ハ有ましきヤ之旨御評儀も有之右ニ付存寄認差出可申旨弥三

兵衛被申聞候ニ付此間差出候処今日右御触書出る

町方ニて老人小兒病身ニ而渡世無之及難儀候者ハ諸親類心を添

可遣事勿論候尤其町ニて不便を加へ可申候且平生家業無之鳥散

成者ハ□置申候間敷候近来田畑之作物盗取申者有之事相聞候盗

賊之科不輕候殊野山之作物盗取候事者輕キ事様之心得違被存候

向後忍之者申付置候間年寄五人組家主家守借屋者に至迄朝暮無

油断心掛生及見聞候ハ、可相断又者召捕申出次第盗もの多少ニ

よらす重き御仕置被仰付候此段相心得作人共ハ相互ニ心懸見合

次第召捕可訴出候隱置若見のかしニ致候事後日相聞候ハ、可為

同罪候

右之趣惣町中裏借屋末々迄入念可被相触候

一今日牢内囚入替去ル廿一日日記之通申付候同心中山伝内石名左助

廿四日 夜雨

一闕所銀之儀此度御新政ニ付詮議添役引請被成候故引渡可申ニ付御

〔奉行中へ相納候預り手形算司ニ入置右者井上弥三兵衛江届ル

一明日平井郷左衛門宅郷中之者詮議有之ニ付書役未相極候ニ付右宅

へ明日計借用候間宜相談可申旨弥三兵衛手紙到来則郷左衛門為見申談候

一今夕九ツ時頃大村庄助相見ニ宮村平兵衛と申者明日平井宅へ呼出

詮議可致儀候処及違背殊更居宅裏口ニ鎗を置表口ニハ指棒など置

懸り者躰ニ而村役人も難入込趣致注進候ニ付唯今井上弥三兵衛江

相届候由同心組借渡候様被申間候半弥三兵衛手書面ニ宮村百姓之

内狼籍者御座候ニ付召捕候様被仰付候百姓父子兩人ニて御座候御

組之者四人可被差出候夜明時分ニ參着之儀致度候右御手配被仰付

候而御宅ニ至可被成候委細之儀ハ御差図可申付候ニ而果候得者有

之以上及返答同心共呼遣「も罷越候而拙者儀者弥三兵衛江參

候処郷左衛門も相見手配申談帰宅之上差出候面々伝内甚蔵權之作

右衛門扣ニ御使組加藤重八若木与茂七野上甚助中間兩人此者共ハ

郷左衛門ハ相廻候対面之上是又遣「明六ツ時之頃中間帰り唯今召

廿五日 晴

一今朝直に郷左衛門宅へ為引極尋候上ニ而入牢被申付候由勿論同心

共も牢屋江差遣候親ハ平兵衛粹ハ松治と申候由狼籍之出所ハ郡代

所之儀ニ付不記之

廿六日 晴

一東新町之者共連印ニ而相願候趣近来玉林田村ニおゐて大商売増

長仕内町商売一向無「行間之者共ハ売かけも難取右所ニ而調物

を致し決而入込不申其上米中買式分中買馬持共掛組入銀致し兩村

被申合候趣甚内町之衰微ニ相成候何とそ一統触出し右同所商差留

くれ候様段々願筋無抛刑法方へ御沙汰申候処何分存寄を付大売書

面出候様被申間候付願書ハ不取上右町之願筋ニ不拘触出し仕可申

旨申談候処可然旨被申間候ニ付平太兵衛共及相談書左之通

近來町端在分ニおゐて商売躰等相募自他郷中「持出候諸色売も

の買留就中俄もの生綿種子胡麻之類升數定置候儀相背別而大商

売いたし候様相聞候右取扱米中買式分「共右場所へ出際取

計携候様追々相聞候先年件之場所ニ而大商致候儀指留候者町分

在分且又諸人之願筋「候儀ニ而無之惣而何方ニても同様之事

ニ候依之先年分定法申付置候事ニ候然処近來町方之者諸主買も

の町端在分ニおゐて買夜商売いたし候故自右在分大商売致候様

相成候所先年相定候通相守町端在分ニ而取組候大商致間敷候尤

馬持中買共へも右等筋之取扱不致候様申付置候兼而其旨可相心

廿七日 小雨

一司馬五郎様二宮江御遠乘九ツ時御供揃ニ而二階町御門夫ハ本町通

一御蔵米六拾四匁五分町米六拾匁五分

一備前岡山下市町中嶋屋又六と申者例年之通元結売昨日入切手西川

屋

廿八日 晴

一 司馬五郎様御仏詣此以後四ツ時ニ相極候旨一場稲垣両所々通用

一 三津屋平右衛門五六日逗留備前蜂浜へ参候由

一 鍛冶町かち太助倅友治ニ拾一歳此度山本与八内縁ニ付養子出□

一 二階町嶋屋殿吉捻夔細工手伝九郎兵衛長次郎式人当十二月中頃迄

差置候断

一 元魚町玉嶋屋安右衛門願倅弥吉当辰二十歳五年以前子歳相断祖父

久米北條郡公文村義兵衛方江差遣置候処此度為相統候引取申度ニ

付人別離願聞届

廿九日 雨

一去ル廿六日之処町一統之触申渡置候得共今日相触候

九月一日 晴

大年春月番

齋藤孫右衛門

一 御居間ニ而御礼申上諸士登城例之通

一 殿様今日七ツ時過御供揃追廻し御遠乗被成御出候京口夫々川井円

左衛門前土手江御出被成候司馬五郎様ニも御同様御砲術被遊候

一 誕生寺来巳之年法然上人六百五十年忌泰氏之姫同年忌ニ付両橋建

札仕度使僧来成道寺引受之由大年寄迄私ニ而申出五聞届申渡ス

一 姫路屋伝藏彦兵衛与改号承届候

一 大沢長大夫山岡与左衛門御用ニ付明日出坂有之候由

二日 半晴

一 大村庄助当病断

一 御藏米六拾式匁五分町米五十八匁五分

一 中之町福茂ヤ切手播州姫路龍野町泉屋孫兵衛手代喜右衛門両人小

間もの売昨日入込○撰州境北泉屋町河内屋甚右衛門手代弥次兵衛

例年之通木綿類糸物絹切売昨日参切手同人○播州網十新在家村か、

屋善七手代利兵衛壹人例年之通小間物おろし昨日参宿切手同人

一 片田屋市右衛門先達而新口出銀之儀ニ付追々存奇御裁許之筋考

候而刑法方へ申達候処昨日相決今日於孫右衛門宅ニ小頭石名五兵

衛立会申渡有之候右市右衛門居宅西ハ六間裏行□間半東之口三間

是ハ明和二年売払之分此西ニ壹間半有之是市右衛門居宅之裏行拾

間半之内ニ籠り候様ニ申候得共先代引渡帳面ニ鞘師甚九郎屋敷と

申所ニ而三間之場ニ候故今度ハ一統惣町新口出銀ニ候故上納取立

候様取計候勿論申渡し文段市右衛門并年寄兩人共夫々書付を以為

申渡候絵図面相認相渡候文候一件別ニ有之候

一 宮脇町倉敷屋喜平次畑安岡村実寺辺ニ在□然ル所今日九ツ時ニも

候ヤ右畑ニ而木綿盗取を見付声をかけ近辺候在倉敷村方之者迄追

留捕候処上紺屋町灰屋善右衛門借屋小懸屋惣助と申者之倅新次と

申もの、由直に喜平次来召□灰屋善右衛門江預ケ帰候而宮脇町年

寄もこんヤ町へ参越灰屋又は年寄江も其段差詰り置大年寄齋藤孫

右衛門方へ届申候ニ付早速訴出候故即時ニ同心中山伝内室井作右

衛門差越候処最早取逃シ候旨仍之親惠助ハ預ケ申付役所江致注進

候付刑法奉行中江其旨申達候所先々倉敷屋灰屋共預ケ可然旨被申

聞候ニ付其旨取計候且又右盗人追手に出候者式人京町ニて見付候

へ共召捕取こほし候由甚仕方難止得候ニ付件之追手兩人も預ケ申

付候是ハ廻り之同心於連中其事承り候ニ付其分に難差置是又預ニ

申付候尤此三人ハ同心共々預ケ取計わせ候

三日 晴

一倉敷屋喜平次并灰屋善右衛門同借屋倅善十郎家来六兵衛双方之町年寄同組合共懸り合書付刑法方江持參

一明四日四ツ時御供揃泰安寺江御社參被遊触取計候

四日 晴

一斎藤孫右衛門養母昨夜相果候由届有之刑法方へ御届申達ス仍之孫左衛門月番相動ル

一疏状箱去ル朔日御揚被成候而又々被成御懸候右ニ付御触書町方へ相触候

御触書扣ニ有之候月日姓名無之候ニ付国許御為を存候得者上を奉怨事も御政事を毀候事も御容赦被成候無遠慮住居姓名可

申上旨之御文段也

一御蔵米六拾壹匁町米五十七匁相場付ス

一明五日郷左衛門於宅わた盜懸り合吟味ニ付五ツ時罷出候様刑法奉行中々被申聞其段孫左衛門江申渡候同人も右場へ罷出候

五日 晴

一郷左衛門の手紙灰屋吉右衛門同町恵助手錠町預申付候而則返書遣ス

一明日御用場御出席無之旨刑法奉行中々郷左衛門拙者連名書来

一右同断大村庄助も拙者方へ為知来ル

一疏状箱最初被成御懸候節御徒目付富沢金左衛門の宮脇町年寄を呼寄近火之節氣を付候様被申渡候由一統ハ御書入候得共兼而右之町ハ本源寺諸御制札を預候手配候故間違候而者いたく及迷惑候由

御目付と申名目殊更疏状箱不輕候義於役所善惡難及差凶候今一応

右躰之趣右町年寄共々金左衛門江為申候義可然ニ付是等之訳御書付刑法奉行中へ御沙汰申之勿論宮脇町之儀ハ北側計拾式三軒計ニ而

出人勤来南側ハ地子居ニて無役ニ候へハ吾人之年寄甚当惑仕之旨委細存奇及対談候処追付弥三兵衛被申聞候ハ先達而大番所へ疏状箱掛り候節御徒目付の右町内氣を付候様申渡候得共又々右之節大番所へ引請被仰付候間年寄共氣付之義不及此旨申達候由則申渡ス

六日 晴

一倉敷屋喜平次吟味相済申候依之町内預可被指免候尤新次出候迄遠在へ罷越申間敷此旨可申渡よし井上弥三兵衛の申来取計

一司馬五郎様明七日九時御供揃ニ而杉山江被為入京橋御門川戸前御帰かけ六ツ半頃砲術御覽被成御道筋大手筋江被為入候

七日 晴曇

一殿様今日八ツ時御供揃ニ而砲術御覽鉄砲町辺江御出被仰出御道筋

二階町御門の八百町元魚町村元屋角西へ新職人町かけ屋夫の一場茂右衛門前通り之旨西尾多内の通用

一京町海老屋七右衛門宿切手京都鳥丸通り六角下ル町□文字屋九兵衛手代金十郎新兵衛甚六文之助右四人例年之通り呉服もの売一昨日參候旨

八日 晴

一白地屋庄助断御端壁痛候ニ付取膳ニ足代下し申度

一川嶋桃庵願備前岡山松平内蔵守殿御家中榎古庵弟周庵当辰十九歳私甥ニて御座候此度養子引受申度之趣別紙添私弟周庵義此度其元

養子就御所望右之趣爰許願差出申候間左様御心得於其御地も御願御差出可被成候辰九月三日榎古庵印判黒判川嶋桃庵宛

一 二階町宿屋頭塚屋伊右衛門願備前邑久郡山田牛窓大工六人前々々参来候内半兵衛与申者之名代甚平与申者御当地へ参候処右甚平義おけ屋町作人長七へ養子参り申候依之右甚平代りニ小作与申大工罷越候趣

一大村庄助当病断申達ス

一 講場疊町会所ニ敷有之ニ付講場之疊三拾疊ハ別三步銀之内を以調候様尤りうきう縁付ニ申付候様鈴木此右衛門被申聞則大年寄へ其旨申渡ス

九日 晴

一 今日諸士登城御目見申上ル当役於御居間御礼申上ル

一大村庄助当病断当所江申達ス

一 明日四時御供揃泰安寺御仏参之儀通達有之申渡ス

十日 雨

一大村庄助当病断

一 町方惣躰無宿躰烏散成者又ハ家業も無之族ハ差置間敷候旨去ル頃触出候処町内年寄共ふしまりニ聞候「廻り同心今夕より追々町々之年寄江右之族之事相札候様申渡候

一 銀札場奉行岡半四郎申聞高瀬屋与左衛門銀札場借三年前々及遲納候此儀ニ付追而取計之儀候間銀通用之旨被申聞候

十一日 晴

一 井上弥三兵衛ハ疏状之内三通郡代所式通町奉行所江式通御印御割

書被相渡主意を付差出候様被申聞候尤他見無之物ニて候

一 明十二日四時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被遊候本多氏通用

一 摂州大坂玉造上綿町松坂屋忠右衛門唐人唐弓弦をろし売昨日入東新町因幡屋新七〇中之町小山屋与三右衛門播州丸尾屋六三郎例年之通荒物類並塩ものおろし昨日入〇同人同州のた屋平藏例年之通小間物おろし昨日入〇同人同州余陸屋武兵衛例年之通八百屋もの并經節売昨日入〇同人同州河本屋常七例年之通荒物類并經節卸売昨日入

一 類族宮地加市兵衛御吟味之筋有之御持頭柴山治郎右衛門江御預被成同忰小太郎御先手鉄砲頭村上清大夫へ御預引請類族宮地勘平儀ハ御持頭海老原極人江御預被成候右躰ハ去月七月以前之儀小太郎江戸表宗旨御奉行之同心野村伝六と申者之処江参候由其儀御屋敷ニ而御用処江相聞宗門奉行中へ御取次有之候ニ付御国元宗旨奉行へ申来り引受宮地勘平江御尋之上ニ而小太郎ハ勘平江御預ケ同人ハ差扣罷在候様被仰付置候処今日俄に右三人江預ケ被仰付候夫ニ付同心式人ツ、三頭へ差向候様ニと刑法奉行中ハ被申渡夫々取計夜ニ入四ツ時迄ニ各手配之通事済引取候同心出番中山市左衛門福田甚藏室并作右衛門石名左助中山伝内神田権兵衛無滞引取届出

十二日 晴

一 今日大般若御祈禱詰御奏者市村数馬番頭太田舍人刑法奉行井上弥三兵衛御勝手奉行鈴木此右衛門大目付黒田多磨小嶋此母赤見類助町奉行大沢三平御使番細江藤右衛門松嶋十学代り合詰寺社取次後籐守助中奥目付浜田平橋御祈禱早而殿様御拜被遊次ニ御家老初御

年寄御祈禱終不殘御拜無滯相濟候

一播州網干余陸屋惣七同手代彦右衛門式人八百屋物売昨日入同州塩屋伊兵衛同弟助三郎式人荒物塩もの卸売昨日入各中ノ町正木屋伊右衛門切手

一中之町福茂屋武助切手播州加茂郡三木町形屋与兵衛例年之通紺屋形売昨日入○同人切手撰州大坂嶋之内大宝町万屋吉次郎菅人例年之通葺屋足袋するのふ金通し売直し昨日入

一堺町大宝屋藤兵衛切手吉野郡中谷村勘次手代孫兵衛菅人例年之通晒蠟かつほふし木綿嶋并荒物おろし売昨日入

一今町湯田屋伝八母量金屋伝八後家同和右衛門先達而出入之儀候処町内年寄共取扱ニ而内濟致し以後ニおゐて此義再訴仕間敷旨願下之義申出候ニ付其段書付取之候願留ニ記之

一幾野御代官平岡彦兵衛殿名代一学殿久米北条郡当田方為検見御領内之通先触本馬老足人足十七人内六人駕籠拾菅人ハ箱持人足之由手代申来候旨大年寄申出

十三日 晴

一井上弥三兵衛平岡一学殿昨夜勝間田泊今日御城下通行之由郡代中申来候先格之通先弘之儀申来ル今晚官尾泊暮前ニ通候而届申達ス大村庄助当病断下代罷出候由石川新吉二宮ニ而途中拙者相勸候由

一明日四ツ時御供揃泰安寺御仏詣通用本多嘉内

一御蔵米五拾八匁五分町米五十四匁五分

一中之町福茂屋武助播州加茂郡三木町形屋与兵衛形売撰州大坂嶋之

内

十四日 晴

一明九ツ半時御供揃京橋川井前杉山御茸狩之御出触有之

一此度三物頭中預り人於町医師之手当入用之時ハ直に町奉行所江

一幾野御代官処平岡彦平衛殿手代大井田与五郎中里忠助より飛札当

十月十五日同晦日迄上来大豆相場之儀下方へ申付相廻具候様尤

十一月二日飛項脚越可申旨則日返答申遣し大年寄江申渡ス弥三兵

衛江も及噂置候

十五日 晴

一諸士登城御礼相濟当役於御居間御礼申上候

一司馬五郎様杉山被成御出殿様御同様之触稲垣茂士

一雲州ゆう郡金山村吉助倅多三郎年十五六歳老人不快ニ而寺町寿光

寺門前迄来相煩色々世話候処社方江申申立ニ而弥三兵衛江御沙

汰ニ付町分宿屋へ渡し入用ハ惣町へ打候様ニハ成間敷哉之旨相談

被申聞候へ共左様ハ難申付ニ付今町年寄ともへ為申合以後之例ニ

ハ不相成寿光寺江遂内談医薬等申合心を付いたわり遣し候様病人

望候ハ、町分送り出し取計由且東西端之貫木に多三郎国処ヲ記

し煩居申趣為知候書付出し置候様ニ可仕旨申達候取次中とも引合

其段申渡ス

一雲州神戸郡松江御領分石橋屋太兵衛与申者妻なつ千ヶ寺参播州辺

ハ足痛ニ而送り来新田村江継送り「」旨案内申出候ニ付則刑法方

江届申達ス

一此度御蔵元給米半減ニ成三表ツ、被下之馬指式表減四表被下候御

用頭老儀減式表被下候井上弥三兵衛被申渡其段取計候

一平岡一学殿明十六日七ツ時宮尾村出立御領分可罷通之旨大村庄助
ノ通用候間為心得先扨同心申付候

十六日 雨

一平岡一学殿今日五ツ時通行ニ而同心先扨中山伝内 福田基蔵差出之届申達ス

一昨日四時御供揃ニ而地藏院御社参本田嘉内通用則取計候

一出火之節物頭中之内此節御預ケ人有之ニ付伊藤采女磯野伊兵衛佐
々木兵左衛門へ三ヶ寺火用詰被仰付仍而安岡町今町宮脇町年寄三
人衆中江案内ニ参候様為申渡候

一三奉行中ノ廻伏今般直姫様御儀太田原出雲守殿御嫡山城守殿へ御
縁組被為濟依之先月廿三日橋本阿波守殿を以御願御指出被成候処
御老中松平右京大夫殿御受取置被成候段申来り恐悦之御事ニて此
相知セ候様被仰出候右之趣同役并属役并寺社方へも可被相達候以
上則日石名平左兵衛并組中江も為相知候

十七日 晴雨有

一鍛冶場橋渡留申達ス

一雲州大原村用河村喜八娘あさ十八歳川部村ノ送り出し新田村へ継
送候旨申出御届申達ス

一山本三右衛門用事ニ付塔中郡屋江行二三日滞留承置候

一横渡往来明申義届申達ス

十八日 晴

一三丁目浜野屋十郎兵衛娘つね当辰十七歳備前岡山上之町瀬能屋善
右衛門方へ養女ニ遣シ人別内引越願

一茅町北側ニ而作人文六家屋敷表口三間七寸五分裏行六間但「」役
西隣作人市兵衛東隣藤原屋喜兵衛銀札七拾匁町内作人忠助江壳渡
候願書出る右沽券證文同廿二日出ス

一堺町大宝屋藤兵衛土屋領吉野郡中谷村与市弟勘次郎五十五才此度
養子ニ願

一河原町福元屋喜兵衛倅岩之助廿四才不所存ニ付段々加異見候見申
候得共相用不申候我儘之働此後何方如何様之義仕出可申茂難計一
家共打寄相談之上義絶勘当願申達御聞届ニ付申渡ス

一寿光寺病人快方ニ御座候而明朝步行ニ而罷帰度寿光寺江申ニ付寺
社取次中江も届候由大年寄ニも通用ニ付罷越病人ニも逢候而直に
様子承候処罷帰候旨申出候由大年寄ノ届出る

一先頃洪水之節御用ニ付林田町橋本町材木町伏見町右町々之人足差
出候ニ付年寄共御作事江被呼御酒代被下候旨申出候

十九日 晴

一徳守宮祭礼ニ而昨夜過今日茂小頭并同心共差出候処無滞相濟引取
候ニ付届申達ス

一昨日之書物寿光寺へ可被別之病人今日寿光寺記「」

私先達而参宮仕下向途中ノ病氣去ル十一日御城下罷通候処步行
難成御寺御門前迄罷越甚相倒尽然ル処御寺中へ御入被成昼夜御
薬食事等御心被為御添殊更御近辺ニ付町内御役人様方御慈懸ニ
而快全仕重々難有仕合奉存候各御心儘を以快相成今日步行ニ而
出立仕候前後御厚恩預り御礼為後日昨夜書付を以申上候以上

雲州ゆう郡金山村多三郎爪印

年号月日 寿光寺様

右懸り合ニ付雲州ゆう郡金山村多三郎と申者伊勢參宮下向之由当所寿光寺門前ニ煩居申ニ付引入養生等有之快相成候ニ付国元江罷婦度由申ニ付人老人中食草鞋錢五十疋相添送り出申候国元江無滯帰候様ニ御世話可被成候以上今町年寄兩人の送り状調新田村庄屋中と認差出し候前後見届式十疋「同心之目付藤森権六年寄寺へ參寺社方の植月元右衛門罷出候則井上弥兵衛江届申達ス

廿日 晴

一此間類族御預有之候ニ付町医へ触差出候様触差出させ候文段町医ニ認候仰付候間今般左之面々御預ケニ付万一病氣有之候節者療治之儀町医共江申付候間兼而其番相心得罷在候様可被相達置候
右之通ニ而大年寄共の町医宛ニ廻伏差出ス

一江戸廻り材木船七艘御作事就御用積下差紙裏書印関十治江遣ス木知ヶ原小桁両番所

一昨夕京都の御女中御城江到着候由

廿一日 雨

一町会所風倒堀繕仕様種屋甚右衛門の出刑法方へ達し勘定所江廻ス
一広瀬へ相廻候高瀬舟賃式拾五匁是又同斷

廿二日 晴

一刑法方が被相渡町分江触出ス 近年陸荷繰綿猥ニ相聞候ニ付猶又目付之者指出候間地他之者に不限陸荷ニ而売渡候ハ、先達而相触候通運上相納尤残壹本ニ不限少々ニ而も他江持出候分ハ売主のラサム其趣送書ニ運上指添可相納候尤綿一本の内運上割合送り書等之訳

藏合孫左衛門江被仰付候間聞合可申候右之趣問屋中買式步中買等別而相心得入念可申候万一抜荷等於有之者双方共ニ急度可申付候奥書例之通

一関十治の材木船四艘石炭ハイ積込ニ而差紙式枚裏書印之儀申来相調遣ス

一塚屋伊右衛門宿切手播州今市綿屋喜市郎手代忠七老入具服物昨日入

一細工町大工平八倅多七江戸表親類共方へ罷越来已五月迄逗留仕細工執行仕度願

廿三日 晴

一勝間田町苅田屋治七郎へ中之町大塚屋重次郎相人ニ而銀三貫目倉敷村松右衛門の借銀ニ去卯ノ十月の当辰四月切ニ酒六本質物ニ

書入東新町肥後屋兵左衛門加判ニ而借受遣候処限月迄及遅引同六月頃右世話人重次郎の訴之苅田屋返答書ニ壹貫五百匁ハ当季ニ払尤三貫目之内式百目ハ重次郎取替も有之五月三日式百六拾匁ハ相渡シ置候質物ニ入候酒を売壹貫目ハ払残ハ五年ニ受取候様ニ坂口屋利兵衛致致候由答之申右質ニ入候六本之酒段々売出し候事相

人重次郎不屈之儀濟口不致上我尽之致方を憤り追々再訴申出候勿論出訴早速の苅田屋江濟方ハ急度申付候処不埒ニ付今日刑法奉行

中江此等之儀捨置候而ハ地他金銀借引不埒ニ相成候間追込ニ而も申付候様何分當時答候趣ニ付候而ハ仕間敷旨被仰付候間差出候様

申度先於役所懸り合苅田屋の扱不致事を囀り濟方を申付候様被申

聞候

一 細工町大工平八俣多七辰式拾四歲此度江戸表親類方江罷越來已之
五月迄逗留仕細工執行致度旨願出職之間屆

廿四日 晴

一 先達而銀札場江預ケ置候軒口内納共八貫目明日御金奉行中へ可納
之旨鈴木此右衛門被申聞候

一 船頭町西側ニ而表口三間三尺七寸裏行五間五尺但本役也東隣ハ川
嶋屋又十郎西ハ土手へ通り代銀六拾目極船本屋佐助へ

一 船頭町北側ニ而表口壹間三尺裏行七間半役東ハ作人市右衛門西ハ
内野屋善七東之方表口四尺七寸五分裏行七間式步五厘役也代銀二

十五匁ニ而同町作人市右衛門西之方表口四尺七寸五分裏行七間式
步五厘役也代銀貳拾五匁内野屋善七江ノ五拾目ニ壳渡之願

右本證文十一月十七日ニ出ス

廿五日 雨

一 廿八貫匁軒口御用銀之内相納追而本送り引替可申旨候ニ而御金奉
行岡半四郎近藤伊左衛門へ相渡ス尤受取来り算司ニ「」

一 二階町山手屋弥右衛門借屋庄助俣庄蔵甲州身延山へ百日計之逗留
願

一 細工町大工平八俣多七当辰廿四歲此度江戸表親類共方へ罷越來已
五月迄逗留仕細工執行仕度候旨申達ス

廿六日 晴

一 材木町大工源右衛門先達而參嶋屋源助於銀札場百匁盜取候一件
ニ而妻儀町分追払被仰付候親類ニ付此度引受願今日御聞届渡ス

一 越中富山反魂丹松井屋佐兵衛と申者者人昨日入中之町小山屋切手

廿七日 晴

一 吹屋町吹屋八左衛門俣六之丞大坂会所町松屋甚兵衛方へ往来五十
日

一 髮結拾九人之者共願新髮結致出来商売之故障ニ相成甚致難儀候旨
申出候仍之一札を申付新髮結令停止候然者以来且那廻り髮結候ニ

差支仕間敷方一其儀不埒候へハ諸人之支に成候故新髮ゆひと申類
仲間ニ入候旨請負人之書付取立候役頭髮結是迄之通也

一 戸川町北側ニ而作人五郎兵衛同政兵衛合表口四間裏行拾七間但老
軒役東隣ハ打穴屋藤吉西隣ハ作人藤助右家屋敷三百式十目ニ相極
野本屋藤右衛門江壳願出る

一 三奉行中ハ廻伏文段則支配組中町分江も相触候
此度通用之ため吹拔候上銀南鐮与唱候銀を以式朱之步判被仰付候
間右步判八ツヲ以金壹両之積り文銀并錢共時之相場之通無滞両替
可致事

一 式朱銀包之儀者文字銀与違於銀座包致し候間其通相心得可申事
右南鐮式朱銀之儀金与同様通用之ため被仰付候間無滞通用可致事
右之趣国々江茂可触知者也

一 近年雁鴨渡り候節鉄砲打候故御用之鳥難取候付今年去歲之通此節
ハ来ル十月中鉄砲打候義可為無用候尤十月後たり共於御留場鉄砲
打候儀御停止之事ニ付此段申達候様被申付申達候

右者町方触ハ不出候得共記置候

一 殿様於御下屋敷京御的被成候ニ付四ツ時頃御出被成候仍之御目見

廿八日 晴

一 殿様於御下屋敷京御的被成候ニ付四ツ時頃御出被成候仍之御目見

不被為請候御用処其外「奉行御奏者番中寺社奉行大番頭中大目付中ハ御小納戸迄当日被申上候由当役ニハ其義ニも及間敷旨數馬被申聞候ニ付不罷出候町奉行勅書ニも芥子之間衆不被出候時者当職もと有之候旁押而同様之存寄も不申達候

一上紺屋町灰屋善右衛門同借屋恵助兩人之手錠今晩平井郷左衛門於宅右差免之上綿盗人新次未相見旨断出候ニ付郷左衛門方ニて者永尋と申ものに申渡有之候由勿論恵助請人吹屋町善吉おけ屋町桶屋加平次江も永尋上こん屋町年寄共江も同様申渡有之候旨通用有之候右ニ付手錠もとる

一勝山衆摩源右衛門渡辺唐兵衛の例歳之通十月米平均相場之儀申来り候扣に記之

一三奉行中の廻状去ル四月の自渡米少々宛相滞候分当月指戻候様被成度候得共至而御手繰難被成候て者御返し不被成かつ又旅御用相動物成不残請取候面々も右之割合ニ而六步通り当月御物成相渡候節頭引ニ而相滞候間可為難儀候得共無抛右之通被仰付候左様相心得候尤当年之内ニ者御手繰次第右滞分相渡候様被仰出候此段可及演達候旨御用所御申ニ付申達候割合

一滞米当四月の滞米御返し不被成候 一旅御用相動物不残請左之面々当四月の滞員數之書寄通り滞米
一御類焼之節江戸表へ罷出致類焼候面々滞米無之候
右之趣扣に記之

廿九日 晴

一風呂敷弁当札巻枚證文引替今日請取刑法方江相断候上
大目付所の被申達候旨

一狐狩ふち銀札請取之今月分八匁孫「方へ渡ス」
一明日八ツ時御供揃ニ而殿様二宮辺江御遠乗に被成御出二階町御門の八百屋町元魚町本町通り二宮江被為入候旨浜田平橋の通用有之候夫々「觸候

十月朔日 晴

一明二日申之刻玄猪御祝儀被下之旨御奏者市村數馬の演達有之候
一疏状箱掛弛ハ町内年寄へ沙汰有之候由

一京町加茂屋和六切手奈良今井町墨屋伊兵衛手代源助老人墨売に昨日入込

一御藏米五拾七匁町米五拾三匁
二日 晴夜ニ入雨

一恒例之通今申之中刻の諸士登城玄猪御祝儀頂載無滞相済

一下紺屋町文六と申者之倅義助と申者夫婦近来田畑作物盗取候事ニ付其證故ハ無之候得共惡説有之上達候程之儀ニ付目を付候処去月中旬頃村山平学長屋ニ而若堂（若）躰ニ差置候旨相聞候右之訳耳耳も有之哉同廿九日之夕長屋を追出候由承之今朝弥三兵衛江対談致し候処召捕候様被申聞候ニ付急に手配いたし今夕五ツ過頃林田西新町米屋彦太郎借屋三五郎方ニ罷有候由中山市左衛門石名左助福田甚蔵差向為召捕候而則右三五郎方へ預ケ組合番を付させ引取候由左五兵衛御城江申出則退出かけ故弥三兵衛江相達ス所持之道具も年寄江相渡させ候

一米相場御藏米五拾七匁五分町米五十三匁五分

一義助所持之道具西新町彦太郎組合へ預ケ書付取帰る

三日 晴

一昨夕義助夫婦召捕候趣弥三兵衛江申達ス下紺屋町ニ而親文六禁足之儀伺之上此方申付ル尤書付孫左衛門江申渡し文六并組合之者共印形ニ而差出ス

一義助并妻きく兩人共ニ詮儀方江相渡候様弥三兵衛被申聞一応役所江為引文六手前は迄如何様之義
〔等尋之置詮儀方江遣候処郷左衛門宅ニ而も吟味手掛りも出不申直に夫婦共に入牢被申付候由通用手紙到来

一殿様明日四ツ時之御供揃ニ而泰安寺御仏詣濱田平橋

一町方ニ而八十以上之老人男女役介迄相尋申出候様勿論召仕之儀ハ不及其儀候旨則日大年寄江申渡ス

一林田橋元町西屋と申旅籠屋ニ先月下旬之頃京都寺方ニ而出家被成事を嫌欠落致候由十四五歳計者前髪宿を取此者下品ニも不相見候躰御当地ニ伯父有之由を申ニ付伝を以若山田織之進ニてハ有之間敷哉と右宅江伺候ニ付則織之進も透キ見旁ニ参り候而様子相尋候処心懸り之儀も無之申趣共甚間違之由其以後何方江か立去り候由相聞候ニ付大年寄方へ申付思儀ニより旅籠屋ニ逗留為致候而ハ定法も違候ニ付書付等申付候処右に無相違寺僧西屋半兵衛口上書取置候

一一方村庄屋治右衛門当辰御年貢米納通一米二俵九月十八日納
一米三俵同月十九日納右之通落候由御郡代所申来候ニ付今日町中触出候様大年寄へ申渡ス

四日 晴

一今日昨日之一件外届之儀弥三兵衛門出仕無之ニ付延引

五日 晴

一去ル廿七日髪結之儀ニ付一札之文段私共仲間之儀先年拾九人ニ御定被仰付是迄御用等之節罷出相動来り申候然ル処近来町々新髪結式三人も出来私共家業故障ニ相成申ニ付此度御願申候而右之者共御差留被為下難有仕合奉存候然ル上ハ此以後御町内何方御召呼ニ而も無相違早速罷越相動為申候万一差支も候ハ、何時成共人数御増被成候其節一言も断申間敷旨一礼差出之
一御蔵米五拾七匁町米五拾三匁

六日 雨有

一先達而五年以前追払被仰付候老津屋和助久世村ニ父〔家内住居罷在候所和助義病氣ニ付為養生引請快氣次第差帰可申旨元魚町羽織屋喜兵衛願差出候ニ付及御沙汰候へ共年数もなく殊更銀札場おるて之不届致候者之倅一分ニおるてハ無事儀にも可有候得共銀札場も有之候事手代共動向ゆるみニも如何ニ付今一応も思慮可有之候旨無御取上弥三兵衛被申聞候ニ付其旨申渡ス

七日 晴

一下紺屋町作人六江倅去ル三日入牢賄之儀今日迄牢屋取計こん屋町人別ニ入候者ニハ無之候得共文六迄内殊更文六へ之父子内證ハ平生之交り相聞候ニ付賄之儀今朝文六江申付候
一明日四ツ時御供揃ニ而泰安寺江御仏參被成候段西尾多内通用
一義助夫婦吟味有之候得共手掛り無之候由仍之町方へ触出し可然候旨弥三兵衛被申聞候ニ付左之通触出候

下紺屋町作人文六と申者之倅義助并同人妻きく此度入牢被仰付追々吟味有之候右夫婦之者於町家荒物類又ハ綿其外雜穀等何角不寄質物ニ取「買請候もの有之候ハ、早速可申出候覺も有之存付も候処ニかくし置彼之者吟味之上ニおめて其事者後日に相知候ハ、可為越度候

八日 晴

一鍛冶場橋昨日迄ニ出来ニ付掛方牧重郎次夕昨晚案内有之尤今朝御蔵元も申出候ニ付刑法方へ届手紙遣ス

一大坂北久宝寺町塚筋ひし屋理兵衛手代字八巻人例歳之通小間売一

昨日小鳥屋次郎右衛門切手

一姫路屋甚五郎一昨日相果昨日申出候処熊野屋伝兵衛忌中引込御蔵元御用指支候間御勝手奉行の申聞候ニ付忌指免し可申旨弥三兵衛の手紙到来ニ付則申渡候

一西川役所酒井良蔵永松太惣ニ衛門の当十月米相場平均直段極候ハ、可申遣昨日来書今日返事遣ス

一明日御殺生早朝之御出ニ付無御出席候旨為御知有之候

九日 夜に入雨

一講場所役所見分ニ出す日下伝平石名左五兵衛

十日 晴

一太神楽岡田忠大夫昨日参候届今日徘徊

一河部周益当辰五十六歳同人妻倅周仙同人娘其妹家内五人勝手ニ付此度中之町畳屋文左衛門借家へ引越申度願文左衛門の出す是迄林田上之町住宅罷有候

一紺屋町渡辺休庵願先達而辰屋元次郎母子共追払申付候以來同人伯父播州大畑と申処に医術致し居申平井寿全方へ参居候処是又貧乏ニ付其上当八月洪水ニ而家を流失致し住家も無之近隣之者世話ニ逢其「請候得共迎も永住難成妻子を頼りへ預元次郎を召連上京も仕見可申由相聞候当年九歳幼年之元次郎儀流年為仕候義甚不便ニ存何とそ当年中ほと引退ケ遣候ハ、私預り置遣し候ハ、又寿仙方安否も知可申右ニ付段々恐入候趣之願書無抛及御沙汰候御評儀之上辰屋一件之儀者間も無之義一通ニて者難相成候得とも未熟幼年ニて無弁之事故格別を以願之儀御聞届被成候

一近々万人講ニ付惣町江触書出ス

一先頃勝間田町荊田屋江大塚屋十次郎へ返銀濟方之儀急度扱も不致不埒ニ付当十月廿日迄日切申付置候処睨与扱之手段も不聞殊更返銀引当も無之趣之由尤大塚屋も倉敷銀先江も致面談「ニハ相聞え申候然ル処来ル廿五日迄之日延相願候ニ付「日急度相濟可申由大年寄へ申含廿五日日切之趣ハ聞届遣「候

一小姓町伊豫屋文兵衛堀坂村武兵衛方罷越来ル午之歳迄三ヶ年之間渡世仕度尤家屋敷之儀町役等之儀ハ組合之内田戸屋宗十郎相頼置申旨承届ル

一玉置忠兵衛方播州龍野の半兵衛利介藤次郎清八忠七嘉七久四郎次兵衛利右衛門源大夫徳次郎以上拾壹人已ノ五月迄綿実油仕事呼寄願

一來十一月之万人講⁽²⁾十九日懸り願候処十八日与被仰出候

十一日 晴

一町方八十以上之書付今日弥三兵衛江差出ス

一明日例刻泰安寺御仏詣被成候本多嘉内ノ通用

十二日 雨

一身職人町福本屋清右衛門儀此間福渡り町林立軒持家守〔助方ニ而盗ニあひ右之失物之内火入候伝右衛門方へ夜分免を〕に參

候処無見定買求候儀相聞え候ニ付同心遣し盜物ハ当人へ預り置則組合預に申付候

一明十三日御仏詣被遊候旨浜田平橋ノ通用

一江州神崎郡新堂村鳴屋新平壱人例年之通きせる墨筆昨日西川屋善助切手同人切手備前中之町真嶋屋多平次手代源兵衛例年之通万紙類卸売昨日參

一元魚町紙屋茂右衛門儀牢舎義助ノ中鋸預り之届書出之

一河原町作人早助倅文蔵義当辰式拾六歳ニ罷成申候処兼而不所存者

ニ御座候ニ付段々異見加へ見申候得共相用不申我盡之働仕申候此後於何方如何様儀仕出し可申も難計仍之一家之者共打寄相談之上儀絶勘当仕度願書差出し及御沙汰十三日御聞届

十三日 晴

一二階町年寄江久世原方町年寄 庄屋兼帯〔郎ノ〕趣其御町丸尾屋勘

六娘当所店借定平倅忠〔妻ニ引請〕由候得〔忠兵衛方へ引請御書一向是迄拙者共江屈不申ニ付当地帳面無御座候然ル所右忠兵衛并親定平一同御吟味筋ニ付入牢被仰付候右女帳外ニ候得者其俣差置候様ニも難致依之其御地へ罷帰候ニ付人付親元へ送り届申候

其段相心得候様ニ被成度尤右之趣其元夫々江申渡可被成候右可得

御意如此御座候恐惶謹言此旨申来り弥三兵衛江及噂候処相成之返書遣し可然〔聞候ニ付即報申遣し置女江他參差置留置候様大年

寄江申渡ス

一明日四時御仏參被成候旨西尾多内ノ通用

一小鳥屋与惣兵衛切手大坂堺筋久宝寺町岸部屋茂重郎例年之通小間物卸売昨夕来り

十四日 晴

一明十五日万人講興行之処大村莊助不快ニ付郡代かわり川井田左衛門被仰付候御使組五人申立る太鼓為打候事及御沙汰

一林立軒家守盜ニ合右賊物鹿骨ニ買取候元魚町よし屋ふし屋預ケ置候得共兼々詮儀も無之間猶予取計置候

一錢相場七十三文

一直屋孫兵衛病氣ニ付役免願之通申渡し直屋市郎左衛門跡役申渡尤先座ニ申渡ス是者親市郎左衛門以來御用之勤候者名字〔も御免之者ニ付祖父此方勤切を賞し右之通申渡し候勿論酒改め役是又市郎左衛門江申付候

十五日 雨

一諸士登城御礼相濟御座之間御目見申上る

一今日被召候左之通

海老原極人大目付役伊藤采女御持頭磯野伊兵衛御旗木兵左衛門御先手与馬場喜内御鎧先達而柴山治郎右衛門へ御預宮地加市兵衛御免帰住海老原極人へ

御預ヶ宮地勘平帰宅小役人被仰付候村上清大夫へ御預宮地小太郎
勘平江 御預蟄居被仰付候

一 錢相場七拾弍文

一 雨天ニ付万人講相延候

十六日 晴

一 今朝六ツ前頃迄天氣晴候模様ニ付講元共同出急ニ興行太鼓為打度

候旨則其通ニ申付夫の御借人馬申遣し講場出役致し候内左衛門郡
代受出役少少四邊防備共引取与兵衛へ兩人共ニ罷歸三兵衛打者旁手紙通又此講場の
舞之儀御之無滞相濟明合遊候先送之通ニ御旨致し追而如何ニ可申候旨申來候

一 坪井役所松本助七の來書御城下当月上來平均直段之儀來月上旬聞

合申度旨則返書差出し置候

一 今日万人講寄礼高八千六百八十三枚

此銀札四拾三貫四百拾五匁 内十三貫弍十四匁五分三步引

残而三拾貫三百九十匁五分 五十番ニ割

老番 壹貫七百三拾六匁六分 十番 壹貫五百六十弍匁九分四厘

弍十番 同 三拾番 五貫弍百九匁弍分 四十番 壹貫五百六拾

弍匁九分四厘 五十番 三貫四百七十三匁弍分 間々三百四拾七

匁三分弍厘

外ニ添突 三百拾三匁三分三厘也

一 明十七日御社參被遊候旨西尾多内申來る

十七日 晴

一 昨日之札高付添突員數書付出ス

一 明日御殺生御出ニ付御出席無之旨為知有之候

一 木屋太兵衛儀割渡方先達被仰付役米五俵被下候処御儉約ニ付弍表

被減三表被下候趣申渡候様大年寄江申渡候

一 先頃入牢申付られ候義助夫婦の質或ハ買候品申出候様相触候所猶
又來ル廿五日切并林立軒家守被盜候品も乍序触出候井上弥三兵衛
被申聞相触候

十八日也

一 西新町ニ預ヶ置候義助道具藤森權六
井及林内詮儀方と立合改印ニ而為預置

一 林惠仲昨六日參直屋孫兵衛方ニ暫逗留届

一 下紺屋町作人左太郎借屋川端又六役介坂井藤太江貸申度願聞届

一 御蔵米五拾六匁五分町米五拾弍匁五分

一 歩銀拾九匁相受取

一 今日殘雖十五本之内拾本渡ス且去卯十一月十八日之分ニ拾番真嶋

郡藤森村吉左衛門へ伏見町田邑屋治助請人ニ而渡す

十八日 晴

一 大村庄助出勤永井甚大夫久々不快之処今日の出勤

一 京町ゑひす屋長右衛門宿切手大坂北久太郎町丸屋藤兵衛手代兵

衛例年之通昨日入

一 今夕堺町宿屋江久世原方之囚人止宿定平与申者之由森對馬守殿家

中石川等左衛門警衛并持高一由
同心頭之由 正木嘉市郎 相見市兵衛何角四十五六人

ほと無統通之由七ツ時之頃着右之取計左之通

一 宿屋途中迄罷出止宿申上心得之事役人江伺之為

一 同心藤森權六神田權兵衛筋違橋辺迄廻り之躰ニ而出向役人江挨拶

各駕籠の御念候御事と会積有之候事夫の跡に扣入込候上捻わく

屋所ニ而立宿夜中高張出ス事

一 大年寄先廻ニ參申置候事

一立宿江等左衛門初外兩人も參候而同心兩人へ挨拶右之内相見市兵衛の附渡參候囚人番人共殊之外勞申候間番人五人ほと御頼申候旨申ニ付則式步中買人ニ付尤大年寄ニも對談之上之為挨拶權六權兵衛兩人申合右中買共召連役人江引渡候事

一村元屋角に繩を引魚町元魚町の立番一町替ニ御ニ南側てうちん

二張東湯原屋前二階町堺町立番繩引等同断近所火之用心

一翌日同心勤方前日之如し替合ハ半夜ニ申合候事

一町々ハ入かわり保頭先ニ立

一出立之時も同心江役人昨日之通りニ入念挨拶致し候由

右之通ニ而無滯濟且件之囚人ハ去月廿六日養ひ娘を祭礼場ニ而指

殺候事ニ付乃井野役所元江為引候ニ付此元通行止宿致候去ル十三

日日記ニ有之候懸り合之儀ニ候

十九日

一昨日囚人無滯出立之儀弥三兵衛江届ル

一伏見町帶屋ニ平次願私長屋ニ居申候作人角左衛門八十四歳妻六拾

六歳年罷寄渡世難送ニ付播州乃井野家中田口長兵衛と申者之方江

親類ニ付引受罷越候町人別離及御沙汰候

一二階町湯原屋十助倅徳藏伊達与兵衛殿江出入奉公町内人別除願聞

届候

廿日 晴

一大年寄共献上錫代六匁ツ、三人分相納大納戸受取手形来

一鳥屋与惣兵衛切手撰州テ嶋郡池田村月軒木町植木屋平兵衛同手代

茂兵衛上下式人例年之通植木売昨日入

廿一日 晴

一去ル六日ニ有之落し通下打穴村市兵衛与申拾候而申出候由大村庄

助申聞之候

一錢相場七十三文

一昨日御殺生御出ニ付御出席無之旨為知

一勝間田役所中村与左衛門の飛札当月十五日の晦日迄之米相場を以

相極候ニ付上中下相場相為知可申ニ来月三廿日之頃取ニ申来

候

一戸川町作人茂七願内藤山城守殿領分坪井村善左衛門娘廿七歳妻に

引請申度旨聞届

一此度之万人講三步銀之内納七貫五百目銀札場江納札元受取手形相

廻る弥三兵衛江相達ス

廿二日 晴

一今日御出ニ付休今日残り錐渡ス左五兵衛伝受

去ル卯十一月五分 二拾六番北庄下村八兵衛 三拾一番因州鳥取吉子藤右衛門

廿三日 晴

一安岡町戸嶋屋長兵衛の相撲願明度之相撲当御町并近在の呼寄晴天

寺社取次大場伊平次へ引合候 一日相撲社稽古為仕度左候得者来月上旬之頃日限并場所之儀追而

可申旨弥三兵衛江申達候所追而可承旨聞届

一博奕近来致超過候趣ニ付文段存寄を以及御沙汰候処御評儀も有之

候由尚又弥三兵衛の伺之上御聞届ニ而今日触出候

博奕停止之儀兼而稠敷申渡置候得者弥相慎可守候処近来別而家柄

可然者迄職分家業を外ニし悪にニ入ニ義もふニ起ニこし惑

ハ身上ニもかゝり候躰之「」ニも逢「」之旨相聞候言語同断（ツキ）之至

ニ候右「」停止制禁之御法を不相守不行跡之者参会之儀内通聞候上者場所不論是非同心共為蹈込召捕悪行之輕重ニ付日数之多少を以過「」之入牢申付候且又若年之者共迄時々引れ友に随候而悪遊を見習末々不行跡ニ相成儀不便千万之事ニ候間父兄者不及申親類縁者迄強而異見を加へ若不相用族ハ可訴出候其旨を存相互ニ制し可申候右躰之義於相頭ハ組合ハ不及申年寄とも迄急度可申付候間心得可罷在候以上

右之趣惣町中裏借屋末々迄入念可相触候以上

一乃井野古川弥四郎河端代八ハ飛札久世囚人此間止宿之砌役人差出候段々入念候事共承知之上為挨拶書面則及御沙汰返書差越候

一桔梗屋庄右衛門切手紀州高野山万生院「」僧密然と申僧上下式人

一伏見町姫路屋文助立軒「」守致紛失物買承候旨書付出す吟味もの

ニ付他参留置候

一戸川町かたの屋長七ハ義助質物書付出す

廿四日 晴

一王琳林田村江西新町江見屋伝七ハいふく屋九八爪生原屋喜八出商く
り綿類取次候趣尋大年寄へ申渡す

一明日成安村江御出ニ付御出席無之為知

廿五日 晴暮ハ雨

一野介代六兵衛与申者牛を盜候而在中ハ逃出町分江徘徊も致候事難計大村庄助ハ刑法方江被及沙汰仕役所江通用召捕度由仍之同心共

江人相書を以心掛捕候様申渡す

一福茂屋武介切手大坂南本町三丁目小帽子利兵衛例年通墨筆売昨日入

一王琳林田村江西新町いふく屋九八江見屋伝七など入込頃日之触を不憚大商売かけ組候旨実否尋申付候

一坪井町「」嘉右衛門家屋敷北側ニ而表口四間裏行十七間老軒役東隣ハ糶屋国西隣ハ塩屋いく右衛門質物ニ入銀札五百目当十月ハ来十二月迄借受願貸主鑑主吉兵衛

廿六日 晴

一此度万人講之入用外便ニ拘り不申御益ニも相成可申儀ニて御費容（ツキ）も被成候而縦ハ寺院修覆之儀ニ付候而も二ヶ寺之処三ヶ寺も御助力相成候得ハ少ニても御益ニ候故大沢長大夫存寄之申上候間御役人も被差出候同人とかけ合申談候段ニも被仰出候由弥三兵衛被申聞右ニ付長大夫江談候処右役人ハ小川才治罷出候旨被申候追付弥三兵衛ハ被申聞候ハ右骨零之儀ニ付石名平太兵衛儀も被差出候間其旨相心得小川才治兩人申合取計候様可申渡旨被仰出候旨被申聞候ニ付則平太兵衛江申渡す

一錢相場七十四文

一小姓田町戸屋宗十郎切手紀州在田郡箕嶋浦梔屋五兵衛手代藤右衛門政右衛門十歳佐十郎加兵衛右五人例年之通梔折敷売昨日参込

廿七日 晴

一紀州高野山宝蓮院使僧円植房上下式人例年之通旦那廻り材木町宇助切手

一配當場城並久々不快之処昨日相届候由城正ハ届候段孫右衛門ハ申

出候

廿八日 晴

- 一 司馬五郎様九ツ半時御供揃二宮刃御遠乗被為人京橋口六本町通り
- 一來ル十二月万人講被仰付候御内意御座候旨弥三兵衛六演達勿論講
- 元共へ小川才治石名平太兵衛省略方被仰付候趣申渡候様大年寄共
- へ可申渡旨弥三兵衛□申聞候則□渡す

廿九日 晴

- 一 司馬五郎様御社參被成候
- 一 三町目次多屋嘉兵衛福渡町津田屋伊助古道具取売之儀不勝手ニ付
- 今度相止右跡相勤申度願
- 一 坪井町高砂屋兵助所持之他所持之請酒株小性町万屋利七方ニ借置
- 候所此度酒商売仕不申ニ付相戻し申候私商買仕度願
- 一 山手屋弥太郎私所持仕候他国請酒株三年前願五年切伏見町榎屋
- 京町味噌屋清六宅ニ居申善藏ニ借置申候此度双方勝手ニ付取戻
- し申度願
- 一 福渡町かこ屋源八儀立軒宅紛失物ニ付烏散かゝり内々忍之者川下
- 辺へ入込候処山之上要助と申者之元□逃込候由内分聞ニ付同心福
- 田甚藏宝井作右衛門今夕差向申候福渡町源八庄兵衛両人も付添
- 參申候弥三兵衛江□内分申達置候

晦日 晴

- 一 此間御内意と被仰出候万人講之儀一向表達被仰付候儀と申上今日
- 講元共へ其段大年寄へ申渡ス
- 一 宮脇町籠屋七郎右衛門悴ニ而福渡町ニ而塩屋借屋ニ居申候源八義

当辰ニ三拾貳歳ニ相成兼而不孝ニ付義絶勘当願差出申候へ共源八
儀烏散懸り候者之儀ニ付勘当願書御聞届之義添置候

一 備中倉敷御代官万年七郎右衛門殿手代若林久米右衛門六上中下平
均相場付可申遣旨申來候

一 雲州杵築大社多久十大夫上下例歳之通旦那廻り昨日入込候由^{ひち屋}
一 小性町ひち屋兵藏切手勢州朝熊岳嶺王院使僧休賀坊悦忠房宝藏坊

上下六人例年之通旦那廻り昨日入込届

十一月朔日 雨

一 例歳之通御吉事日御目見御普代中其外登城当役例日之□於御座之
間御礼申上ル

一 「□郷左衛門不快ニ付両所へ当病届ル

一 「□郡代所当役所へ御渡シ被成候御ケ條御返達申上ル

一 船頭町高瀬屋与左衛門家売同町舟本屋佐助買表口三間三尺七寸裏

行五間五尺本役代銀六百匁

一 後藤守助長屋者福渡町源八在所へ内通致候由吟味懸り候者ニ付当
役所へ相受取申度旨弥惣兵衛へ内意申達ス

二日 雲

一 西今町三倉屋善四郎病氣之処昨日相果候由届出候ニ付申達ス

一 昨日書面之通ニ而後藤与助長屋久右衛門取計之儀太田舍人の同人
へ申渡シ有之刑法奉行の町奉行へ□談旨申聞られ其上当役対談い
たし守助帰宅之上同心番人差向相受取一通り尋申付退刻平井郷左
衛門へ申渡シ彼方ニ而牢番預ケニ取計有之候久右衛門役介ハ松助

の請人に相渡シ候由通用有之候

一乃井野江例之通上中下米場付仕立遣ス尤何之方(マ)の飛脚

一宮脇町籠屋七郎右衛門儀倅源八悪事沙汰を致内聞彼儀ハ山之上と申処江抜出罷在候所へ人を入此方之趣内通致候立去セ候仕方且源八儀を不孝と事寄於此場義絶勘当願差出し候得共前後手段を調候趣不届ニ付以来見せしめ之為右勘当願を無取上段を為知追込申付候

一福渡町紙屋庄兵衛と申者右源八と從弟之由此者儀も源八山之上に
□申処へ悪事沙汰内通に罷越候川下道ニ而源八連出しに差越候
□「共に逢候間尋候処源八尋に參候由全偽之儀ニ候へ共無是非追手之者と同意ニ到り久里候ニ付弥源八を尋出し訴可出旨申渡させ候

一同町年寄共儀源八悪事之沙汰可承之処同人儀ニ付何方申出候仕方も可有之処前後心付うすく身を入不申役処之様子見繕候而□手抜之儀ニ付か様之義」
□置候而□寄役之□難立町家ニ而悪行之者ニ而も見逃し又ハ事重く可成を見候而者其者を逃し町内ニ無事を心かけ候様ニ相成アリあしく趣意退候ニ付年寄共江も急度尋出し訴出候様申付

一福渡り町源八此者儀者内々ハ目明同様ニ仕候者ニ候■居町□林立軒家守恵助宅盜賊ニ合候処脇前之變儀ニ候を身ヲ入不申甚不埒ニ付是又急度尋出し訴出候様申付候
右之条申渡之趣扣に記之昨日夕相伺今日御聞届ニ付夫々取計候上御届弥三兵衛江申達ス

三日 雨

一後藤守助長屋久右衛門妻子請人下紺屋町かけ屋長七下請豆腐屋平

十郎兩人願候儀届出候ニ付則右兩人牢屋賄申付候

一幾野御代官所手代大井田与五郎中里忠助江上中下米相場大豆平均相場付今日差越候

一銀札場奉行岡半四郎の錢十七箇證文裏印之儀申来候ニ付相調遣ス

一明四日御仏詣被遊候儀中奥目付中の通用夫々取計候

四日 晴

一魚住藏人昨日參候由大年寄の申出候届達ス

一御用席毎月休日左之通御政奉行永井甚大夫の書付申渡有之 三日

七日 十日 十三日 十六日 十九日 廿二日 廿五日 廿七日 晦日

一勝山江例歳之通米相場付飛脚差立候ニ付刑法方江申達ス御使組原田与蔵差越候ニ付相渡ス

一去月十六日万人講添突殘雖三百拾三匁三分六厘此間勘定所のうけ取今日講元江可相渡旨申含メ大年寄へ渡ス

一錢相場七拾三文ニ相成候届

五日 晴

一明日御殺生御出被成候ニ付御出席無之

一拙宅門前に投書有之及御沙汰候

一王琳林田村へ懸り東新町之者故障之趣承同様ニ刑法方被申聞則其旨大年寄へ申含メ候

一万人講御省畧ニ付出役之面々江心得儀被仰出候御政事方の演達

万人講之儀元来別段之事ニ候得共御時節柄之処引当是ハ引くらへといふ事也ニ候へハ省略

茂有之度事ニ候依之万事入用今般減少被仰付候出役之面々賄等之

儀も随分手輕定役之外ハ御中間等迄も賄出候儀堅相禁入用相減候様講元之者江申付候間出役之物ニ此旨被相心得下々迄可被申渡候以上

一 今夕大目付海老原極人ハ連名手紙日參之場相江明日御出御延引ニ付例刻之通御出席有之候之旨申来ル

六日 晴

一 御作事ハ袖瓦三艘川下裏印調遣ス

一 勝山ハ返書来ル

一 旅籠屋頭是迄之者断ニ付吹屋町北村屋源右衛門へ申付ル

七日 時雨

一 明日例刻御供揃ニ而御仏詣被遊候西尾多内ハ通用

一 船頭町今岡屋切手阿州板野郡成瀬村曾右衛門彦人例年之通藍玉壳同人切手阿州板野郡川端村当本屋清兵衛彦人例之通藍玉壳各昨日入込

八日 晴

一 安岡町戸嶋屋長兵衛高野宮ニ而芸古相撲来十五日為取申度願御間届申渡ス十一日寺社方郡代所引合濟

一 西新町米屋彦太郎借屋左助禁足申付置候所渡世及難儀候旨歎出候ニ付他參申付候

一 明日御出ニ付御出席無之候旨大目付赤見類助ハ為知連名手紙来ル

九日 曇

一 熊野屋伊助ハ中女彦人川下ケ手形裏印遣ス

一 井上弥三兵衛江手紙与兵衛殿ハ昨今申来候由

十一日 晴

一 右之通切手式儀印形共ニ帯入ニ入
一 岩儀 岩儀 割場宛 一印 右之通切手式儀印形共ニ帯入ニ入
藤井甚内一昨夜五ツ時分戸川町ふく渡町之間ニ而落申候旨申出候右之通触出可申之旨ニ付則大年寄江申遣ス

一 西今町久米屋勤七同町塩屋藤十郎所持之造酒株当辰十一月ハ申ノ歲迄五年之間借受商売仕度右年限藤十郎方ニ而者止

一 二階町湯原屋重助同町北側ニ而同人家表口式間式分五リソ裏行拾式間半半役西ハ片山屋東ハ嶋屋同人兄湯原屋伝兵衛江讓願

一 西今町西田屋多助二階町山手屋弥太郎所持他國請酒株当辰歲ハ午歲迄三ヶ年同人手前江借請右年數之内ハ弥太郎手前ニ而請酒商売相止願

十日 晴 十一日 晴

一 林田町山本屋与惣七ハ堀坂村坂口屋武助と申者へ田地家藏證文ニ書入明和元申ノ九月より酉ノ十月迄二割之利足ニ而二貫目貸渡シ右證文與書綾部村地方目付多胡勤右衛門印形ニ而借請候処勤右衛門死去當時同性左市へ懸り納所相滞及催促候得共不相濟右濱口之儀申付呉候様相願今日御郡代大村莊助へ相談願書證文も扣并安黒權十郎ハ大年寄当之書状返書等相渡ス

一 来ル十二月万人講日取之儀五日に相極メ及御沙汰候処御間届ニ付申渡ス

一 去ル十月十六日分残り錐式番式十五番昨日相渡ス

一 明十二日例刻御供揃ニ而泰安寺へ御仏詣中奥目付中ハ

十二日 晴

一 山本屋与三七ハ多胡左市へ懸り元銀式貫目貸付取次之分大村庄助

の難取計と有返弁ニ付刑法方江及噂候処何分存寄相決伺出候ハ、
可申上之旨被申聞候ニ付其段承置候

十三日 晩刻の雨降る

一 明十四日例刻御供揃ニ而泰安寺江御仏詣被成候段西尾多内

一 大村庄助の通用有之候者鉄砲町江地子借伝吉と申者の方へ昨十二日同宿之者伊助安岡町三人借屋仁兵衛と申者之処へ十一日にやとひものニ付右之伊助伝吉畑新田村分御墓所辺に有之仕事ニ参候処及暮候而不帰候ニ付尋ニ参候処畑之内ニ有之候井戸崩候ニ付其中を掘候へハ右之伊助相果居申ニ付註進申出候仍之右安岡町伊助方ニいか様之儀ニ而生所之訳も聞合之旨引合之為被申聞候ニ付則時大年寄共へ相尋候様申遣候即夕吟味口書出ス

一 小川町作人勘七同人妻及老年病身飢渴死生難計ニ付御救ふち相願ニ付申達候所町方右等之例出候而者如何孤独之類ニ而無之ニ付八木ニ而も可被下旨相極其段大年寄江申渡置候処今朝右之勘七相果候旨届出候尤桶屋町分ニ而右之町年寄取計也

十四日 晴

一 大熊勘解由殿横溝ニ何者とも不知酒酔候躰之倒居尤昨日之儀ニ而今朝右之者之着物ニ候哉田町御門辺において小屋之ものに預ケ主知候ハ、相渡させ候様可取計之旨弥三兵衛の被申聞其旨申渡候処□□□□之非人頭召連出御門番へ伺候而相受取り帰候

一 新田分変死伊助立相見分ニも可取計御郡代中申達ニ候得共右仁兵衛方ニハやとひ候辺ニ而町内引請之者ニ而被届併仁兵衛儀先日ニ雇人躰着もの等も見覚候ものニ付年寄者人仁兵衛を召連尤二宮

原ニて源七と申者も二三日雇候ニ付誰も同様見分場江罷出候様申談し今日郡代所ハ下代其外地方役人罷出見分有之右之仁兵衛のも伊助人躰着物等見受其者に無相違旨書付差出候此者ハ元来大庭郡中村之者之由ニ付其旨長法師前往来に仮埋之建札之取計候由ニ候

一 小川町勘七死候趣相達候ニ付御救ふち之引当ニ而銀札八匁被下候ニ付相渡し手形差出ス

一 船頭町山家屋作兵衛旅籠屋株同町山北屋伊兵衛讓申度願出ス

一 小姓町田戸屋宗十郎切手筑前遠賀郡柏原浦小平次手代庄兵衛金兵衛式人例年之通茶碗類売昨日入

一 安岡町新屋清助坪屋和助持来自国請酒株去ル卯ノ三月の巳三月迄預り置候処此度止メ和助方相戻候願

一 魚町魚屋太郎左衛門の同町しほたやの家書人銀札式百五拾匁ニ借受候処納所滞候貸方を催促いたし訴答受取置

一 山元屋与三七の多胡左市江掛り借銀札出入今日刑法方へ及噂置候

十五日 晴

一 諸士登城御札相濟例之通御座之間御目申上ル

一 福渡町尋者駕籠屋源八大坂染町と申処ニ参込候由相聞候ニ付弥三兵衛江及噂候

一 類族無変儀届見届候而其上ニ而例之通届候様可致旨宗門奉行松嶋十学被申聞候則大年寄江申渡候此訳ハ先達而宮地小太郎江戸江入込居候事を不存宮地勘平の例格之通届候儀及大變候ニ付此度分相改り夫々支配筋の其事心得候様ニとの儀ニ而其段被申聞候

一 万人講場所江罷出候面々人数書付ニ付其段伺候処御徒目付壹人下

目付小頭老人平老人右之面々入候外ハ不罷出勿論物頭中も役所江
立寄不申様ニ御沙汰に申仍之其段平太兵衛江申達ス

一御預ケ之同心組当人并役介迄年齢七十以上書付来ル廿日迄ニ差出
可申候旨永井甚大夫の演達

十六日 晴 十七日 晴

一大村庄助不快届明十八日万人講出役難成候旨申達ス川井円左衛門
右助出役被仰付候

一錢相場七拾四文

一山本屋与三七の多胡左一江懸り借物滞候願書弥三兵衛江一通り存
寄相添申達候処郡代所江懸合其上ニ而落口も難申付候ニ決候ハ、
先支配所役人江及書談候相決し伺候ハ、御用所へも可及御沙汰旨
申聞候仍之今日大村庄助江相廻し置候

一魚町之者共の他町ニ而魚居并他所魚荷おろし売停止被申付られ候
様段々相敷候ニ付先日役処并大年寄とも迄存寄申候ハ、申出候
様双方遂評儀右願書差出置候処御聞届之上申渡候様弥三兵衛の被
申聞候付左之通一統に相触候尤魚町之者江も申聞候様大年寄江申
渡候

魚商売之儀新魚町之外他町見せ売振売并他所の参候振売先年停
止申付置候処去ル卯歳の他所者振売之儀指免候ニ付右ニ准シ当
町之者見せ売振売等之義も他町之者たり共勝手次第魚売等致候
へ共其分ニ致し置候然ル処近年時節柄悪敷候ニ付魚商売表へ甚
難波候得共先祖の魚商売家業第一に仕別之事故外商売之手段も
無之もの共過半有之難波いたし候趣相敷候ニ付今般先年之通他

町ニ而魚商売致候儀停止ニ申付候振売之儀者海老鯛鯉節田作あ
み此等之類

十八日 晴

一今日万人講ニ付出役郡代助川井円左衛門今般万端被省畧之取計ニ
付小川才治石名平太兵衛兩人右之計引受ニ付出役

寄札高老万五千五百六拾三枚但五匁札此銀札五十七貫八百拾五匁
内拾七貫三百四拾八匁五分三割引残而四拾貫四百七拾匁五分
六拾番ニ割

去戌十月十九日分突添老本

右無滞相済引取山田衛守殿へ届井上弥三兵衛江兩人連名ニ而相届ル

一勝山の飛脚筑間源右衛門渡部唐兵衛の奉文ニ而

一筆致啓上候拙者毎度御文通御掛合申候儀心当承知被致候ニ付目
録被相贈候此段拙者共の宜被得御意旨被申付越如此御坐候恐惶謹言

十一月十八日

半帯以別得御意候追而寒冷相募申候得共弥御堅固被成御勤珍敷候
御安否致承知度如是御坐候以上

一伯州川村郡助谷村久四郎と申者以せ札ひゝる場へ持参いたし候得
共鳥散成物故返し遣銀札場江存是ハ倉吉村久右衛門と申者之由札
ハ同しもの「いつれニ而請取候哉と尋候得者油屋ニ而両替致候
由申ニ付三町目若元屋ニ預ケ同国宗源寺と申出家も同宿此儀ニ付
札座奉行岡半四郎相見へ噂被申聞候ニ付承置候

一大村庄助の穢多盜賊番の一六と申盗人を捕候由如何敷講場ニて見
かけ場所を離めし捕候盗人之訳能存居申よし相聞え候無拘相応長

預申遺ス

十九日 晴

一組中年齡中山市左衛門七十同人妻七十五書付差出ス

一昨日勝山の參候目錄奉文之趣刑法方申達候所御用所へ被及候上受納可仕之旨被仰渡候旨内合申聞今日相応之返書調遣ス

廿日 半晴

一一場村善七と申者を同村庄屋武七伴新庄村江先達而養子ニ參候儀

兵衛と申者切殺女下女ともニも手を負せ逃去候由右之女之儀者元來

福渡町源八親分か又者宿致候か何分致世話善七方へ遺し候由相聞

え候ニ付今夕寺様子尋可申旨大年寄江申遺ス且又同心福井甚藏儀

茂内々右女之儀世話致し善七方へ遺候由左五兵衛方迄内分申出候由承置候

廿一日 雨

一盗人一六儀詮儀方へ引渡候ニ付同心貸罷候様ニ大村庄助の申越候

ニ付福井甚藏三船孫八差向候

一似せ札遺候者吟味片付帰国ニ取計候由岡半四郎の通用

一中山市左衛門妻今朝相果届

一入牢義助の打穴屋へ質物ニ置候品之内羽賀国次と申もの村山平学

江申込此者宿請人福渡町大和屋義助へ引合せ受返し申度旨ニ候間

其段取計候様弥三兵衛被申聞大年寄へ申聞候

一播州龍野本町本屋佐吉手代直助例年之通書物売昨日入堺屋伊右衛

門宿切手京油小路かうくや兵助手代茂兵衛老人昨日入小鳥屋与三

兵衛切手大坂堺筋久宝寺町岸部屋茂十郎同手代五兵衛老人小間物

売例年之通切手同人

一安岡町三右衛門借屋仁兵衛儀新田村分鉄砲町伝吉畑ニ而変死致し候伊助死骸掘出し候仕方不行届候儀共以後之為相咎メ禁足申渡候様大年寄於宅申渡させ候申渡し扣ニ記之

一西今町庭瀬屋平七右之変死候伊助儀ニ付居町役人江も不及沙汰安岡町仁兵衛へ致通用候儀不埒ニ付急度阿申渡させ候

廿二日 晴

藍玉売也
一材木町河内屋藤三郎切手阿州名東郡芝原村栄次郎

一備前磐梨郡頭村伊兵衛弟八兵衛と申者東新町玉屋猪右衛門方江引

受養商仕度願書出ル 同月廿八日本證文出ス

一西今町玉屋治右衛門先達而重屋玄忠所持造酒株卯年より巳年迄三ヶ年之間借受候処不勝手ニ付右造酒株玄忠江戻し願出ル

一材木町河内屋藤三郎切手阿州名西郡高名村直兵衛同手代与兵衛申者以上式人例年之通藍玉売昨日入同人切手阿州板野郡高嶋村新兵

衛与申者老人例年之通藍玉売昨日入

廿三日 雨

一福渡町庄兵衛儀同町源八行衛急度相尋召連帰候様ニ大年寄於宅左

五兵衛立合申渡させ候

廿四日 晴

一籠屋源八尋候ニ付先達而福井甚屋室井作右衛門其外下働之者差遣し入用欠所銀之内三拾匁御金蔵所借受尤手形差遣し置候

一勝間田町よし田屋与兵衛切手播州網千新在家いんへや清六例年之通塩物并經節おろし売昨日入

一中之町三宝屋宇左衛門御用達彼是取込候ニ付酒改役免願差免跡役
一鍛冶町新兵衛と申物倅岩次郎同人妻一所に追出し候ニ付兩人を組
合之者困置候由其段組合届出候仍而新平衡計方難得其意存寄承
可申旨大年寄江申渡ス

廿五日 晴

一中之町福茂屋武助切手備州津島郡妹尾村木綿屋太兵衛同手代平四
郎式人例年之通疊表元結木綿売昨日入

一昨日出候勝山飛脚今日帰り御使組山本源兵衛

廿六日 晴

一安岡町三右衛門借屋仁兵衛禁足差免申渡ス

一一場村善七を致殺害下女ニ手を負セ逃去り候同村庄屋之倅儀兵衛

郷中ニ而敵敷尋候処去ル廿三日町方ニ而在中之者見かけ候由昨日

大村庄助被申聞候ニ付今日弥三兵衛へ及沙汰町方さがし申付小屋

之者在中往来町入口ニ為固候様取計可仕旨申達ス

一去月廿九日籠屋源八尋ニ差出候川下入用銀札式拾六匁四分半先達

而相納候欠所銀之内御金藏が受取左五兵衛へ渡ス

廿七日 晴屋後が雨

一茅町吹屋藤助願娘冬当辰式拾三歳此度山本屋与三七取持ニ而大久

保七郎右衛門殿領分宮部下村百姓三吾妻に貫遣候旨聞届

一武田七郎兵衛来ル廿八日出立往来十日之逗留備前西大寺ふし屋又

右衛門同所榎屋北右衛門夫が岡山山車屋六大夫へ罷越候旨

一北山周斎が断姪岡山家中片岡藤三郎娘昨日罷越来已三月中逗留之

趣承ケ届

一中市左衛門忌差免申渡させ不快ニ付出勤断

一町方髪結共先達而新髪結出来候事仲間故障ニ成願差出候ニ付十九

人ニ而町方手支ニハ成まじきヤ吟味申付置弥十九人ニ而少も無指

支可勤可申以後万一指問ニ成候ハ、髪結相増候而茂申分無之旨申

ニ付改メ申渡ス

一御蔵米五拾四匁町米五拾目書付出ス

廿八日 晴

一於御居間御目見申上ル

一上河原村次右衛門と申去ル廿六日之夜盗ニ逢品付大村庄助が被差

越町方質物又々買取候もの有之候へハ早速可申出之旨触書差出ス

扣ニ有之候

一筑前遠賀郡柏原浦小平次手代清吉万助弥三次茶碗類売昨日入

一惣酒屋共へ上消灰老俵代老匁式分下消灰代六匁ニ極野村理右衛門

役所江月々三八に相納可申旨ニ付請書扣差出ス細工所ニ而たどん

ニ相成候由

廿九日 晴

一場村儀兵衛御尋もの三奉行中が廻状町分触出候

当月廿九日夜市場村庄屋武七倅元平四郎当時義」申年来三

十二歳相成候者同村善七与申ものを切殺并同人下女に手を負せ

逃去候趣申置候付早速右義兵衛尋申付候処今以不尋出候依之方

一以後御家中長屋其外足輕屋敷等へ罷越儀も有之候ハ、早速可

申出候右之趣同役属役并支配等江も可被相達候

一出雲大社中官西村神大夫上下四人昨日入きく屋切手

一京町類族之者無事ニ罷在候旨届出去ル十五日頃ニ計事付置候

十二月朔日 晴

一於御座之間御礼申上候

一小姓町藤屋源助追払以後林田村ニ住居候処此度疏状差出三度迄ニ

及候ニ付吟味可仕由ニ而御付紙ヲ添御下し被成候今日新五兵衛御

礼登城有之歟と応対疏状ニ新五兵衛於宅申渡之上可被申上候儀有

之段申候得共取上無之由書面ニ相見候ニ付其旨其節申候哉否相尋

候所左候様之儀者不申旨申聞候是ハ役所吟味之節為心得承合候

一去月廿四日之処かち新兵衛家職を留悴夫婦追出候得共及渴命難見

捨色々挨拶申上右差免候之段新兵衛并組合とも願下之書面出候

ニ付聞届差置遣候者ハ組合三右衛門と申者之由

一今日酒改組屋勘十郎直屋孫兵衛同市郎左衛門山本屋与三七右四人

之者宅江呼出申渡し取計粗左之通

造酒株之儀有来之分是迄之通御立被成候事右株由緒有之候者讓

候事ハ致し来之通当時致商売候造酒屋請酒屋以来ハ運上仰付ら

れ運上割合之儀者追而可被仰付酒之儀兼而被仰出候通御定之直

段ニ相応可致商売尤酒改之者無油断可逐味(ツ)候呑酒之儀旅人と

御城下之者者堅停止候但手売納候百姓又ハ薪売炭うり等類定法

取出□通り之者者旅人同様ニ候間格別之事掛売之儀段々売掛致

増長候処ハ無遠慮先方江可及断事付り掛増長之上絶而掛罷候様

申者有之候共運上差上被申故堅く可及断事右運上銀毎年二月晦

日迄ニ改役之者取集運上奉行江可相納事他国酒入船候節小桁御

番所ニ而相改切手差出四十樽一ニ付老奴ツ、運上被仰付候事改

之者取計右造酒屋うけ酒屋ニ而酒之儀ニ付願筋者酒改之者可致

加印候事

但酒改之者共運上取立いたし候ニ付相応之勤料追而可被下候事

酒株無之者酒売候之義勿論戻し候得共茶屋ノ等江卸売等取扱

候儀堅く致間敷□但他国酒舟ニて登候分ハ運上有之候得共公料

他領在中之酒買請津山御領内造酒屋請酒屋ニ而買取候同様取計

候而者紛敷候間公料他領之酒買請うり申間敷候

右之外押買又ハ四刻迄買ニ參候者ハ及断押而及彼

一来五日万人講触差出ス 是候ハ、其趣可申旨申渡置候

二日 晴

一昨日酒改共江申渡候趣ニ付町方一統ニ触出ス当町造酒屋共江今般

酒運上差出し候様被仰付候依之酒屋共方ニおゐて呑酒と申義停止

ニ相成尤其外申付置候事共も有之候惣町末々之者此旨兼而相心得

候様可被触以上

一御蔵米五拾三匁町米四拾九匁届出ル

三日 晴

一明日御仏參被仰出其後御延引触浜田平橋ノ通用有之候

一林田村喜平次借屋ニ罷在候伊助四十式歳同人妻式拾七俵三才此度

東新町鍛冶屋平左衛門借屋江引越候願

四日 晴

一明日万人講ニ付今夕太鼓為打候事同心加入五人其外出役平太兵衛

御借人申達ス

一 牢舎人吉六兩親同人妻以上三人宿へ罷出候由吟味之上申達ス

五日 晴

一 万人講ニ付郡代大村莊助拙者出役「次石名平太兵衛迄例之通罷出ル

一 寄札高六千四百拾壹枚此銀札三拾貫七百目内九貫貳百拾壹匁五分ハ三分引残而式拾壹貫四百九拾三匁五分六拾番ニ割小詔略之添突成ノ十一月五日之分六百七拾四匁八分八厘之分也右無滞相濟御用番与兵衛殿へ相届ル井上弥三兵衛へ連名以手紙相届ル

六日 晴

一 井上弥三兵衛於町方嫁取之節石打狼籍致候由取鎮可然申付候様被申聞候依之大年寄廻伏差出シ嫁引取候刻限組中へ致内通可申旨相触させ候

七日 晴

一 岡半四郎の錢三箇積下シ裏印致遣ス

一 二階町年寄医師勘平役免願指出シ跡役塚屋忠吉へ申渡ス

一 材木町南側ニ而表口二間半裏行十七間半役東ハ大工次助西ハ伊予

屋理右衛門式百匁家売主紙屋伝次買主同町大坂屋理七

一 明八日御仏詣御延引被成候旨大御目付黒田多膳が為知手紙

一 中之町薬屋兵藏方騒ニ成手過チ致し近辺の消留候尤借屋又市と申之由

八日 晴

一 中之町薬屋兵藏借屋又市方致失火候ニ付禁足申付候

一 岡半四郎の錢五箇川下之證文裏書印調遣ス

九日 晴

一 自江戸表飛脚到来先月廿一日被為召御連代兵庫守様御登城被成候処直姫様御縁組願之通被仰出候旨申来恐悦之御事候依之為御歡御帳付候間来ル十五日辰ノ中刻の巳之中刻迄之内登城可有之候

右廻状太田舎人村山平学市村數馬の来ル

一 主税様御義今般淡路守様へ御養子御内談被為濟候旨申来り恐悦之御事候依之淡路守様御義向後御兩般可致旨被仰出候

一 太田原出雲守殿同山城守殿御義向後御兩般可致之由被仰出候 十月二十九日 三奉行

二月九日 三奉行

一 今度年号安永と改元於江戸表十一月廿五日被仰出申来候此段為相候様被仰出候右之趣畧之

御政事奉行

一去ル五日三奉行中の廻伏

近来御家中之面々遊芸ニ耽候者も有之様相聞候強而被指留候事には無之候得共可努文武之道專一致出精優成時心懸ニハ苦かるまし候諸芸打捨其事而已日を費候様成義ハ無用ニ候殊更当町御時節柄之事情へ者銘々心得等茂可有之事ニて右之趣――

一 京都登愛宕山長床坊使僧堂道坊上下三人例歳之通且那廻り一昨日入込ひち屋兵藏切手

一 阿州名西郡前嶋村武右衛門手代与一兵衛善兵衛式人例之通藍玉壳同州同郡同村平次兵衛手代長右衛門茂三郎藍玉壳阿州板野郡中留村兵助手代平兵衛藍玉壳宿各京町今出屋半兵衛切手昨日入也

一三軒屋やね替相濟候旨豊次届出ル

一元小性町藤屋源助当時古林田村善助後家借屋ニ罷在候由右源助先達而京町吉田屋と借銀札之出入有之家屋敷取上ニ成町追払被仰付其節栗原新五兵衛於宅申渡有之候処可有之申上候義申上候処聞合と申今度疏状及三度委細訳吟味候様被仰付今日於役所呼出尤山根村庄屋源八儀ハ御郡代所江申達候同道ニ而平太兵衛勳左兵衛孫左衛門書役申付喜兵衛当番を「」右一言申上度と申趣疾与承届候処左之通

扱人相頼喜八方へ段々及断候得共承引不仕御上江奉掛御苦勞私儀右之趣御裁許被仰付候ニ何卒右扱人ヲ以及断候趣喜八承引仕候様ニ被仰付被下置候様御敷申上度奉存候処御聞入被為成殊甚奉存候然る処当春以来林田村ニ借宅仕耕作仕見申候得者年柄悪敷渡世致仕来到ニ難儀仕候何卒町内住居御免被為成下候様幾重ニも奉敷上候以上

右之趣申之候ニ付源八江立合承届候段印形取之候

一元魚町田原屋善十郎自国請酒屋ニ而万人講賄方茶屋豊蔵平田屋富次郎江酒代払滞五拾式匆五分六厘有之三丁目組屋之酒を受候処此手前と町借を以相濟候得共右兩人の不相濟及難儀候而両度迄「」状差出し御下被成候ニ付通例ニハ無之候得共万人講賄方格別筋被聞候間吟味可仕旨申上善十郎呼出し五人組町内年寄召連出及吟味候処無相違ニ付追而可取旨申渡し先引返候

一下紺屋町ニ而売家表口式間裏行十七間但四分役也西ハ松山屋善右衛門東ハ福住屋吉右衛門也売主人文六売主同町中山良意右聞届

百九拾目也

十日 晴

一京六条通油小路下ル町香具屋兵助同手代甚五郎式人例年之通小間もの売昨日入鳥屋与三兵衛切手

十一日 晴

一源助吟味仕候段申達ス

一勝南部和氣村久米右衛門と申盜賊昨日小屋之者とも召捕勿論下通路之儀ハ徘徊者岩右衛門元百姓之俸取計之由唐七引合先於小屋尋申付候処天

狗共申安次共申候由近郷ニても手を配り心掛候盜人ニ而穢多共も

同様ニ相聞候何分其儘追払可被仰付者ニハ無之旨ニ付申達置候

一御代官万年七郎右衛門殿手代若林久米右衛門の飛札到来事入込候

仕度ニ付大意を記候

発書有之然者越後守様御領分作州津山伝次儀七郎右衛門方ニ

而致吟味候盜賊一件引合之ものニ御座候間御「」向被成備中国

窪屋郡倉敷七郎右衛門役所江各御差出可被成候右之段可得御

意旨七郎右衛門申付如此御座候以上

十二月十日

若林久米右衛門

御役人中様

追而右一件吟味引合之もの共夫々及御掛合呼出遂吟味候様安藤

弾正少弼様御指図ニ御座候左様御承知可被成候且右伝次義當時

酒井雅楽頭様御領分播州姫路津田孫兵衛と申もの方ニ罷在候趣

ニ相聞候間雅楽守様ニ而御手当被置候様右役人中へ及掛合申候

此段為御心得得御意候「」

右ヲ発端ニして一通り相応之儀又談併伝次津山何町何屋不申越候
ニ付差掛り取計難致候得共右追書姫路津田孫兵衛と申もの方ニ居
候趣ニ付姫路役人中へ承合其上ニ而可取計旨返書差越候

一昨日御参詣御延引被成候事大目付中々為知廻条来

十二日 晴

一九日之記ニ有之候田原屋善十郎一件魚町年寄元魚町年寄講元共申
合濟口取計候様大年寄へ申渡ス

一中之町薬屋兵藏借屋又市方失火ニ付禁足申付候へ其他町迄為騒候
儀ニハ無之候ニ付役所切ニ而差免候

一盗人久米右衛門と申者元来勝南郡百々村百姓躰ニて盗を専に致し
候もの、由四五年丹州いつしニ而入牢致候処是を拔出候共相聞候
此間小屋之者捕へ来ル公私領ニ而心懸候盗人之由取放候も如何ニ
存詮義方引渡

一備中申来候一条ニ付姫路江飛脚を遣候御使組山形藤藏を申付ル
其書面万年七郎右衛門殿手代を来り候書面之写遣シ有之津山伝次
与申来り候得共居所屋号等不知候ニ付其元ニ而相糺候上ハ受取可
申旨及書談候処姫路役人小川与惣左衛門沼田弥兵衛成瀬弥五左衛
門小野田与一右衛門を伝次義津田孫兵衛と申者方に罷在候由手代
中申来候へ共右之孫兵衛義ハ当所致家出行衛相知不申候然ル処
当城下福中町明石屋勘大夫と申もの方ニ右之伝次去ル十日致一宿
同十一日城下致徘徊候付指留置備中へ申遣シ候由然者自此方相受
取候迄ハ指留置候之旨返答申来同日件之趣又々備中も飛脚到来
右之伝次津山ニ而何屋附与申義不相知候共伝次と申ものハ差出シ

候方と存候旨吟味之上引合に無之候ものハ其趣に取計候よし手延
候難相成猶又申遣候由姫路へ懸合候儀ハ手抜無之存候儀ニ付右伝
次此節津山へ罷歸り居可申候哉難計候間伝次与申者ハ早々差出候
様申来則相応之返書伝次義姫路城下に差留有之ニ付請取之ため明
日役人差出可申之旨返答ニおよひ候

一備中手代中々姫路福中町明石屋勘大夫と申もの方に手当致有之候
由彼之方々通用有之旨飛脚到来右一件去ル十一日より同十六日迄
往反略書面記置委細ハ書翰扣に記之

十三日 晴今夕雪

一銭五拾箇川下ケ證文裏印調遣ス

一阿州いたの郡鶴嶋浦藍屋喜右衛門同手代徳兵衛多七郎兵内勘兵衛
上下五人例年之通藍玉売昨日入吹屋町沢屋惣右衛門切手

一袖瓦舟老艘式千五拾枚積合せ松貫五拾挺関十次川下ケ證文裏印調
遣ス

一平岡彦兵衛殿廻米積切相濟候由日雇頭を届ケ

一上紺屋町今屋伝助借家弁助と申者不審懸り候ものニ付手錠組合預
ケ申付ル

一明日御参御延引被成候旨大目付中申来ル

十四日 晴

一岸院様御不例之処御養生不被叶去ル五日御逝去被成候仍之今日
を来ル十九日迄七日之内鳴物高声御停止之事ニ候尤普請者不苦候

三奉行中々廻伏

一御借入一統之内不納之面々有之皆納之者候者御酒被下候隨而皆納

いたし候伊部屋佐助野田屋孫三郎兩人江右並之通御酒可被下旨且
又前後皆納之者共利銀可被下之処當時御差支ニ付不及其儀致挨拶
候様兩様共大年寄申渡候大年寄孫左衛門預り置候七百五拾上納致
候様申渡候

一 明十五日月並御礼鳴物御停止ニ付不被為請候同日御帳付候儀相延
来ル廿二日御帳付候此旨之通刻限之通登城可有之候此旨同役一
畧之候御奏者同役中廻状

一 御駕籠老人寄セ人来ル廿一日迄之触出し例之通中奥目付西尾多内
江申談ス

十五日 晴

一 備中倉敷役所若林久米右衛門小頭替の飛札来次第此間之日記ニ記し書翰
扣ヲ以可知也

一 姫路の飛脚帰候返書到来右同断扣に記ス

一 魚住藏人明日帰出立仕候旨届

一 明日伝次受取として出立之面々藤森権六中山伝内室井作右衛門福

田甚蔵石名左助雜用馬銀百貳拾目用心銀貳百匁相受取小性町年寄
喜助組合半六喜半次忠兵衛囚人籠一挺継人足小道人町分組合頭の諸人用
取随候今日申達ス

十六日 晴

一 紺屋町文六家売券證文出ス

一 昨日書面之通囚人迎人出立

一 安藤造酒助殿の同心兩人借申度旨惣惣兵衛の被仰渡候

一 下紺屋町原田屋馬七一方村ニ而水車半痛相願断御聞届之旨届書差

出ス

一 安岡町久米屋勘八当国乃井の預り所三海田村喜兵衛伴義八廿二歳
養子ニ引請願

一 福茂町武助切手播州姫路椀屋藤兵衛同手代権四郎石松三人例之通
椀売一昨日入

一 元魚町八百屋平左衛門他国請酒止三津屋平右衛門へ返之安岡町表
屋長兵衛自国請酒株魚町田原屋善六へ預ヶ候処此度長兵衛へ取戻
シ断

一 桶屋町大坂屋次十郎坪井町高砂屋兵助他所請酒株譲り請

一 蔵合伊三郎玉嶋屋安右衛門へ借置候造酒株此度相戻断

一 神田屋孫左衛門世倅所持之造酒株を譲り受候断り

一 西今町かつ屋常右衛門自国請酒株戸川町庄野や理助へ貸置候処此
度取戻之断り

一 御使組三人衣笠伝右衛門日下伝六石坂十蔵同心加人相受取候

十七日 晴

一 疏状式通御下被成内巻通中之町福茂屋武介也先達而触出候他国者
小魚振売勝手次第と申渡ニ候処魚町之者相廻り塩物類不寄何角ふ
り売と致故障因州魚売共罷越町々柄之塩鱈塩鱈干鱈御当町徘徊罷
成不申他国者未至と入込相止渡世不相成妻子共難儀致候間尤夫々
役筋江願可申候へ共月廻日延に致相考無抛申上候由ニ付吟味仕候
様被仰下可然旨付紙上候処其旨ニ被仰出候

一 安藤造酒之助殿の明日同心貸し罷候様申来ル

一 備中役所の飛札到来伝次儀姫路福中町ニ差留有之候段彼之方へ申

来候ニ付手当致し不取迹候様ニ致し右彼所江差出候様申来候書翰扣ニ有之

一上こん屋町喜助儀を盗人久米右衛門の悪もの候由差免と聞ル手錠預ケ申付候得共人違之由訳立候ニ付差免遣候

一東新町鍛冶屋勘右衛門五年已前土岐領英田郡山口村八十兵衛方へ五年切奉公ニ参候処此度帰リ候断。中之町海田屋五郎兵衛後家俸市之丞十八歳去ル十一月二日与風家出致候処帰リ不申方々尋申候へ共行方知不申届

十八日 晴

一上紺屋町渡部休庵当年中引請候儀先達而御聞届相濟候処於播州歩全と申叔父も浪牢之身罷帰候儀も不憚御座候ニ付来盆前迄用止之儀願承置ニ取計候

一三丁目神代屋和兵衛倅和七去寅三月願勝山町劔屋徳方へ奉公参候処此度病身ニ付帰候断

一造酒助殿家来前原乙次不行跡之儀有之糺明之上番人を付候私宅ニ

ハ妻子も番人付候由同心中山市左衛門三舟孫八差遣し乙次江ハ被出籠に乗張なわ懸ケ家臣庄蔵跡ニ付同心相固メ二階町御門より刑法平井郷左衛門宅江引渡有之候由同心兩人届申出候昨日両度足輕之使来ル

一吟竜兼而不如意ニて宗門内去々歳出入物いり多其上役介病体に又々嵩借当年至難相凌仍之御時節物心得共南京極芝居来已之春の三年之間年々一度ツ、被仰付被下候様拙者本多三次其外借銀弁納も仕度旨願候ニ付郡代所ニても当役所ニても伺候処吟竜願と申而者寺

院へ懸り並例ニも可相成ニ付地方目付大年寄為願候義ニ致評儀此間両方引受願主名ハ文段ニ出し右之者共名前を以願出候処来春老度之分御聞届被成今日申渡す郡代所同断

一刑法奉行の呼に來り原田屋利助鳥屋佐助兩人共明日召捕詮義方江可引渡旨被申聞候

一元魚町ニ而前原乙次宅へ同心を差向造酒之助殿被付置候役人江面談相受取組合番申付道具櫃等ニハ封印致候諸事年寄へ申付引取候小頭左五兵衛も罷出候

一乙次ハ入牢被申付候由直に牢賄被仰付候

十九日 晴

一原田屋利助今朝於宅手錠申付候石名平太兵衛小頭左五兵衛同心兩人罷出ル引渡書面例之通ニ而平井郷左衛門へ相渡候

一鳥屋佐助方へ小頭左五兵衛同心兩人差向左助へ手錠申付家内之者諸より年寄へ申渡シ組合預ケ取計置左助義ハ宅へ引出シ一通り見届之上前段之通ニ而是又郷左衛門へ相渡候処兩人共に入牢被申渡候由賄ハ即刻の牢賄被仰付候

一林田町北側ニ而小山屋次兵衛家屋敷表口二間裏行十七間尤角屋平吉裏八間半七步五厘役也東かと屋助八福市屋忠次銀札百七拾匁主小山屋次兵衛買主中之町磯右衛門

一去ル五日万人講添付致上納候

廿日 晴

一町九拾歳以上之者へ御酒料被下則孫右衛門へ申渡同人於宅年寄共へ申渡取計候

一 姫路へ差出候同心無滞伝次受取罷歸り尤姫路役人の返書到来書面
之大意伝次義此方様御領分之ものニ相決役人付置尤繩懸候儀も難
致取逃候而ハ不相濟義故腰繩付置候由申来候勿論向方ニ而引渡之
節城下脇本陣其関前東西に繩を引本陣之中之間奥と思敷所ニ先方
ニ而小頭小林五兵衛役割早部甚内相扣此方小頭藤森権六を請し一
通り相挨之上伝次相受取候手形を渡シ引続大年寄両人出拶挨夫の
其関前ニ而同方同心八人計伝次を囲ひ連出シ此方同心へ引渡シ受
取旅宿へ引取候先方右之役人并同心を詰参候由見請候夫の出立
一 今晚伝次宅へ連参富沢金左衛門今般添役ニ而罷越候ニ付相扣其外
平太兵衛并小頭左五兵衛大年寄共立合尤町内年寄組合差添懸り合
之一件伝次が粗物語致させ其夕八年寄宅ニおゐて同心兩人相詰組
合等番申付置候

廿一日 雪

一 今朝右之面々出立伝次儀も此間召連来候仕立ニ而遣ス金左衛門へ
用心銀勘定所相渡る武百奴
一 此度備中へ参候面々左之通

御徒目付留沢金左衛門中間壱人外ニ梶へ若堂は先役所ニ而役
人江対面も可有之候其時分中間ニ為存候儀ハ難相濟ニ付江戸表
ニ而者例も有之申立相濟申候同心中山伝内三舟孫八神田権兵衛
石名佐助小性町の年寄味噌屋清六組頭藤介文吉兵藏人足三人小
遣式人右之面々付添罷出ル尤先触出ス

一 京町橋詰壁ニ落書有之候由已後町内年寄心を付制候様申わたス
一 先達而差出候町方長寿之者之内九拾以上之男女老人へ御酒料被下

之尤銀札式錢目香包添小勘者所相廻り孫右衛門へ申渡候

廿二日 雨雪

一 銀札七百五拾奴大年寄共預り者御用銀追納之分今日御金蔵へ相
納ム預り手形来ル其外去歳御借入銀不納之分并御懸銀不納之分大
年寄共受込候書付勘定奉行中へ引合談置候尤井上弥三兵衛へも申
談置候

一 町医河部周益兼々家業致出精候段相聞其上以訴状を申上候主意奇
特ニ付門松御免御目見被仰付候此旨御用番与兵衛殿於御列席被仰
渡立合御政事奉行永井甚大夫大目附黒田多膳即日宅へ呼出シ周益
へ申渡シ書付相渡ス同道玉置忠兵衛小頭外御用ニ付当番福田甚蔵
出合

一 乙次左助利助三人之者共家財欠所ニも可被仰付ニ付其旨可被取計
候由弥三兵衛が被申聞候

廿三日 晴

去ル十七日
一 中之町海田屋後家俸市之丞当辰十八歳去ル十一月二日与風罷出今
に帰不申方々尋候へ共行方不相知届書出

一 先日召捕候盗人久米右衛門詮義方ニ而申口によつて不審懸り安岡
町村屋藤介手錠預ケ可申之処大病罷在候ニ付其儘ニ而組合預申付
候并かち町打穴屋利八是同様ニ付手錠申付候勿論組合預
一 京橋両橋詰人江之処何角落書やうのもの有之候由氣を付可申之旨
弥三兵衛被申聞候ニ付則日居町年寄共江申聞候処子共の致候事訊
なき事ニ付何分大手先之儀年寄共何分心を付候様申付置候

一 中之町正木屋伊右衛門切手播州あほし余陸屋惣八手代彦右衛門式

人去ル十八日参例年之通八百屋もの売

一同州あほししほ屋伊兵衛同弟介三郎式人荒ものしをもの卸売十七日に入同人切手

一紺屋町文六願伴義介牢賄被仰付候処兼而不如意諸道具売払家屋敷も御手売ニ語り是又売払二三日賄候へ者ふち米相絶候老年病身重難儀仕候ニ付牢賄被仰付度段在候得共近々義助女房付出牢舅文六に御渡被成候節義助儀者牢賄ニ可被仰付其時宿賄を免候様ニとの趣弥三兵衛被申聞候

一おけ屋町勘七後家自分居室も難住居病氣其上渴命ニも可及候仕合ニ付救之御ふち被下候様相歎候今日弥三兵衛へ相達候所御聞届ニ付其甚旨申渡ス

一石名平太兵衛江金百疋万人講省略方被仰付候ニ付大沢長太夫被申聞候上山岡与左衛門被相廻り則今日申渡尤御内分ニ付長太夫迄御払外不及廻勤旨申達ス

一七百五拾匁大年寄孫左衛門孫右衛門兩人先達而預り置分四百匁右不納之内入当辰ノ四月上納右兩様御金蔵へ納メ預り手形相廻ル。

今日御触書出候江戸表高田御屋敷出火之事廿五日之日記ニ有之候一笹屋友次宿切手京都かな屋太郎左衛門手代伝兵衛之ハ例歳御用達シニ而半切ニて差出ス

一乙次左助理助諸道具夫々居町年寄組合共へ預ケ書付取之小頭左五兵衛福田甚蔵取斗候

廿四日 晴

一町方細割御懸銀三拾貫之内式拾八貫目預り手形御金蔵へ相納候様

近藤岡両士被申来ル

一宮脇町福松屋和七六年以前大坂鈴木町佐田屋平六取持ニ而太郎助橋和泉屋文右衛門方へ奉公罷出候処来巳ノ年未迄願延書付差出ス

一西今町浜田屋六郎兵衛家屋敷同町南側ニ而表口三間裏行十五間但御役四歩三厘也東住屋新兵衛西ハ公文屋清左衛門也右之家中やしき京屋伝兵衛江質物五百目借用致し質入願聞届

廿五日 晴

一先達而入牢被仰付候義助妻きく出牢詮義方ニ而吟味形付当役所へ相廻り尤手形来候引続舅下紺屋町文六へ預ケ引渡之義於当役所小頭大年寄立合申渡ス尤文六義八年寄組合相添罷出ル文六并年寄組合手形取之

一先達而御中間市郎兵衛不審相懸候処致承竈為人質牢舎被仰付候御中間吉六今日追払郷左衛門宅ニ而申渡同心差添入用ニ付藤森権六中山市左衛門指遣シ古城村庄屋左次兵衛一札取帰り候

一去ル廿三日三奉行中廻状石名平太兵衛組中江者為知置候

於江戸表去ル十四日夜高田御屋敷中間部屋出火御厩中間部屋迄一棟焼失尤類焼無之由候右ニ付御指扣御伺書御用番江被差出候処其儀不被為及候旨被仰出候由申来候此段為相知候様被仰出候

十二月廿三日

一元魚町豆腐屋次郎右衛門四郎左衛門兩人願書豆腐直段之儀去ル歳寅九月願出巻挺ニ付十四文ツ、被為仰付様候処此間大豆少々下

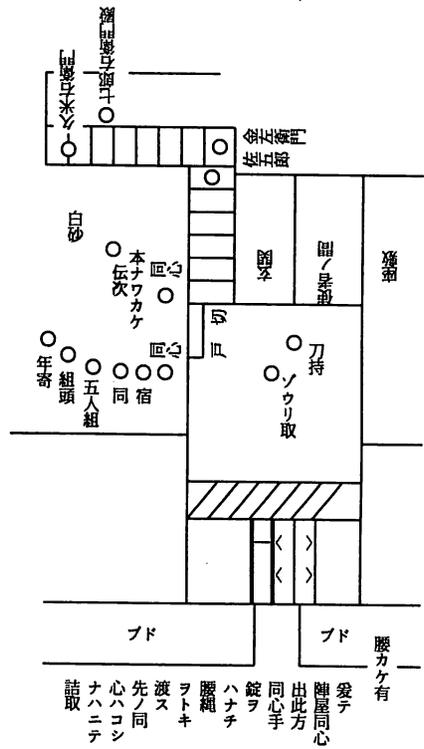
直ニ成候ニ付拾二文ツ、商売仕度旨

一 壹匁壹分大豆貳升三分薪木代ノ壹匁四分十丁分元入拾三文ツ、
売立百三拾文内壹匁四分元入引 残る貳拾八文手間代

一 西新町吉六追払被成同人兩親并妻三人之者居町追払被仰付中之町
江引越候家屋敷ハ年寄次右衛門江相預置兩人之見届立合之書付取
之出役同心福田甚蔵日下伝六^{八郎兵衛}
一 備中御代官所へ一石屋伝次召連参候富沢金左衛門初同四人右之町
年寄組合共帰着御届申達ス

一出雲大社西村神大夫高野山万生院使僧今日罷帰ル

一 伝次召連参候道中之大概出立当日福渡に止宿いたし翌廿三日之夜
五半頃倉敷猶田屋幸助と申者兼而陣屋の津山へ入込候者之宿被申
付置候由倉敷入口江七郎右衛門殿同心大野千右衛門と申者罷出候
而先を払候尤此方状箱宿より役所江出ス惣而板倉辺のハ村役人共
人足召連罷出相伝候様子勿論板倉摂津守殿の途中へ代官三木代右
衛門徒士足立丈助足輕ニハ草野金蔵森協清右衛門保田兵助新庄源
太郎外ニ宿中組頭兩人右之足輕ハ先を払組頭ハ其先に立候趣也同
廿三日九ツ半時陣屋江伝次呼出候ニ付宿幸助案内門前ニ四人駕籠
ハ止メ同心共も爰ニ止り扱金左衛門ハ刀持と草履取召連玄關へ罷
通り候処取次川田吉蔵と申者挨拶今般盗人御吟味ニ付久米右衛門
殿の大沢三平方へ被仰下候一石屋伝次儀姫路表の相受取則御役所
江召連罷出申候趣一分に口上相廻候相成之会釈ニ而別人公事懸
り之由中村佐五郎罷出挨拶之上追付七郎右衛門罷出四人伝次相受
取可申由述之引続同人案内ニ而縁側へ罷出候者座並左之通



一 七郎右衛門殿の以前ニ久右衛門相詰始終金左衛門へ挨拶無之七郎
右衛門殿金左衛門へ向召連盜賊一件安藤弾正少弼の以差図取計候
と被申候ニ付金左衛門相成之会釈致し候へハ佐五郎の金左衛門同
引取候様ニ申則引取使者之間ニて挨拶此時節御互之事ニ候間片時
も早々御引取候様ニ申ニ付相互ニ何角御懸合可仕よし申達引取候
一同夕直田屋幸助宿ニ各止宿翌廿四日出立逗留之間世話相成候ニ付
酒肴相願及会釈惣而右之場所指籠契大小拾四匁一匁之者三匁
人足等式匁定法被申渡候由伝次義ハ直に入牢賄数式番賃壹匁添
人三匁五分是ハ從此方参候組合之者壹人相残候分ニ而宿差心得取
計候由

一 廿四日倉敷出立其夕金川止宿致シ候

一 廿五日暮頃各帰着井上弥三兵衛へ届手紙遣ス

一 右一件ニ付懸り合之御方松平左兵衛佐様此方様酒井稚業守殿松平

内蔵守殿京極采吉殿板倉隱岐守殿御代官万年七郎右衛門殿也

一庭瀬宿ニ而代官宇野紋大夫と申もの罷出候由其外村々役人出向候
由相聞候

一紺屋町文六世倅入牢之義助女房きく出牢之上郷左衛門ハ引渡シ以
書留相受取

廿六日 晴

一鳥屋佐助元魚町乙次原田屋理助諸道具親類年寄共へ以封印預ケ右
出役石名佐五兵衛藤森権六差出ス書付取帰ル家屋敷之儀ハ隣家五
人組等万端氣を付候様年寄共へ申渡ス

一同心加人三人之者共明日ハ揚候趣御勘定奉行へ申遣ス

廿七日 雨雪

一十月万人講三步銀七貫五百匁手形御金奉行近藤仁左衛門へ相廻シ
尤此度本納ニ可相成引合御勘定奉行中へも懸合申候

一二階町錦屋佐助所持之自国請酒株二丁目二葉伊助へ借シ置候処此
度取戻シ断り申出ル

一拾式匁御救扶持三人分大年寄へ相渡ス勘七後家今度ハ後正月分拾
式目一緒相わたシ申候

一伊達与兵衛殿ハ明廿八日御用之儀有之候間登城可仕旨切紙之御奉
書到来御請書別に出ス尤御請に罷越候

廿八日 雨雪

一今日被為召御政事奉行呼出シ磯野伊兵衛拙者村上清大夫一場茂右
衛門名代稻垣茂士一烈ニ罷出其方共兼而司馬五郎様御芸術御指南
申上候儀太儀思召候旨御用番伊達与兵衛殿被仰渡右御礼廻動いた

し候

一京町かけ屋基右衛門へ町会所被仰付何角物人も可有之鳥目式貫文
被下之候旨被仰付此段申渡候様大年寄孫左衛門へ申渡ス

一例年之通大年寄三人歳末御祝儀雉子献上之御奏者所へ小遣に為持
拙者挨拶之上指出シ候処追付中之口ニ而大年寄三人共東向並居

拙者御奏者市村数馬殿を致案内西に向ひ相扣候処同人南に向ひ何
も歳暮献上之品可遂披露旨被申述引取被申候其上ニ而三人之者共
退東之上御奏者所へ罷出無滞献上相済候段御礼申上ル

廿九日 雨雪

一此間相納候七貫五百匁と七百五拾匁本納御勘定奉行裏書ニ而納り
證文御金奉行ハ相受取ル

一繁屋次右衛門先年御取次致し候千儀之證文を以當時困窮及必至候
ニ付相応御救被下候様御勘定奉行当役所へ相歎候へ共表向ニ而決

而難相成御勘定奉行場合ニ而内々ニ而米三俵貸渡取計被申候由通
用之手紙到来相応返答申遣ス

一勝間田役所中村与左衛門ハ歳末為祝儀鼻紙五束無相違飛札到来且
又和田安兵衛と申仁与左衛門同役に被申付候旨為知挨拶之書状指

越向様相応之返書遣ス尤御奉行へも其段相届ケ
一此間日記之表西今町沢田屋六兵衛家原屋伝兵衛取主五百匁之家質
本證文差出候

晦日 晴

一御用無之且又福渡町重屋次右衛門昨日書面之通引合迄ニ而当役所
ハ取計無之候

97	古参家 地			
98	古参取立 上			
99	古参取立 中			
100	古参取立 下			
101	古参御取立 (系図)			
102	新参諸士 一			
103	新参諸士 二			
104	新参諸士 三			
105	新参諸士 四			
106	新参諸士 五			
107	新参諸士 六			
108	新参諸士 (系図)			
113	世代之内士格 新参御取立 上			
114	世代之内士格 新参御取立 中			
115	世代之内士格 新参御取立 下			
87	士分新参並 下			
109	新参御役人 春			
110	新参御役人 夏			
111	新参御役人 秋			
112	新参御役人 冬			
116	古参家人			
119	明治出身士格家			
117	明治出身御役人 上			
118	明治出身御役人 下			
V その他				
64	[家臣勤書]	(明和9~天明8年)		横長帳、イロハ順で「夕」まで
D5-30	[家臣勤書]	(嘉永5~文久元年)		主に役職別

1 2 4 7 5	古参御取立 上 古参御取立	元文元～明和元年 明和 2～同 9 年	調相済読合相済	清書本か 全家を収録
7 7 1 2 6 7 8 7 9 8 2 8 0 8 1	新参 新参 上 新参 上 新参 下 [新参] 新参 上 新参 下	元 禄 ～ 享 保 享保11～元文元年 元文～明和元年 元文～明和元年 (元文～明和元年) 明和 2～同 9 年 明和 2～同 9 年	調相済 調相済読合相済 調相済読合相済	一部に元文～享保間の混雑もあり 清書本か 24家を収録
9 0 8 8 8 9 1 2 7 9 1 9 2	新参御取立 新参御取立 一 新参御取立 二 新参御取立 新参士格御取立 上 [新参士格御取立]	元禄之部 元 禄 ～ 宝 暦 元 禄 ～ 宝 暦 (元禄～明和元年) 明和 2～同 9 年 (明和 2～同 9 年)	朱点江戸 調相済読合相済	清書本か 6 家を収録
8 6	[士分新参並]	(元禄～明和元年)		2家を収録、或いは「新参御取立」か
8 4 8 3 8 5	新参御役人 新参御役人 上 [新参御役人]	宝永～明和元年 明和 2～同 9 年 (明和 2～同 9 年)	但元禄此部=入 調相済	18家を収録 21家を収録
Ⅲ 嘉永 6～文久 3 年の内容で、横長帳の形態をとり、 清書されていないもの…幕末期稿本				
5 4	御譜代			
5 5	古参			
5 6	古参御取立			
5 7 5 8	新参 天 [新参 地]			
6 1 6 3	新参御取立 上 [新参御取立]			表紙のみ「新参 地」
6 2	[士分新参並]			
5 9	[新参御役人]			
Ⅳ 時期区分をせず、一家につき明治初年までを通して野紙に記したもの…簡略本				
9 3 9 4 9 5	御譜代家 上 御譜代家 下 [御譜代家系図]			安永 2 年永井甚太夫の序文あり
9 6	古参家 天			

4 4	新参御取立	一	貞享～文政 2 年		
4 5	新参御取立	二	元禄～文政 2 年		
4 6	新参御取立	三	元禄～文政 2 年		
4 7	新参御取立	四	正徳～文政 2 年		
4 8	新参御取立	壺	文政 2 ～同 13 年		
4 9	新参御取立	式	文政 2 ～同 13 年		
5 0	新参御取立	上	天保 2 ～同 14 年		
5 1	新参御取立	下	天保 2 ～同 14 年		
5 2	新参御取立	上	弘化元～嘉永 5 年		
5 3	新参御取立	下	弘化元～嘉永 5 年		
3 9	士分新参並	上	元禄～文政 2 年		
4 0	士分新参並	中	宝永元～文政 2 年		
4 1	士分新参並	下	正徳元～文政 2 年		
4 2	士分新参並	乾	文政 2 ～嘉永 5 年		
4 3	士分新参並	坤	文政 2 ～嘉永 5 年		
2 8	新参御役人	上	元禄～文政 2 年		
2 9	新参御役人	中	元禄～文政 2 年		
3 0	新参御役人	下	宝永～文政 2 年		
3 7	御役人 上		文政 2 ～同 13 年		
3 8	御役人 下		文政 2 ～同 13 年		
3 1	新参御役人	上	天保 2 ～同 14 年		
3 2	新参御役人	中	天保 2 ～同 14 年		
3 3	新参御役人	下	天保 2 ～同 14 年		
3 4	新参御役人	上	弘化元～嘉永 5 年		
3 5	新参御役人	中	弘化元～嘉永 5 年		
3 6	新参御役人	下	弘化元～嘉永 5 年		
II 明和～安永年間に編纂されたと考えられるもの…明和・安永期稿本					
6 6	[御譜代 上]		(貞享～正徳 5 年)		佐久間～小沢の 13 家 伊藤～渥美の 22 家 佐久間～伊藤の 14 家 清書本か 清書本か 太田～渥美の 18 家
6 7	[御譜代 下]		(貞享～正徳 5 年)		
6 5	[御譜代]		(享保元～明和元年)		
1 2 2	御譜代 上		正徳 6 ～明和元年		
1 2 3	御譜代 下		享保～明和元年		
6 8	[御譜代]		(明和 2 ～同 9 年)		
6 9	古参		(貞享～享保)	初調相済	
7 0	古参 上		元文～明和元年		
7 1	古参 下		元文～明和元年		
7 2	古参之部		明和 2 ～同 9 年	調相済	
7 3	[古参御取立]		(貞享～享保 20 年)		全家を収録 清書本か
1 2 5	[古参御取立]		(貞享～享保 20 年)		
7 4	古参御取立 上		元文元～明和元年	済	
7 6	古参御取立 下		元文元～明和元年		

「勤書」分類表

※「ラベル番号」は資料に貼付された分類ラベルの番号で、『目録』に記載されたものと一致するが、勤書を示す頭部の共通番号「D3-1-」は省略した。「表題」は『目録』の誤りを正したため、『目録』記載のものとは必ずしも一致しない。「年代」は表紙がないものや欠如しているもの、あるいは表紙に記載のないものについては、内容から判断して括弧書きにした。表紙に表題・年代以外の記載があれば「注記」にそれを記した。配列は、家格の高い順に、また時期区分があるものは同一家格をまとめたうえで年代順とした。なお、『目録』で勤書に入れられている120・121「御隠居御家督調帳」は、C2（藩主・吉凶仏事）-204に同一表題の冊子があり、内容からもここに分類する方が望ましいと判断し、この表からは除外した。

ラベル番号	表 題	年 代	注 記	備 考
I 貞享～文政2年・文政2年～同13年・天保2年～同14年・弘化元年～嘉永5年の4期間に分冊され、渋紙の表紙に綴じられたもの…清書本				
1	御譜代 上	貞享～文政2年		伊藤家以外の全家を収録
2	御譜代 中	貞享～文政2年		
3	御譜代 下	貞享～文政2年		
4	御譜代 上	文政2～同13年		
5	御譜代	天保2～同14年		
6	御譜代	弘化元～嘉永5年		
7	古参	貞享～文政2年		
8	古参	文政2～同13年		
9	古参	天保2～同14年		
10	古参	弘化元～嘉永5年		
11	古参御取立 上	貞享～文政2年		
12	古参御取立 下	貞享～文政2年		
13	古参御取立	文政2～同13年		
14	古参御取立	天保2～同14年		
15	古参御取立	弘化元～嘉永5年		
16	新参 一	元禄～文政2年		
17	新参 二	元禄～文政2年		
18	新参 三	元禄～文政2年		
19	新参 四	元禄～文政2年		
20	新参 五	元禄～文政2年		
21	新参 六	元禄～文政2年		
22	新参 上	文政2～同13年		
23	新参 下	文政2～同13年		
24	新参 上	天保2～同14年		
25	新参 下	天保2～同14年		
26	新参 上	弘化元～嘉永5年		
27	新参 下	弘化元～嘉永5年		

のではないか⁰⁰という気がする。この点についても、先の永見家「勤書」や愛山文庫内の各種日記類との照合によって関係が明らかになると思われる。

註

- (1) この両書は、昭和48年7月に佐々木義顕の発起により、刊行されている。以下、小論では『人名録』『家筋調』と略記する。
- (2) 『郷土館案内』第5号（津山郷土館、昭和61年8月）所収。
- (3) ただし、『一「愛山文庫」一津山松平藩文書について』（津山郷土館報第7集、津山郷土館、昭和50年3月）や『愛山文庫目録 津山松平藩文書の部』（津山郷土博物館紀要第3号、津山郷土博物館、平成3年3月）巻頭の解説に、「勤書」の解説が掲載されており、小論もこれらの目録類に多くを依拠している。この両書は、以下『館報』7集・『目録』と略記。
- (4) 津山松平藩の家臣の家格は、譜代・古参・古参取立・新参・新参取立・士分新参並・新参役人などがある。これらの家格についての詳細は、『目録』の解説や前掲竹内論文、安東靖雄編『津山市史』第4巻・近世Ⅱ（津山市、平成7年3月、以下『市史』4巻と略記）第1章第3節「津山松平藩の家臣団」などを参照のこと。
- (5) 愛山文庫D3-1-1~19については、本館においてマイクロフィルムに撮影してある。
- (6) このIVについては、本館に筆写・翻刻した原稿がある。
- (7) 愛山文庫F1-15。
- (8) 『市史』4巻、第5章第2節「藩主康哉の新政」参照。
- (9) 愛山文庫D3-1-93。以下、本文中に「勤書」の番号を記す場合、頭の「愛山文庫D3-1-」は省略。
- (10) 前掲(8)によれば、「軍事ならびに家中武士に対する行政部門」を担当し、公迎惣奉行も兼任したため「幕府にかかわる仕事」もその担当であった。
- (11) ただし、一家のみでは不十分であるので、各家格から数家ずつ抜き出して同様の照合をする必要がある。
- (12) 矢吹家・土蔵収蔵資料3・15・22・348。
- (13) 永見家「勤書」が矢吹家資料内に存在するのは、幕末から明治期にかけて活躍した美作地域史研究の先達・矢吹正則が、藩の重臣・永見家に出仕していたことによる。詳しくは『矢吹家資料目録 下』（津山郷土博物館紀要第10号、津山郷土博物館、平成10年3月）巻末の解説を参照のこと。
- (14) 「御譜代 下」（3）平井家の項に以下のような注記がある。

一寛保三癸亥九月十五日五郎右衛門死去

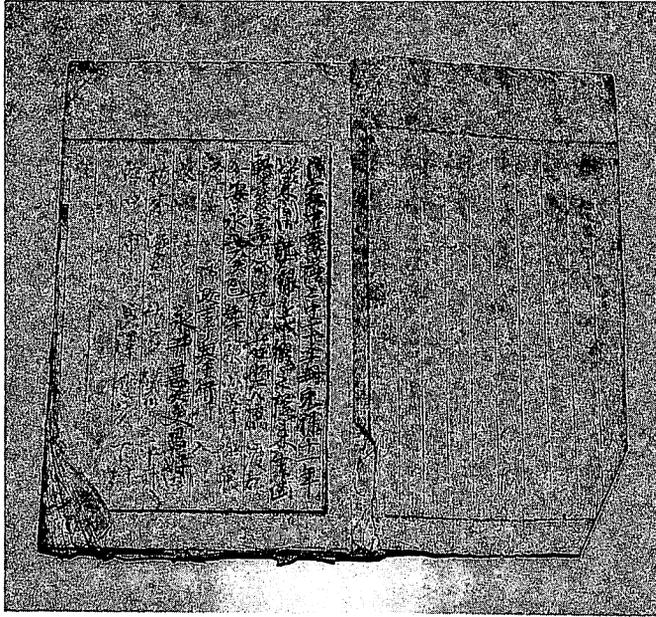
平井申松

一同十一月五日家督無相違大番頭被仰付候

右之通系譜= 相見候得共御日記= 無之

ただし、莫大な時間と労力を要すると思われる日記抜粋のみによる編纂が行われたとは考えにくい。諸藩士が提出した原稿を随時各日記で訂正していったと考えるのが妥当ではなかろうか。

（小島 徹）



「御譜代家 上」(93) 序文

とは間違いないが、あえてここに掲載された理由など詳しいことはわからない。ちなみに、永井甚大夫は新参の家柄で、勘定奉行・町奉行・大目付などを歴任、上述の藩政改革においては、新設された政事務奉行に任じられており（明和9年8月～安永3年10月）、その職務上、彼が「勤書」編纂における総責任者であったとしても不思議ではない。

また、Ⅰ清書本とⅡ明和・安永期稿本のうち、譜代・安藤家（後に永見と改姓）の元禄9年から享保9年までの3種の「勤書」（1、66・65、122）を照合した結果、それぞれの間に明らかな推敲過程が見て取れた。まず最初に66・65が作成され、それに訂正事項を書き加えたものに基づいて122が編集され、さらに朱筆で訂正したものに基づいて1が完成したものと見受けられる。

おわりに

以上、「勤書」を分類し、作成経緯を考察してみた。小論では触れることができなかったが、矢吹家資料の中にも「勤書」と題する史料が数点存在する。これは永見家関係のものであるが、これと愛山文庫の「勤書」とを比較・照合して、両者の性格に相違があるかどうかを明らかにする必要がある。また、藩士から奉公書を提出させて作成したと従来言われている点に関して、稿本に目を通したうえでの憶測に過ぎないのだが、何度か行われたと思われる改訂の段階においては、「国元日記」や「江戸日記」などを参照している

Vは、[家臣勤書]として『目録』に挙げられてはいるが、他とやや性格が異なり、『館報』7集でも触れられていないもので、2冊ある。その内の1冊は、明和9～天明8年(1772～88)の事項を記しており、新参取立及び新参役人の家が多いけれども、『人名録』『家筋調』で確認できない家も半数近くあった。また、イロハ順に配列されているのも他と異なる特徴である。もう1冊は、『目録』においてD5(藩士・雑)に分類されていたものである。嘉永5～文久元年(1852～61)の事項を記すが、「御用人以上」から役人格までの役職別に区分され、他のように家ごとには分けられていない。何らかの日記から抜き書きしたものではないかとも思われ、表題のないこの冊子の仮題が「勤書」とされた理由はよくわからない。

編纂の時期・経緯

これらの「勤書」はいつ、いかなる目的のために、どのような過程を経て編纂されたのであろうか。「勤書」にはその経緯がほとんど記されておらず、それを明記した他の史料も今のところ見つかっていない。しかし、それらを推測するうえで手掛かりとなりそうな事項をいくつか紹介し、現時点での筆者なりの考察を加えてみたい。

手掛かりの一つは、明和・安永期稿本の作成時期を検討することによって得られる。

Ⅱの記載内容は一応明和9年をもって締めくくられている。内容が明和年間までであるからと言うだけで、明和～安永年間の編纂と考えるのは早計であるが、ちょうど明和8年から開始される藩政改革との関連により、この時期ではないかと推測される。すなわち、改革を主導した藩主・康哉の側にあつて積極的に意見を述べた儒者・大村荘助が著した「口上書」に、諸記録整備の重要性が説かれており、藩内各役所の日記類もこの提言に基づいて編集・整備されたと考え得るからである。「勤書」も、単に各家の歴史をまとめたというよりも、むしろこの記録整備の一環として、藩の首脳部の要請を受けて作成されたのではなかろうか。例えば、役職の昇進や賞罰の前例を調査して今後の基準を設けるといった目的があつたと仮定すれば、儒者の提言の趣旨に合致するし、記載内容の詳細さも納得できる。

もう一つは、簡略本「御譜代家⁽⁹⁾上」の序に記された以下の文である。

御家中系譜上中下三冊元禄十一年以来之御記録を以綴之從來吉凶転変審⁽⁹⁾可記之者也
安永二癸巳年

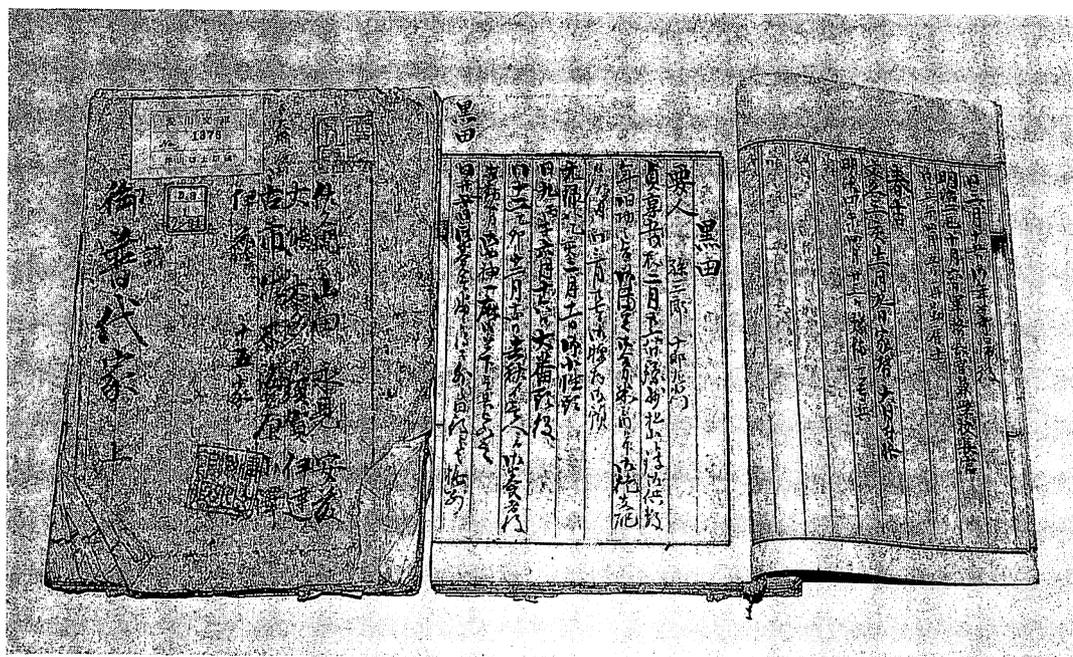
御政事奉行 永井甚大夫昌好

津山入封以来の家中の吉凶転変を詳細に書き綴ったものという説明は、「勤書」の性格に合致するし、安永2年という時期も先の推論を裏付けるものと言える。ただし、明治初年以降に編纂された同書にしか、この永井の文章は記されていない。何らかの写しであるこ

「読合相済」などの注記もそのことを如実に物語っている。『館報』7集には、「貞享より明治にいたる」とあるが、明和までの誤りであろう。作成されたものの現存しなかった冊子もあると見られるが、この稿本も時期を区分して作成されており、全家格に共通する区切りが明和元年(1764)と同9年(=安永元年・1772)である。それ以前の区切りは、譜代が正徳～享保の改元期、古参・古参取立・新参が享保～元文の改元期であり、その他は明和元年までは区分せずに通して記載されている。この明和以前の区分の相違は、津山藩士としての歴史の長さの違いによるもの、すなわち編集過程における都合から区分する時期がずらされたものと思われ、家格によって編纂時期が異なるのではないと考える。その編纂時期などについては、後に詳述する。なお、ほとんど訂正が見られず清書本と思われる数点も、内容が同時期であるため取り敢えずここに分類した。

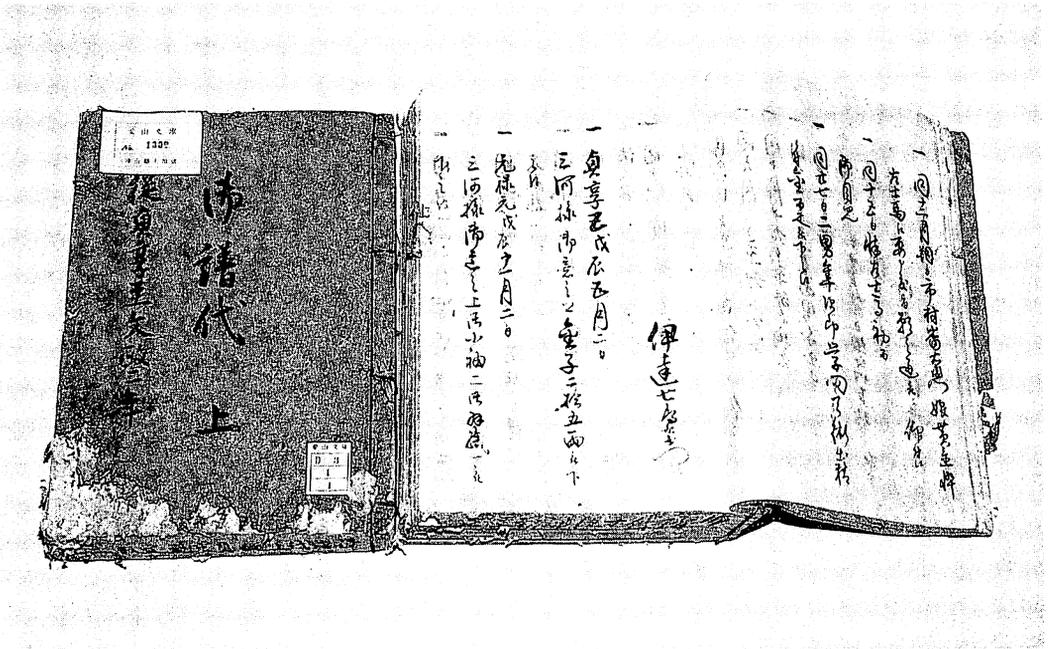
Ⅲは全て横長帳で、嘉永6年～文久3年(1853～63)の事項が記されるけれども、必ずしも年代順ではなく、追加や訂正が繰り返行われたものと見受けられる。つまり、この期間の稿本であり、検索には不便なのだが、Ⅰの清書本が収録していない時期でもあり、Ⅰの続編としての意味を持つ。『目録』巻頭の解説において、「5年時に分けられ」と述べられているのは、ⅠとⅢを合わせたうえでのことであろう。

Ⅳは時期区分をせず、一家につき明治初年までを通して記載してあり、用紙には野紙が用いられる。内容はかなり簡略化され、家督や役職関係などの重要事項に限定されている⁽⁶⁾。また、譜代・古参取立・新参の各家格については、系図をまとめたものが1冊ずつ残る。



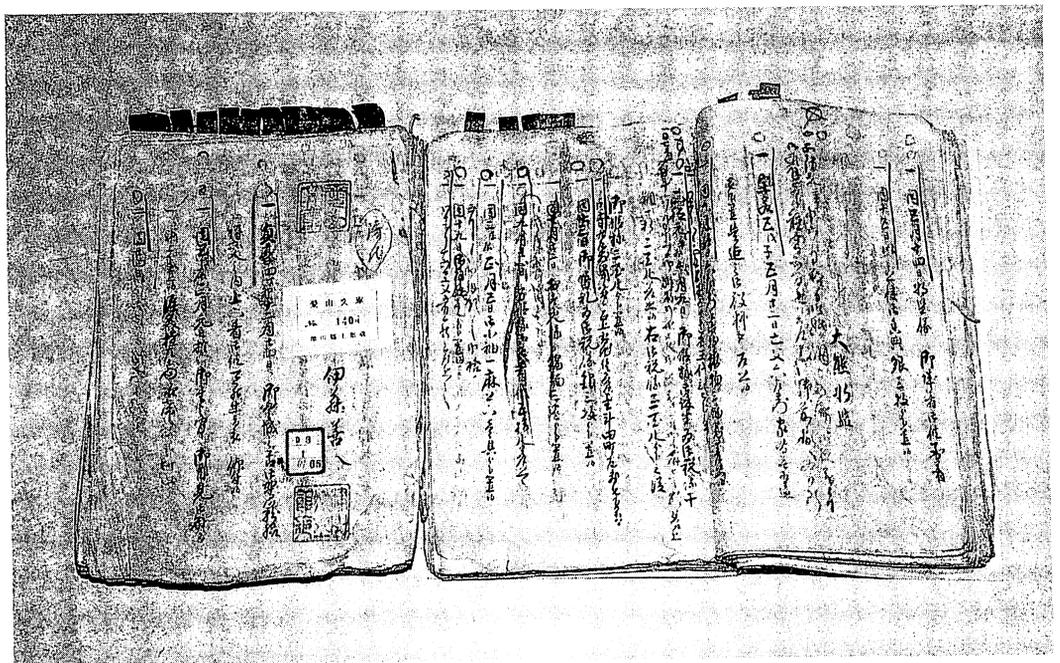
IV 簡略本

左は「御譜代家 上」(93)、右は「御譜代家 下」(94)



I 清書本

左は「御譜代 上」(1)、右は「御譜代 中」(2)



II 明和・安永期稿本

左は「御譜代 下」(67)、右は「御譜代 上」(66)

津山松平藩士の「勤書」に関する一考察

はじめに

「愛山文庫」と総称される、旧津山藩主松平家に伝来した多数の文書・典籍類の内、藩政史料に分類されるものの中に「勤書」と総称される史料群がある。これは藩士の奉公書とも言えるもので、家中での役職の昇進や賞罰などから家督相続・慶弔事までを記録する。諸藩士から奉公書を提出させて作成されたと考えられており、家格ごとに帳面を分けた上で、家ごとに年代順に並べて記載するという形式でほぼ統一されており、全部で120冊余りが現存する。

この「勤書」は、今のところ旧藩士の子孫の方が先祖調べに活用される以外には、著名な藩士の経歴をたどるために閲覧される程度であり、昭和初年に旧藩士・本沢信美が編集した『津山藩士族歴代人名録』⁽¹⁾『津山藩士家筋調』及び近年の竹内知恵「津山藩家臣団の家筋考」⁽²⁾を除けば、「勤書」自体の本格的な研究はあまりなされていない⁽³⁾。それは無論、その量の膨大さによるものと思われる。しかし、単に藩士個人や個別の家の経歴にとどまらず、津山松平藩の家政機構の実態を明らかにするうえで非常に有用な史料であり、かつその作成時期や編纂過程をつぶさに検討することによって、藩の文書管理のあり方なども浮き彫りにされるはずである。この小論は、まず「勤書」を分類・大別し、そのうえで編纂の経緯等について若干の考察を試みるものである。

「勤書」の分類

「勤書」は、形態や記載内容などから5種類に大別できる。その5種類とは、Ⅰ清書本、Ⅱ明和・安永期稿本、Ⅲ幕末期稿本、Ⅳ簡略本、Ⅴその他である。これは、『館報』7集における①渋紙表紙編纂物、②原稿、③長帳、④稿本という分類とほぼ合致するが、冊数の誤りや記載漏れのあること、また②と④については名称のみでは区別が付け難いことから、名称を先述の通りに改めたうえで分類表を作成した。詳細については分類表を参照されたいが、以下にⅠ～Ⅴのそれぞれの特徴を列挙しておく。

Ⅰはいずれも渋紙の表紙に綴じられ、表題として「御譜代」「古参」などの家格⁽⁴⁾と記載内容の年代とが明記されており、体裁が整えられている。そして、貞享～文政2年(1684～1819)・文政2年～同13年(1819～30)・天保2年～同14年(1831～43)・弘化元年～嘉永5年(1844～52)の4期間を設定して、分冊してある。内容も追記などはほとんど見られず、筆跡にも乱れがないため、十分な推敲を経たうえで記入されたと考えられる。また、この清書本は嘉永までのものが全冊揃って現存しているようである⁽⁵⁾。

Ⅱは表紙のないものが数点あり、内容も異筆・朱筆や貼紙などによる加除訂正が多く施されていて、明らかに編纂過程の途中における産物である。表紙に見られる「調相済」

津山郷土博物館紀要第十一号

津山松平藩奉行日記六

平成十年三月三十一日発行

編集 津山郷土博物館 ©

発行 岡山県津山市山下九二番地

印刷 有限会社 二一 葉

岡山県津山市中島四二二五

